

十三湊遺跡

—市浦村第1次・第2次 発掘調査概報—

青森県市浦村教育委員会

1996年3月

十三湊遺跡

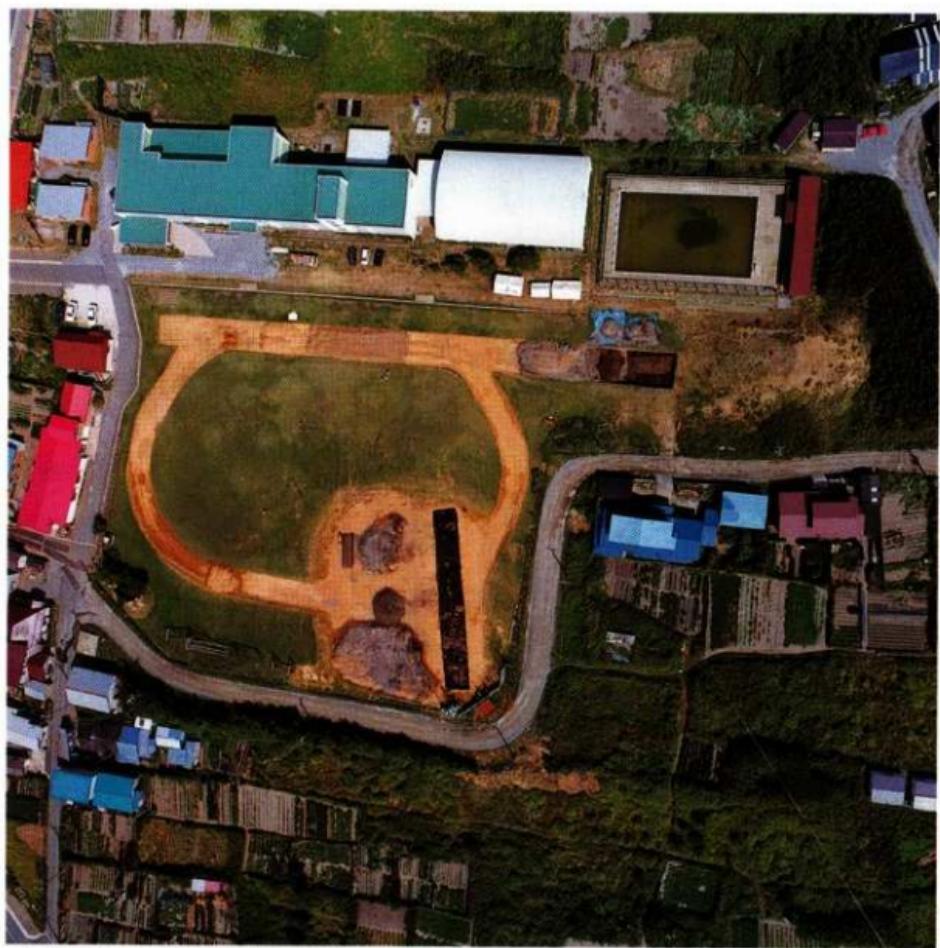
—市浦村第1次・第2次 発掘調査概報—

青森県市浦村教育委員会

1996年3月



卷首図版 I 十三塔遺跡 全景航空写真（東奥日報社提供）



卷首圖版 2 十三小学校地区航空写真（1994年撮影）



卷首図版 3 第1次調査第一地区SD03断面写真



卷首図版 4 第1次調査第一地区SD03検出写真



卷首図版5 第1次調査第二地区航空写真



卷首図版6 第2次調査全景写真

序 文

これまで十三ヶ遺跡は中世の北日本を代表する港町、北方交易の窓口としての重要性は認められていたものの、中世津軽の豪族、安藤氏とともにその実態はまさに謎に包まれていました。

しかし、1991年～1993年にかけて行われた国立歴史民俗博物館による十三ヶ遺跡の調査によって、その実像の一端が解明されるとともに、広く一般の人々の注目を集めましたことは市浦村で暮らすものにとっては、大変喜ばしい限りです。また、我々の先祖の暮らしぶりを解明することが、日本中世史の解明に寄与するものであるのならば、市浦村が今後の十三ヶ遺跡の調査を継続していくことは当然の責務であると思います。

のことから、市浦村教育委員会では考古学、歴史学、建築史学などの分野から第一線の研究者によって構成された「市浦村遺跡整備検討委員会」を設置することとなりました。そして、平成6年度から1名の専門職員を採用して第1次調査を実施し、以後継続的に調査する運びとなりました。さらに平成7年度からは青森県教育委員会との合同調査が開始され、大きな成果を上げることができました。

振り返れば、ここわずか5ヶ年余りで、これほどまでに調査体制の充実と発展がありましたことは大いに驚くべきことであり、今後ますます十三ヶ遺跡の実像解明が期待できることがあります。

調査全般にわたって、市浦村遺跡整備検討委員会、文化庁記念物課、青森県教育委員会の諸先生の多大な御指導、御助言を頂きました。また、実質的な発掘調査には富山大学考古学研究室（代表 宇野隆夫 教授）の全面的な支援体制を頂き、本報告書が作成されましたこと心から感謝申しあげます。

本報告が十三ヶ遺跡の実態解明、広くは日本中世史の解明に役立つ資料として、広く活用されれば幸いです。

平成8年3月

市浦村教育委員会

教育長 木 村 義 光

例　言

1. 本書は平成6年度、平成7年度に実施した青森県北津軽郡市浦村十三渕遺跡第1次調査と第2次調査の成果を収めた報告書である。

2. 調査に際して、文化庁記念物課、青森県教育委員会および後述する市浦村遺跡整備検討委員会の指導協力を得て、市浦村教育委員会が富山大学人文学部考古学研究室（代表：宇野隆夫 教授）の全面的な調査協力体制の中で、地元作業員とともに調査を実施した。

3. 遺物の復原・実測、遺構図面の整理・製図は中田書矢（富山大学人文学部考古学研究室学生）を中心に以下の同学が協力して行った。

大川 進、三林健一、大平奈央子、景山和也、勾坂友秋、石井淳平、田中慎太郎、中谷正和、松本 茂、向井裕知、中島義人、平井晶子、芳賀万里子、山崎雅恵、春名理史、小野基、野水晃子、高志こころ、梶田亜友美

4. 本文は辯原滋高（市浦村教育委員会 学芸員）が執筆した。また、第2次調査の建物復原については高島成侑氏（八戸工業大学教授）に御教示頂いた。出土陶磁器では瀬戸製品の器種・年代等の鑑定は藤澤良祐氏（瀬戸市埋蔵文化財センター）に御教示頂いた。記して厚く感謝申し上げる。なお、記述等に誤りがあれば、すべて編者の責任である。

5. 参考文献は本文末に、報告書抄録は巻末に記した。

6. 出土遺物、記録図面、写真などは市浦村教育委員会の生涯教育センター内で保管している。

7. 卷頭カラー写真については、東奥日報社より掲載許可を頂いた。記して厚く感謝申し上げる。

8. 図版中の土層の色調については、「新版・標準土色帳」（農林水産技術会議事務局1976年）を使用した。

9. 第1次・2次調査・報告に当たって、市浦村遺跡整備検討委員会の各位以外からも、
次の多くの関係機関と各位に御指導、御助言を賜った（順不同、敬称略）。

文化庁記念物課 岡村道雄 坂井秀弥 西村健彦、青森県教育委員会、青森県立郷土館 小笠原康生 成田誠治、青森県埋蔵文化財調査センター 木村 高 工藤 忍、弘前大学
齊藤利男 小口雅史、青森県立板柳高校 山口義伸、浪岡町史編纂室 工藤清泰、浪岡町
教育委員会 木村浩一、中里町教育委員会 齊藤 淳、七戸町教育委員会 小山彦逸、鰐
ヶ沢町教育委員会 清野彰史、北海道埋蔵文化財センター 越田賢一郎、北海道教育大学
小笠原正明、上ノ国町教育委員会 松崎水穂、余市町教育委員会 宮宏 明、函館大学 坂
田 聰、鎌倉国宝館 三浦勝男、鎌倉古文書研究会 三渕恵美子、広島県立歴史博物館 佐
藤昭嗣 福井照道、新潟大学 矢田俊文、栃木県教育委員会 田熊清彦 齊藤恒夫、千葉
市教育委員会 大谷敏三、(財)東總文化財センター 道澤 明、千葉県文化財センター 柴
田龍司、(財)君津都市文化財センター 笹生 衛、(財)千葉県史料研究財団 滝川恒昭
野口孝子、八王子市郷土資料館 土井義夫、落川区画整理地区遺跡調査会 渋江芳浩、漆
器文化財科学研究所 四柳嘉章、岐阜県神岡町教育委員会 大平愛子、瀬戸市埋蔵文化財
センター 植崎彰一、藤澤良祐、(財)富山県文化振興財団 狩野 瞳 酒井重洋 森
隆 島田美佐子 大野淳也、立山町教育委員会 三鍋秀典

目 次

I 調査の組織	1
II 遺跡の位置と歴史的環境	3
III 調査の計画と方法	8
IV 第1次調査 (A T94)	17
1 調査の目的	17
2 調査の経過	19
3 基本層序	23
4 第一地区の調査成果	28
a 検出遺構と遺物	28
b 遺構外出土遺物	42
5 第二地区の調査成果	48
a 検出遺構と遺物	48
b 遺構外出土遺物	83
6 小結	95
遺構・遺物計測表	97
V 第2次調査 (A T95)	121
1 調査の目的	121
2 調査の経過	122
3 基本層序	126
4 調査成果	129
a 検出遺構と遺物	129
b 遺構外出土遺物	224
5 小結	233
遺構・遺物計測表	235
VI 考察	266
VII まとめと課題	293
引用・参考文献	296

卷首図版

- 卷首図版 1 十三湊遺跡 全景航空写真(東奥日報社提供)
卷首図版 2 十三小学校地区 航空写真(1994年撮影)
卷首図版 3 第1次調査 第一地区 SD03断面写真
卷首図版 4 第1次調査 第一地区 SD03検出写真
卷首図版 5 第1次調査 第二地区 航空写真
卷首図版 6 第2次調査 全景写真

挿図目次

第1図 遺跡の位置	3
第2図 十三湖周辺の遺跡地図	4
第3図 中世十三湊の都市構造	9
第4図 調査区位置図	10
第5図 十三小学校地区 基本層序模式図	13
第6図 AT94I 調査区壁層位図(北壁・東壁)	23
第7図 AT94II 調査区壁層位図(北壁・南壁)	24
第8図 AT94II 調査区壁層位図(西壁)	26
第9図 AT94II 調査区壁層位図(東壁)	27
第10図 AT94I SD03土層堆積模式図	28
第11図 AT94I SD03	29
第12図 AT94I SD03土層断面図	30
第13図 AT94I SD03出土遺物	31
第14図 AT94I 調査区平面図	34
第15図 AT94I SA01・出土遺物	35
第16図 AT94I SA02	36
第17図 AT94I SA03	36
第18図 AT94I 柱穴出土遺物	37
第19図 AT94I 柱穴の平面規模	38
第20図 AT94I 柱穴の深さ	38
第21図 AT94I SK03, 04, 07・出土遺物	39
第22図 AT94I SK08・出土遺物	40
第23図 AT94I 土坑の平面規模	41
第24図 AT94I 土坑の深さ	41
第25図 AT94I 造構外出土遺物(貿易陶器)	43
第26図 AT94I 造構外出土遺物(瀬戸)	43
第27図 AT94I 造構外出土遺物(珠洲1)	45
第28図 AT94I 造構外出土遺物(珠洲2)	46
第29図 AT94I 造構外出土遺物(同産その他)	47
第30図 AT94I 造構外出土遺物(鉄製品)	47
第31図 AT94II 調査区平面図	49
第32図 AT94II 近世集石造構実測図	51
第33図 AT94II 近世造構出土遺物	52
第34図 AT94II SB01, SA11	54
第35図 AT94II SA12・出土遺物	55
第36図 AT94II SA13	55
第37図 AT94II 柱穴の平面規模	57
第38図 AT94II 柱穴の深さ	57
第39図 AT94II 柱穴出土遺物	57
第40図 AT94II SI01・出土遺物	58
第41図 AT94II 区画造構1	60
第42図 AT94II 区画造構2	61
第43図 AT94II 区画造構出土遺物	62
第44図 AT94II 中世区画造構の方位	64
第45図 AT94II SB建物, SA柱穴列の方位	64
第46図 AT94II 近世溝の方位	64
第47図 AT94II SE01	65
第48図 AT94II SE01出土遺物	66
第49図 AT94II SE02	67
第50図 AT94II SE02出土遺物	68
第51図 AT94II SE03	69
第52図 AT94II SE03出土遺物	70
第53図 AT94II 井戸の平面規模	71
第54図 AT94II 井戸の深さ	71
第55図 AT94II SK09・出土遺物	72
第56図 AT94II SK10, SK33・出土遺物	74
第57図 AT94II SK11, SK13・出土遺物	75
第58図 AT94II SK19・出土遺物	76
第59図 AT94II SK25, SK37・出土遺物	77
第60図 AT94II SK27, SK46・出土遺物	79
第61図 AT94II SK32・出土遺物	79
第62図 AT94II SK34・出土遺物	80

第63図 A T94II S K39・出土遺物	80	第100図 A T95 S B11	151
第64図 A T94II S K38・出土遺物	81	第101図 A T95 その他柱穴列の想定図	153
第65図 A T94II S K43・出土遺物	82	第102図 A T95 S A02	154
第66図 A T94II 土坑の平面規模	83	第103図 A T95 S A04, S D05, S D06, S D07	155
第67図 A T94II 土坑の深さ	83	第104図 A T95 柱穴出土遺物 (Yグリット≤19.8)	159
第68図 A T94II 造構外出土遺物 (貿易陶磁)	84	第105図 A T95 柱穴出土遺物 (Yグリット>19.8)	160
第69図 A T94II 造構外出土遺物 (瀬戸)	86	第106図 A T95 柱穴の平面規模	161
第70図 A T94II 造構外出土遺物 (珠洲1)	88	第107図 A T95 柱穴の深さ	161
第71図 A T94II 造構外出土遺物 (珠洲2)	89	第108図 A T95 S I01 (貼り床上面)	162
第72図 A T94II 造構外出土遺物 (珠洲3)	90	第109図 A T95 S I01 (地山面)	163
第73図 A T94II 造構外出土遺物 (国産その他)	91	第110図 A T95 S I01-4層出土遺物	165
第74図 A T94II 造構外出土遺物 (近世陶磁1)	92	第111図 A T95 S I01-3層出土遺物 (陶磁器)	165
第75図 A T94II 造構外出土遺物 (近世陶磁2)	93	第112図 A T95 S I01-3層出土遺物 (鉄製品)	166
第76図 A T94II 造構外出土遺物 (鉄製品・土製品)	94	第113図 A T95 S I01-3層出土遺物 (古銭)	167
第77図 A T94II 造構外出土遺物 (古銭)	95	第114図 A T95 S I01-2層出土遺物	168
第78図 A T94 上器・陶磁器の構成比	118	第115図 A T95 S I01-1層出土遺物 (貿易陶磁・瀬戸)	169
第79図 A T94 瀬戸製品の器種構成比	118	第116図 A T95 S I01-1層出土遺物 (珠洲・国産その他)	170
第80図 A T94 珠洲製品の器種構成比	118	第117図 A T95 S I01-1層出土遺物 (鉄製品・銅製品・古銭)	172
第81図 A T94 貿易陶磁の分類別構成比	118	第118図 A T95 S I01-貼り床上面ピット出土遺物	175
第82図 A T94 珠洲製品の時期別出土量	118	第119図 A T95 S E10・出土遺物	176
第83図 A T94 瀬戸製品の時期別出土量	118	第120図 A T95 S I01遺物の出土散布図 (第1層・第2層)	177
第84図 A T95 調査区壁層位図 (北壁・東壁)	127	第121図 A T95 S I01遺物の出土散布図 (第3層・第4層)	178
第85図 A T95 調査区壁層位図 (南壁)	128	第122図 鉄釘の計測部位・名称	179
第86図 A T95 調査区平面図 (上面造構)	131	第123図 A T95 S I01出土の鉄釘法量	179
第87図 A T95 上面造構:「カッチャ」跡出土遺物	133	第124図 A T95 S I01層位別の鉄製品出土散布図	179
第88図 A T95 上面造構:土坑・柱穴出土遺物	135	第125図 A T95 S I01層位別の出土遺物構成比	180
第89図 A T95 調査区平面図 (中世造構)	137	第126図 A T95 S I01層位別の土器・陶磁器出土量	182
第90図 A T95 S B01	139	第127図 A T95 S I01層位別の鉄製品出土量	182
第91図 A T95 S B01出土遺物	140	第128図 A T95 調査区東部のSDサブトレンチ設定図	183
第92図 A T95 S B02	142	第129図 A T95 調査区東部のSD重複状況	184
第93図 A T95 S B02出土遺物	143	第130図 A T95 SDサブトレンチ土層断面図1	185
第94図 A T95 S B05・出土遺物	145	第131図 A T95 SDサブトレンチ土層断面図2	187
第95図 A T95 S B07, S D03, 周辺造構	146		
第96図 A T95 S B07, S D22	147		
第97図 A T95 S D03出土遺物	147		
第98図 A T95 S B08・出土遺物	149		
第99図 A T95 S B10	151		

第132図 A T95 SDサブレンチ土層断面図3	190	第169図 A T95 遺構外出土遺物〈古銭〉	232
第133図 A T95 SDサブレンチ出土遺物	191	第170図 A T95 遺構外出土遺物〈鉄製品〉	232
第134図 A T95 中世区画造構の方位	193	第171図 A T95 土器・陶磁器の構成比	265
第135図 A T95 上面遺構:「カッチャ」の方位	193	第172図 A T95 濱戸製品の器種構成比	265
第136図 A T95 中世区画造構の方位(方位群別)	193	第173図 A T95 珠洲製品の器種構成比	265
第137図 A T95 SB建物の方位	193	第174図 A T95 貿易陶磁の分類別構成比	265
第138図 A T95 中世区画造構の年代推定図	194	第175図 A T95 珠洲製品の時期別出土量	265
第139図 A T95 区画遺構出土遺物(時期別)	196	第176図 A T95 濱戸製品の時期別出土量	265
第140図 A T95 SE02・出土遺物	201	第177図 A T94II 十三塗II a・b期の遺構配置図	271
第141図 A T95 SE04, SE05	202	第178図 A T94II 十三塗II c期の遺構配置図	271
第142図 A T95 SE04, SE05出土遺物	203	第179図 A T94II 十三塗III期の遺構配置図	271
第143図 A T95 SE07, SK03	204	第180図 A T95 十三塗I a期の遺構配置図	272
第144図 A T95 SE07出土遺物	205	第181図 A T95 十三塗I b期の遺構配置図	272
第145図 A T95 SE09, SK16, SK51, SK52	207	第182図 A T95 十三塗II a・b期の遺構配置図	273
第146図 A T95 SE09, SK16, SK51出土遺物	208	第183図 A T95 十三塗II c期の遺構配置図	273
第147図 A T95 SE12・出土遺物	209	第184図 A T95 上面遺構の配置図	274
第148図 A T95 井戸の年代推定図	211	第185図 土器・陶磁器の構成比	277
第149図 A T95 井戸の平面規模	212	第186図 濱戸製品の器種構成比	277
第150図 A T95 井戸の深さ	212	第187図 珠洲製品の器種構成比	277
第151図 A T95 SK58・出土遺物	213	第188図 貿易陶磁の分類別構成比	277
第152図 A T95 SK22・出土遺物	214	第189図 珠洲製品の時期別出土量	277
第153図 A T95 SK23・出土遺物	215	第190図 濱戸製品の時期別出土量	277
第154図 A T95 土坑出土遺物	217	第191図 A T94II 中世遺物の出土散布図	283
第155図 A T95 主要土坑の年代推定図	218	第192図 A T94II 鉄製品の出土散布図	283
第156図 A T95 土坑の平面規模	219	第193図 A T94II 中世遺物の接合関係	284
第157図 A T95 土坑の深さ	219	第194図 A T94II 貿易陶磁の出土散布図	284
第158図 A T95 SX01・出土遺物	220	第195図 A T94II 濱戸の出土散布図	284
第159図 A T95 拡張トレンチ1, 2	221	第196図 A T94II 珠洲の出土散布図	285
第160図 A T95 拡張トレンチ層位図・出土遺物	222	第197図 A T94II 白瓷器系陶器・信楽の出土散布図	285
第161図 A T95 拡張トレンチ1-S P 0 1・出土遺物	223	第198図 A T94II 土師器・瓦質土器の出土散布図	285
第162図 A T95 遺構外出土遺物〈貿易陶磁〉	225	第199図 A T95 第I層:中世遺物の出土散布図	286
第163図 A T95 遺構外出土遺物〈瀬戸1〉	227	第200図 A T95 第II層:中世遺物の出土散布図	287
第164図 A T95 遺構外出土遺物〈瀬戸2〉	228	第201図 A T95 第III層:中世遺物の出土散布図	287
第165図 A T95 遺構外出土遺物〈珠洲1〉	229	第202図 A T95 中世遺物の出土散布図	288
第166図 A T95 遺構外出土遺物〈珠洲2・姿器系〉	230	第203図 A T95 鉄製品の出土散布図	288
第167図 A T95 遺構外出土遺物〈瓦質土器〉	231	第204図 A T95 中世遺物の接合関係	289
第168図 A T95 遺構外出土遺物〈近世陶磁〉	232	第205図 A T95 貿易陶磁の出土散布図	290

第206図	A T95 潬戸の出土散布図	290
第207図	A T95 珠洲の出土散布図	291
第208図	A T95 壺器系陶器の出土散布図	291
第209図	A T95 土師器・瓦質土器の出土散布図	292
第210図	中世遺物の接合率	292
第211図	十三小学校地区の中世遺構概略図	294

表目次

第1表	十三漁遺跡発掘調査実績表	11
第2表	十三漁遺跡における遺構の標示分類表	15
第3表	A T94 I S D03出土遺物計測表	32
第4表	A T94 I 布振り溝計測表	35
第5表	A T94 I 柱穴列計測表	36
第6表	A T94 I 土坑計測表	40
第7表	A T94 II 近世溝状集石遺構計測表	52
第8表	A T94 II 掘立柱建物計測表	54
第9表	A T94 II 柱穴列計測表	55
第10表	A T94 II 穴穴遺構計測表	58
第11表	A T94 II 布振り溝計測表	64
第12表	A T94 II 溝計測表	64
第13表	A T94 II 井戸計測表	70
第14表	A T94 II 土坑計測表	82
第15表	A T95 S B01柱穴計測表	140
第16表	A T95 S B02柱穴計測表	143
第17表	A T95 掘立柱建物計測表	152
第18表	A T95 柱穴列計測表	154
第19表	A T95 柱穴計測表 (柱痕跡を確認できたもの)	156
第20表	A T95 S I 01床面ピット計測表 (貼り床上面)	163
第21表	A T95 S I 01床面ピット計測表 (地山面)	163
第22表	A T95 穴穴遺構計測表	163
第23表	A T95 S I 01出土遺物計測表 (鉄製品以外)	173
第24表	A T95 S I 01出土遺物計測表 (鉄製品)	174
第25表	A T95 S I 01層位別の出土遺物一覧表	180
第26表	A T95 S I 01層位別の鉄製品出土量一覧表	182

第27表	A T95 主要S B・S Dの重複関係	193
第28表	A T95 布振り溝・溝計測表	197
第29表	A T95 S E 07出土遺物計測表	206
第30表	A T95 井戸計測表	209
第31表	A T95 井戸出土遺物の共伴関係一覧表	211
第32表	A T95 S K58, S K22出土遺物計測表	215
第33表	A T95 土坑計測表	217
第34表	A T95 土坑出土遺物の共伴関係一覧表	218
第35表	A T95 拡張トレンチ 1出土遺物計測表	223
第36表	十三漁遺跡出土遺物の種類器種別組成表	278
第37表	十三漁遺跡出土遺物の用途種類別組成表	279
第38表	出土貿易陶磁一覧表	280
第39表	出土珠洲一覧表	280
第40表	出土漁戸一覧表	281

図版目次

図版1	十三漁遺跡空中写真	
1	市浦村の地形・十三漁遺跡と福島城 (北から)	
2	調査地点と周辺地形	
図版2	A T94第1地区遺構(1)	
1	調査区東壁断面層位(西から)	
2	S A01・S A02(西から)	
図版3	A T94第1地区遺構(2)	
1	遺構完掘状況・S D03(東から)	
2	遺構完掘状況・S D03(東から)	
図版4	A T94第1地区出土遺物写真(1)	
図版5	A T94第1地区出土遺物写真(2)	
図版6	A T94第1地区出土遺物写真(3)	
図版7	A T94第2地区遺構(1)	
1	調査区東壁断面層位(西から)	
2	遺構完掘状況(南から)	
3	S A01(北から)	
図版8	A T94第2地区遺構(2)	
1	区画遺構1(東から)	
2	S E01(北から)	

- 図版9 AT94第2地区遺構（3）
 1 区画遺構2・SE02（西から）
 2 SE02（西から）
- 図版10 AT94第2地区遺構（4）
 1 SE03（西から）
 2 SE03（西から）
- 図版11 AT94第2地区遺構（5）
 1 近世遺構検出状況（南から）
 2 近世遺構完掘状況（南から）
 3 SD01・SD02集石（南から）
 4 SD03集石（南から）
 5 SX01集石（東から）
 6 SX02集石（南から）
- 図版12 AT94第2地区出土遺物（1）
- 図版13 AT94第2地区出土遺物（2）
- 図版14 AT94第2地区出土遺物（3）
- 図版15 AT94第2地区出土遺物（4）
- 図版16 AT94第2地区出土遺物（5）
- 図版17 AT94第2地区出土遺物（6）
- 図版18 AT94第2地区出土遺物（7）
- 図版19 AT94第2地区出土遺物（8）
- 図版20 AT94第2地区出土遺物（9）
- 図版21 AT95遺構（1）
 1 調査区全景（東から）
- 図版22 AT95遺構（2）
 1 調査区東壁断面層位・SX01（西から）
 2 調査区北壁断面層位・SD01部分（南から）
- 図版23 AT95遺構（3）
 1 SE04・SE05・SX01検出状況（北から）
 2 SK58検出状況（東南から）
 3 SB01（南から）
 4 SB02（南から）
 5 SB10（南から）
 6 SB11（南から）
 7 SB07（西から）
- 図版24 AT95遺構（4）
 1 SB08（東から）
- 2 拡張トレント1（北から）
 3 SI01完掘状況（南から）
- 図版25 AT95遺構（5）
 1 レンチB：SD01（南から）
 2 レンチC：SD01（南から）
 3 レンチD：SD01・SD04（北から）
 4 レンチE：SD01・SD04（南から）
 5 レンチG：SD12（南から）
 6 レンチG：SD01（南から）
 7 レンチJ：SD04（南から）
 8 レンチJ：SD01（南から）
- 図版26 AT95遺構（6）
 1 SD05・SD06断面（東から）
 2 SD06断面（東から）
 3 レンチN：SP45・SD22切り合い
 4 SP18板石（北から）
 5 SP55柱底（南から）
 6 風側木（南から）
 7 SD05（東から）
- 図版27 AT95遺構（7）
 1 SK22（東から）
 2 SI01貼り床内の薬戸仏花瓶（北から）
 3 SP42薬戸瓶出土（東から）
 4 SK23古鐵出土（北から）
 5 SP37・SP38ヤマトシジミ混入（北から）
 6 X76.22・Y19.92地点出土の骨片（南から）
 7 SK61骨片出土（東から）
 8 SP170骨片（南から）
- 図版28 AT95遺構（8）
 1 SB07・SD03（南から）
 2 SD03内の薬石状集石（南から）
- 図版29 AT95遺構（9）
 1 SE02断面層位（西から）
 2 SE09断面層位（東から）
- 図版30 AT95遺構（10）
 1 SE04断面層位（南から）
 2 SE05断面層位（北から）

図版31 A T95遺構 (11)

- 1 S E07集石 (西から)
- 2 S E12断面層位 (東から)

図版32 A T95遺構 (12)

- 1 S E10・S I01断面層位 (南から)
- 2 S E10 (北から)

図版33 A T95出土遺物写真 (1)

図版34 A T95出土遺物写真 (2)

図版35 A T95出土遺物写真 (3)

図版36 A T95出土遺物写真 (4)

図版37 A T95出土遺物写真 (5)

図版38 A T95出土遺物写真 (6)

図版39 A T95出土遺物写真 (7)

図版40 A T95出土遺物写真 (8)

図版41 A T95出土遺物写真 (9)

図版42 A T95出土遺物写真 (10)

図版43 A T95出土遺物写真 (11)

図版44 A T95出土遺物写真 (12)

図版45 A T95出土遺物写真 (13)

図版46 A T95出土遺物写真 (14)

付 図

付図 1 十三澳遺跡第1次調査 (A T94)

第2地区遺構平面図

付図 2 十三澳遺跡第2次調査 (A T95)

調査区遺構平面図

I 調査の組織

市浦村遺跡整備検討委員会の設置

1991年～1993年にかけて、国立歴史民俗博物館（以下、「歴博」と呼称する。）は「北部日本における文化交流」をテーマに、十三ヶ・福島城遺跡において考古学、文献史学、歴史地理学などを応用した学際的調査を行い、大きな成果を上げた。そして、93年10月24日（日）に「遺跡にさぐる北日本～中世都市十三ヶと安藤氏～」（'93市浦シンポジウム、第14回歴博フォーラム）と題して、シンポジウムが青森市で開催され、調査成果が発表された。当日は千人近い一般参加者を得て、大反響を呼ぶほどであった。その中で両遺跡は日本史、東アジアの歴史全体を解明する上で非常に重要であることが再認識されるに至った。特に十三ヶ遺跡の成果は北方交易の重要な拠点港町であったとして港町全体の都市プランの復原想定案、さらに港町の時期別変遷試案までも提示する重要なものであった。しかし、十三ヶ遺跡の範囲は55万平方メートルもの大規模に渡っており、遺跡復原想定図を提示するにとどまり、未だ未解決で推定された部分が多く、実態解明に至っていない現状である。そのため十三ヶ遺跡の継続調査が望まれていた。

そこで、市浦村では現在押し進めている「過疎地域活性化事業」の一環として、今後十三ヶ遺跡の調査・研究を深化させ、国史跡指定の実現をめざした遺跡整備・復原による史跡観光化を実現させていく方向性が見いだされるに至った。

このことを受けて、市浦村教育委員会では調査体制の充実をはかり、今後の遺跡整備・保存・活用を円滑に進めるための指導・助言機関として、平成5年8月9日に「市浦村遺跡整備検討委員会」を設置した。なお、市浦村教育委員会では平成6年4月から1名の調査専門職員を採用し、さらに平成7年7月から「安藤の里振興室」を教育委員会内部に設けて、文化財行政に携わっている。

調査の万全を期すため、遺跡整備検討委員会の体制には主に考古学、歴史学、建築史学などの専門家に依頼し、その指導・助言のもとに調査を進めている。

遺跡整備検討委員会の構成は以下のとおりである（職名は委嘱当时）。

第Ⅰ期

委員長 村越 淳・弘前大学教授（考古学）
委 員 高島 成佑・八戸工業大学教授（建築史学）
佐藤 仁・浪岡町史編纂室長（歴史学）

三宅 徹也・青森県文化課総括主幹（考古学）
三浦 圭介・青森県埋蔵文化財調査センター（考古学）
前川 要・富山大学助教授（考古学）
千田 嘉博・国立歴史民俗博物館助手（考古学）
小田桐恭一・市浦村文化財保護審議委員

その後、以下に委員の変更があった（職名は委嘱当时）。

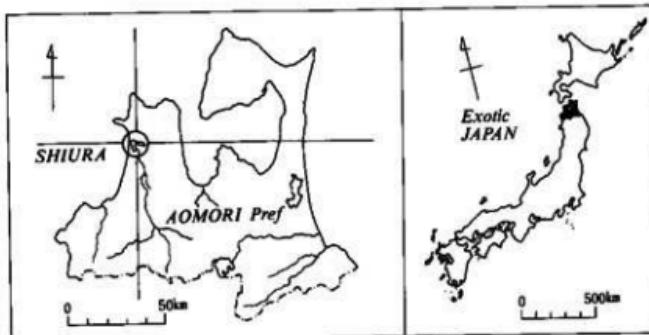
委 員 宇野 隆夫・富山大学教授（考古学）
小島 道裕・国立歴史民俗博物館助教授（歴史学）

事務局 木村 義光・市浦村教育委員会教育長
白川 隆治・市浦村教育委員会教育次長
古川 徹・安藤の里振興室長
榎原 滋高・学芸員

II 遺跡の位置と歴史的環境

1 遺跡の位置（第1図）

本州の最北端、青森県の日本海側に位置する津軽半島は中山・梵珠山地を脊梁に、日本海に面した西側は七里長浜に沿った屏風山系が発達した砂丘地帯をつくり出している。これらに挟まれた一帯は岩木川とその流れによって造りだされた扇状地と河口付近のデルタ地帯によって津軽平野が構成されている。その岩木川の流れが北上し、日本海へと流れ出す河口部に十三湖、十三湊遺跡がある。十三湊遺跡は青森県北津軽郡市浦村大字十三に所在する。市浦村は津軽平野の北端に位置し、西は日本海に面して、北は中山山脈を境に小泊村と東津軽郡今別町・三厩村に接する。東は中山山脈から派生した海岸段丘と十三湖で中里町に接し、南は十三湖と砂丘を境に西津軽郡車力村に接する。村域は東西約11km、南北約15km、総面積111.74km²である。国有林が村の約半分程を、さらに約6分の1を十三湖（現在、約17.7km²）が占めている。十三湖はかつてはもっと内陸部に入り込んでいたが、岩木川の土砂による堆積と江戸時代から近現代に至る干拓事業によって狭められ、現在は周囲約31.4kmの汽水湖が展開している。市浦村の興りは明治22（1889）年、磯松村を併合した脇元村と太田村を併合した相内村の2ヶ村となって北津軽郡に属し、十三村は西津軽郡に属するそれぞれ異なる地域であった。そして、昭和30年に十三村、脇元村、相内村が合併して北津軽郡市浦村が誕生した。その際には十三湊が江戸時代に弘前藩における4つの貿易港（四浦）の1つであったことから、「四浦村」とすべきところを四は死に通じることから、これを改めて「市浦村」と命名したようである。



第1図 遺跡の位置



番号	遺跡名	所在地	時代	種別	番号	遺跡名	所在地	時代	種別
1	十二湖道路	市浦村十三	中世、近世	散布地	15	五月女郷の遺跡	市浦村相内字相内	圓紋晚期	散布地
2	福島城跡	市浦村相内字取	後世、平安、中世	城跡	16	菅原遺跡	市浦村相内字岩井	圓紋前、中期	貝塚
3	唐川城跡	市浦村相内字岩井	中世	城跡	17	二ツ石遺跡	市浦村相内字岩井	中世	散布地
4	山王城跡	市浦村相内字岩井	中世	城跡	18	岩井遺跡	市浦村相内字岩井	圓紋後・晚期、平安	高落遺跡
5	古難道跡	市浦村櫛松字下野野	平安	散布地	19	大石遺跡	市浦村相内字岩井	圓紋	散布地
6	櫛松砂山道路	市浦村櫛松字下野野	中世	道路	20	葛石遺跡	市浦村相内字葛石	平安	貝塚
7	櫛松遺跡	市浦村櫛松字葛石	平安	堆积	21	オセドウ遺跡	市浦村相内字葛石	圓紋前・後期、平安	貝塚
8	奥川(1)遺跡	市浦村櫛松字奥川	平安	集落跡	22	実田遺跡	市浦村相内字实田	平安	集落跡
9	唐川(2)遺跡	市浦村櫛松字唐川	平安	散布地	23	蛇石遺跡	市浦村相内字实田	圓紋後・晚期、平安	散布地
10	唐川(3)遺跡	市浦村櫛松字唐川	平安	散布地	24	中島遺跡	市浦村十三字土井	奈良	散布地
11	ナガレ山道路	市浦村太田字山ノ井	櫛纹、平安	散布地	25	明神遺跡	草力村大字官房	中世	寺社跡
12	赤坂遺跡	市浦村相内字赤坂	平安	堆积	26	唐崎遺跡	中里町今泉字唐崎	平安	散布地
13	相内遺跡	市浦村相内字相内	平安	堆积跡	27	今大石遺跡	中里町今泉字唐崎	圓紋、平安	散布地
14	五月女郷(1)遺跡	市浦村相内字相内	圓紋晚期	散布地	28	神奈宮遺跡	中里町今泉字唐崎	圓紋、平安	城跡

第2図 十三湖周辺の遺跡地図

十三湊遺跡は十三湖の西側にあって、半島状に突き出た南北に長い砂州上に立地している。日本海に面して発達している七里長浜との間には前潟、内湖、明神沼と呼ばれる小湖沼があり、中世段階では日本海とを結ぶ水路として利用されていたと考えられる。それが湊の衰退と地形の変化によって、徐々に水戸口（日本海への出入口）が北へと移動して、水路も次第に湖沼化していった。現在の水戸口は十三集落の北西に位置し、単なる排水口として機能している。

2 周辺の遺跡と歴史的環境（第2図）

十三湖周辺地域は津軽平野を縱断して流れる岩木川の河口に位置し、古くからその岩木川水系を通じて結ばれた内陸地との物資供給地としての役割を担っていた。また、大きく日本列島を視点として見れば、本州北端に位置して北海道、樺太などの北方交易の貿易窓口としての役割を担っていた地域もある。この両者の役割が結節した海上・水運交通の要衝として、歴史的にも古く重要な位置を占めていた地域と考えられる。中世十三湊が北方交易の拠点湊町として繁栄したこととは歴史的必然性と言えるであろう。

周辺の遺跡を時代順に概観すると、十三湖北岸の中山山脈から派生した東西方向に延びる標高約20mの丘陵縁辺部に縄文時代前期から中期にかけてヤマトシジミを中心としたオセドウ貝塚、葦畠貝塚が形成されている。さらに、十三湖北西岸、日本海側に面した標高約2m程の砂丘一帯には縄文時代晩期を主体とした五月女瀬遺跡の大遺物包含層が確認されている。縄文時代晩期には現在の地形がすでに形成されていたようである。古代では十三湖の北西部に浮かぶ小島に奈良時代（8世紀代）の中島遺跡がある。坏、高坏、壺型土器、甕型土器など活性の高い資料が出土している。文献史料では、「日本書紀」齊明天皇四年夏四月条に「有間浜に、渡嶋の蝦夷等を召し聚へて、大きに養たまひて帰す」とあり、阿部比羅夫が有間浜で渡嶋の蝦夷らを集めて大いに養應したとする記事がある。この「有間浜」の位置について諸説があるが、十三湖付近もその比定地の1つに数えられており、興味深い。

平安時代末の10世紀～11世紀頃は古代律令社会が崩壊し、王朝国家段階になって中央権力の影響が弛緩する時期である。この時期の遺跡には赤坂遺跡、古館（墳館）遺跡、福島城が確認されている。赤坂遺跡は十三湖北岸の丘陵上にあって、土師器とともに擦文土器を伴っている。擦文土器は北海道において発生しており、津軽海峡によって隔てられていたそれぞれの文化が、この時期に強く結び付くようになる。古館（墳館）遺跡は近年の研究によって明らかとなっている「古代防護性集落」と呼ばれるものである。丘陵縁辺部に集落を形成し、堀等によって保塞する防護的な施設と考えられる。防護性集落は北海道道南地域から秋田県北部、岩手県北部を含む北奥地に渡って広く分布している。今後の防

御性集落の実体解明は文献資料がほとんど空白であるこの時期の北東地域の歴史を解明する手がかりとなる。福島城は十三湖の北岸、中山山脈から派生した東西にのびる丘陵先端部に位置している。それは一辺が約1kmの三角形をした総面積625,000m²の規模を持つ城郭遺構である。外郭と内郭から成っている。外郭東側は土塁と堀によって区画されている。この土塁は幅12~13m、高さが3~4mで南北1kmに渡る壮大なものである。内郭は一辺200m四方の規模で土塁と堀に区画されている。外郭東土塁には門跡、柵列が確認されており、古代城柵に類似した構造を持つ。これまで安倍・安藤氏の居城という伝承に従って中世城郭と考えられてきたが、近年の国立歴史民族博物館の調査によって、築造時期が10世紀~11世紀代に遡る可能性が高いという成果を上げている。これほどの大規模な城郭を築くことができた築城主体は東北北部地域全体の強い影響力を持っていたと考えられるだけでなく、遺跡の立地から岩木川水系、日本海による水運・海運交通をおさえる重要な役割を持っていたと想像できる。

中世になると、十三湖の西側砂丘地に十三湊遺跡が形成される。十三湊遺跡については国立歴史民俗博物館の3ヶ年にわたる学際的調査によって、その港湾都市の全体構造と変遷過程が示され、重要な成果を上げており、詳しくはその研究報告を参照されたい（国立歴史民俗博物館 1995）。「十三湊遺跡」の範囲は從来の琴湖岳遺跡のほか、23,500枚余りの大量の渡来鏡を出土した鉄砲台遺跡、宗教施設とされる檀林寺跡、中世の水戸口付近にあって、灯台の役割を果たしたとされる浜明神遺跡までを示しており、今後はまとまりのある都市遺跡としての位置づけをおこなう必要がある。また、十三湖北岸一帯には中世の遺跡が広く分布している。土塁と堀を持つ山城の唐川城跡、青磁・宋銭などを出土した堅穴住居群のある二つ沼遺跡、礎石列・石段等の宗教建築遺構に五輪塔などの石造物、金属製品、中世陶磁器などの遺物を出土した山王坊遺跡がある。これらは広い意味で十三湊遺跡と一体のもので、中世十三湊の都市領域の中に含めて考えていく必要がある。中世十三湊の終焉を示す文献史料に「満済准后日記」永享4年（1432）10月21日条の記事がある。安藤氏が南部氏に敗ぶれ、北海道へ退去したというもので、発掘調査の結果からも、ほぼこの時期に十三湊が衰退した様子が伺える。16世紀前半代の遺物は全く出土せず、人が住んでいた様子は認められない。

近世の段階になると17世紀に入って序々に人々が集まって町を形成し始めたようである。神明宮宮司工藤家所蔵の「御官改之覚」元文元年（1737）によれば、十三町に關わる神社の建立が1660~1680年代に集中していることから、17世紀中頃にはすでに十三町として整備されていた状況が伺える。弘前藩の支配のもと青森、鰺ヶ沢、深浦とともに「四浦」として湊の機能を維持したが、東廻航路の開設によって江戸へ米を運ぶ廻船が青森から、西廻航路の開設によって上方への廻船は鰺ヶ沢から積み出されることによって、十三湊は

中世の国際的貿易港としての役割を完全に失うこととなった。岩木川水系から十三湖に運ばれた物資は十三小廻し体制によって、鰐ヶ沢へ回送されるという岩木川水系と鰐ヶ沢の中繼地としての役割にとどまることとなった。

近代になると蒸気船の発達とともに、岩木川の流れによって運ばれた土砂の堆積によって十三湖が浅くなり、船の出入りがさらに困難となったようである。また、津軽森林鉄道の開設など陸上交通機関の発達によって、港町の機能を完全に失い、現在は十三湖のシジミ漁を中心とした漁業を行う漁村となっている。

III 調査の計画と方法

〈調査の計画〉(第3・4図)

平成7年2月8日に行われた第7回遺跡整備検討委員会では、先の歴博による調査成果に基づき、今後の調査方針について検討された。そこでは55万平方メートルに及ぶ大規模な遺跡の範囲を暫時どのように調査を継続して進めれば、十三ヶ遺跡の実像解明に繋がるかが課題であった。そこで示された段階的な調査地点とその選定理由をまとめると以下のようになる。

第I段階：(十三小学校地区、推定安藤氏館・大土塁周辺の調査)

十三ヶ遺跡のほぼ中央に位置し、遺跡を大きく南北に分断する大土塁が現在も残っている。その大土塁のすぐ北側には現在、市浦村立十三小学校があり、その周辺には十三ヶ遺跡の中心的施設(推定安藤氏館、以下「館跡」とする)が存在する可能性が指摘されている。十三ヶ遺跡の解明には必要不可欠であり、最も重要な地点と考えられる。

なお、歴博の93年度調査によって、館の周辺に付属すると思われる竪穴遺構群(工人集落か)が検出されている。以後、「十三小学校地区」と呼称する。

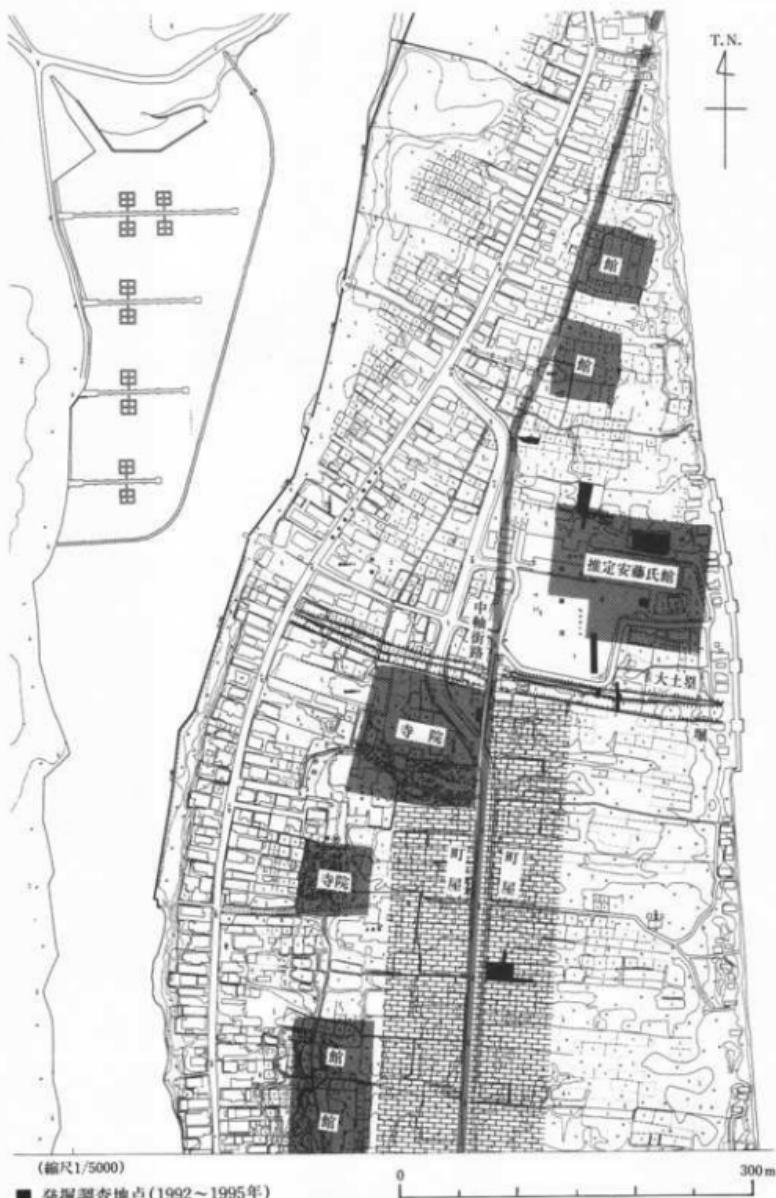
第II段階：(町屋地区の調査)

大土塁の南側には南北方向に伸びる中軸道路(中世十三ヶのメイン道路と推される南北直線道路)に沿って、間口が狭く奥行きの長い、いわゆる短冊型の町屋地区が想定されている。先の歴博93年度調査では町屋の屋敷地奥の一画が検出されており、町屋地区の成立を15世紀以降に求めている。十三ヶ遺跡の発達した都市的様相を解明する重要な地点であり、さらには町屋地区の広がりを確認する必要性がある。

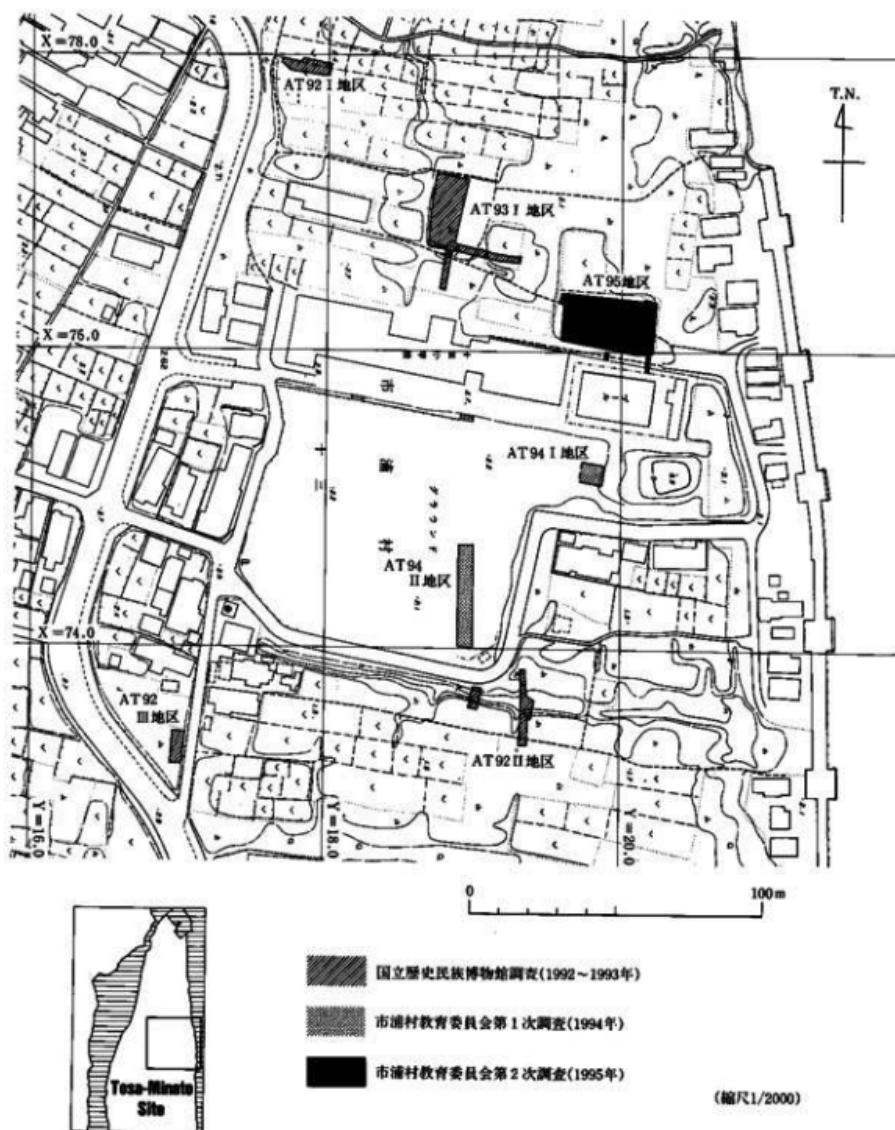
第III段階：(北部地区・港湾施設の調査)

十三ヶ遺跡が位置する南北に長い砂州の北部先端地区である。先の歴博の91年度詳細分布調査によれば、中世十三ヶの始まりを示す12世紀後半代の遺物が採集される地点であるため、初期の港町解明にとって重要な地点である。

また、港湾施設(船着き場)が想定されている地点でもあり、港湾遺跡にとって港湾施設の解明は必要不可欠であると言える。



第3図 中世十三渢の都市構造



第4図 調査区位置図

以上の点から、平成6年度からは第1段階として、十三ヶの中心的施設「館跡」を対象とした十三ヶ地区の調査を継続的に実施し、その「館跡」の存在を特定していくことが承認された。なお、各段階ごとの調査年次については、概ね5ヶ年計画としたが、調査体制の強化及び調査成果と関わる問題であり、暫時、委員会の中で検討していく。

今回、報告するのは第1次調査(94年度)、第2次調査(95年度)の2ヶ年度分の調査成果である。第1次調査は「館跡」の範囲確認のため、十三ヶ地区グランド内に2ヶ所のトレンチ調査(第一地区、第二地区)を実施した。第2次調査では第1次調査の成果を受けて、十三ヶ地区裏手の北側畠地を選定し、調査を実施している。調査実施地区は第4図に示し、調査年次・次数・調査地区・調査面積・予算は第1表に示したとおりである。

第1表 発掘調査実績表

調査年次	次数・調査地区	調査面積	予算規模
平成6年度	第1次調査・十三ヶ地区	245 m ²	5000千円
平成7年度	第2次調査・十三ヶ地区	568.5m ²	7000千円

〈調査の方法〉

調査を開始するに当たり、歴博が作成した十三ヶ遺跡の1000分の1の地形図を利用して、基準点網を張った。そこで調査区の設定に際して、歴博91年度詳細分布調査で使用した国土地標軸X=110.5, Y=-43.0を原点として、遺跡全体に50mのメッシュを組み、北東コーナーの座標が地区名となるように大区画を設定したものを利用した。さらに、小区画として調査区域内でのグリッド設定の杭打ち作業は大区画の50mのメッシュをさらに10等分した5mごとに設定した。

層位的にはこれまでの調査によって、大きく近世面と中世面の2遺構面が確認されており、分層発掘を行っている。

遺物の取り上げに関して、包含層遺物は平板によって地点を落とし、後日、地点復原できるようにした。遺構面上、遺構出土遺物は遺構図面に地点を落として、取り上げている(平成7年度から)。

遺構の実測方法に関して、近世面では基本的に平板測量を行い、40分の1の図面を作成している。中世面は詳細を期すため、5mごとの小区画からさらに1mごとにメッシュを組み、20分の1で実測を行っている。

検出遺構の調査方法に関して、十三ヶ遺跡発掘が学術目的であること、遺跡が砂州上に立地し遺構がすぐに風化しやすい特殊性、さらに調査予算・時間の制約から全面発掘は行

わないこととした。そこで柱穴については柱痕を探す作業を行ったのち、半斎する。遺構密度の高い土坑、井戸跡は基本的に半斎することとした。しかし、井戸は生活関連の遺物が多く出土することから、数ヶ所を選んで完掘することとした。溝、棚列等は部分的な調査に留めておくこととした。

上記の調査方法は今後の調査の進展に伴い、当然変更が余儀なくされる問題であり、最善の調査方法を見い出していくこととする。

〈報告書について〉

報告書の記載に関して、十三湊遺跡ではこれまで歴博調査分を含め、数度にわたる部分的な発掘調査が行われている。また、平成7年度から青森県教育委員会が継続的な調査を実施することになっている。そこで、市浦村教育委員会が本格的に発掘調査を開始した平成6年度の調査をもって、「十三湊遺跡 市浦村第1次調査」として記載し、以後継続して次数を数えることとした。

また、これまで市浦村教育委員会が刊行してきた報告書にはシリーズ番号が記されていなかった。そこでこれまで刊行された報告書を数え、今回からシリーズ番号を「市浦村埋蔵文化財報告書 第8集」と記し、以後継続して次数を数えることとした。なお、今後、十三湊遺跡の調査報告は2ヶ年度分ごとにまとめて、概報として刊行していく予定である。

〈遺跡の基本層序〉(第5図)

十三湊遺跡のように広範囲に渡る遺跡では離れた調査地点によって、土層の堆積状況は当然異なっている。そのためにこれまで各調査地点ごとの基本的な土層の対応関係を把握する作業を積極的に行ってこなかった。

そこで今後は十三湊遺跡における統一した基本層序を設定して、それを用いることとした。ここでは十三湊遺跡の中で、発掘調査が継続的に行われている「十三小学校地区」の土層堆積状況について基本層序に対応させて記述する。基本層序は以下の通りである。

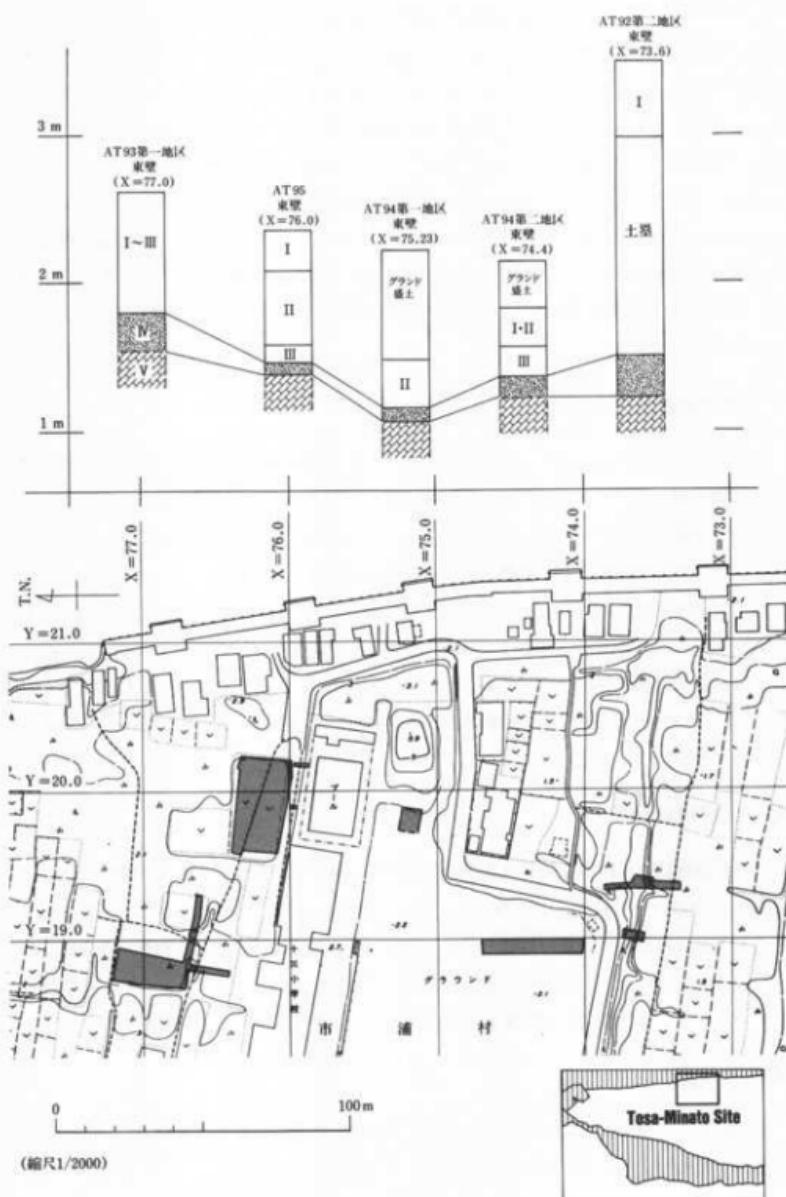
第I層：現代の生活面を含む耕作土、盛土層である。

第II層：中世～現代までの遺物包含層である。

第III層：近世遺構面を含む中世遺物包含層である。調査地点によって、第III層は上面からの攪乱により消滅している場合がある。

第IV層：中世遺構面とその基盤層である。層位観察から部分的に2層に細分可能であるが、平面プランで分けることは難しい。基盤層は黒色砂層で構成される。

第V層：無遺物層で黄褐色砂層で構成される。



第5図 十三小学校地区 基本層序模式図

「十三小学校地区」の土層堆積状況は、最も南に位置する土星箇所を除いて、北側に向かう程、標高が2.6mと最も高くなっている。南側の十三小学校グランド内は2.2m前後となっており、約40cm程の比高差がある。南側の十三小学校グランド周辺は元々標高が低かったためであろうか、グランドとして整備する過程で盛土し、周辺の標高に合わせたものであろう。第III層の近世遺構面とその包含層はAT94第二地区において明確に認められたが、もともと遺構が希薄である。現在も畠地として利用されている場所は耕作等によって、近世遺構面が削られて消滅している場合が多い。第IV層とした中世遺構面とその基盤層は10cm～30cm程の堆積を示している。AT93第一地区を見ると、当時においても北側地区が標高1.8mとやや高かったと思われる。最も低いAT94第一地区では標高1.15mほどで約65cmほどの比高差がある。

〈遺構の表記について〉

これまで十三渢遺跡の調査によって検出された主な遺構の種類には掘立柱建物、竪穴遺構、道路、橋、溝、堀、井戸、墓などが挙げられる。しかし、遺構名の表記の仕方についてこれまで統一された基準が示されていないこと。また、曖昧に分類されている状況にあった。そこで、今後統一した遺構名を用いることとする（第2表）。

なお、第2次調査（AT95）では完掘作業を行っておらず、検出段階で遺構を止めたものが多い。このため遺構の性格についての分類に不分明なものが存在している。具体的にはSD溝とSA布堀り棚の区別であるが、こうした場合、これらはすべてSD溝として取り上げ、部分的な調査を行って遺構の性格が判明したものについては、記述中にその遺構の性格を触れることとした。

掘立柱建物の記載

掘立柱建物は平面図の長軸を基本として、建物の長軸を「桁行」、短軸を「梁行」とする。建物の長・短軸が不明なものは便宜上、南北を「桁行」、東西を「梁行」として記した。建物の棟方位は真北から建物の長軸の方位を測る。その角度によって、建物を「東西棟」と「南北棟」に分ける。また、建物の桁行・梁行の総長、柱間寸法はメートル法、及び尺で表した。メートル法から尺に換算するに当たって、1尺=0.303mとして計算した。

遺構計測表

遺構計測表は挿図中に個別で記したほか、すべての遺構計測表を各年度末にまとめて記載した。遺構計測表の主要な項目は以下の通りである。

番 号：報告書での通し番号

整 理：調査時の遺構番号

グリット X・Y：1m単位の座標で遺構の位置を北東コーナーの座標で表した。

出土遺物：出土遺物を以下の略記号で表した。

●は国産陶器・土器、○は貿易陶磁器、▲は鉄製品、■その他（近世陶磁器を含む。）で表した。

備 考：遺構の切り合い関係は>、<の記号で表した。切り合い関係の不明なものについては、遺構=遺構？と表した。

第2表 十三ヶ遺跡における遺構の標示分類表

遺 構	記 号	遺構の概要
家屋建物	S B掘立柱建物	・数量的には圧倒的に掘立柱建物の方が多い。
	S B礎石建物	・礎石建物は礎石掘形に礎石を固定するために「根石」を添え付ける例がある。
	S I 穴窓遺構	・穴窓遺構は方形、長方形に深く掘り込まれたもの。倉庫、工房跡の可能性がある。
棚・塀	S A柱穴列	・棚・塀の上部構造は不明である。
		・柱穴列は柱掘形を掘って柱を埋め込むものと柱の先端を尖らせ杭を打ち込むもの。
溝・堀	S A布掘り	・布掘りは溝状の掘形に柱を複数埋め込み、列をつくるもの。
	S D溝	・溝は幅10~数十cmの小規模なもの。
	S D堀	・堀は数m~十数mほども大規模なものとして分類する。深さは両者とも遺跡の立地条件から、数十cmとそれほど深くはない。
道路	S F道路	・布掘りに挟まれたもの、溝に狭まれたものがある。
井戸	S E井戸	・井戸は木組みのものが多い。井戸底に曲物、礎を敷くものがある。
土坑	S K土坑	・生活廃棄物の捨て場の他、さまざまな用途として掘られている。
その他	S Xその他	・上記以外の遺構を取り上げる。

〈遺物の表記について〉

中世陶磁器類に関して、貿易陶磁は国立歴史民俗博物館の分類（国立歴史民俗博物館 1993）、瀬戸は藤澤良祐氏（藤澤 1982, 1991, 1995）、珠洲は吉岡康暢氏（吉岡 1994）の分類・年代観に沿って、できる限り記述する。

なお、国産施釉陶器である瀬戸・美濃について、十三窯遺跡では大窯段階の製品ではなく、窖窯段階の製品しか出土していないため、「瀬戸」として表記する。

珠洲については成形、調整技法等から「珠洲系」として捉らえるべきものも含まれているが、ここでは便宜上、「珠洲」として扱う。「瓷器系」としたものには越前、常滑、信楽が含まれる。越前、常滑は同様の形式変化を辿っており、胎土の肉眼観察によってある程度分類可能なものが含まれているものの、そのほとんどは分類不可能である。そこで、今後の自然科学の分析を待って、ここではまとめて「瓷器系」としておく。なお、信楽は長石が吹き出す胎土を特徴としており識別可能である。

近世陶磁器に関して、現段階では产地・時期等の特定が困難であった。そこで、今回出土した遺物は「肥前・肥前系」と「備前系」に大別して扱うこととし、個々の遺物の特徴を記すに留めている。

遺物計測表

遺構計測表は挿図中に遺構出土遺物を記したほか、報告書に掲載したすべての遺物計測表を各年度末に記載した。掲載していない遺物分に関しては各年度・地区ごとに遺物集計表を付けることとした。遺物計測表の主要な項目は以下の通りである。

番 号：報告書での通し番号

種 類：青磁、白磁、瀬戸、珠洲、瓷器系などの名称

器 種：碗、皿、すり鉢、盤など用途別の分類

層 位：遺物の出土層位名

レベル：遺物の出土地点の標高

法 量：ここでは多くの略記号を用いている。

略記号で、口=口径、底=底径を示す。数値には、括弧の付かないものは実数、

[] 内は復元値、() 内は現存長を示している。

個体数：口縁部計測法による個体数

備 考：時期別分類、重量、その他を示す。

整 理：調査時の通し番号

IV 第1次調査（AT94）

1. 調査の目的

〈調査対象地〉

第1次調査は市浦村大字十三字琴湖岳456番地に所在する市浦村立十三小学校グランド敷地内を対象としている（第4図）。グランドは競技用トラック、野球用グランドがアン・ツーカーによって覆われている他は芝生によって、よく整備されている。その為、調査は競技用トラック、野球用グランド内で実施された。本地区は標高2～2.5mの平坦面であり、十三小学校東側100m程で十三湖の湖岸に行き着く。さらにグランドの南西端から、湖岸に至る東西約190mに渡って、標高3.5m程の中世十三湊の大土壘跡が現存している。

〈調査前の知見〉

十三小学校地区における考古学的調査は、これまで1973年十三小学校改築に伴う村越潔氏による調査、歴博による92年度第二地区（大土壘跡の調査）、93年度第一地区調査が行われている。以下、これまで判明している事柄を述べてみる。

1973年十三小学校改築に伴う調査では、ふいごの羽口、鉄滓など職人活動を示す鍛冶関連遺物が出土しており、注目できる（村越 1975）。

歴博92年度第二地区調査では十三小学校グランド南側の大土壘の断ち割り調査を行っている。土壘は十三小学校南西端から湖岸に至る東西約190mに渡って残存している。断ち割り調査の結果、土壘が大きく2時期存在することが明らかとなり、さらに土壘南側は低湿地を利用した堀跡が存在すると判断している。

前期土壘の構築は14世紀末・15世紀初頭に位置づけられており、十三湊の発展時期とも重なり、中世十三湊の主軸方位（都市軸線）を基に土壘が成立したと考えられる。

歴博の調査成果から判断すると、この土壘を基点として北側地区に十三湊の中心的施設「館跡」の存在、南側地区には町屋地区の存在が想定されている。

歴博93年度第一地区調査では調査区南側にS X01、S X02の区画施設とS F02の土橋状遺構が検出され、「館跡」を区画すると考えられる堀跡の存在が推定されるようになった。さらに、その区画施設とS F01道路跡の間には竪穴遺構群や井戸跡が検出され、「館跡」の周辺に付属する工人集落の存在が想定されている。このことは発掘調査区域内の限られ情報だけでなく、歴史地理学的な手法によって、明治22年の地籍図や航空写真から史料化を行い、狭い調査区の情報との照合を得て、「館跡」の推定という広い範囲の情報を読み込んでいた。

だものであった。しかし、歴博報告でもあるように、あくまでも推定であって仮説的提示を意味するものである。そのため十三小学校地区の面的な調査を行うことによって、「館跡」の存在を実証するとともに、「館跡」周辺域の実態解明を行う必要性がある。この十三湊遺跡の中心的施設「館跡」の実態解明は十三湊遺跡全体の変遷過程を明らかにするものと考えられる。

〈調査の目的〉

本年度は前述した歴博によって推定された中世十三湊遺跡の中心的な施設、「館跡」の存在を実証するための範囲確認を目的とする。そのため十三小学校グラウンド内に2ヶ所のトレンチ調査区を設けることとした。1つ目は北側地区、東西方向に幅7m、長さ10mのトレンチ調査区を設定し、「第一地区」と呼称する。第一地区は「館跡」の主体部と推定されている場所であった。調査面積は70m²である。2つ目は南側地区、南北方向に幅5m、長さ35mのトレンチ調査区を設定し、「第二地区」と呼称する。第二地区は「館跡」を区画する堀跡を確認するだけでなく、さらに「大土塁跡」と「館跡」の間が空閑地となるか、或いはどのような造構の配置、空間的利用がなされているかを確認する目的で設定している。調査面積は175m²である。2地区の合計面積は245m²である。

2. 調査の経過

第1次調査は8月22日から開始した。調査は順調に進み、9月5日に記者発表会、二日後の9月7日には一般の人を対象に現地説明会を行った。9月9日には調査区の土砂埋め戻し作業を終え、全日程を終了した。前述したように、2ヶ所のトレンチ調査区を設定しており、作業の進行状況がそれぞれ異なるため、ここでは別記して記述する。

〈第一地区〉

8月22日 晴れ 調査前に地下の遺構を探るため、電気探査を行う。さらに、調査区周辺を平板測量する（1/1000）。



調査区周辺の地形測量

8月23日 晴れ 午前中に発掘機材の搬入を行う。午後には重機（バックホー）による表土の掘削を行う。その後、発掘区の壁立て作業と遺構面の精査を同時に行う。さらに東壁と北壁にサブトレンチを入れ、層位観察を行う。調査区西側からは旧小学校校舎のコンクリート塊の基礎が検出され、攪乱を受けていることが分かった。

8月24日 晴れ 遺構面の検出作業を行う。調査区の東西方向に渡って伸びるSD03堀が検出される。



遺構面の検出（第一地区）

8月25日 晴れ 遺構面の精査作業に入る。SD03の他、柱穴、溝が検出される。

8月26日 曇り 遺構面上の遺物を取り上げる。遺構面の精査が完了し、写真撮影を行う。

8月27日 曇り一時雨 SD03上面の遺構の半裁、写真撮影、平面図の作成を行う。さらに遺構概略図を平行して作成する。

8月28日 晴れ 昨日に引き続き、SD03上面の遺構の半裁及び完掘を行う。写真撮影は遺物が出土した遺構など適宜行う。

8月29日 晴れ SD03上面以外の柱穴の半裁、完掘作業を行う。

8月30日 曇り S D03以外の遺構の完掘を終えた後、遺構面を精査し、再び全景写真の撮影を行う。

8月31日 晴れ 発掘中間整理作業を行う（現地説明会に向けての資料作成）。

9月1日 晴れ 調査区セクション図、平面図の作成を行う。

9月2日 晴れ 昨日に引き続き、調査区セクション図、平面図の作成を行う。

9月3日 晴れ 平面図のレベル落とし作業を行った後、S D03を四分法による調査を行う。

9月4日 晴れ 昨日に引き続き、S D03の掘削を行う。層位観察用の畦のセクション図の作成後、写真撮影を行う。

9月5日 晴れ S D03の完掘作業を終え、アドバルーンによる航空写真撮影を行う。さらに午後にはローリングタワーによる写真撮影を行う。S D03の平面図作成も行う。

9月6日 曇り 遺構平面図にレベル、コンタを落とす作業を行い、発掘作業が終了する。



全景写真の撮影（第一地区）

〈第二地区〉

8月22日 晴れ 國土座標を用いて、調査区にグリット設定を行う。

8月23日 晴れ 昨日に引き続き、調査区にグリット設定を行う。

8月24日 晴れ 重機（バックホー）による表土剥ぎを行う。平行してグリット設定を行う。

8月25日 晴れ 遺構面の検出作業を行う。調査区南壁に層位観察用のサブレンチを設定する。調査区のグリット設定が完了する。ベルトコンベアの設置をする。

8月26日 曇り 灰褐色細粒砂上面で近世

遺構と推されるS X01～03の溝状集積遺構が検出される。また、調査区中央で東西方向にサブトレンチを入れた結果、黒褐色砂層上面で中世遺構を確認する。

8月27日 曇り一時雨 近世遺構は精査、写真撮影を行い、実測用のメッシュを張る段階まで終える。それに平行して、近世遺構を残しながら、さらに下層の中世遺構面の検出作業を行う。

8月28日 晴れ 近世遺構の実測、レベル落とし作業、完掘作業を行う。中世遺構面は適宜、サブトレンチを入れながら、検出作業を行う。

8月29日 晴れ 近世遺構は完掘作業を行った後、写真撮影を行う。その後、近世遺構を取り除き、中世遺構面まで掘り下げる作業を行う。中世遺構は溝跡、柱穴、井戸跡などが徐々に検出される。



第二地区の調査風景

8月30日 曇り 中世遺構面の検出作業を終え、ローリングタワーによる遺構検出の全景写真撮影を行う。その後、遺構の半裁作業を行う。

9月1日 晴れ 1昨夜の雨のため、中世遺構面、調査区壁セクションの精査を再度行う。調査区北壁と東壁セクションの写真撮影をする。引き続き遺構の半裁作業を行う。

9月2日 晴れ 調査区北壁、東壁セクション図の作成をする。引き続き遺構の半裁作業をする。

9月3日 晴れ 調査区西壁セクションの写真撮影を行い、セクション図の作成をする。半裁された遺構は土色名を付け、完掘作業を行う。半裁された遺構は適宜、写真撮影を行う。

9月4日 晴れ 調査区西壁セクション図を完了する。遺構のセクション図の作成、写真撮影を適宜行い、遺構の完掘作業を行う。



遺構の掘削（第二地区）

9月5日 晴れ 中世遺構の完掘を終え、遺構面の精査を行った後、全景撮影を行った。その後、アドバルーンによる航空写真的撮影を行う。

9月6日 曇り 遺構平面図（1／20）の作成を行う。

9月7日 晴れ 昨日に引き続き、遺構平面図の作成を行う。

9月8日 晴れ 午前中で遺構平面図の作成を完了し、午後から発掘器材の搬出を行う。

9月9日 曇り一時雨 発掘調査区の土砂埋め戻し作業を行う。発掘調査の終了。



第1次調査参加者

調査組織

調査指導機関 市浦村遺跡整備検討委員会

調査指導員 前川 要（富山大学人文学部助教授）

調査員 柳原 滋高（市浦村教育委員会学芸員）

調査作業員 鈴木 和子、長谷川幸志、新本 真之
(富山大学大学院人文科学研究科学生)

中田 書矢、三林 健一、勾坂 友秋、大川 進、内田亞紀子

大平奈央子、近藤 美紀、平井 晶子、芳賀万里子、石井 淳平

中島 義人、山崎 雅恵、春名 理史、小野 基
(富山大学人文学部考古学研究室学生)

丁子谷瑞穂（大正大学学生）

桑野 聰子（弘前学院大学学生）

地元作業員 葛西 文子、成田みやこ、奈良 靖子、三和 さち、三和 せつ
成田ちよえ、岡 富子、本荘 澄子、竹谷ヨシエ

調査協力者 市浦村立十三小学校

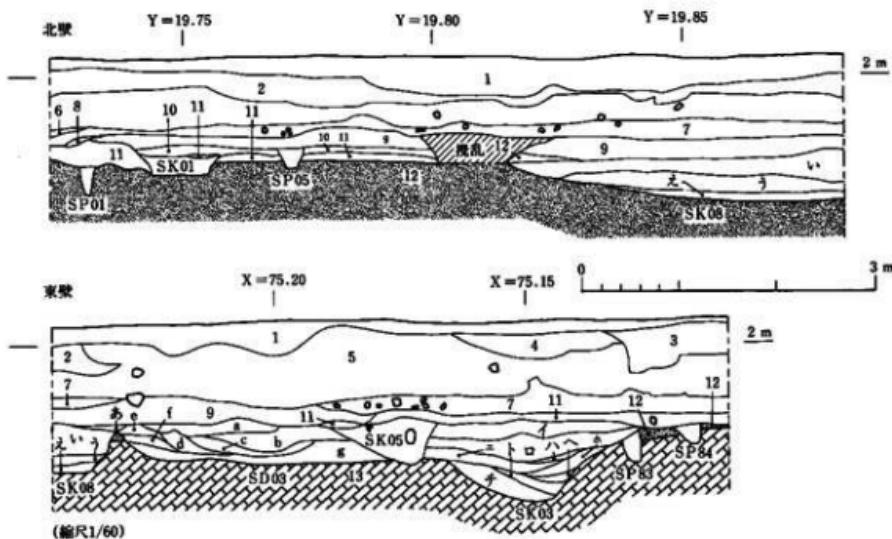
事務局 木村 義光（市浦村教育委員会教育長）

白川 隆治（市浦村教育委員会教育次長）

三浦美智男（市浦村教育委員会社会教育係長）

3. 基本層序

第1次調査は2ヶ所のトレンチ調査を実施している。2地区の基本層序は第III章〈遺跡の基本層序〉で示したように、基本層序を対応させた。以下、各地区個別に記述して、その対応関係を示す。



(縮尺1/60)

No.	土色	土質	備考
1	2.5Y6/8 明黄色	砂質土	2.5YS/8 黄褐色砂質土混
2	2.5Y5/3 黄褐色	砂質土	砂利混
3	10YR5/8 黄褐色	砂質土	
4	2.5Y6/4 明黄色	砂質土	
5	10YR4/4 黄褐色	砂質土	2.5YS/6 黄褐色土ブロック混
6	2.5Y8/3 淡黄褐色	砂質土	砂利混
7	2.5Y3/2 黑褐色	砂質土	
8	2.5Y7/4 淡黄褐色	砂質土	砂利混
9	7.5YR4/4 黑褐色	砂質土	
10	7.5YR2/2 黑褐色	砂質土	10YR5/4 に近い黄褐色砂混
11	7.5YR3/2 黑褐色	砂質土	
12	7.5YR1.7/1 黒褐色	砂質土	
13	2.5Y6/4 に近い黄褐色	砂	

No.	土色	土質	備考
SK01	10YR2/3 黑褐色	砂質土	
SK03	イ 10YR2/2 黑褐色	砂質土	
	ロ 7.5YR2/3 細粒砂	細粒砂	
ハ	5YR4/6 赤褐色	砂質土	
ニ	2.5YR1.7/1 黑褐色	粘土	
ホ	5YR2/1 黑褐色	粘質土	
ヘ	5YR1.7/1 黑褐色	粘土	
ト	2.5YR2/1 赤褐色	粘土	
チ	2.5YR3/1 暗赤褐色	粘土	
SK06	ア 2.5V4/2 暗灰黃褐色	砂質土	
エ 7.5YR2/2 黑褐色	砂質土		
ウ 7.5YR2/1 黑褐色	砂質土		
ヌ 10YR2/1 黑褐色	砂質土		
SK08	10YR2/3 黑褐色	砂質土	平面規模は不明
SP01	7.5YR2/2 黑褐色	砂質土	
SP05	7.5YR3/1 黑褐色	砂質土	
SP06	7.5Y3/1 黑褐色	砂質土	平面規模は不明
SP08	7.5YR2/1 黑褐色	砂質土	10YR4/4 黄褐色砂質土ブロック混 平面規模は不明
SP09	7.5YR2/1 黑褐色	砂質土	

第6図 AT94 I 調査区壁層位図(北壁・東壁)

〈第一地区〉

調査区のセクション図は第6図に示してある。

～第I層：盛土～

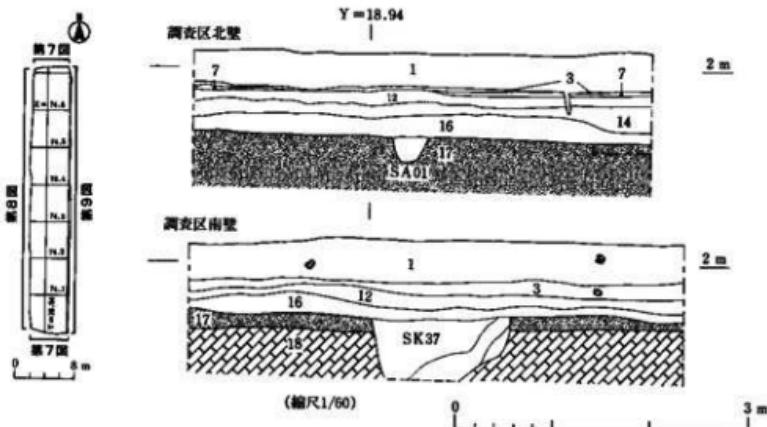
第1～8層はグランドの盛土層である。厚さは60cm～1mである。

～第II層：中世から現代遺物包含層～

第9層は灰褐色砂質土で、その上面は盛土される以前の旧現代面である。第9層の上面から塩化ビニルの配管による擾乱の跡が見られる。

～第III層：中世遺物包含層～

第11層の黒褐色砂質土は中世遺物包含層で、中世遺構の埋土に含まれるものが多い。厚さは5cm程度である。近世遺構は現代の削平と擾乱によって消滅しており、中世遺物包含層もかなり削られている。



No.	土色	土質・備考	No.	土色	土質・備考	
盛土	2.5Y6/8	明黄褐	I・II層	7.5YR2/2	黒褐	
1・II層	7.5YR2/2	黒褐	10	7.5YR2/2	砂質土	
2	10YR3/3	暗褐	11	10YR5/4	にぶい黄褐	
3	2.5Y4/3	オリーブ褐	III層	12	7.5YR4/2	灰褐
4	SYR4/6	赤褐	13	7.5YR3/3	暗褐	
5	2.5Y5/6	黄褐	14	10YR3/4	暗褐	
6	2.5Y5/4	灰黄褐	15	10YR4/2	灰褐	
7	10YR3.5/2	灰黄褐	IV層	16	7.5YR3/1	黒褐
8	10YR4/4	褐	V層	17	7.5YR1.7/1	黒
				18	2.5Y6/4	にぶい黄褐
					砂	

第7図 AT94 II 調査区盤層位図(北壁・南壁)

～第IV層；中世遺構面とその基盤層～

第12層の黒色砂質土（7.5Y R1.7／1）は中世遺構の基盤層で、その直上から遺構が掘られている。

～第V層；無遺物層～

第13層はにぶい黄色中粒砂（2.5Y 6／4）の無遺物層で地山である。

〈第二地区〉

調査区のセクション図は第7～9図に示してある。

～第I層；盛土～

第1層はグランドの盛土層である。厚さは20cm～30cmである。出土遺物なし。

～第II層；中世から現代遺物包含層～

第2～11層までの10層に細分される。中世から現代遺物が混じって出土する層である。
第3層上面は盛土される以前の旧現代面である。厚さは5cm～20cmである。

～第III層；近世遺構面と中世遺物包含層～

第12～16層までの5層に細分される。第12層の灰褐色砂質土（7.5Y R4／2）は近世遺構の基盤層であり、その直上から遺構が掘られている。

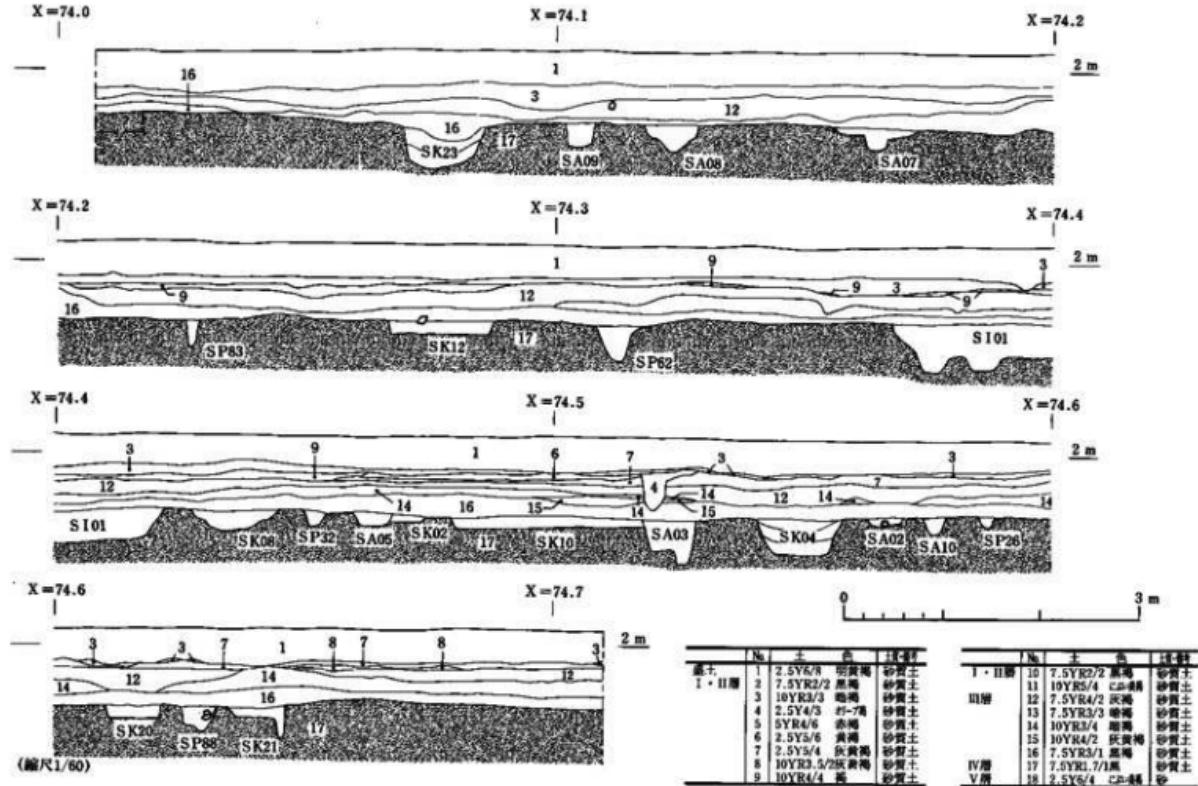
第12～16層までは近世遺物の混じらない中世遺物層である。厚さは10cm～30cmである。

～第IV層；中世遺構面とその基盤層～

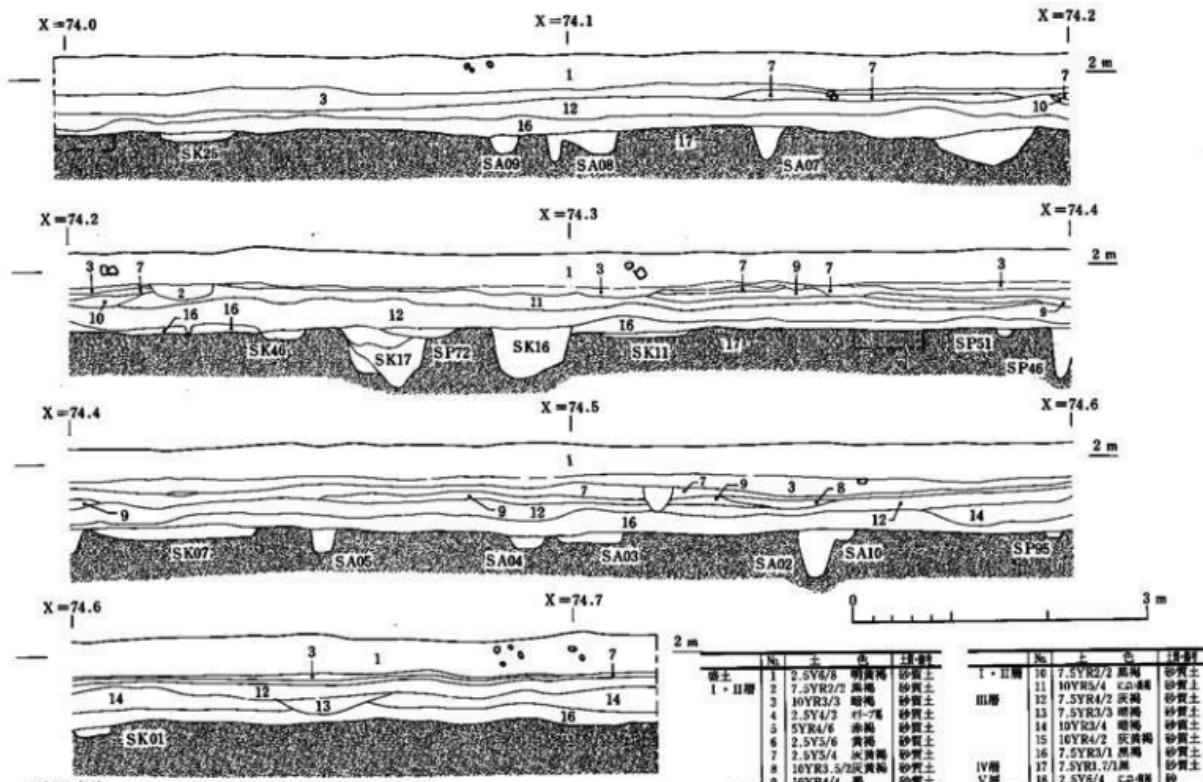
第17層の黒色砂質土（7.5Y R1.7／1）は中世遺構の基盤層であり、その直上から遺構が掘られている。中世遺構の基盤層は厚さ10cm程で、地山に続く。

～第V層；無遺物層～

第18層はにぶい黄褐色砂（2.5Y 6／4）の無遺物層で地山となる。



第8図 AT94II 調査区壁層位図(西壁)



(縮尺1/60)

第9図 AT94II 調査区壁層位図(東壁)

4. 第一地区の調査成果

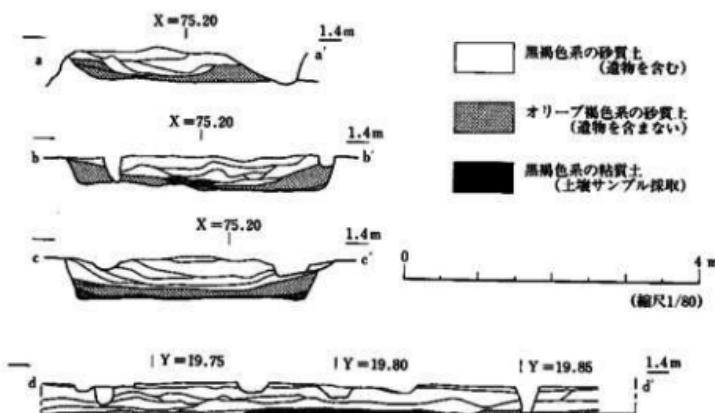
a 検出遺構と遺物

本調査地区の西側半分は旧十三小学校のコンクリート基礎によって搅乱されていたため、実質調査面積は東側56m²である。本調査区で検出した主な中世遺構には堀、柵・塀、土坑がある。その他、多数の柱穴を検出しているが、調査面積が狭く、掘立柱建物は確認できなかった。なお、遺構には調査区壁にかかり、全体の形状や規模の不明なものについて現時点では土坑として扱っているものがあり、今後、名称変更の余地がある。

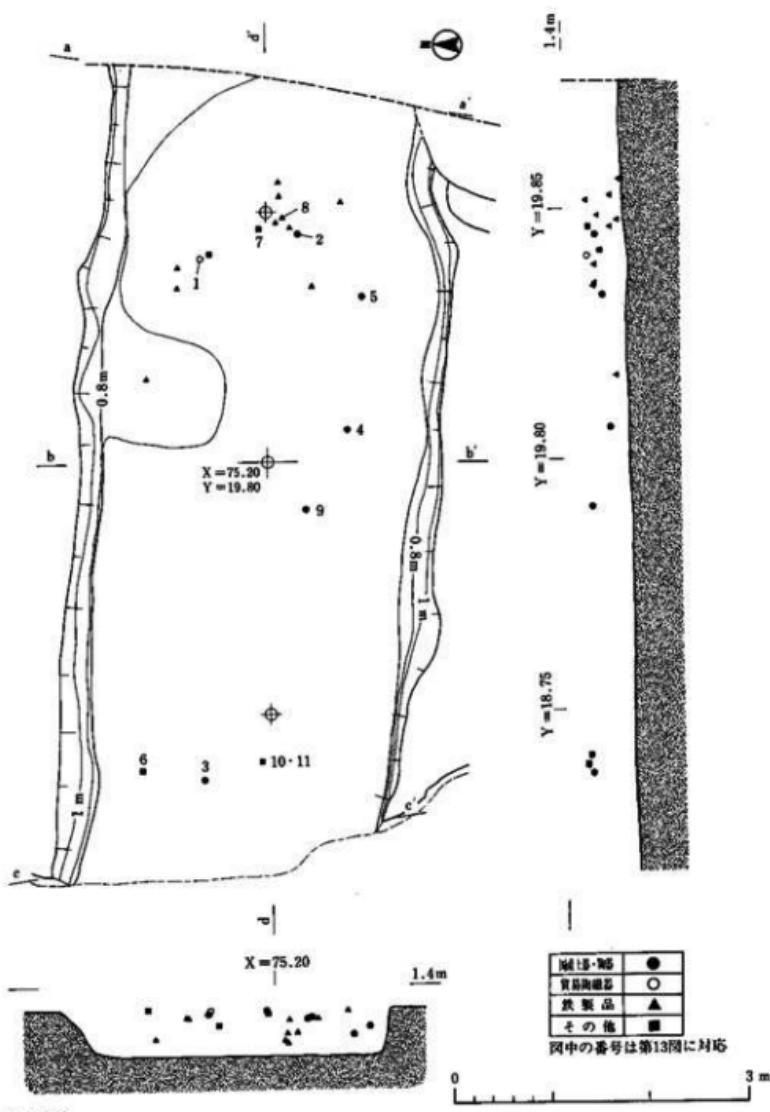
堀

SD03堀 (第10~13図)

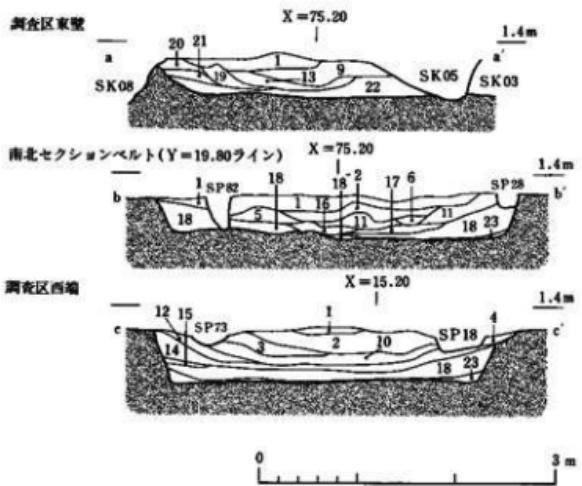
調査区の中央、東西方向に渡って延びている。西側は旧十三小学校のコンクリート基礎の廃棄によって破壊搅乱されているが、調査区外東側へは続いており残存しているものと思われる。検出された部分の規模は長さ5.4m、堀上端幅2.2m~2.5m、下端幅2.1m~2.3m、深さ30cm~40cmである。堆積土は場所によって一様ではないが、ほぼ自然堆積の状況を示している。堆積土は大きく3層に分かれる。上位層の1~4・11~15層は黒褐色系の砂質土で、遺物はすべて1・2・11層の上位層から出土しており、中・下位層からの出土遺物はない。このことから、出土遺物によって分けられるような埋土の堆積状況は認めら



第10図 AT94 I SD03土層堆積模式図



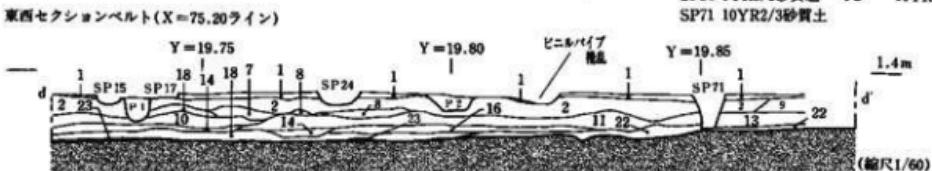
第11図 AT94 I SD03



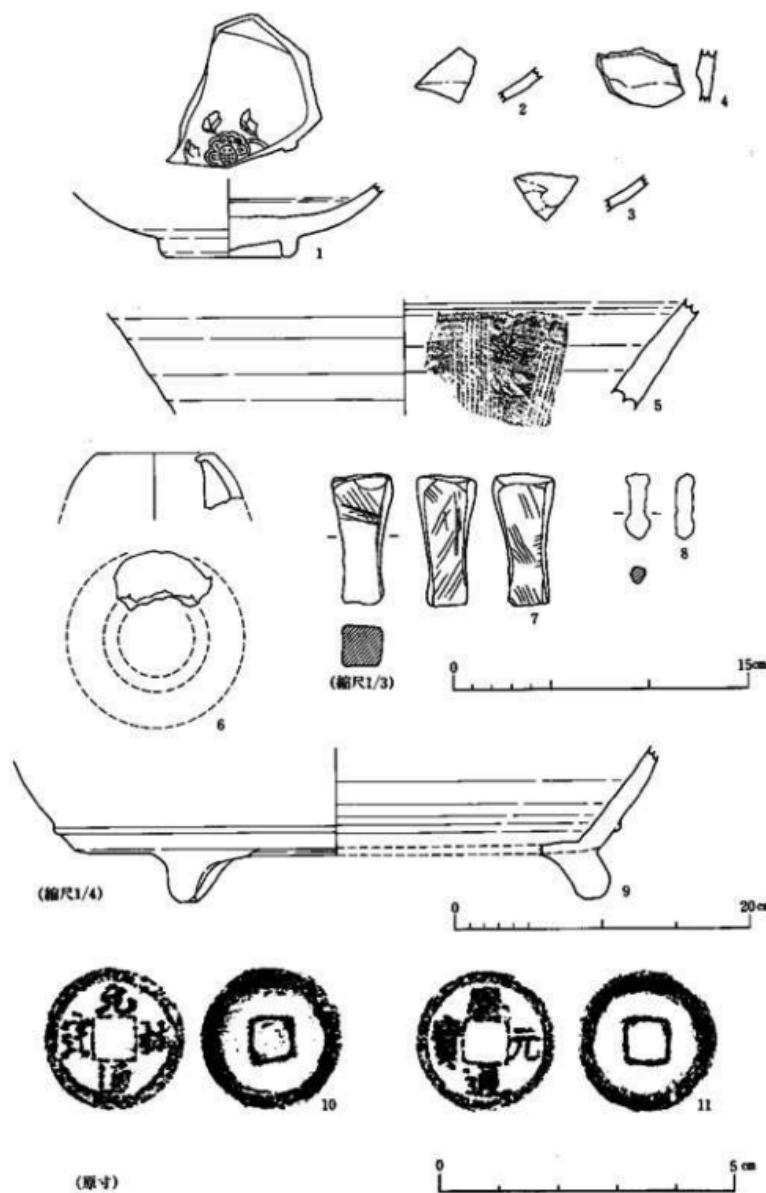
SDII3層位 (a-a', b-b', c-c', d-d')

No	土色	土質	備考
1	10YR3/3 黒褐	砂質土	炭鶴
2	10YR4/6	砂質土	
3	7.5YR3/3 黒褐	砂質土	
4	10YR3/1 黒褐	砂質土	
5	7.5YR2/2 黒褐	粘質土	2.5Y5/6黄褐色砂質土混(20%)
6	5Y7/1 黒	粘質土	
7	10YR2/2 黒褐	粘質土	10YR5/2灰黃褐色砂質土混(50%)
8	5Y3/1 オリーブ黒	粘質土	2.5Y4/6オリーブ褐色砂質土混(30%)
9	2.5Y3/1 黒褐	粘質土	2.5Y4/3オリーブ褐色砂質土混(30%)
10	10YR3/4 黒褐	砂質土	
11	2.5Y3/2 黒褐	砂質土	
12	7.5YR3/1 黒褐	砂質土	
13	2.5Y4/2 噴灰黄色	砂質土	
14	7.5YR3/2 黒褐	砂質土	
15	10YR4/3 ぶい黄褐	砂質土	
16	10YR1.7/1 黒	粘質土	土壤サンプル採取
17	5Y3/2 オリーブ黒	砂	
18	2.5Y3/3 噴灰オリーブ褐	砂質土	
19	7.5Y3/2 黒褐	砂質土	
20	2.5Y3/1 黒褐	砂質土	2.5Y4/3オリーブ褐色砂質土混(30%)
21	2.5Y4/1 黄灰	砂質土	
22	2.5Y4/6 オリーブ褐	砂	10YR6/8明黃褐色砂混 土壤サンプル採取
23	2.5Y2/1 黒	粘質土	

SP15	5YR3/2秒質土	SP73	7.5YR3/2秒質土	SK03	第21回參照
SP17	5YR3/2秒質土	SP82	—	SK05	10YR2/3秒質土
SP18	5YR2/1秒質土	P1	7.5YR2/2秒質土	SK08	第22回參照
SP24	5YR3/1秒質土	P2	10YR3/3秒質土		
SP71	10YR2/3秒質土				



第12图 AT94-I SD03土壤断面图



第13図 AT94 I SD03出土遺物

れず、長期に渡って堀が存続した可能性は低い。中位層の18・22層はオリーブ褐色系の砂質土で構成する。遺物は含まない。下位層の16・23層は黒褐色系の粘質土で構成する。堀底の沈殿物と推され、土壤サンプルを採取した。土壤サンプルには炭化物、骨片が検出した。なお、層位観察の結果、SD03上面で検出されなかったP1、P2が断面で確認されている。第二地区の成果も考慮すると、SD03は調査区の北側にあると推される館の周囲を囲んだ区画施設と考えられる。

出土遺物は陶磁器類、鉄製品（鉄釘）、鍛冶関連遺物（ふいご羽口）、石製品（砥石）、古錢が出土している。1は青磁碗の底部破片で、内底見込み部に印花文を施している。全体にシャープな作りで釉も薄く、ヘラ削り痕が明瞭である。底部は釉剥ぎされている。2、3は瀬戸平碗の体部破片である。灰釉が施されている。2は古瀬戸後Ⅰ期～Ⅱ期、3は古瀬戸後Ⅲ期である。4は中国製褐釉陶器壺の体部破片である。5は珠洲すり鉢の体部破片である。珠洲IV期～V期の製品である。6はふいご羽口片で外面には黒色の溶解物が付着している。7は砥石、8は鉄釘である。9は瓦質土器の火鉢底部破片である。10は元祐通寶（初鑄年：1086年、北宋）で、書体は行書体である。11は慶元通寶（初鑄年：1195年、南宋）で、書体は真書体である。

第3表 AT94 I SD03出土遺物計測表（図版4）

番号	種類	器種	層位	レベル	法量	備考	整理番号
1	青磁	碗	1層	1.177	高6.2	内底に印花文 施付を釉剥ぎ	1-094
2	瀬戸	平碗	1層	1.084		瀬戸後Ⅰ～Ⅱ期 灰釉	1-079
3	瀬戸	平碗	11層	0.912		瀬戸後Ⅲ期 灰釉 2次被熱	1-093a
4	中国	壺	1層	1.126		褐釉 内面露胎	1-088
5	珠洲	すり鉢	11層	1.021		珠洲IV～V期	1-090
6	羽口		1層	1.191		外面に溶解物付着	1-068
7	石製品	砥石	1層	1.181	長6.5、幅1.8	52.4g	1-100
8	鉄製品	釘	2層	1.064	長(3.3)、幅0.8	3.8g	1-077
9	瓦質土器	火鉢	1層	1.186	径[35.0]		1-032
10	古錢		2層	1.206	径2.3	3.0g 「元祐通寶」(1086年) 行書	1-099a
11	古錢		2層	1.206	径2.3	2.6g 「慶元通寶」(1195年) 真書	1-099b

柵・塀

S A01布掘り（第15図）

調査区の北西側に位置し、東西方向に延びている。遺構規模は検出長183cm、幅21cm～30cm、深さ13.8cmの溝に、さらに主要な柱部分（P 1・4・7）を壺掘りしている。壺掘りのP 1・4・7は径20cm～25cmの規模を有し、柱間は0.8m～1mである。S A01の主軸方位はN—78°—Wである。S A01の新旧関係はS P47、S K06より古く、S K01、S D03よりも新しい。出土遺物は12の珠洲すり鉢の口縁部破片が出土している。口縁部が肥厚せず、水平に面取り調整を施している。珠洲IV期と思われる。

S A02柱穴列（第16図）

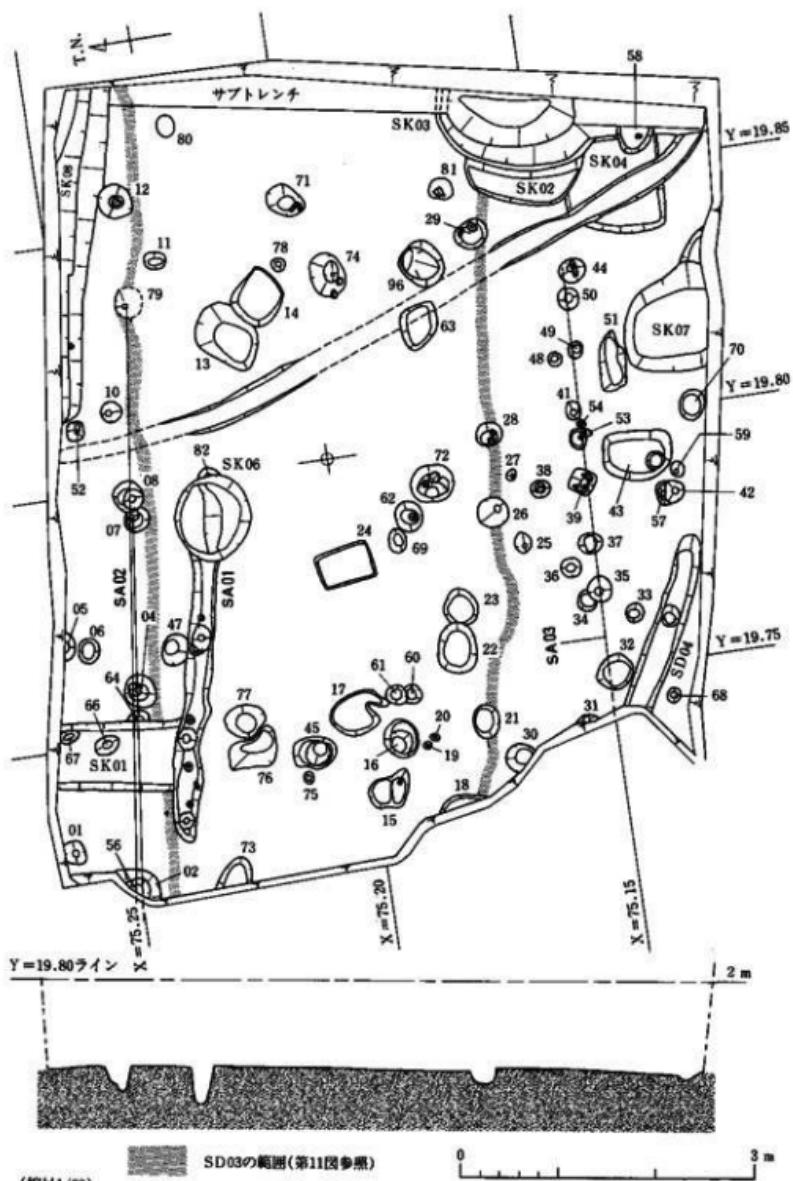
調査区北側に位置する。東西方向に延びており、2時期の重複が見られる。S A01は切り合い関係と柱間寸法からS P56・64・07の柱穴列（2間分）からS P02・04・08・79（3間分）の柱穴列に立て替えが行われたと思われる。検出長は5.88m、柱間約1.94m～2.0mである。更に調査区東西方に延びる可能性が高い。S A02の新旧関係はS K01より古く、S D03よりも新しい。出土遺物はなし。調査面積が狭く、北側に柱穴列が延びる可能性もあり、掘立柱建物の柱列とも考えられる。S A02の主軸方位はN—83°—Wを示す。

S A03柱穴列（第17図）

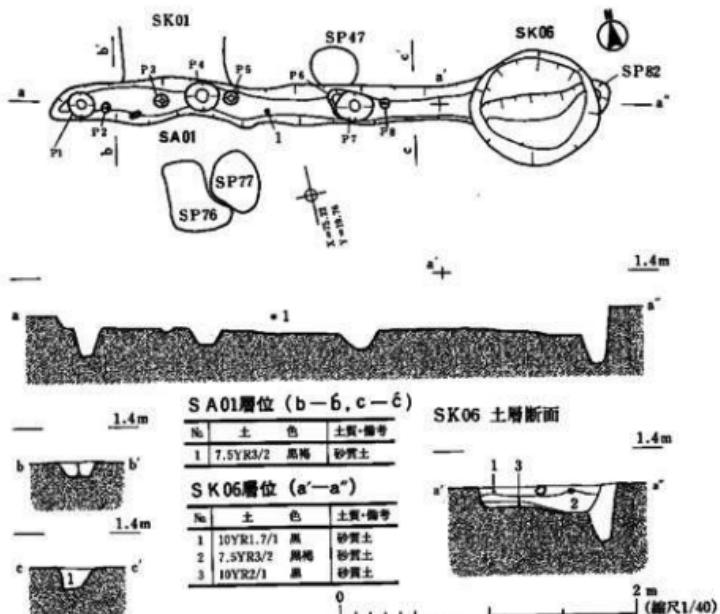
調査区の南側に位置し、S D03に沿って東西方向に延びる柱穴列である。2間分を検出した。検出長3.86m、柱穴の深さ16cm～34cmを測る。S A03の主軸方位はN—88°—Wを示す。

その他の柱穴出土遺物（第18図）

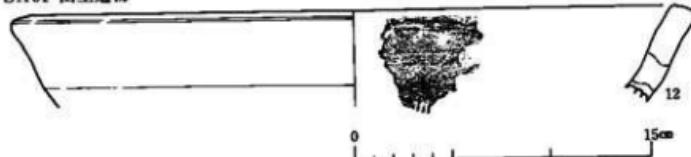
7つの柱穴内から遺物が出土しており、ここで記述する。
S P13からは17の鉄釘、S P15からは18の鉄釘と19の鍵が出土している。S P29は20の大型の鉄釘と思われる。S P14・S P82からはそれぞれ13と16の瀬戸の鉄釉碗（天目碗）が出土している。13は古瀬戸後I期である。S P72からは14の瀬戸平碗の体部破片が出土している。古瀬戸後I期の製品で灰釉を施している。S P73からは15の瓦質土器火鉢破片が出土している。



第14図 AT94 I 調査区平面図



SA01 出土遺物



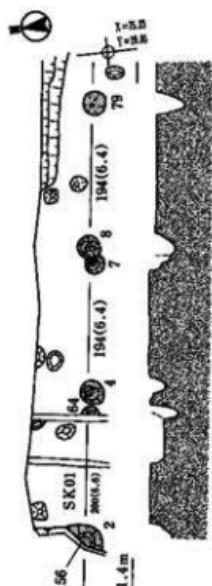
SA01 出土遺物 (図版 4)

番号	種類	器種	層位	レベル	法量	個数	備考	整理No
12	珠飾	すり鉢	1層	1.153	□ [33.0]	0.04	珠飾IV期	1-034

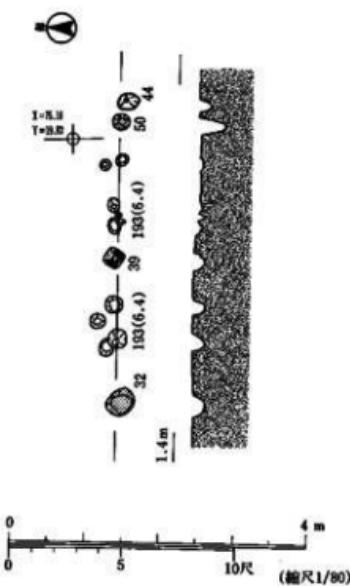
第15図 AT94 I SA01、SK06・出土遺物

第4表 AT94 I 布掘り溝計測表

No.	整理No	検出長	最大幅	最小幅	平均幅	深さ	主軸方位	出土遺物	備考
SA01	1-A01	183	30	21	25.5	13.8	N-78.0°-W	●	SP47・SK06・SA01・SK01・SD03



第16図 AT94 I SA02



第17図 AT94 I SA03

SA02柱穴

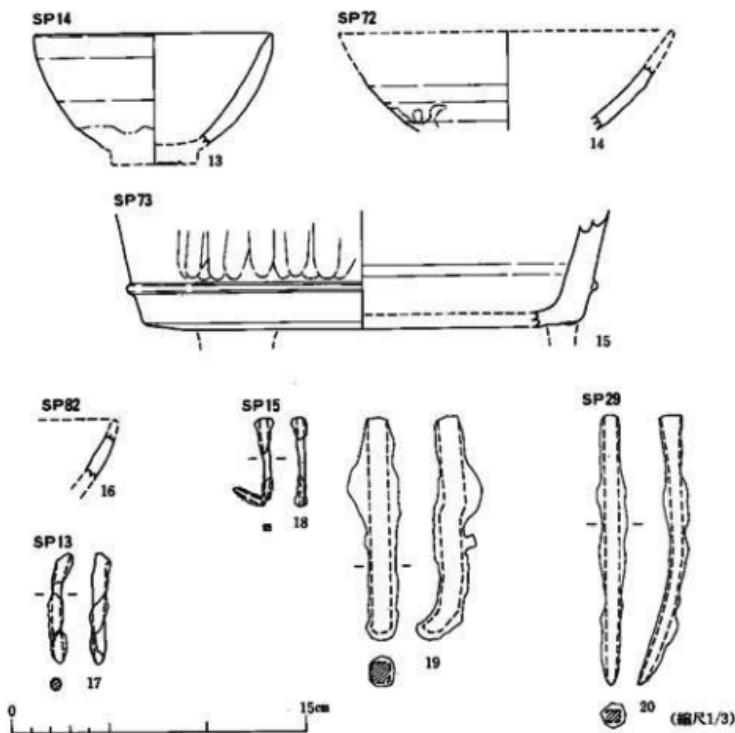
No	整理No	X	Y	平面形	長径	短径	深さ	柱痕跡	柱レベル	出土遺物	備考
SP02	1-P02	75.26	19.74	*	55	21	20		0.978		SP02>SP56
SP56	1-P56	75.26	19.74	*	27	13	31		0.866		SP02>SP56
SP04	1-P04	75.26	19.78	円形	36	31	21	円形 径13	0.987		SP04>SD03
SP64	1-P64	75.26	19.76	*	24	10	2		1.163		SK01>SP64
SP08	1-P08	75.26	19.80	円形	32	31	26	円形 径20	0.886		SP08>SP07
SP07	1-P07	75.26	19.80	円形	27	25	26	円形 径13	0.943		SP08>SP07>SD03
SP79	1-P79	75.24	19.84	*	34	7	37		0.769		SP79>SD03

SA03柱穴

No	整理No	X	Y	平面形	長径	短径	深さ	柱痕跡	柱レベル	出土遺物	備考
SP32	1-P32	75.16	79.76	円形	39	30	17		0.979		
SP39	1-P39	75.16	19.80	方形	25	24	16	円形 径9	1.029		
SP50	1-P50	75.16	19.84	円形	24	22	34		0.784		

第5表 AT94 I 柱穴列計測表

遺構No	柱間	總長(cm)	總長(尺)	主軸方位	備考
SA02	3	588	19.4	N-83.0°-W	SK01>SA02>SD03
SA03	2	386	12.8	N-88.0°-W	



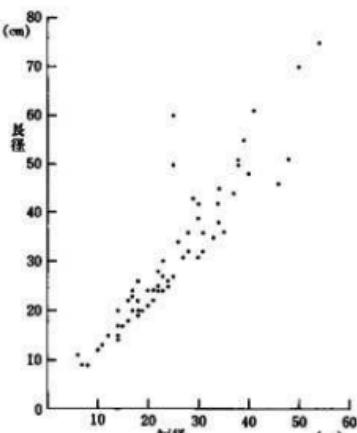
第一地区 柱穴出土遺物（図版4）

番号	造形	種類	器種	層位	レベル	法 量	個数	備 考	整理No.
13	SP14	瀬戸	天目茶碗	埋土	1.150	口 [12.0]	0.17	瀬戸後Ⅰ期 鉄軸	1-035
14	SP72	瀬戸	平碗	埋土	1.126			瀬戸後Ⅰ期 灰軸	1-033
15	SP73	瓦質土器	火鉢	埋土	1.103				1-069
16	SP82	瀬戸	天目茶碗	埋土	0.901			鉄軸	1-086
17	SP13	鉄製品	釘	埋土		長(5.6)、幅0.8	3.8g		1-110b
18	SP15	鉄製品	釘	埋土		長(4.3)、幅0.5	2.0g		1-108
19	SP15	鉄製品	釘	埋土	1.091	長(11.3)、幅1.8	64.8g		1-039
20	SP29	鉄製品	釘	埋土	1.052	長(13.5)、幅0.9	20.6g		1-038

第18図 AT94 I 柱穴出土遺物

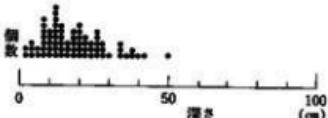
柱穴の平面規模と深さ（第19・20図）

ここでは検出された柱穴の規模と深さの法量散布図を示した。検出された柱穴は全部で79件を数える。柱穴の平面形は円形、橢円形、方形に分かれるが、ここでは縦軸を柱穴の長径、横軸を柱穴の短径とした柱穴平面規模と深さの散布図を作成した。それを見ると、長径10cm～30cm、短径8cm～25cmの小規模な一群と長径30cm～45cm、短径25cm～35cmの一群とそれ以上のものに大きく3群に分かれる傾向を示している。深さは10cm前後のものが多い。



第19図 AT94 I 柱穴の平面規模

土坑



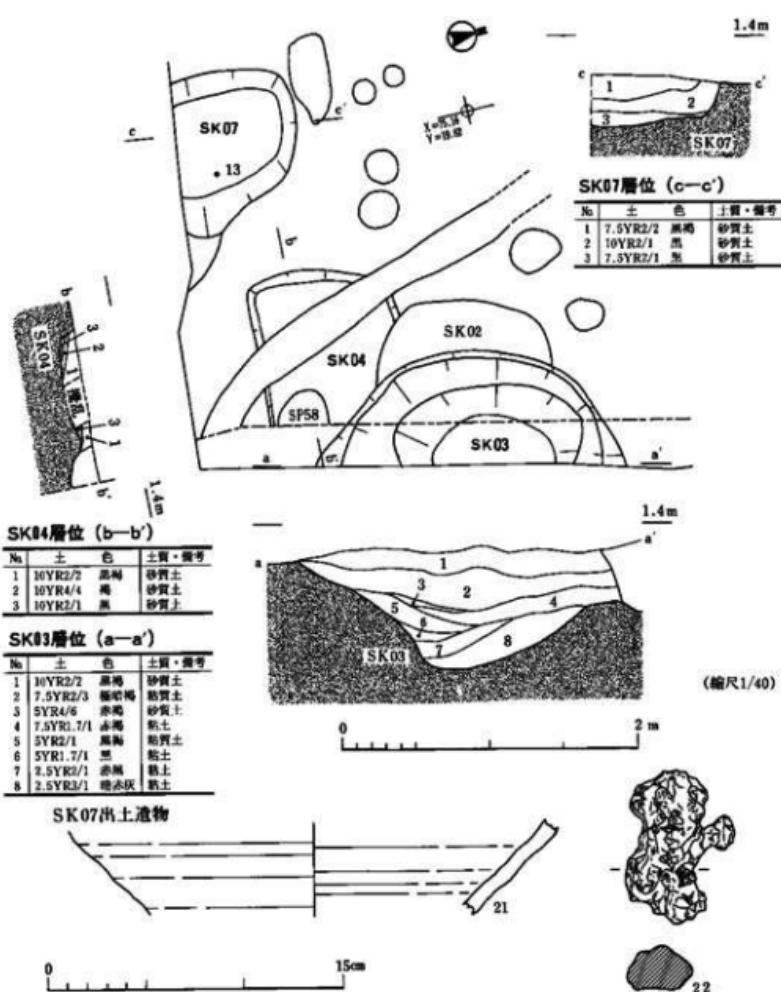
第20図 AT94 I 柱穴の深さ

S K 03土坑（第21図）

調査区の東壁南側、グリット X75.16, Y19.88に位置する土坑である。平面形は調査区東壁にかかっており、不明である。規模は上端で南北2m、東西検出長0.8m、深さは73cmである。壁面はゆるやかに立ち上がり、湾曲している。堆積土は8層に分かれ、粘質土、粘土が多く含まれる。出土遺物はなし。S K03の新旧関係はS K02, S K04, S D03より新しい。

S K 04土坑（第21図）

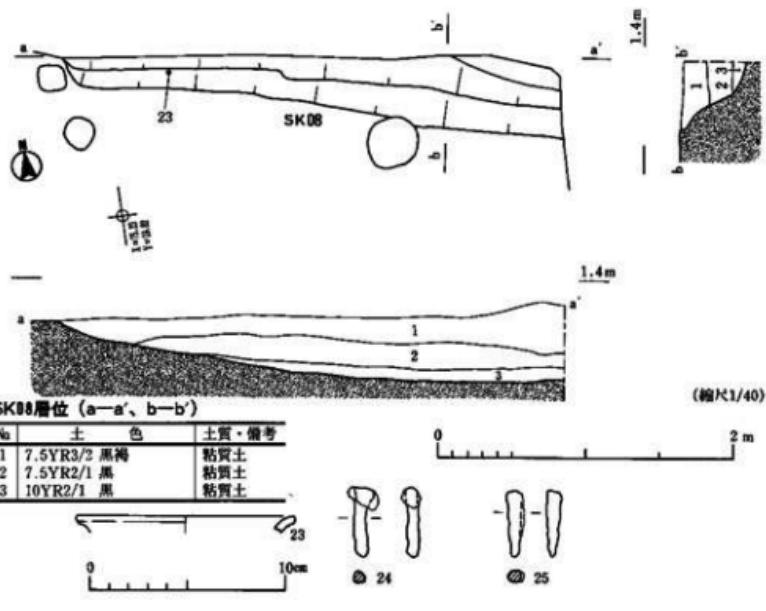
調査区南東側、グリット X75.14, Y19.86に位置する土坑である。平面形は検出された部分で東西に長い不整な方形を呈している。規模は上端で東西99cm、南北98cm、深さは14cm程度である。堆積土は攪乱にもよるが、3層に分れる。黒褐色系の砂質土を多く含む。出土遺物はなし。S K04の新旧関係はS K02, S K03, S P58より古い。



SK07出土遺物 (図版 4)

番号	種類	器種	層位	レベル	法量	形狀	備考	整理No
21	珠洲	すり鉢	1層	1.042			珠洲Ⅰ期	1-037
22	鐵滓		1層		長7.6、幅4.1		88.6g	1-111

第21図 AT94 I SK03, 04, 07・出土遺物



SK08出土遺物 (図版4)

番号	種類	器種	層位	レベル	法量	個数	備考	整理%
23	漆戸	折線皿	2層	1.008	口 [11.0]	0.06	灰釉	1-036
24	鉄製品	釘	埋土		長(3.6)、幅0.6	3.2g		1-106c
25	鉄製品	釘	埋土		長(3.4)、幅0.9	2.2g		1-106b

第22図 AT94 I SK08・出土遺物

第6表 AT94 I 土坑計測表

No	整理%	X	Y	平面形	長径	短径	深さ	面積	出土遺物	備考
SK03	1-K03	75.16	19.88	*	200	75	73	0.507	木炭、石	SK03>SK02・SK04・SD03
SK04	1-K04	75.14	19.86	方形	99	98	14	0.941		SP58・SK02・SK03>SK04
SK06	1-K06	75.24	19.80	円形	86	77	16	0.922		SK06>SA01・SD03
SK07	1-K07	75.14	19.82	*	110	86	39	0.722	●▲、木炭	
SK08	1-D02	75.26	19.88	*	337	53	21	0.945	●▲▲、木炭	SP12>SK08>SD03

S K 06土坑（第15図）

調査区北側中央、グリット X 75.24, Y 19.80 に位置する土坑である。平面形は円形を呈している。規模は上端で東西 86cm, 南北 77cm, 深さは 16cm 程である。S K 06 の新旧関係は S A 01, S D 03 より新しい。出土遺物はなし。

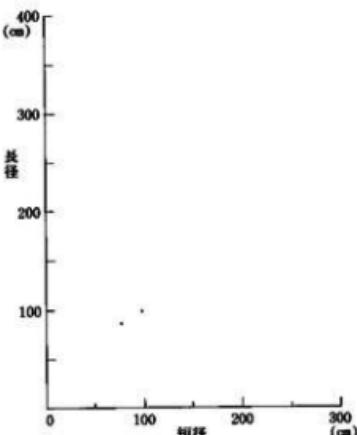
S K 07土坑（第21図）

調査区の南壁東側、グリット X 75.14, Y 19.82 に位置する土坑である。全体の平面形は不明である。規模は上端で南北 86cm, 東西 1.1m, 深さは 39cm 程である。堆積土は 3 層に分れ、黒褐色系の砂質土を多く含む。遺物は 21 の株洲すり鉢の体部破片、22 の鐵滓が出土している。株洲すり鉢は器壁が薄く、内面に卸し目が見られない。内外面のロクロ痕が未調査である。焼成は良好である。株洲 I 期と思われる。

S K 08土坑（第22図）

調査区の北壁東側、グリット X 75.26, Y 19.88 に位置する土坑である。全体の平面形は不明である。検出された部分では長さ 3.37m, 幅 53cm, 深さ 44cm 程である。さらに調査区外北側、東側に延びている。堆積土は 3 層に分れ、黒褐色土系の粘質土が含まれている。

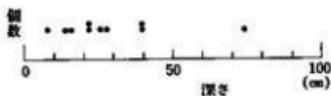
S K 08 の新旧関係は S P 12 より古く、S D 03 より新しい。出土遺物には 23 の瀬戸折縁小皿の口縁部破片が出土している。灰釉を施す。また、24・25 の鐵釘 2 点が出土している。



第23図 AT94 I 土坑の平面規模

土坑の平面規模と深さ（第23・24図）

ここでは土坑の平面規模と深さの法量散布図を作成したが、件数も少なく傾向は読み取れない。データとして提示するにとどめておく。



第24図 AT94 I 土坑の深さ

b 遺構外出土遺物

包含層出土遺物には陶磁器、鉄製品（鉄釘）がある。中世陶磁器は大別すると貿易陶磁器と国産陶磁器に分れる。さらに、貿易陶磁器は青磁、白磁、国産陶磁器は瀬戸、珠洲、瓷器系が出土している。近世陶磁器は肥前・肥前系が出土している。中世陶磁器が示す全体の年代観は13世紀～15世紀中頃である。

〈青磁〉（第25図）

青磁は26～32までの碗の口縁部、体部破片が出土している。26～28は片切形の鎬連弁文をもつ龍泉窯系碗B 1類、30～32は内外面無文で口縁部が外反する龍泉窯系D類である。

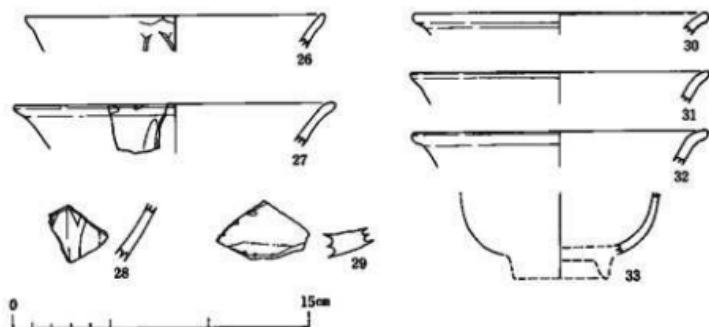
〈白磁〉（第25図）

白磁は33の小碗体部破片が出土している。釉は白色を呈し、底部付近は露胎である。おそらく口縁部が外反するタイプのものである。白磁D群の皿類に伴う時期の遺物と考えられる。

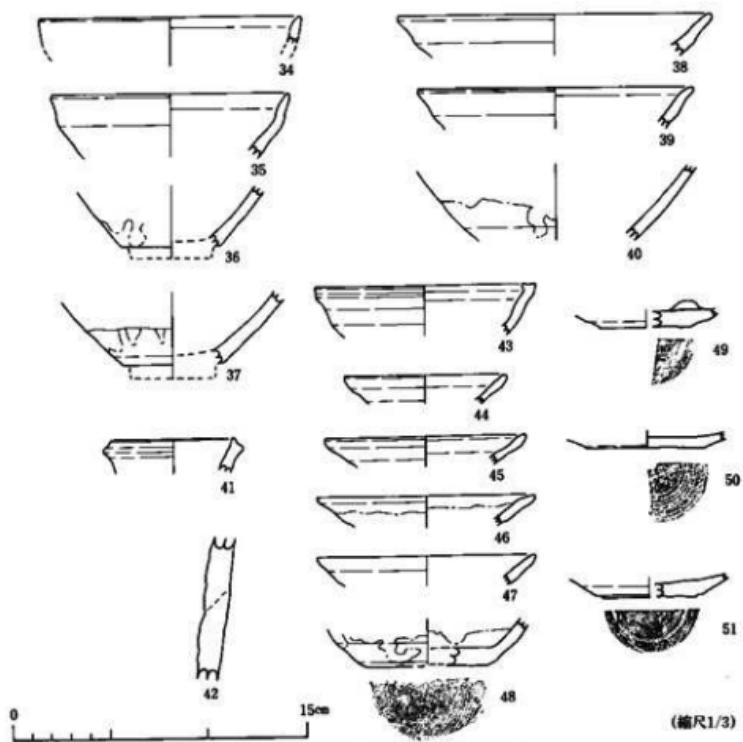
〈瀬戸〉（第26図）

瀬戸は碗、皿、瓶子の器種が出土している。遺物番号は34～51である。

34～37は鉄釉碗（天目碗）の口縁部、体部破片である。34は古瀬戸後I期である。35は口縁部がくびれて立ち上がる。36・37は体部下方に緋釉が施されている。35～37は古瀬戸後II期である。38～40は灰釉平碗の口縁部、体部破片である。38・39は口縁部が若干くびれて立ち上がる。これらはすべて古瀬戸後I期～II期に当たる。41～42は瓶子（梅瓶型）の口縁部、体部破片である。42は内面に粘土紐の輪詰み痕を残している。それぞれ灰釉を施しており、古瀬戸前III～IV期のものである。43は卸し皿の口縁部破片である。古瀬戸後II期である。44～47は緋釉小皿の口縁部破片で、それぞれ灰釉が施されている。44・45は古瀬戸後III期である。46・47は古瀬戸後II期である。48～51は緋釉小皿の底部破片である。48・49・51は灰釉、50は鉄釉をしたものである。48・49は古瀬戸後II期、50は古瀬戸後III期、51は古瀬戸後I期の製品である。48は内面に漆の塗膜痕がある。51は内面が丁寧にハケ塗りされている。



第25図 AT 94 I 造構外出土遺物(貿易陶磁)



第26図 AT 94 I 造構外出土遺物(陶器)

〈珠洲〉(第27・28図)

珠洲は壺、甕、すり鉢の器種が出土している。遺物番号は52~66である。

52は壺の口縁部破片である。53~58は壺甕類の体部破片である。叩き目は3cm幅で、57・58が7条、53~56が8条と全体に粗い。これらは珠洲IV期~V期に含まれる。59~66はすり鉢口縁部、体部、底部破片である。59は器壁が薄く、口縁部が外傾して面取り調整を施し、端面が若干窪んでいる。青灰色を呈し、焼成もよい。珠洲II期に含まれる。

60も比較的器壁が薄く、若干口縁部が外傾しており、面取り調整している。焼成はやや悪く、灰色を呈するが、珠洲II期~III期に含まれる。

61は器壁も厚く、口縁部の面取り調整があまく、円頭ぎみになっている。

62は器壁が厚く、口縁端面が肥厚して内傾して面取り調整を行っている。端面に櫛目波状文は見られない。珠洲IV期~V期のものである。

63は口縁部下内面を強く押さえており、口縁部を水平に面取り調整を施している。端面には櫛目波状文が見られる。珠洲V期のものである。

64・66はすり鉢内面の卸し目は全面に施されている。内面はかなり使用されており摩滅している。珠洲V期である。

〈瓷器系〉(第29図)

67は大甕底部破片である。底部は静止糸切痕が若干見られる。

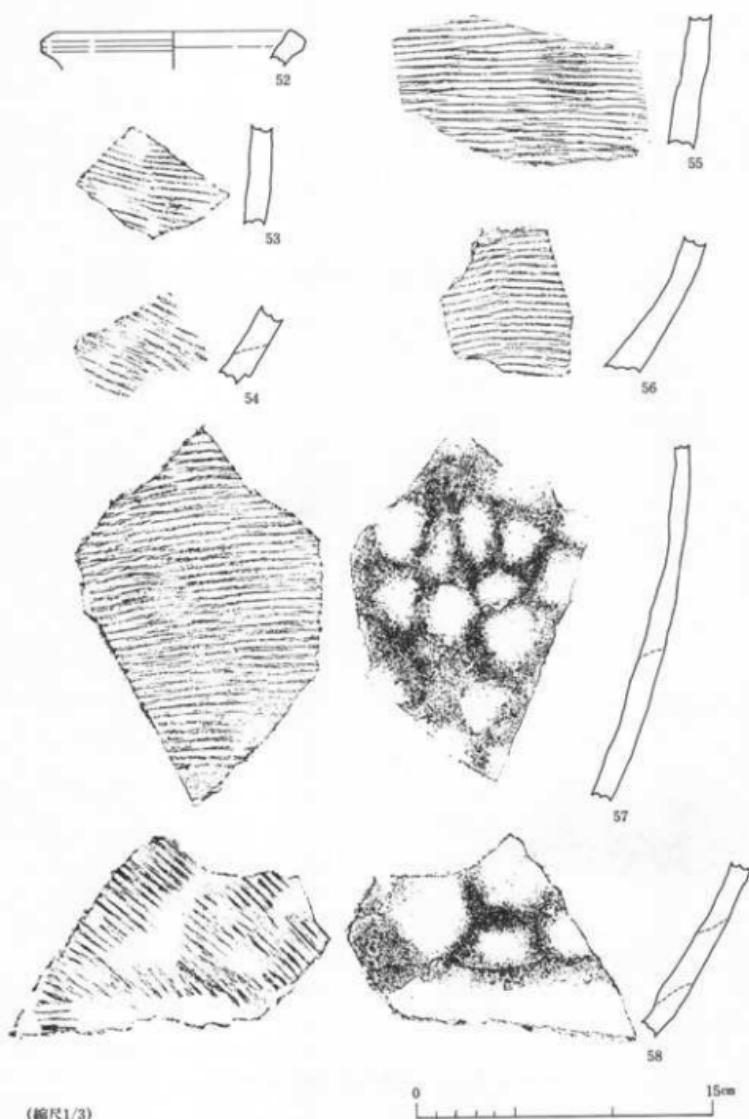
〈肥前・肥前系〉(第29図)

68は染付碗である。外面には草文が施されている。69は染付蓋と思われる。近現代のものかもしれない。

〈鉄製品〉(第30図)

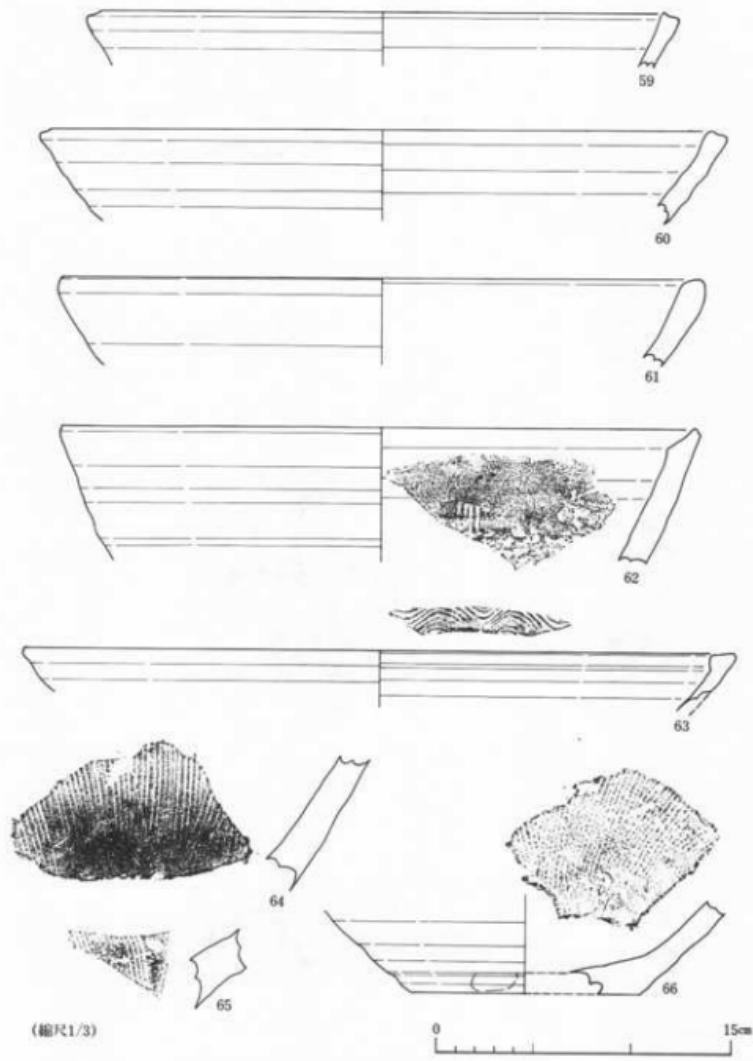
鉄製品は鉄釘が出土している。遺物番号は70~77である。

すべて断面方形の角釘で頭部を平らにしている。

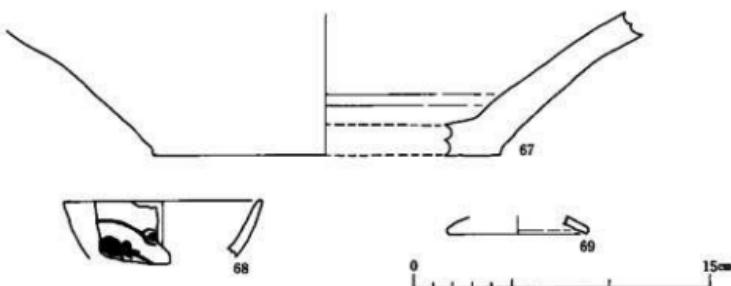


(縮尺1/3)

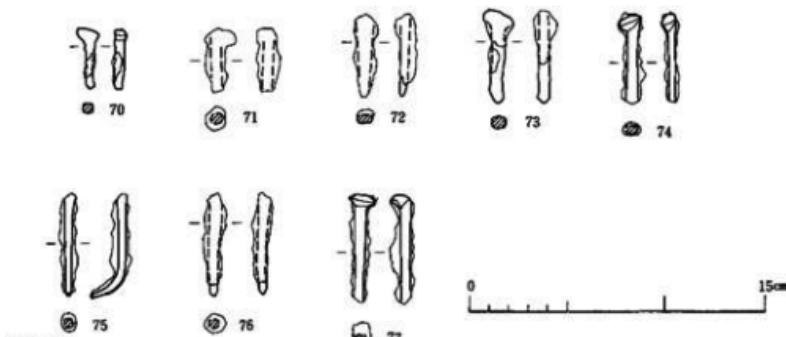
第27図 AT 94 I 造構外出土遺物(珠洲1)



第28図 AT 94 I 造構外出土遺物(珠洲2)



第29図 AT 94 I 造構外出土遺物(国産その他)



第30図 AT 94 I 造構外出土遺物(鉄製品)

5. 第二地区の調査成果

a 検出遺構と遺物

分層発掘を行った結果、上層面で近世遺構、下層面で中世遺構の2遺構面を検出した。ここでは別記して近世遺構、中世遺構の順に記述する。

近世遺構

検出された近世遺構は溝状集石遺構3、集石遺構2、柱穴2があるが、これらの遺構の性格は全く不明である。以下、主な遺構について記述する。

溝状集石遺構

S D01溝状集石遺構（第32図）

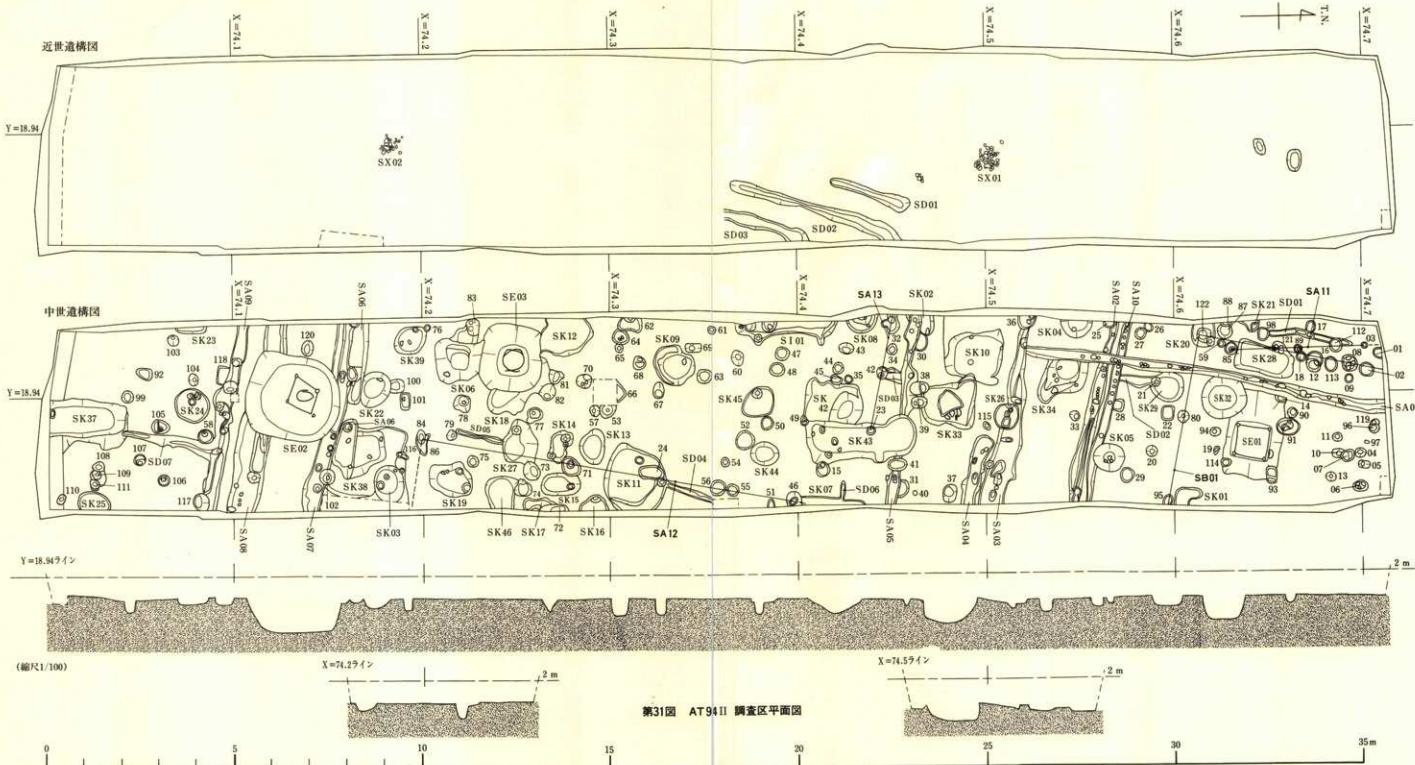
調査区のほぼ中央東寄り、グリットではX74.42～74.46、Y18.96～18.98に位置する南北溝である。方位はN-19°-Eを示す。溝幅24cm～40cm、深さ5cm程、長さ2.2mである。溝の北側部分に小礫の塊が検出された。出土遺物は80の鉄軸丸腕（天目腕）が出土している。17世紀代の瀬戸製品か。81は肥前・肥前系鉄軸壺片、82～85の鉄釘である。

S D02溝状集石遺構（第32図）

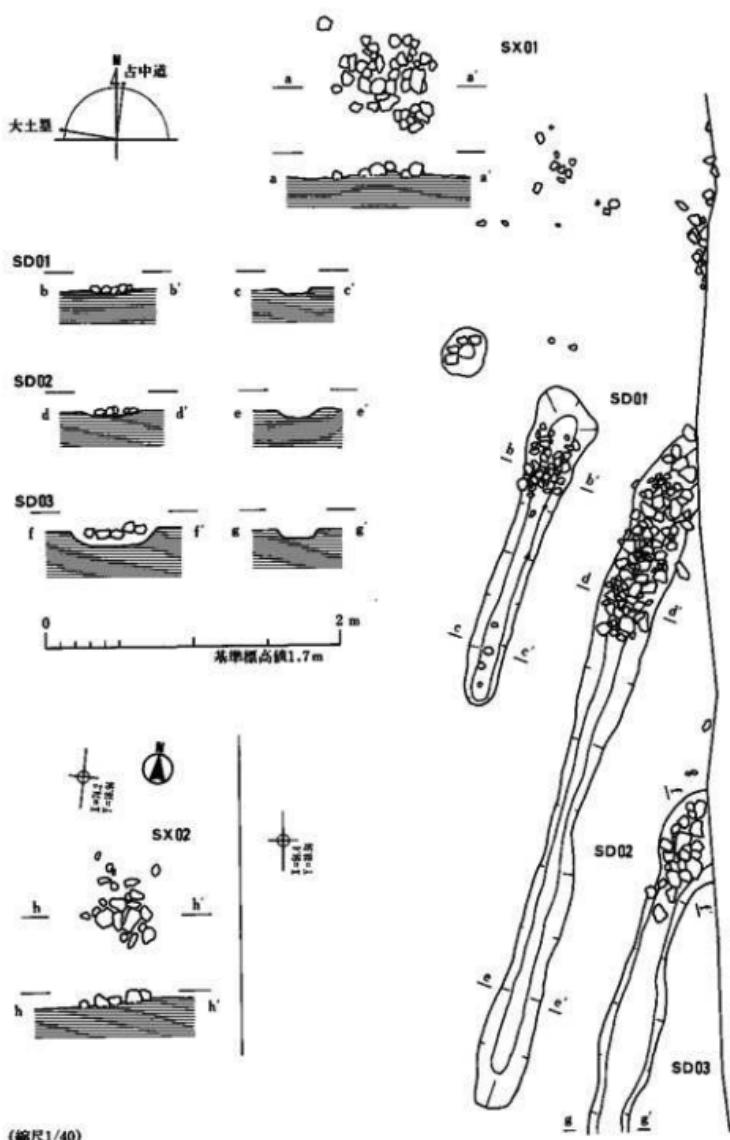
調査区のほぼ中央東寄り、グリットではX74.36～74.46、Y18.96～19.00に位置する南北溝である。調査区の東壁にかかっており、さらに北東方向に延びる可能性がある。方位はN-19°-Eを示す。溝幅16cm～40cm、深さ8cm程、検出長4.6mである。溝の北側部分に小礫の塊が検出された。出土遺物は中世の珠洲すり鉢が出土している。86は口縁部、88は体部、87は底部破片である。86は口縁部が内傾し、端部に櫛目波状文をもつ。珠洲V期である。89は瓷器系陶器壺の体部破片である。

S D03溝状集石遺構（第32図）

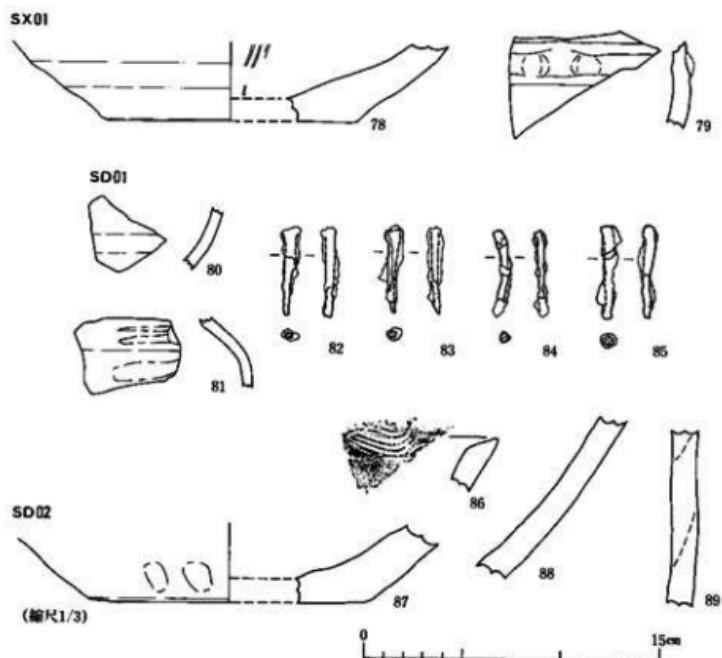
調査区のほぼ中央東寄り、グリットではX74.36～74.00、Y18.98～19.00に位置する南北溝である。溝の南端は確認できなかった。また、調査区の東壁にかかっており、さらに北東方向に延びる可能性がある。方位はN-20°-Eを示す。溝幅22cm～40cm、深さ10cm程、検出長2.2mである。溝の北側部分に小礫の塊が検出された。出土遺物は無し。



第31図 AT94II 調査区平面図



第32図 AT94 II 近世集石遺構実測図



近世遺構出土遺物（図版12）

番号	遺構	種類	器種	層位	レベル	法 量	備 考	整理No.
78	SX01	珠洲 肥前系	すり鉢	埋土	底 [13.0]			2-276
79			甕	埋土	1.552		鉄軸	2-275
80	SD01	近世漁丁	天目茶碗	埋土	1.551		丸碗型 鉄軸 17世紀代	2-278
81		肥前系	甕	埋土	1.575		鉄軸	2-277
82		鉄製品	釘	埋土	1.595	長4.3、幅0.8		2-280a
83		鉄製品	釘	埋土	1.595	長4.5、幅0.6	3.0g	2-280c
84		鉄製品	釘	埋土	1.595	長4.4、幅0.6	3.0g	2-280b
85		鉄製品	釘	埋土	1.595	長4.4、幅0.8	1.8g	2-280d
86	SD02	珠洲	すり鉢	埋土	1.569	口 [30.0]	珠洲V期 口縁端面に波状文	2-281
87		珠洲	すり鉢	埋土	1.595	底 [14.0]		2-283
88		珠洲	すり鉢	埋土	1.589			2-285
89		壺器系	甕	埋土	1.584			2-286

第33図 AT94II 近世遺構出土遺物

第7表 AT94II 近世測量表

No.	整理No.	検出長	最大幅	最小幅	平均幅	深さ	主軸方位	出土遺物	備 考
SD01	2-1D03	220	44	21	32.5	4	N-18.7°E	▲▲▲■■■■	
SD02	2-1D04	448	51	15	33	9.3	N-19.0°E	●●●●■■■	
SD03	2-1D05	208	62	23	42.5	11.9	N-20.0°E		

その他

S X 01集石遺構（第32図）

調査区ほぼ中央、グリットではX74.5, Y18.96に位置する集石遺構である。拳大の小礫が集まって、不整形な形を呈している。出土遺物は78の珠洲すり鉢の底部破片、79の肥前・肥前系の鉄釉陶器甕の体部破片が出土している。下部に遺構はなかった。

S X 02集石遺構（第32図）

調査区の南側、グリットではX74.18, Y18.94に位置する集石遺構である。拳大の小礫が集まって、不整形な形を呈している。出土遺物はなし。下部に遺構はなかった。

中世遺構

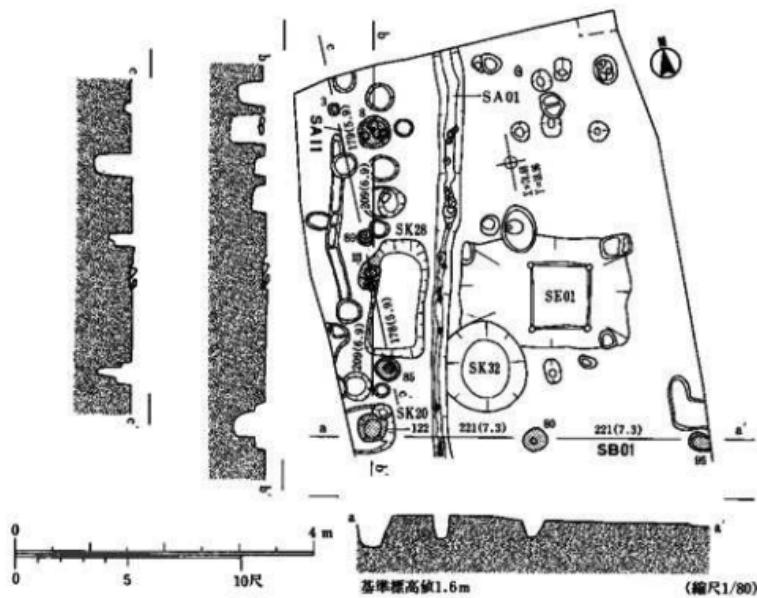
検出された主な中世遺構は、柵・塀、溝、道路、井戸、土坑の他に多数のピットを検出している。本調査地区は「館跡」の範囲確認調査を目的としていたことから、細長いトレンチを設定している。そのため遺構が調査区壁にかかったり、調査区域外に延びるものなど不明確な遺構が多いことをまず付け加えておかなければならない。今後の調査面積の拡大を待って、後日、遺構の性格、名称等の変更を検討したい。

掘立柱建物と柱穴列

ここでは多数の柱穴を検出しているにも関わらず、調査面積が狭いこと也有て掘立柱建物として復元できる遺構はほとんどない状況にある。しかし、ここでは敢えて全体の遺構の配置と構成、柱列の主軸方位などから、無理のないところで遺構の性格が推定可能なものを取り上げている。今後の調査面積の拡大によって明らかとなった際の検討材料としても、また、S A 柱穴列としたものは後述する区画遺構と区別して取り上げている。

S B 01掘立柱建物（第34図）

調査区北端に位置し、南北方向の桁行2間分(4.18m)、東西方向の梁行2間分(4.42m)を検出した。東西、南北方向にさらに延びている可能性があるが、プランとして確認できなかった。東西梁行の柱筋はS A 26の柵列から2mの間隔をあけて、ほぼ方位を平行にしている。建物の主軸方位はN-12°-Eを示している。東西梁行の柱間寸法は2.21m(7尺3寸)の等間隔、南北桁行の柱間寸法は2.09m(6尺9寸)の等間隔を示している。



SB01柱穴

No.	整理No.	X	Y	平面形	長径	短径	深さ	柱痕跡	柱頭部	出土遺物	備考
SP008	2-P008	74.70	18.94	円形	46	42	45		0.888		表面に石5
SP121	2-P121	74.66	18.92	*	47	20					裏面に石4, SK28>SP121
SP122	2-P122	74.62	18.92	円形	41	39	44		0.937		SP122=SK20?
SP080	2-P080	74.62	18.96	円形	32	31	25		1.071		
SP095	2-P095	74.60	19.00	*	29	25	2		1.244		

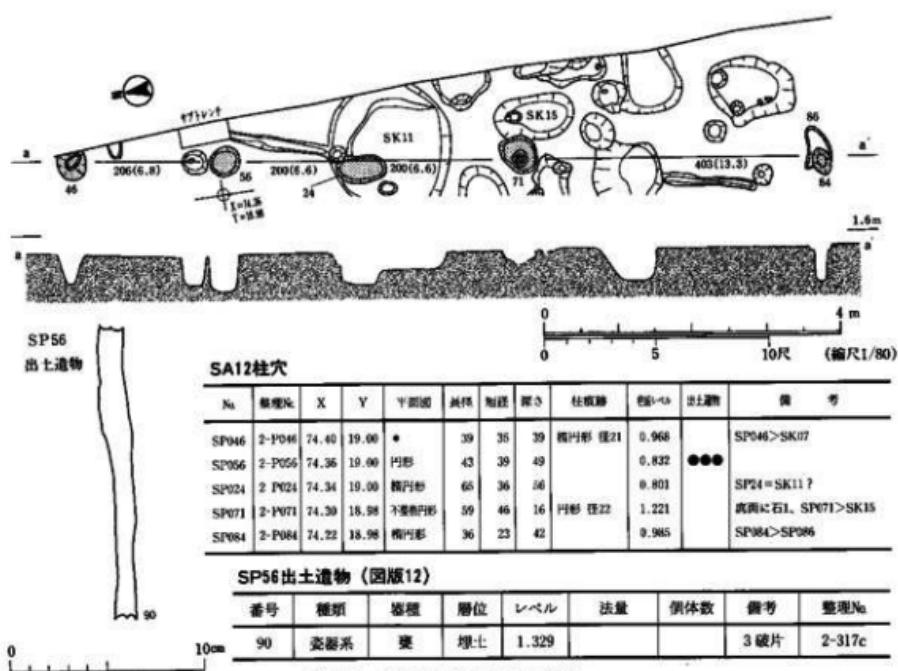
SA11柱穴

No.	整理No.	X	Y	平面形	長径	短径	深さ	柱痕跡	柱頭部	出土遺物	備考
SP003	2-P003	74.72	18.92	円形	16	15	9		1.247		
SP089	2-P089	74.68	18.92	円形	22	21	34	円形 径13	1.036		SP018>SP089
SP085	2-P085	74.64	18.92	円形	34	31	47	円形 径14	0.895		

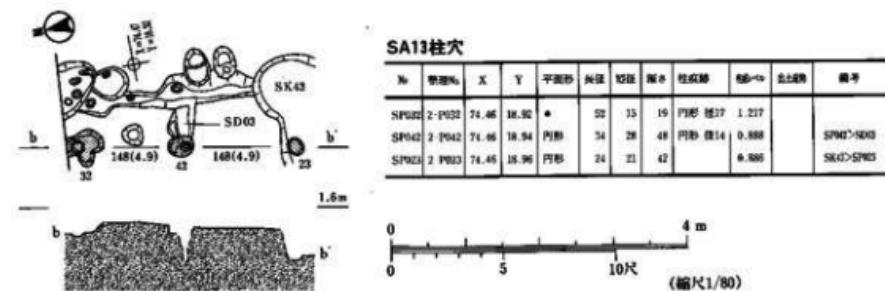
第34図 AT94 II SB01, SA11

第8表 AT94 II 振立柱建物計測表

造構No.	桁行 柱間	梁行 柱間	桁行延 (cm)	桁行長 (尺)	梁行長 (cm)	梁行長 (尺)	平面積 (m ²)	主軸方位	備考
SB01	2	2	418	13.8	442	14.6	18.47	N-12.0°-E	SK28>SB01=SK20?



第35図 AT94 II SA12・出土遺物



第36図 AT94 II SA13

第9表 AT94 II 柱穴列計測表

遺構No.	柱間	総長(cm)	総長(尺)	主軸方位	備考
SA11	2	357	11.8	N-1.0° W	SP018>SA11
SA12	4	1009	33.3	N-9.0° E	SA12>SP086, SK07・SK15, SA12=SK11?
SA13	2	296	9.8	N-78.5° W	SK43>SA13>SD03

S A 11柱穴列（第34図）

調査区北端に位置する。検出長は2間分で3.57mを測る南北柱穴列である。南側には延びず、調査区外の北側に延びる可能性がある。S A 11の主軸方位はN—1.0°—Wで、ほぼ真北方位を取る。新旧関係はS P 18より古い。

S A 12柱穴列（第35図）

調査区中央に位置する。検出長は4間分で10.09mを測る南北柱穴列である。S A 12の主軸方位はN—9.0°—Eを示している。S A 12は調査区外東側に延びて、掘立柱建物として成立する可能性が高い。出土遺物にはS P 56の上位から90の壺系壺の体部破片が出土している。

S A 13柱穴列（第36図）

調査区中央北寄り、S A 08の南側に沿うように位置する東西柱穴列である。検出長は2間分で2.96mである。さらに調査区外西側に延びる可能性がある。S A 13の主軸方位はN—78.5°—Wを示している。新旧関係はS K 43よりも古く、S D 03より新しい。

その他の柱穴出土遺物（第39図）

4つの柱穴内から遺物が出土しており、ここに取り上げる。

S P 01

91・92は珠洲壺壺類の体部破片である。叩き目はやや粗い。

S P 58

93は鉄釘である。長さは13.5cmを測る大型品である。頭部が屈折している。

S P 63

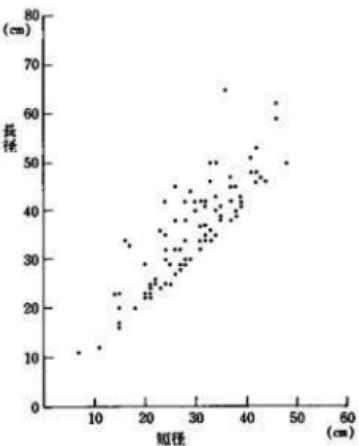
94は両端が欠損している不明鉄製品である。

S P 112

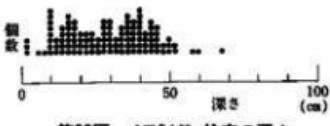
95は瀬戸平碗の底部破片である。内面は灰釉が施されている。古瀬戸後II期である。

柱穴の平面規模と深さ（第37・38図）

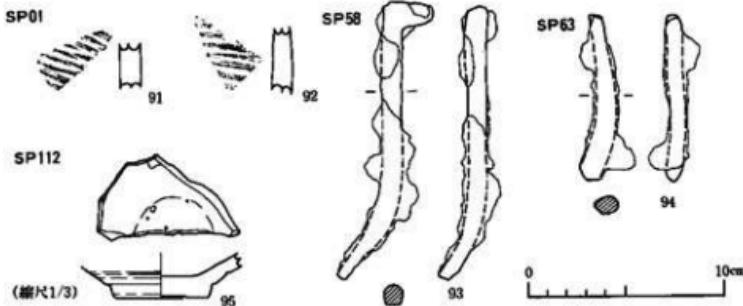
ここでは検出された柱穴の規模と深さの法量散布図を示した。検出された柱穴は全部で122件を数える。柱穴の平面形は円形、椭円形、方形に分かれるが、ここでは縦軸を柱穴の長径、横軸を柱穴の短径とした柱穴平面規模と深さの散布図を作成した。それを見ると、長径20cm～50cm、短径15cm～45cm、深さは10cm～50cmにまとまって散布している。しかし、第一地区の柱穴の平面規模と深さ（第19・20図）と比較すると、長径30cm～50cm、短径25cm～40cmのやや大型の柱穴が増えている。深さについても30cm～45cm前後と深くなるものが増えるなど、第二地区に規模の大きな柱穴が多い傾向を示している。



第37図 AT94 II 柱穴の平面規模



第38図 AT94 II 柱穴の深さ



第二地区 柱穴出土遺物(図版12)

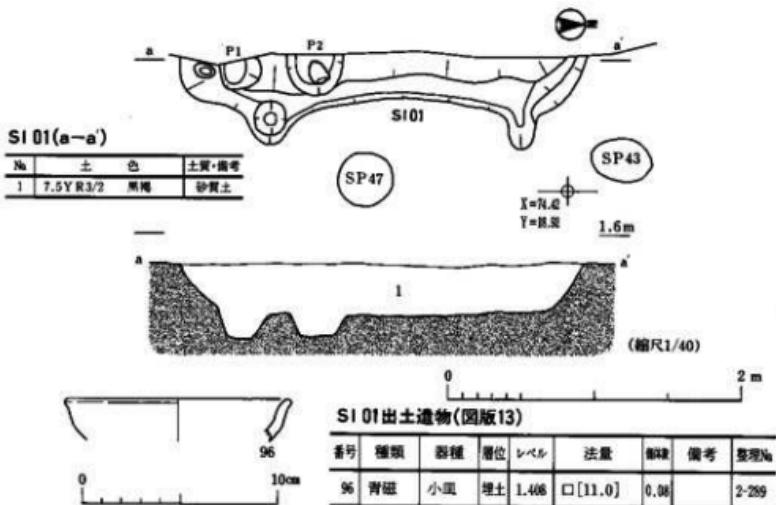
番号	遺構	種類	器種	層位	レベル	法量	個体数	備考	整理No
91	SP01	珠洲	壺蓋		1.125				2-335a
92		珠洲	壺蓋		1.125				2-335b
93	SP58	鉄製品	釘		1.040	長13.9、幅1.1	69.2g		2-327
94	SP63	鉄製品	釘	埋土		長(8.1)、幅1.3	20.8g		2-323
95	SP112	漁戸	平鏡	埋土	1.150	底5.0		瀬戸後II期 灰釉 輪高台	2-334

第39図 AT94 II 柱穴出土遺物

豊穴遺構

S I 01豊穴遺構 (第40図)

調査区の中央西壁部分、グリット X74.36~74.42, Y18.90~18.92に位置する。遺構は調査区西壁にかかり、調査区外西側に延びている。全体の規模は不明であるが、検出された部分の遺構規模は273cm×62cm、深さ34cmを測る。堆積土は単層で黒褐色砂層である。壁はゆるやかに立ち上がり、床面は平坦となる。床面から2個の柱穴が検出した。Pit 1, Pit 2はそれぞれ径28cmと38cm、深さ14cmと12cmを測る。出土遺物は96の青磁小皿が出土している。口縁部が外反している。豊穴遺構として取り上げたが、全体の規模、構造が不明であるため遺構名に変更の余地がある。



第40図 AT94 II S I 01・出土遺物

第10表 AT94 II 豊穴遺構計測表

No	整理No	X	Y	平面形	長径	短径	深さ	底面レベル	出土遺物	備考
S I 01	2-B05	74.42	18.92	*	273	62	34	1.065	○	

区画遺構

本調査区でまとめて検出した柵・塀、溝の遺構は屋敷地・居住空間を区画し、遺構の配置を規定する「区画遺構」として位置づけることができる。しかし、調査面積が狭いため、個々の遺構の全体規模・性格を把握できないが、ここではまとまりのある2つ範囲を区画遺構1、区画遺構2として記述する。

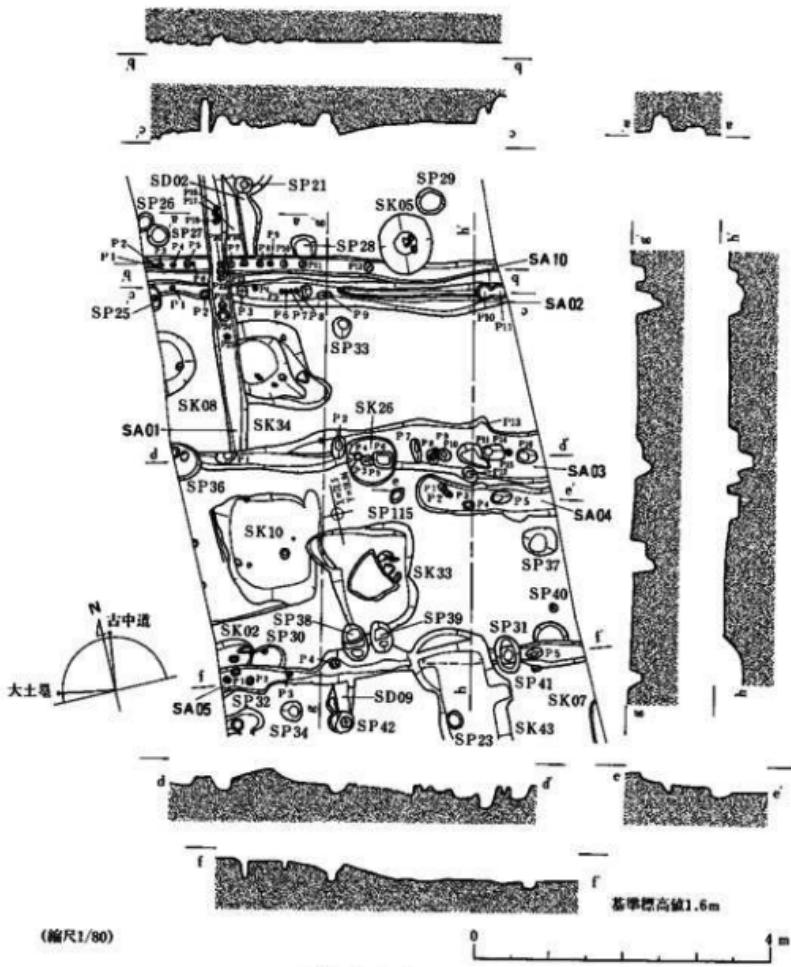
区画遺構1（第41・43図）

調査区の中央北より、グリットX74.4～74.8、Y18.90～19.0の範囲に位置する。遺構は北からS A10、S A02、S A03、S A04、S A05で構成する東西布掘り柵列である。調査区外の東西にさらに延びるものと推される。柵列の主軸方位はS A05がN-83°-Wその他はすべてN-78°-Wを示す。遺構規模はS A10は検出長480cm、幅14cm～27cm、深さ20.5cm。S A02は検出長484cm、幅15cm～48cm、深さ19.7cm。S A03は検出長466cm、幅20cm～81cm、深さ15.5cm。S A04は検出長186cm、幅34cm～49cm、深さ20.3cm。S A05は検出長496cm、幅18cm～45cm、深さ26.6cm。S A10はS A02に切られており、時期的に古い。狭い範囲の調査面積であるが、柵列の主軸方位・切り合い関係から遺構を積極的に評価するならば、S A10とS A06、S A02とS A07とをそれぞれ対にした2時期の変遷をもつ柵囲区画の東西道路敷と推察される。このことを裏付けるものとしては柵列間の遺構がかなり希薄であること、第VI章考察で示した遺物散布状況によると、道路上には遺物の散布がかなり希薄であることから、積極的に居住空間として利用されていない状況が読みとれる。また、後述する区画遺構2においても同様にS A06とS A18、S A07とS A09とをそれぞれ対にした2時期の変遷をもつ柵囲区画の東西道路敷と推察されることから、区画遺構1と区画遺構2は対をなした柵囲区画の東西道路敷であり、これに挟まれた空間は屋敷地としての居住空間が想定される。これらの東西道路敷は明治22年の地籍図の地割境界ラインとほぼ重なり合う状況から、中世の土地利用を規定してたものが、明治に至っても踏襲していたと考えられる。S A10とS A03の幅は中心で2.2m～2.6m、S A02とS A04の幅は中心で2.6mを測る。

S A05は主軸方位が若干これらの柵列と方位を異にしており、切り合い関係もないことから、今回推定した柵囲区画の東西道路敷と直接的な関連性をもつものかどうかの判断は難しく、問題が残る。さらに、S A01はS A10、S A02などすべての遺構を切る最も新しい時期の南北布掘り柵列である。調査区外北側にさらに延びるものと推される。主軸方位はN-9°-Eを示す。遺構規模は検出長960cm、幅19cm～37cm、深さ26cmである。S A01は柵囲区画の東西道路敷を切るもので、中世十三次の発展段階の都市的な主軸遺構を掘削、破

壊する15世紀中頃の最終時期の遺構と考えられる。

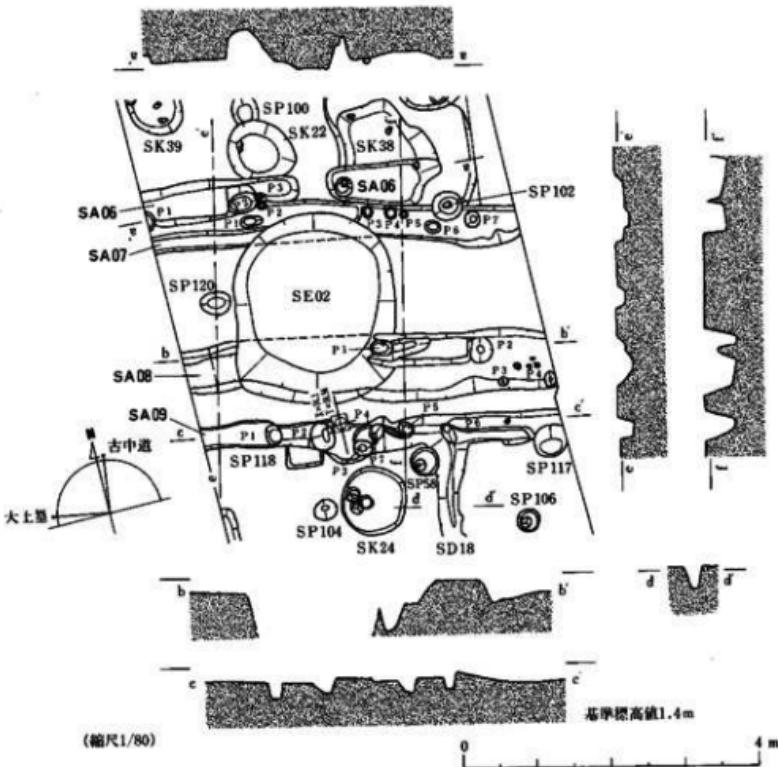
出土遺物にはSA10から99の瀬戸縁軸小皿が出土している。体部は丸く立ち上がる。内面に丁寧なハケ塗りが施されている。古瀬戸後Ⅰ期である。SA03から97・98の珠洲甕の体部破片が出土している。SA01から100の瀬戸平碗の体部破片、102の砥石、101の鉄釘が出土している。100の瀬戸平碗は灰釉を施しており、釉の発色等から古瀬戸後Ⅰ期～Ⅱ期に比定される。



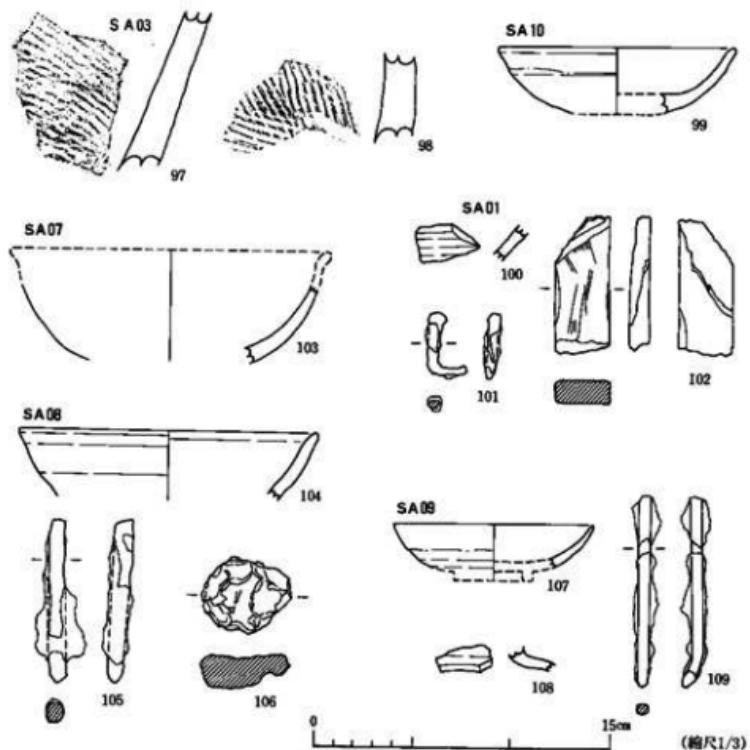
区画遺構 2 (第42・43図)

調査区の南側、グリッド X74.04~74.17, Y18.90~19.0の範囲に位置する。

遺構は北から S A06, S A07, S A08, S A09の東西布掘り柵列と S A09に接続、直交して延びる S D07の南北溝である。S A06~S A09はさらに調査区外東西方向に渡って延びるものと推される。S D07はS K37に接続しているが、切り合い関係は不明である。S A06~S A09・S D07の柵列・溝の主軸方位はS A06がN-81°-W, S A07がN-80°-W, S A08がN-79°-W, S A09がN-80°-W, S D07がN-11°-Eを示した。遺構規模はS A06は検出長402cm, 幅34cm~59cm, 深さ16cm。S A07は検出長498cm, 幅36~45cm, 深さ32cm。S A08は検出長498cm, 幅55cm~88cm, 深さ33.7cm。S A09は検出長492cm, 幅27cm~55cm, 深さ25cm。S D07は検出長239cm, 幅15cm~40cm, 深さ32cm。S A06は不連続の柵列で、検出部分だけで2ヶ所の開口部をもっている。



第42図 AT 94 II 区画遺構 2



区画造構出土遺物(図版13)

番号	遺構	種類	器種	層位	レベル	法量	個体数	参考	整理No
97	S A03	珠洲	甕	埋土	1.228				2-340
98		珠洲	甕	埋土	1.157				2-337
99	S A10	瀬戸	織物小器	埋土	1.325	口[12.0]	0.13	瀬戸後I期 灰釉 内面ハケ塗り	2-339
100	S A01	瀬戸	平鏡	埋土	1.274				2-305
101		鐵製品	釘	埋土	1.140	長3.1、幅0.8	2.5g		2-345
102		石製品	砥石	埋土	1.268	長6.7、幅2.8	32.2g		2-304
103	S A07	青磁	碗	埋土	1.328			鹿泉碗D頃か 無文	2-316
104	S A08	瀬戸	平鏡	埋土	1.397	口[16.0]	0.07	瀬戸後II期 灰釉	2-309
105		鐵製品	釘	埋土	1.327	長(8.1)、幅1.0	18.4g		2-324
106		鐵滓		埋土	1.424	長4.6、幅3.6	27.2g		2-328
107	S A09	白磁	皿	埋土		口[10.0]	0.04	白磁皿D群	2-315
108		瀬戸	尊式花瓶	埋土	1.445	長(9.4)、幅0.8	19.0g	瀬戸後I～II期 灰釉 頭部	2-343
109		鐵製品	釘	埋土					2-331

第43図 AT94II 区画造構出土遺物

検出された東西布掘り構列は S A06 と S A08, S A07 と S A09 をそれぞれ対にした 2 時期の変遷をもつ柵囲区画の東西道路敷と推察される。

このことを裏付けるものとして、やはり柵列間の遺構がかなり希薄であること。

第VI章考察で示した遺物の散布状況が道路敷とした位置にほとんど遺物が散布していない状況から、居住空間として積極的に利用されていた場所とは考えにくいこと。さらに、前述した区画遺構 I と対となる東西道路敷の可能性が高いと考えられるからである。ただし、S A06 と S A07 の切り合い関係は不明で、新旧関係は捉えられていない。S A06 と S A18 間の道幅は中心で 2.2m ~ 2.6m を測る。S A07 と S A09 間の道幅は中心で 2.6m ~ 2.8m を測る。

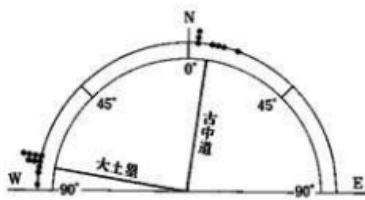
S D07 は S A09 と接続、直交して南北方向に延びており、屋敷地を南北に区画する溝と推される。S A07 と S A08 を大きく切る S E02 は道路跡が廃絶した後に構築されており、その S E02 から瀬戸縁釉小皿が出土している(第50図120)。この遺物は瀬戸後III~後IV期(15世紀中頃)に当たり、中世十三次で出土する最も新しい時期の遺物と考えられる。このことから S E02 は中世十三次発展段階の都市的な主軸遺構を掘削、破壊する15世紀中頃の最終時期の遺構と考えられる。

出土遺物には S A07 からは 103 の青磁碗の体部破片が出土している。内外面無文で口縁部が外反するタイプ、龍泉窯系碗D類のものと推される。S A08 からは 104 の瀬戸平碗の口縁部破片、105 の鉄釘、106 の鉄滓? が出土している。104 の瀬戸平碗は体部がやや丸く立ち上がり、口唇部はややくびれている。灰釉を施している。古瀬戸後II期である。

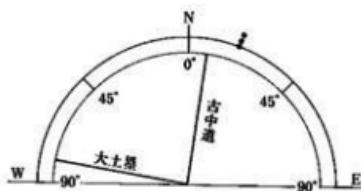
S A09 からは 107 の白磁皿の口縁部破片、108 の瀬戸尊式花瓶の頸部破片、109 の鉄釘が出土している。107 の白磁皿は白磁皿D群に分類される丸皿である。108 の瀬戸尊式花瓶は灰釉を施している。古瀬戸後I期~II期である。

区画遺構の主軸方位について(第44~46図)

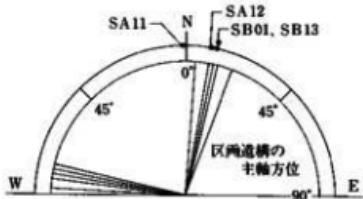
ここでは区画遺構の主軸方位について、第二地区で検出された近世溝状集石遺構と中世掘立柱建物、柱穴列を比較して分析した。なお、中世十三次の都市軸線は現在「古中道」と呼ばれる南北直線道路と十三次を南北に大きく二分する東西「大土塁」に規定されていると考えられることから(歴博 1995),「古中道」と「大土塁」の主軸方位も図示した。これによると、区画遺構の主軸方位は南北 N-4.0°-E から N-11°-E、東西 N-78°-W から N-88°-W の範囲を示しており、一定の幅を持ちながらも南北「古中道」と東西「大土塁」に規定された都市軸線を踏襲していると判断できる。中世の建物、柱穴列を見ると、区画遺構の主軸方位の範囲内をほぼ示しており、区画遺構に規定された遺構の配置を読み取ることができる。また、近世溝状集石遺構を見ると、区画遺構の南北主軸方位の範囲内



第44図 AT94II 中世区画造構の方位



第46図 AT94II 近世溝の方位



第45図 AT94II SB建物、SA柱穴列の方位

「古中道」主軸方位: N-7.5°-E

「大土塁」主軸方位: N-80.5°-W

第11表 AT94II 布掘り溝計測表

No.	整地	幅員	最深	幅幅	平均	深さ	主軸方位	出土物	備考
SA01	2-D02	960	37	19	28	26.1	N-9.0°-E	●▲■	SA01>SK29>SK32>SK34>SA02>SA10, SA01=SA03?
SA02	2-D05	484	48	15	31.5	19.7	N-78.0°-W		SP025>SA01>SA02>SA10
SA03	2-D06	466	81	20	50.5	15.5	N-78.0°-W	●●	SP036>SK26>SA03=SA01?
SA04	2-D07	186	49	34	41.5	20.3	N-78.0°-W		SP038>SP039>SP041>SK43>SA05>SP030
SA05	2-D08	496	45	18	31.5	26.6	N-83.0°-W		SP031>SK02>SD03
SA06	2-D14	402	59	34	46.5	16	N-81.0°-W		SA06>SK22>SK38, SA06=SA07?
SA07	2-D15	498	45	36	40.5	32	N-80.0°-W	○	SP102>SE02>SA07=SA06?
SA08	2-D16	498	88	55	71.5	33.7	N-79.0°-W	●▲	SE02>SA08
SA09	2-D17	492	55	27	41	25.4	N-80.0°-W	●○▲	SP117>SA09>SP118, SA09=SD07?
SA10	2-D26	480	27	14	20.5	16	N-78.0°-W	●	SK05>SA01>SA02>SA10>SP028>SD02

第12表 AT94II 溝計測表

No.	整地	幅員	最大深	最小	平均	深さ	主軸方位	出土物	備考
SD01	2-D03	222	16	15	15.5	12.1	N-4.0°-E		SP098>SP112>SD01>SP017
SD02	2-D04	84	32	16	24	13.4	N-4.0°-E		SP021>SA10>SD02=SK29?
SD03	2-D09	38	36	30	33	36.3	N-4.0°-E		SP42>SA05>SD03
SD04	2-D10	140	19	10	14.5	8.1	N-19.0°-E		SD04=SK11?
SD05	2-D11	128	18	10	14	5.3	N-14.0°-E		SD05=SK27?
SD06	2-D12	50	14	11	12.5	10.9	N-88.0°-W		SD06=SK07?
SD07	2-D18	239	40	15	27.5	32	N-11.0°-E		SP58>SD07=SK37>SA02?

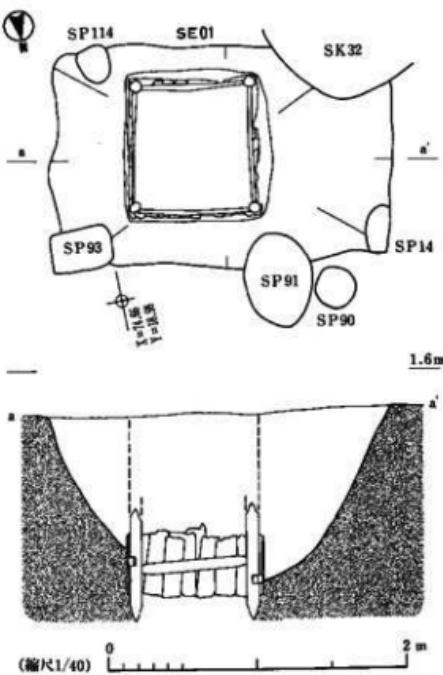
を示していることから、中世段階を踏襲した主軸方位を保っていると推される。

井戸

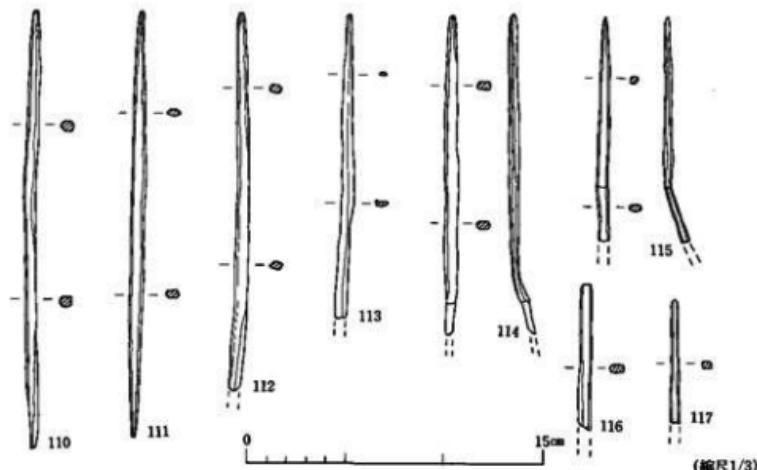
S E 01 井戸 (第47・48図)

調査区の北側、グリット X 74.62~74.66, Y 18.94~18.99 に位置する井戸である。井戸掘り形の平面形は東西に長い方形を呈する。規模は上端で 230cm × 128cm、深さ 115cm である。断面形は碗型を呈しており、壁がゆるやかに湾曲する。井戸側は腐朽も少なく、下方部がそのまま残っていた。井戸側の素材、構造としては木組み井戸の「縦板組隅柱横桟どめ」として分類できる。井戸側の規模は 90cm 四方の方形を呈する。隅柱は下方先端を尖らせて、杭のように打ち込まれている。その隅柱は横桟で固定し、周りを 5mm 程の薄い縦板材が巡っている。現在、井戸側は取り上げて保存処理を行

っている。さらに水溜、浄水施設として川原石が敷き詰めてあったが、湧水と土砂の崩落のために検出できなかった。S E 01 の新旧関係は S K 32, S P 91・93・114 よりも古く、S P 14 より新しい。出土遺物には 110~117 の木製品の箸が 8 点出土している。



第47図 AT94II SE01



SE01出土遺物（図版13）

番号	種類	器種	層位	レベル	法量	個体数	備考	整理番号
110	木製品	箸	埋土		長21.9、幅0.6			2-361
111	木製品	箸	埋土		長21.2、幅0.7			2-362
112	木製品	箸	埋土		長(19.0)、幅0.7			2-363
113	木製品	箸	埋土		長(15.3)、幅0.7			2-364
114	木製品	箸	埋土		長(16.2)、幅0.7			2-365
115	木製品	箸	埋土		長(11.4)、幅0.7			2-366
116	木製品	箸	埋土		長(7.1)、幅0.7			2-367
117	木製品	箸	埋土		長(6.3)、幅0.5			2-368

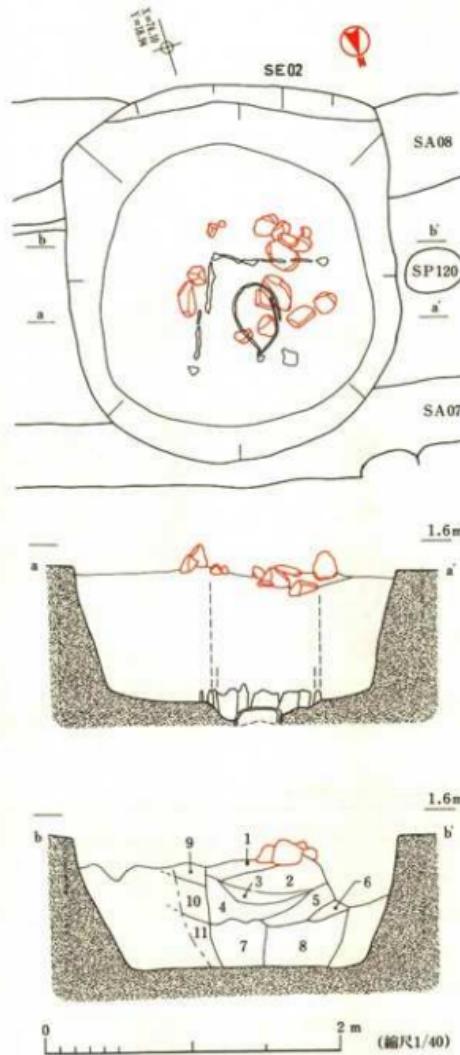
第48図 AT94II SE01出土遺物

S E 02井戸（第49・50図）

調査区の南側、グリットX74.1～74.16, Y18.92～18.96に位置する井戸である。井戸掘り形の平面形は不整な円形を呈する。規模は上端で247cm×216cm, 下端で190cm×180cm, 深さ99cmである。断面形は台形状を呈している。井戸側は腐朽が激しく、部分的に検出されているのみである。井戸側は木組み井戸で、4本の隅柱に南側と東側の列に縦板材が周りを巡っている状況であった。縦板材の厚さは2～3cm程でかなり厚くしっかりしたものである。井戸側の推定規模は70cm四方の方形を呈する。さらに水溜、浄水施設として曲物

が設置してある。堆積土は湧水と土砂の崩落のため、部分的な記録しか行っていない。堆積土の状況から人為的に埋められたものである。上位層から多くの自然礫が検出され、井戸の廃棄に伴う行為と思われる。S E 02 の新旧関係は S A 07・08 より新しい。

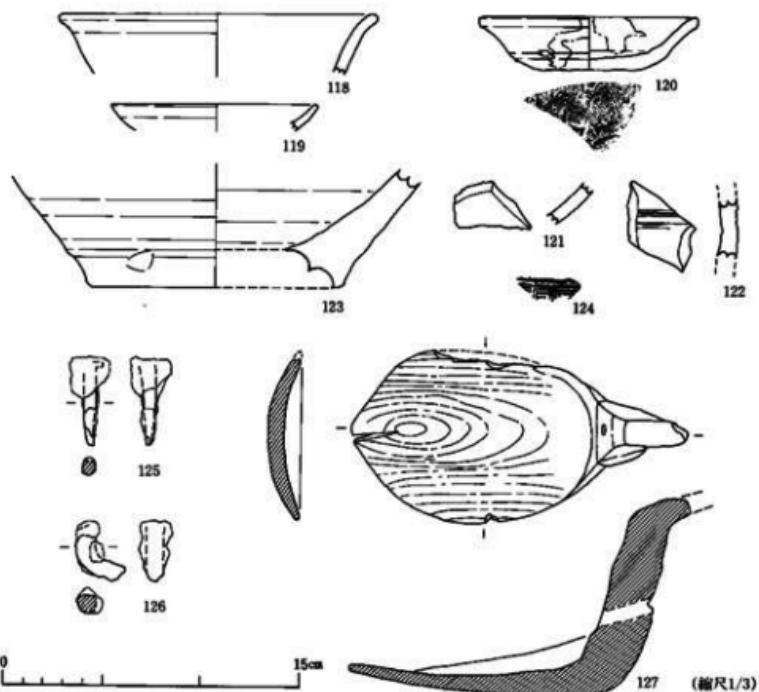
出土遺物には 118 の青磁碗の口縁部破片がある。青磁碗は内外面無文で口縁部が外反するタイプである。龍泉窯系碗 D 類。119 は白磁皿の口縁部破片である。乳白色を呈する丸皿、白磁皿 D 群である。120～122 は瀬戸製品である。120 は縁軸小皿である。鉄釉を施す。内面に漆の塗膜が付着している。古瀬戸後 III ～ IV 期である。121 は平碗の体部破片である。灰釉を施す。古瀬戸後 I 期～II 期である。122 は四耳壺である。灰釉を施す。古瀬戸中 III 期～IV 期である。123 は珠洲すり鉢の底部破片である。内面が使用により、摩滅している。124 は瓦質土器の火鉢類である。125～126 は鉄釘片である。127 は木製品の杓子である。杓子は柄部分が途中、外折するもので、端部が欠損している。さらに基部には孔が斜めに穿たれている。



第49図 AT 94 II SE 02

SE 02 層位名 (a-a', b-b')

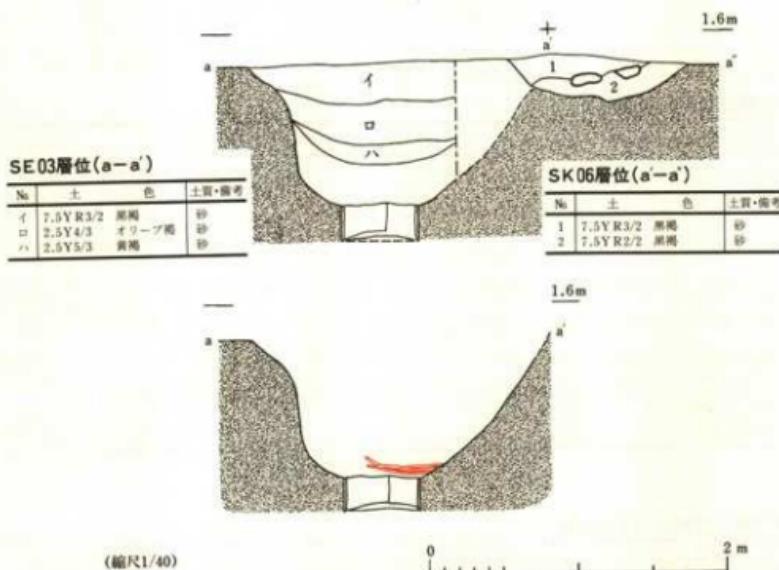
No.	土	砂	土質・地質
1	2.5Y R 3 / 3	砂	砂
2	2.5Y R 3 / 2	砂	砂
3	2.5Y R 3 / 2	砂	砂
4	2.5Y R 2 / 2	砂	砂
5	2.5Y R 2 / 3	砂	砂
6	2.5Y R 2 / 2	砂	砂
7	5 Y 6 / 4	オリーブ	砂
8	2.5Y 4 / 3	オリーブ	砂
9	2.5Y 4 / 4	にじみ	砂
10	2.5Y 5 / 3	砂	砂
11	2.5Y 4 / 3	オリーブ	砂



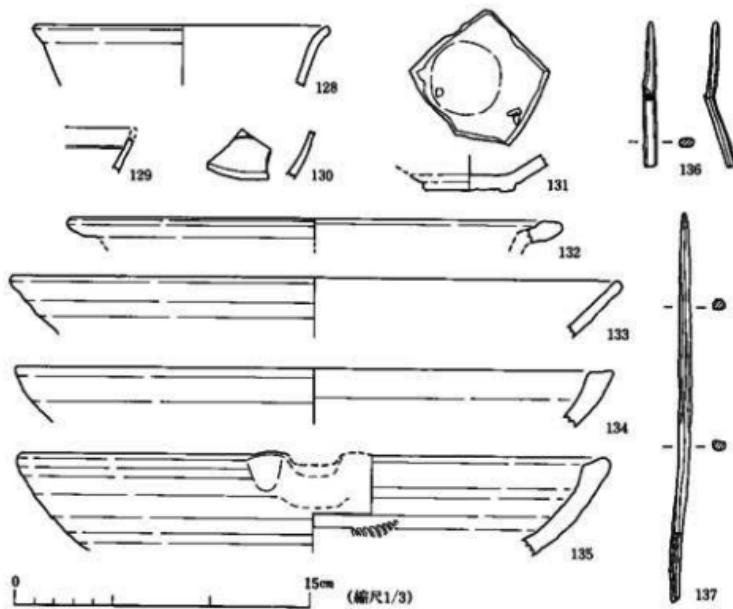
SE02出土遺物(図版14)

番号	種類	器種	層位	レベル	法量	測定	備考	整理番
118	青磁	碗	1層	1.212	口 [16.0]	0.06	龍泉碗D類 無文	2-318
119	白磁	皿	1層	1.265	口 [10.0]	0.05	白磁皿D群	2-296
120	瀬戸	織輪小皿	1層	1.361	口 [11]、高 [5]、底 [2.6]	0.05	瀬戸後III~IV期 鉄釉 内面露胎で塗付着	2-320
121	瀬戸	平碗	1層	1.256			瀬戸後I~II期 灰釉	2-297
122	瀬戸	四耳壺	1層	1.248			瀬戸中III~IV期 灰釉 平行沈線	2-298
123	珠洲	すり鉢	埋土		底 [13.0]			2-294
124	瓦質土器	火鉢	埋土	1.413			方形多層文	2-295
125	鉄製品	釘	1層	1.208	長4.4、幅1.0	9.6g		2-325
126	鉄製品	釘	埋土	1.399	長 (3.0)、幅 1.4	7.2g		2-322
127	木製品	杓子	埋土		長 (16.9)、幅 8.6、厚 0.9			2-371

第50図 AT94 II SE02出土遺物



第51図 AT94II SE03、SK06



SE03出土遺物 (図版15)

番号	種類	器種	層位	レベル	法量	割合	備考	整理%
128	青磁	碗	イ層	1.417	口 [15.0]	0.06	龍泉碗D類 無文 二次被熱	2-290a
129	青磁	碗	イ層	1.417			龍泉碗I類か 内面に劃花文	2-290b
130	青磁	碗	埋土				龍泉碗I類か 内面に劃花文	2-319
131	瀬戸	平碗	口層	0.932	底4.5		瀬戸後二期 灰釉 トチン底3 輪高台	2-312
132	瀬戸	折縁深皿	口層	1.038	口 [25.0]	0.04	瀬戸後一期 灰釉	2-301
133	瀬戸	直縁大皿	イ層	1.392	口 [31.0]	0.05	瀬戸後II～III期 灰釉 二次被熱	2-302
134	珠洲	すり鉢	イ層	1.299	口 [30.0]	0.05	珠洲IV期	2-303
135	珠洲	すり鉢	イ層	1.397	口 [30.0]	0.06	珠洲IV～V期	2-291
136	木製品	箸	埋土		長(7.5)、幅0.7			2-369
137	木製品	箸	埋土		長(19.5)、幅0.7			2-370

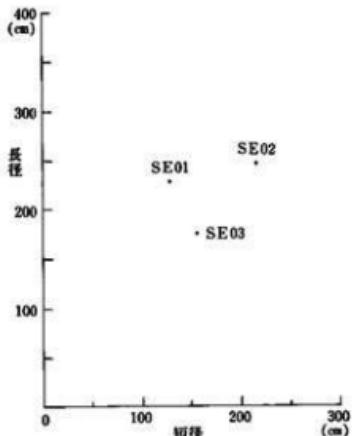
第52図 AT94 II SE03出土遺物

第13表 AT94 II 井戸計測表

No	整理%	X	Y	平面形	長径	短径	深さ	底面レベル	出土遺物	備考
SE01	2-B01	74.66	18.98	方形	229	128	115	0.170	■■■■■■■■ ■■■	SP01・SP03・SP114・SK32>SE01 >SP014
SE02	2-E04	74.14	18.96	円形	247	216	99	0.465	●●●●●○ ○▲▲■	SE02>SA07・SA08
SE03	2-X03	74.26	18.94	不整形	176	156	96	0.440	●●●●●○ ○○■■■	SK06>SE03>SK12・SK18

S E 03 井戸 (第51・52図)

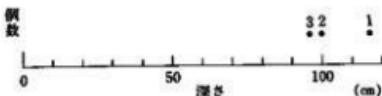
調査区の中央南より、グリット X74.23~74.26, Y18.9~18.94に位置する井戸である。井戸掘り形の平面形は不整な円形を呈する。規模は上端で176cm×156cm、深さ96cmである。断面形は不整な碗形を呈する。井戸側は残っていない。水溜、浄水施設として曲物が設置してある。曲物の直上には薄い板材がまとまって廃棄されている。堆積状況から判断すると、井戸側が抜き取れた後、人為的に埋められたものと推される。S E 03の新旧関係は S K06より古く、S K12・18より新しい。出土遺物には128~130の青磁碗の口縁部1破片と体部2破片が出土している。128は内外面無文で口縁部が外反するタイプの龍泉窯系碗D類である。全体が被熱を受けている。129・130の内面には劃花文が施されている。龍泉窯系碗I類か。131~133は瀬戸製品である。131は平碗の底部破片である。灰釉を施し、高台は高台幅が広く、高台内、高台脇の削り込みが浅い削りだし輪高台である。古瀬戸後II期である。132は折縁深皿の口縁部破片である。灰釉を施している。口縁部の形態から、古瀬戸後I期に当たる。133は直縁大皿の口縁部破片である。灰釉を施している。古瀬戸後II期~III期である。被熱を受けている。134・135は珠洲すり鉢の口縁部破片である。134は口縁部が肥厚せず水平に面取りするタイプのもので、珠洲IV期。135は口縁部がやや肥厚し内傾して面取りするタイプのもの、櫛目波状文は施されていない。珠洲IV期~V期。136・137は木製品の箸である。



第53図 AT94II 井戸の平面規模

井戸の平面規模と深さ (第53・54図)

ここでは井戸の平面規模と深さの法量散布図を作成したが、件数も少なく傾向は読み取れない。データとして提示するにとどめておく。



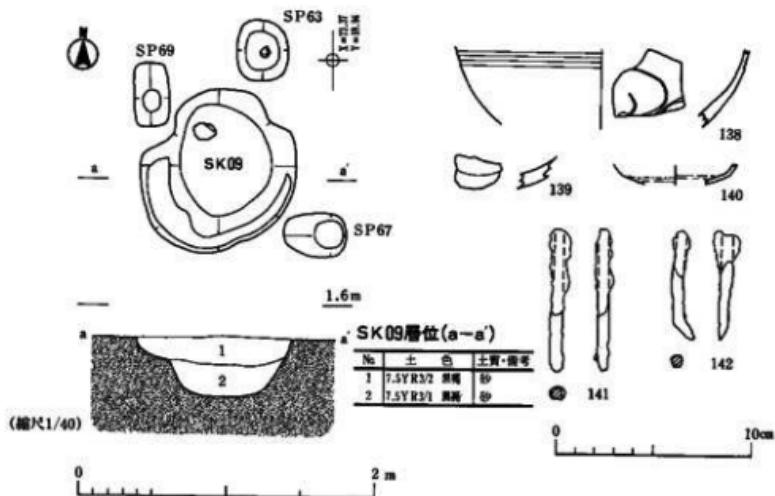
第54図 AT94II 井戸の深さ

土坑

検出された主な土坑について記述する。なお、土坑としたものには用途等に不明なものが多い。

SK 09土坑（第55図）

調査区の中央、グリッド X74.32~74.34, Y18.91~18.94に位置する。平面形は不整な円形を呈する。遺構規模は上端で107cm×100cm、深さは41cmを測る。南側の壁は段差をもって立ち上がる。床面は平坦である。堆積土は2層に分かれる。出土遺物は138・139の青磁碗の体部破片、140の中国製鉄軸茶入れ破片、141・142の鉄釘が出土している。138は割花文と推される文様が施されている。龍泉窯系碗I類か。



SK 09出土遺物（図版15）

番号	種類	器種	層位	レベル	法量	個体数	備考	整理No
138	青磁	碗	1層	1.223			龍泉碗I類 内面に割花文	2-306
139	青磁	碗	1層	1.233				2-299
140	中国	茶入	1層	1.299			鉄軸	2-300
141	鉄製品	釘	1層	1.267	長(7.0), 幅0.8	8.0g		2-329
142	鉄製品	釘	1層	1.348	長(5.3), 幅0.8	4.4g		2-326

第55図 AT94II SK09・出土遺物

S K 10土坑（第56図）

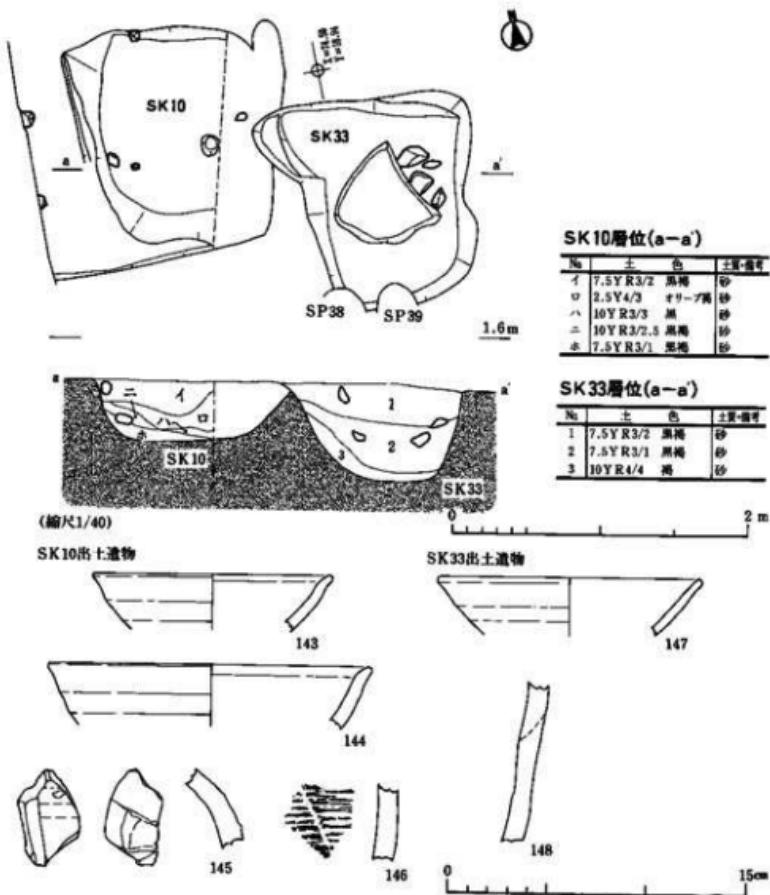
調査区の中央北より、グリット X74.48～74.52, Y18.91～18.94に位置する土坑である。平面形は南北にやや長い不整な方形を呈する。遺構規模は上端で151cm×120cm、下端で116cm×88cm、深さ44cmである。壁はゆるやかに湾曲しており、床面は平坦である。また、床面からPitが検出されている。堆積土は大きく5層に分かれ、中位から上位にかけて拳大の礫が混入する。S K10の新旧関係はS K33、S A03より古い。出土遺物には143・144の瀬戸平碗の口縁部破片がある。それぞれ灰釉を施し、口唇部がややくびれる。143は古瀬戸後II期、144は古瀬戸後II期～III期である。145は瀬戸灰釉四耳壺である。耳部が欠損し、被熱を受けている。古瀬戸前I～II期である。146は珠洲壺の体部破片である。

S K 33土坑（第56図）

調査区の中央北より、グリット X74.46～74.5、Y18.93～18.96に位置する土坑である。平面形は南北にやや長い不整な方形を呈し、北東隅が張り出してS K10を切っている。遺構規模は上端で141cm×101cm、下端で126cm×88cm、深さ64cmである。壁はゆるやかに湾曲している。堆積土は大きく3層に分かれ、中位層からは拳大の礫が混入している。S K33の新旧関係はS P38・39よりも古く、S K10より新しい。出土遺物には147の瀬戸平碗の口縁部破片と148の壺器系甕の体部破片が出土している。147の瀬戸平碗は灰釉を施している。口唇部は若干くびれている。古瀬戸後II期である。

S K 11土坑（第57図）

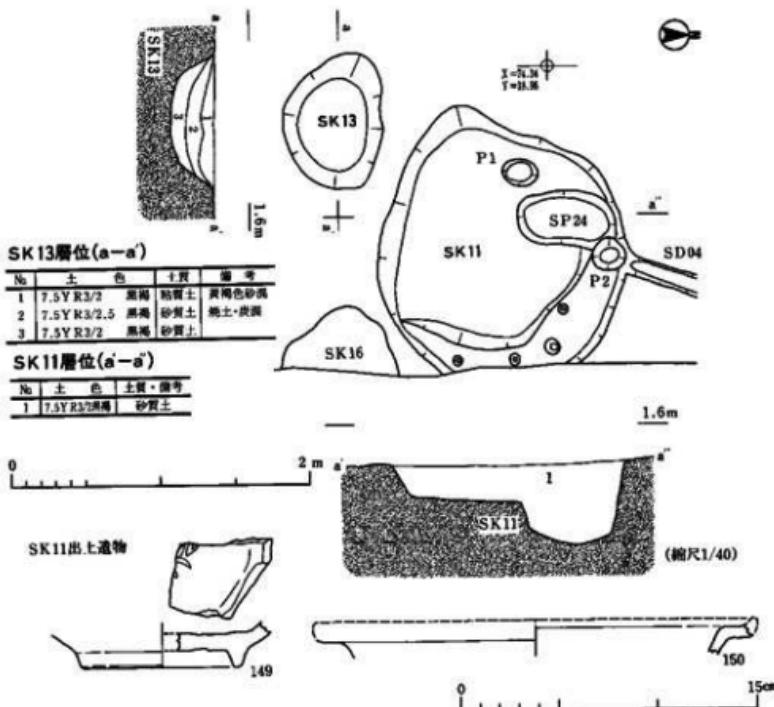
調査区の中央南より東壁付近、グリット X74.3～74.32、Y18.97～19.0に位置する土坑である。遺構の東側部分が調査区東壁にかかっている。平面形は不整な円形を呈する。遺構規模は上端で194cm×173cm、深さ26cmである。底面はほぼ平坦であるが、底面北寄りにはPit 1・2の他、64cm×36cmの楕円形で、床面からの深さが30cmほどの掘り込みが検出されている。S P24とS D04との切り合い関係は不明である。出土遺物には149の青磁の碗底部、150の盤口縁部破片が出土している。149の碗は底部の釉が壘付を越えて高台内までかかり、外底は釉剥ぎされている。壘付の釉は削りとらない。内面には印花文？が見える。150の盤は口縁部が欠損しているが、受け口を呈するタイプである。



SK10・SK33 出土遺物(図版15)

番号	遺構	種類	器種	層位	レベル	法量	個体数	備考	整理No
143	SK10	漁戸	平碗	埋土		口[12.0]	0.05	漁戸後II期 灰釉	2-292a
144		漁戸	平碗	イ層	1.277	口[16.0]	0.05	漁戸後II～III期 灰釉	2-342
145		漁戸	四耳壺	埋土				漁戸前I～II期 灰釉 つまみ脚難観	2-292b
146		珠洲	壺	イ層	1.197				2-344
147	SK33	漁戸	平碗	1層	1.233	口[13.0]	0.06	漁戸後II期 灰釉	2-314
148		壺器系	壺	1層	1.233				2-314

第56図 AT94II SK10、SK33・出土遺物



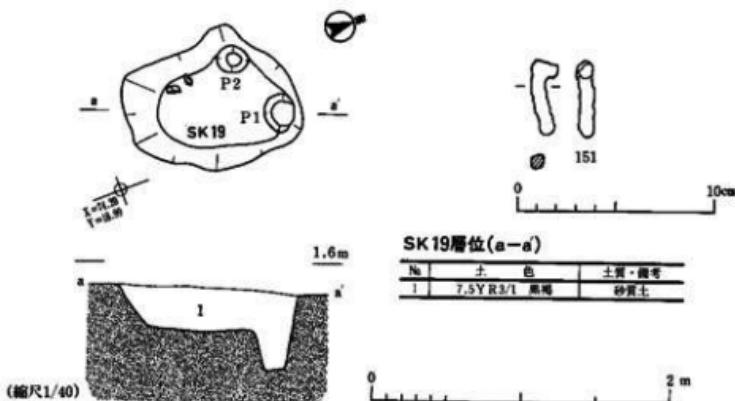
第57図 AT94II SK11、SK13・出土遺物

SK13土坑 (第57図)

調査区の中央やや南より、グリット X74.28~74.3, Y18.96~18.98に位置する土坑である。平面形は東西にやや長い不整な椭円形を呈する。遺構規模は上端で93cm×66cm、下端で62cm×48cm、深さ31cmである。壁面はゆるやかに湾曲し、底面はほぼ平坦である。堆積土は3層に分れ、自然堆積の状況を呈している。堆積土中位の第2層からは焼土ブロック、炭が混じっている。出土遺物なし。

S K 19土坑 (第58図)

調査区の中央南より、グリット X74.2~74.22, Y18.97~19.0に位置する土坑である。平面形は南北に長い不整な楕円形を呈する。遺構規模は上端で123cm×83cm、下端で88cm×58cm、深さ29cmである。壁はゆるやかに湾曲しており、床面は平坦である。床面北側にPit 1・2が検出されている。堆積土は単層である。出土遺物には151の鉄釘がある。



S K 19出土遺物(図版15)

番号	種類	形種	層位	レベル	法量	個数	備考	整理No
151	鉄製品	釘	1層	1.335	長(3.8), 幅0.8	3.6g		2-330

第58図 AT94II SK 19・出土遺物

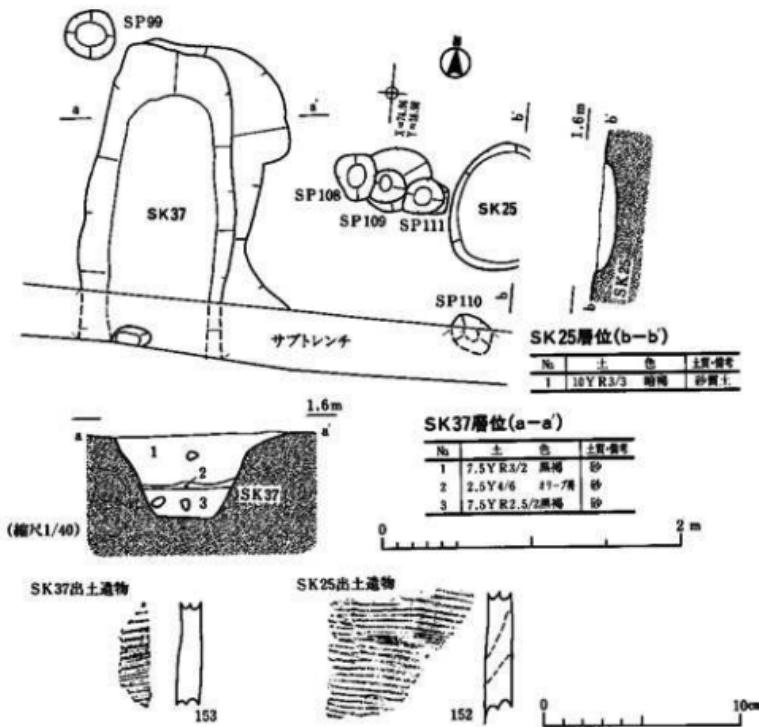
S K 25土坑 (第59図)

調査区の南側東壁、グリット X74.02~74.04, Y18.99~19.0に位置する土坑である。調査区東壁に掛っており、全体の平面形は不明である。検出した部分の遺構規模は上端で86cm×49cm、深さは13cmを測る。断面形は皿形を呈し、堆積土は単層である。出土遺物は152の珠洲壺の体部破片が出土している。酸化軟質で灰白色を呈する。叩き目は3cm幅で9条を数える。珠洲V期である。

S K 37土坑 (第59図)

調査区の南壁、グリット X74.0~74.04, Y18.94~18.96に位置する。平面形は不明である。調査区外南側へさらに延びている。検出部分の遺構規模は上端で203cm×111cmを測る。

深さは54cmもあるて、若干の湧水が起る。断面形は逆台形を呈し、床面は平坦である。S D07との切り合い関係は不明で、接続していたと思われることから、S D07に伴う排水施設としての用途が想定される。しかし、部分的な検出にとどまっていることから、現段階では土坑として扱った。出土遺物は153の珠洲壺の体部破片が出土している。珠洲IV期～V期である。



SK25、SK37出土遺物(図版15・16)

番号	造構	種類	器種	層位	レベル	法量	個体数	備考	整理No
152	S K25	珠洲	壺	1層				珠洲V期	2-293
153	S K37	珠洲	壺	1層	1.470			珠洲Ⅳ～V期	2-313

第59図 AT94II SK25、SK37・出土遺物

S K 27土坑（第60図）

調査区の中央南より、グリット X74.24～74.26, Y18.96～18.98に位置する土坑である。平面形は東西にやや長い不整な楕円形である。遺構規模は上端で129cm×94cm、下端で88cm×52cm、深さ34cmである。断面形は逆台形を呈しており、床面は平坦である。床面西側からPitが検出されている。Pitの平面形は24cmの円形で、深さは床面から22cmである。堆積土は3層に分れ、堆積土中位からは焼土ブロック、炭が検出された。S D05との切り合い関係は不明である。S K27の新旧関係はS P73より古い。出土遺物なし。

S K 46土坑（第60図）

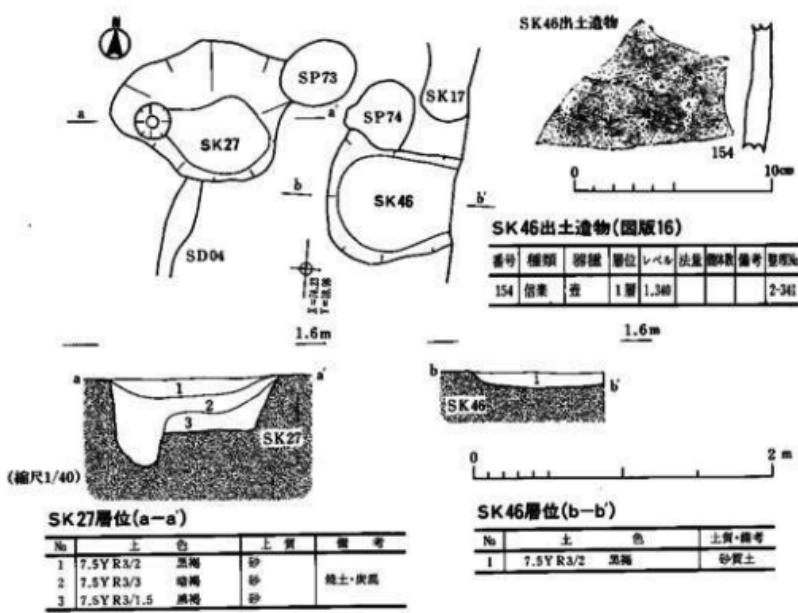
調査区の中央南より東壁付近、グリット X74.23～74.26, Y18.98～19.0に位置する土坑である。遺構の東側部分が調査区東壁にかかっている。平面形は不明である。検出された遺構規模は上端で86cm×72cm、下端で76cm以上×62cm、深さ10cmである。断面形は皿形を成している。堆積土は単層である。S K46の新旧関係はS P74より古い。遺物は154の信楽壺の体部破片が出土している。胎土には信楽特有の長石の吹き出しが見られる。

S K 32土坑（第61図）

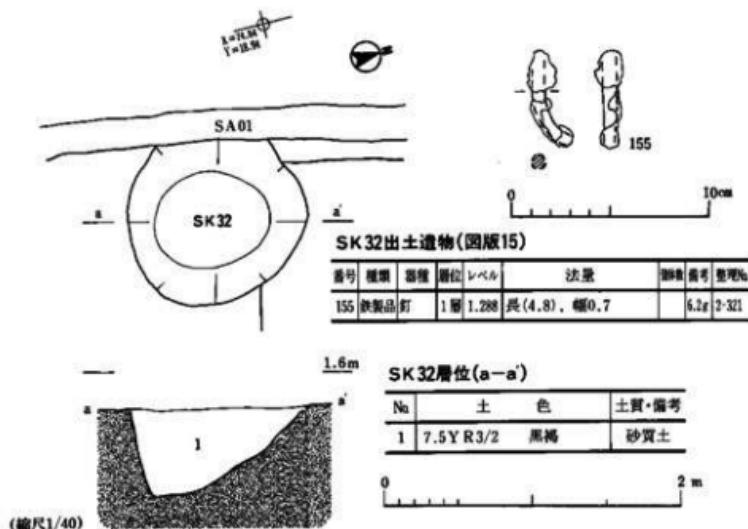
調査区の北側、グリット X74.61～74.64, Y18.93～18.96に位置する。平面形は円形を呈する。遺構規模は上端で121cm×112cm、深さ54cmを測る。断面形は南側へと深くなり、北側の壁はゆるやかに立ち上がり、南側の壁が急に立ち上がっている。堆積土は単層である。S K32の新旧関係はS A01より古く、S E01より新しい。出土遺物は155の鉄釘がある。

S K 34土坑（第62図）

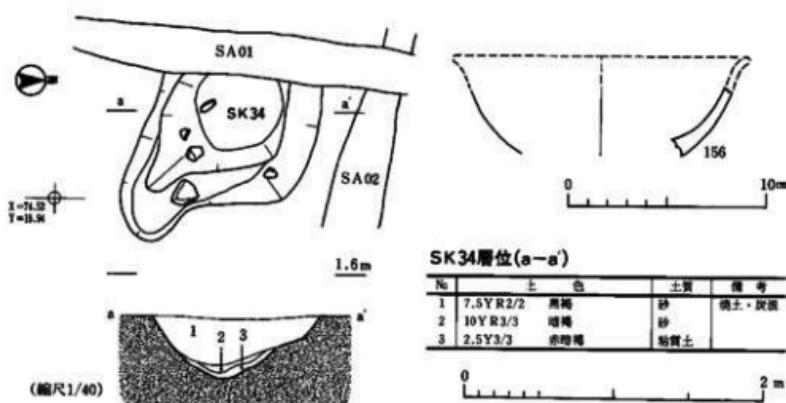
調査区の中央北より、グリット X74.53～74.56, Y18.93～18.94に位置する土坑である。平面形は不明である。検出された部分の遺構規模は上端で123cm×110cm、深さ46cmである。壁は途中、段差をもって立ち上がる。底面は中央部が窪んでいる。堆積土は大きく3層に分かれ、上層は焼土ブロック、炭が混じる。最下位は赤褐色の粘質土が堆積する。S K34の新旧関係はS A01よりも古い。出土遺物は156の青磁碗の体部破片がある。胎土は褐色を呈し、焼きが悪い。外面は無文であり、恐らく口縁部が外反するタイプの碗と思われる。



第60図 AT94II SK27、SK46・出土遺物



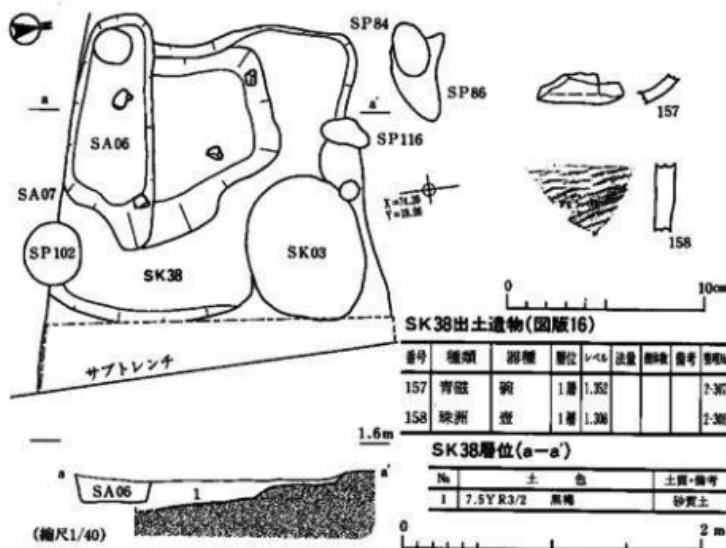
第61図 AT94II SK32・出土遺物



SK34出土遺物(図版16)

番号	種類	器種	層位	レベル	法量	個体数	備考	整理No
156	青磁	碗	1層				鹿足輪D類か 無文	2-310

第62図 AT94II SK34・出土遺物



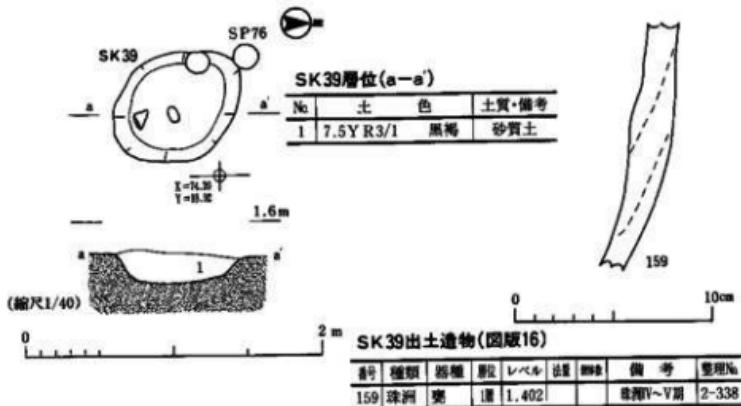
第63図 AT94II SK38・出土遺物

S K 38土坑（第63図）

調査区の南側、グリット X74.14~74.18, Y18.96~18.98に位置する土坑である。平面形は不明である。検出部分の遺構規模は上端で180cm×180cmを測る。深さは24cmである。壁は途中、段差を成しており、底面は平坦である。堆積土は単層である。S K 38の新旧関係は S P 102・116, S K 03, S A 06・07より古い。出土遺物は157の青磁碗の体部破片、158の珠洲壺の体部破片が出土している。

S K 39土坑（第64図）

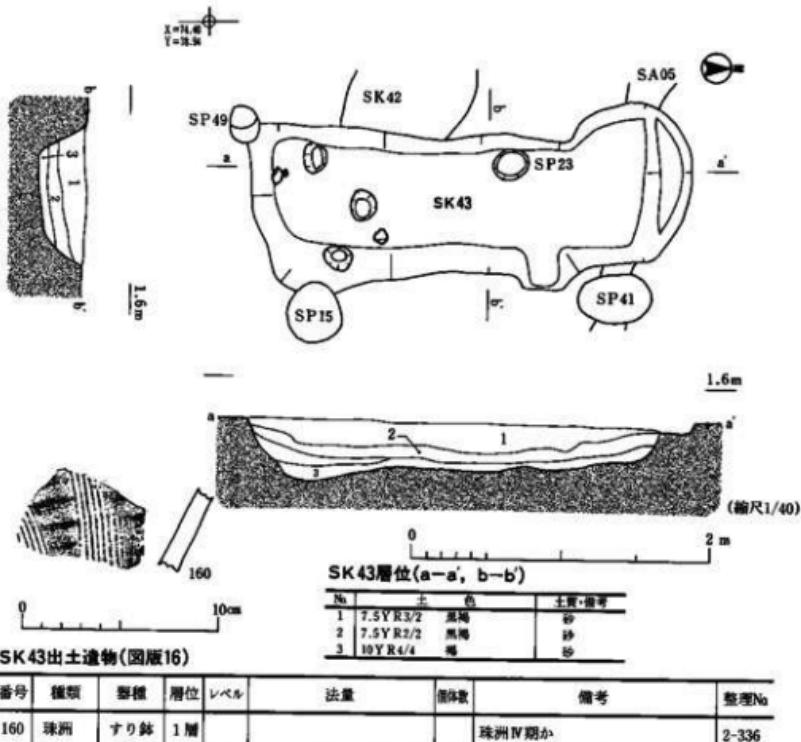
調査区の中央南より西壁付近、グリット X74.18~74.2, Y18.90~18.92に位置する土坑である。平面形は南北にやや長い不整な橢円形を呈する。遺構規模は上端で95cm×72cm、深さは20cmを測る。断面形は皿形を呈し、床面は平坦である。堆積土は単層である。S K 39の新旧関係は S P 76より古い。出土遺物は159の珠洲壺の体部破片が出土している。叩き目は3cm幅で7条を数える。珠洲IV期～V期。



第64図 AT94II SK 39・出土遺物

S K 43土坑（第65図）

調査区のほぼ中央、グリット X74.40~74.44, Y18.98に位置する土坑である。平面形は南北に長い不整な方形である。壁面はゆるやかに湾曲し、底面はほぼ平坦であるが、底面からPitが検出されている。遺構規模は上端で293cm×92cm、下端で270cm×60cm、深さ39cmである。堆積土は3層に分れており、自然堆積の状況を呈している。S K 43の新旧関係は S P 15・49より古く、S P 23, S K 42, S A 05より新しい。出土遺物には160の珠洲すり鉢の体部破片がある。内面の卸し目の原体幅は2.5cmで9条を数える。珠洲IV期の製品か。



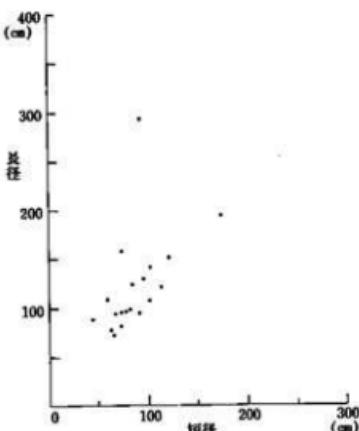
第65図 SK43・出土遺物

第14表 AT94II 土坑計測表

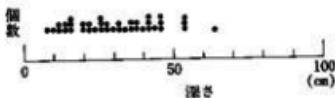
No	番号	X	Y	平面圖	長	幅	高さ	底面	出土遺物	備考
SK09	2-K09	74.34	18.94	不整円形	107	100	41	0.999	○○○▲▲、木炭	底面に石1
SK10	2-K10	74.52	18.94	不整方形	151	120	44	0.906	●●●●	SK33・SA03>SK10
SK11	2-K11	74.32	19.00	不整円形	194	173	26	1.097	○○	SK11=SP024・SD04?
SK13	2-K13	74.30	18.98	梢円形	93	66	31	1.077		
SK19	2-K19	74.22	19.00	不整梢円形	123	83	29	1.026	▲	
SK25	2-K25	74.04	19.00	*	86	49	13	1.355	●	底面に石2
SK27	2-K27	74.26	18.98	不整梢円形	129	94	34	0.928		SP073>SK27=SD05?
SK32	2-E02	74.64	18.96	円形	121	112	54	0.738	▲	SA01>SK32>SE01
SK33	2-E03	74.50	18.96	不整方形	141	101	64	0.641	●●	SP038・SP039>SK33>SK10
SK34	2-E05	74.56	18.94	*	123	110	46	0.865	○	底面に石5, SA01>SK34
SK37	2-X04	74.04	18.96	*	203	111	54	0.828	●	SD07>SK37?
SK38	2-X05	74.18	18.98	*	180	72	24	1.144	●○	SP102・SP116・SK03・SA06・SA07>SK38
SK39	2-X06	74.20	18.92	梢円形	95	72	20	1.199	●	底面に石1, SP076>SK39
SK43	2-B04B	74.44	18.98	不整方形	293	92	39	0.946	●, 木炭	底面に石2, SP015・SP049>SK43>SP023・SK12・SA05
SK46	2-K08B	74.26	19.00	*	86	60	10	1.296	●	SP074>SK46

土坑の平面規模と深さ（第66・67図）

ここでは土坑の平面規模と深さの法量散布図を作成した。検出された土坑は全部で40件を数える。件数は少なく、散布の傾向を読みとるには不十分であるが、ほとんどが長軸70cm～150cm、短軸50cm～120cmの範囲内におさまっているが、長径293cm、短径92cmの大型の土坑も見られる。



第66図 AT 94 II 土坑の平面規模



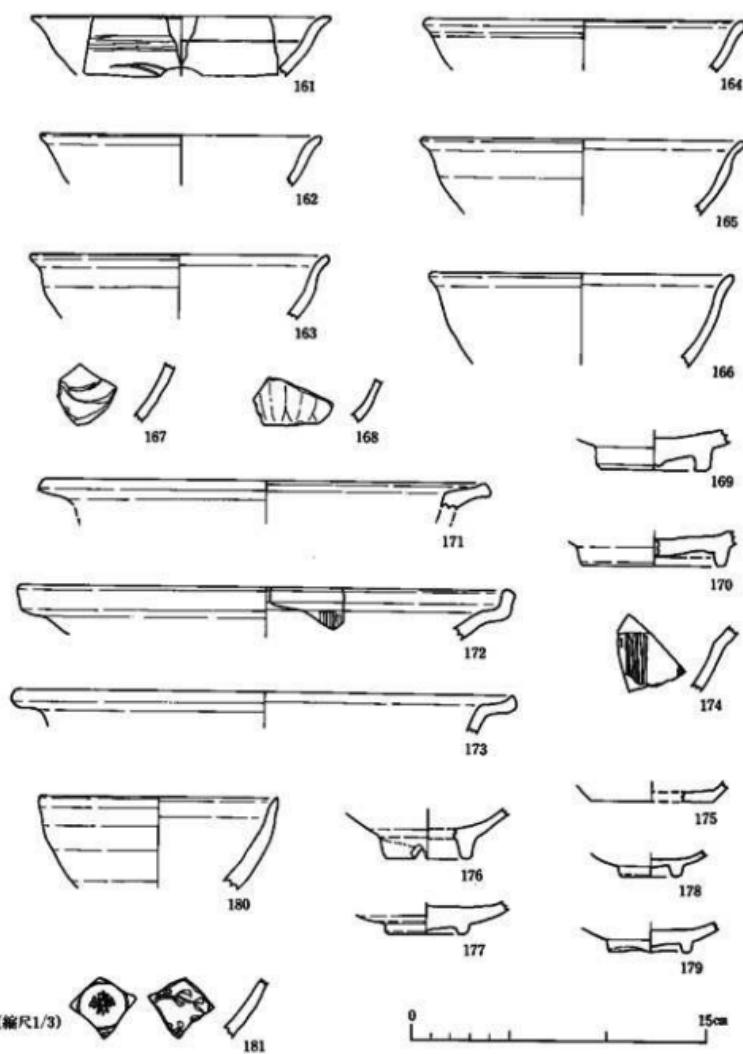
第67図 AT 94 II 土坑の深さ

b 遺構外出土遺物

包含層出土遺物には陶磁器、鉄製品、土製品、古銭がある。中世陶磁器は貿易陶磁器と国産陶磁器に大別される。貿易陶磁器は青磁、白磁のほか特殊品として中国製鉄釉碗（天目碗）、褐釉陶器、高麗象嵌青磁が出土している。国産陶磁器は瀬戸、珠洲、瓦質土器、壺器系、土師器が出土している。近世陶磁器は肥前・肥前系、備前系が出土している。中世陶磁器が示す年代観は12世紀後半～15世紀中頃までである。

〈青磁〉（第68図）

青磁は碗、盤の器種が出土している。遺物番号は161～174である。161～170は青磁碗の口縁部、体部、底部破片である。161は口縁部がやや外反しており、外面には複数の平行沈線文に線描きの大きくて粗略な連弁文風の痕跡が見られる。162～166は内外面無文の端反碗で、龍泉窯系碗D類である。164はやや鈍いつくりで、口縁端部が丸



第68図 AT94 II 造構外出土遺物〈貿易陶磁〉

く玉縁状を呈する。釉も厚い。

165はシャープな作りで灰色気味の透明釉が薄くかかっており、回転ヘラ削り痕が明瞭である。166は2次焼成を受けている。167は内面に草花文を片彫りしている。龍泉窯系統I類

に当たる。168は厚い釉によって連弁文が見えず、かなり退化したものである。胎土も赤褐色を呈し、焼きが悪い。

169・170は青磁碗の底部破片である。169は内底見込み部は無文様であるが、円形に沈線が巡る。釉は高台内途中までかかっている。疊付は釉を削り取っている。170は内底見込み部と外面底部の高台内の釉が輪状に削り取られている。胎土は赤褐色を呈し、焼きが悪い。171～174は青磁盤である。171は口縁が外折するタイプで、端部が輪花状に削り取られている。172・173は口縁が受け口状を呈するタイプである。172は深緑釉、173は水色釉を呈する。172は体部内面に縱方向に櫛目文が施されている。174は172と同一個体である。

〈白磁〉(第68図)

白磁は碗、皿の器種が出土している。遺物番号は175～179である。

175は透明な白色釉の白磁皿底部破片である。口縁部の形状は知り得ないが、口縁部が口禿げタイプのものと推定される。白磁皿A群と推される。176～179は白磁D群に含まれる碗、皿である。釉は黄色味を帯びた白色を呈し、釉に細かい貫入を伴う。176は底部に抉り込みを入れた小碗破片である。177・178の皿は底部に抉り込みを入れないタイプ、179の皿は底部に抉り込みを入れるタイプである。

〈その他の貿易陶磁〉(第68図)

中国製鉄釉碗(天目碗)、高麗象嵌青磁が出土している。遺物番号は180・181である。

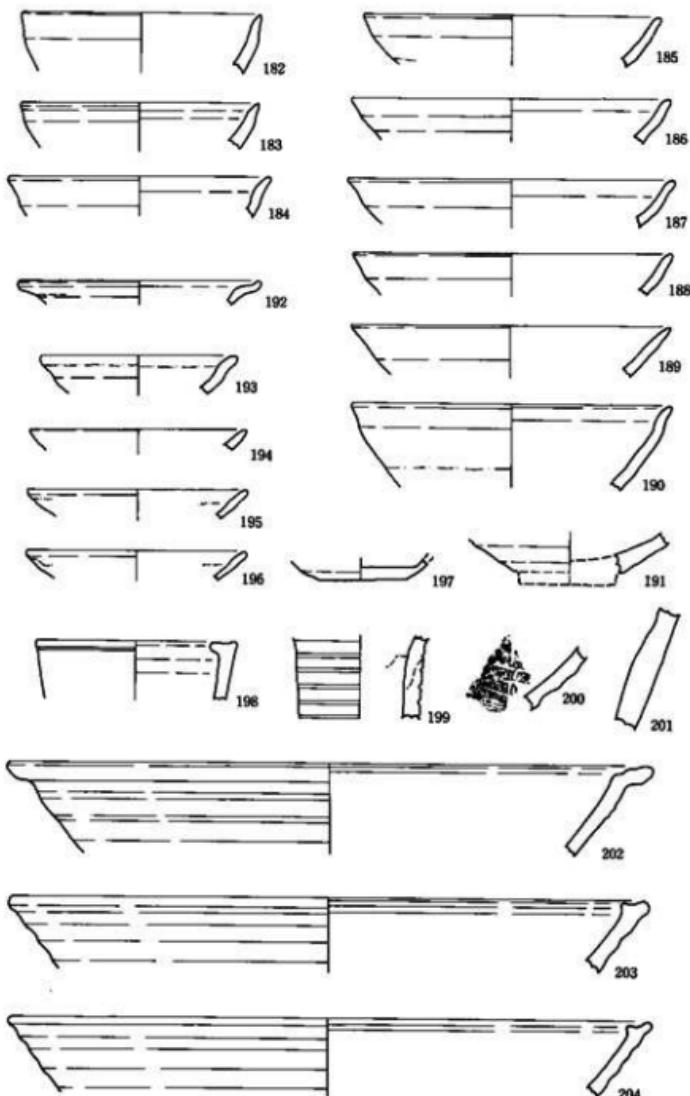
180は中国製鉄釉碗(天目碗)である。胎土は精良、色調は暗灰色、焼成は良好である。181は高麗象嵌青磁碗である。内外面に草花文の白象嵌を施している。

〈瀬戸〉(第69図)

瀬戸は碗、皿類、盤類、花瓶、香炉の器種が出土している。遺物番号は182～204である。182～184は鉄釉碗(天目碗)の口縁部破片である。182は古瀬戸中IV期である。183は古瀬戸後I期である。184は古瀬戸後I期～II期である。

185～190は平碗の口縁部破片、192はその底部破片である。すべて灰釉が施されている。185・186・188・190は口唇部が若干くびれ、端部が尖っている。古瀬戸後II期である。189は口縁端部が尖っている。古瀬戸後I期である。187は口唇部が若干くびれ、端部もやや丸みを帯びる。古瀬戸後I期～II期である。191は古瀬戸後II期～III期のものである。

192～197は皿類である。192は折縁小皿の口縁部破片である。灰釉を施す。口縁部が外折し、端部がやや立ち上がっている。古瀬戸後I期～II期である。193は縁釉小皿の口縁部破片である。灰釉を施す。古瀬戸後II期～III期である。194は丸皿の口縁部破片である。灰釉を施



(縮尺1/3)

0 15cm

第69図 AT94 II 造構外出土遺物<瀬戸>

す。古瀬戸中Ⅲ期～Ⅳ期である。195・196は縁釉小皿の口縁部破片である。鉄釉を施す。古瀬戸後Ⅲ期～Ⅳ期である。197は縁釉小皿の底部破片である。内面は露胎、外底面は回転糸切り痕が明瞭である。灰釉痕が見られる。古瀬戸後Ⅲ期～Ⅳ期（古）である。

198は灰釉の筒形香炉の口縁部破片である。口縁部外面直下に太い1条の沈線が巡っている。古瀬戸後Ⅰ期である。199は仏花瓶の頸部片である。鉄釉を施す。胎土は精良、色調は灰色、焼成は良好である。これと同様なものが第2次調査S101竪穴遺構の貼り床内から出土している。古瀬戸中Ⅰ～Ⅱ期である。201は灰釉四耳壺の体部破片である。古瀬戸中期のものである。

200・202～204は盤類である。200は卸目付き大皿の口縁部破片である。灰釉を施す。内面に卸目跡が見られる。古瀬戸後Ⅱ期である。203・204は卸目付き大皿である。灰釉を施す。古瀬戸後Ⅲ期のものである。

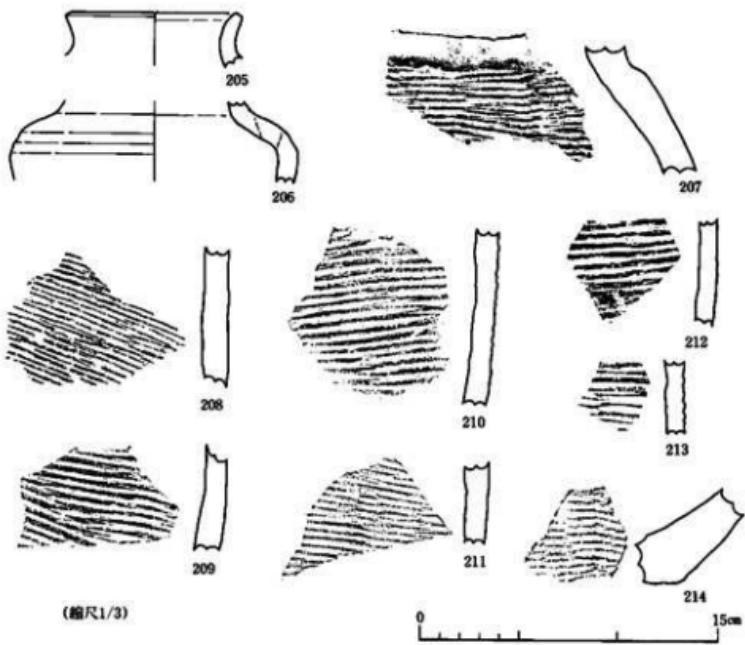
202は折縁深皿の口縁部破片である。灰釉を施す。口縁部は内側に折り返され、上面中央に小突起がある。古瀬戸後Ⅱ期である。

〈珠洲〉（第70～72図）

珠洲は壺、甕、すり鉢の器種が出土している。遺物番号は205～232である。

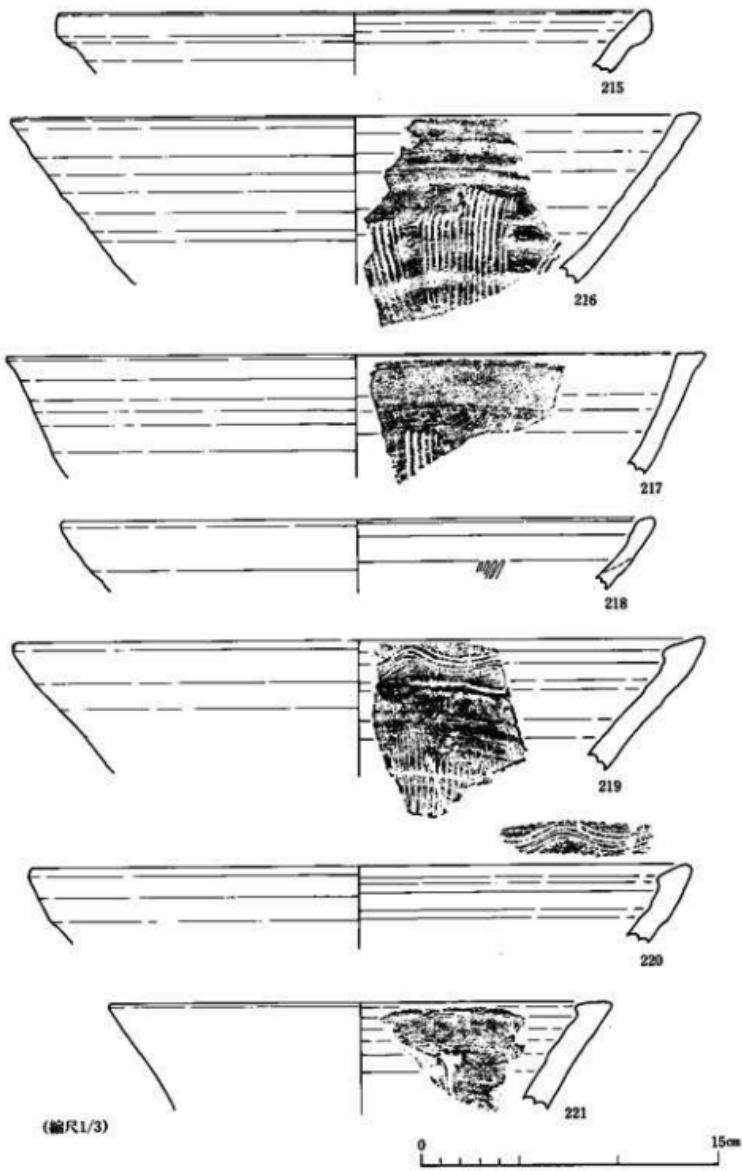
205・206はロクロ壺（壺R種）である。205は頭部が短い。口縁部が直立気味で、方頭はくずれている。206は肩部である。205と206は同一個体と思われる。207は甕の口縁部付近の破片である。208～214・232は壺甕類である。208～213は体部、214・232は底部破片である。232は底部に静止糸切り痕が見られる。内面には自然釉が付着する。叩き目は3cm幅で212は6条、209・210・213は7条、207・211・214は8条、208は10条である。全体的に叩き目も粗く、焼成もあまりよくない。珠洲Ⅳ期～珠洲Ⅴ期に含まれる。

215～231はすり鉢である。215～227は口縁部破片、228・229は体部破片、230・231は底部破片である。215は口縁部がやや肥厚しているが、外傾して面取り調整を行っている。珠洲Ⅲ期の製品であろうか。216は口縁部は肥厚せず、平行に面取り調整しており、櫛目波状文はない。内面の卸目の原体幅は3cmで、10条を数える。珠洲Ⅳ期である。217は口縁部が平行して面取り調整を行っており、さらに端部を外方向に摘み出し、拡張している。珠洲Ⅳ期である。218は器壁が薄く、口縁部はやや内傾気味である。時期不詳。219・220は口縁端部が肥厚し、内傾して面取り調整を行っている。端部には櫛目波状文が施されている。219は卸し目が隙間なく施されている。珠洲Ⅴ期である。221は口縁端部が肥厚しているが、水平に面取り調整を施している。櫛目波状文はない。卸し目は摩滅している。珠洲Ⅳ期～珠洲Ⅴ期である。222・223は口縁端部が肥厚せず、やや内傾して面取り調整を施している。珠洲Ⅳ期～珠洲Ⅴ期のものである。224は口縁端部が肥厚し、内傾して面取り調整を施して

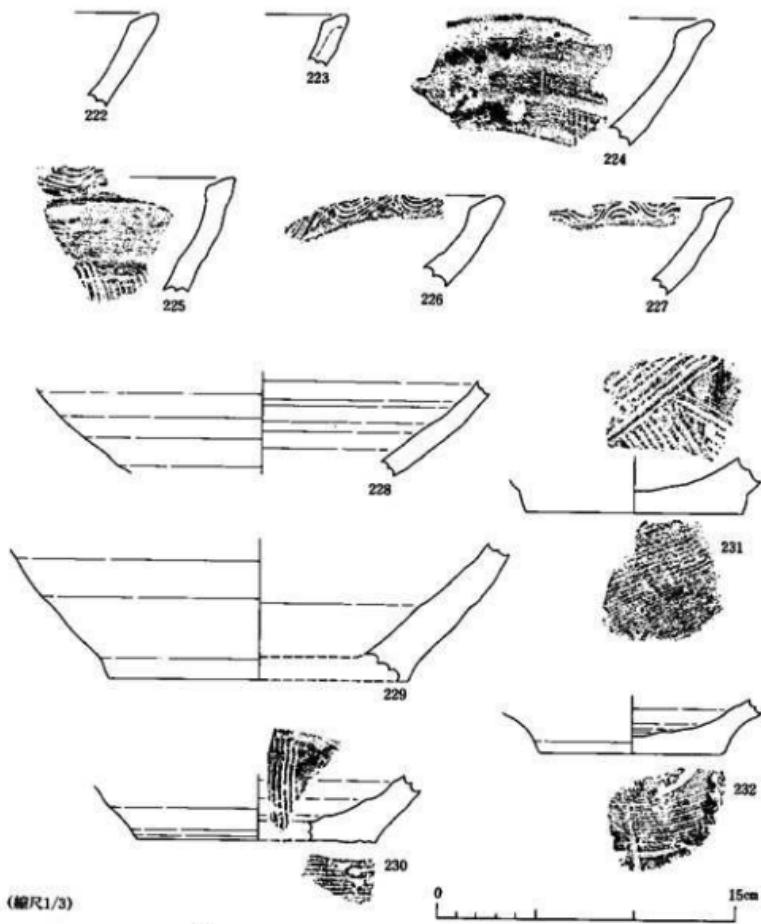


第70図 AT 94 II 造構外出土物(珠洲 I)

いる。櫛目波状文はない。珠洲IV期～珠洲V期のものである。225～227は口縁端部がやや肥厚気味で、内傾して面取り調整を施している。櫛目波状文がある。珠洲V期のものである。228は器壁が薄く、内湾している。内面は卸し目がなく、ロクロ痕が明瞭である。珠洲I期と思われる。229は体部下方部であり、器壁が厚い。内面の卸し目は使用によって、摩滅している。230・231は底部に静止糸切痕が見られる。



第71図 AT94 II 造構外出土遺物(珠洲2)



第72図 AT94 II 造構外出土遺物(珠洲3)

〈土師器〉(第73図)

233は皿と思われる。口縁部内外面にナデ調整が見られる。てづくり成形か。時期不詳。

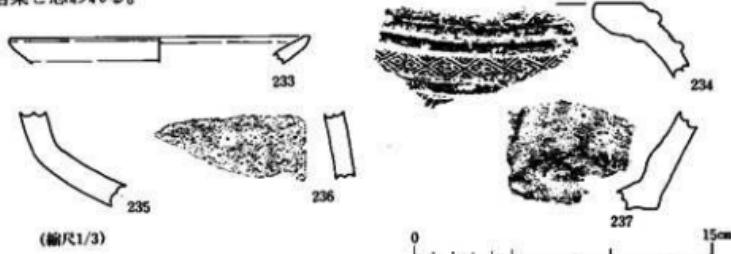
〈瓦質土器〉(第73図)

234は瓦質土器の火鉢類(風炉)である。2条の突帯の間に花菱文のスタンプが巡っている。

〈瓷器系〉(第73図)

235は壺の頸部片である。外面には自然釉が付着している。

236は壺の体部、237は底部破片である。それぞれ胎土に長石の吹き出しが見られることから信楽と思われる。



第73図 AT 94 II 造構外出土遺物〈国産その他〉

〈肥前・肥前系〉(第74・75図)

肥前・肥前系は碗、皿、盤、すり鉢、壺の器種が出土している。遺物番号は238~248, 250~257である。

238~241は灰釉皿で暗緑色を呈する。239~241は削り出し高台で、内底見込み部に砂目跡を残す。さらに、240・241は見込み部が蛇の目状の釉剥ぎされている。

242は乳白色を呈する釉の不明陶器皿である。内底見込み部が薄く蛇の目状に釉剥ぎされている。釉は高台内まで及んでいる。243は鉄釉装飾をおこなう陶器大皿で、いわゆる絵唐津と呼ばれるものである。244は白化粧土に透明釉がかかる。口縁は外折している大皿である。245は染付碗である。内面には一重網目文、外面には二重網目文が見られる。18世紀中頃から後半である。246は染付皿である。内面には斜格子文、兼線が見られる。18世紀前半～後半である。247は無文の磁器皿である。

249~255は鉄釉すり鉢である。254・255は鉄釉が口縁端部のみ施している。

249は口縁端部を外側へ折り返して、玉縁状の口縁を呈する。卸し目は3.5cm下がった所から全面に施されている。252は口縁端部を外側へ折り返して、1.5cm程の縁帯を形成している。254・255は口縁部が一旦直立してから外折している。口縁部外側には3条の凸帯が形成される。256は鉄釉壺である。口縁部の断面形状が「T字状」を呈する。

〈備前系〉(第75図)

248はすり鉢口縁部片、無釉である。口縁部外側に肥厚した縁帯を設け、2条の沈線が巡

っている。

〈銅製品〉(第76図)

257は鉢である。頭部は円形を呈している。

〈鉄製品〉(第76図)

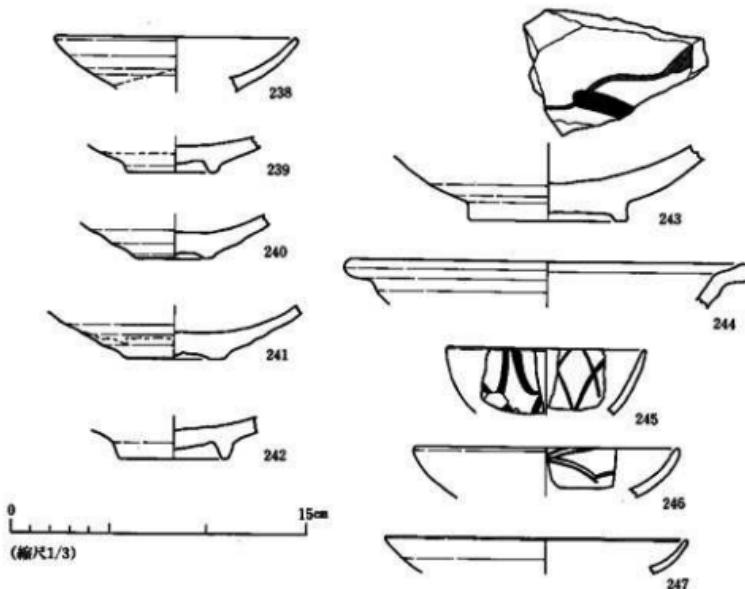
258～260・265・266は断面方形の角釘である。266は頭部が円形を呈している。261は鉄錐である。262～264はくさび状の鉄製品である。

〈土製品〉(第76図)

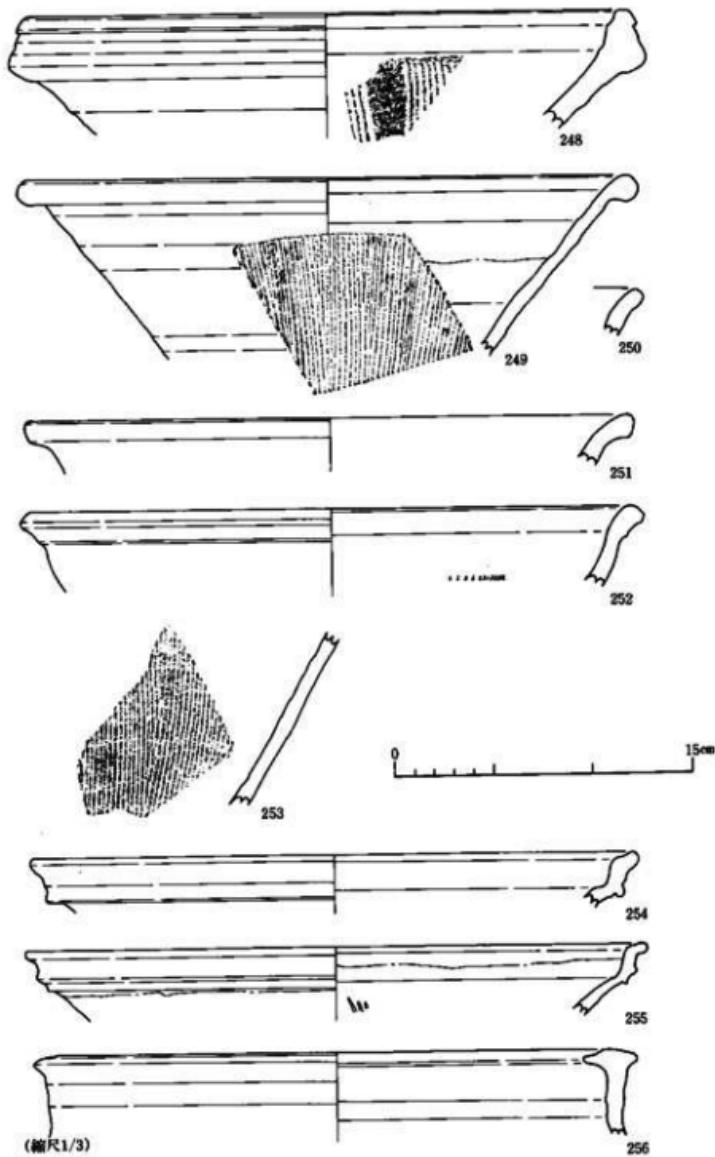
267・268は土鍤である。

〈古錢〉(第77図)

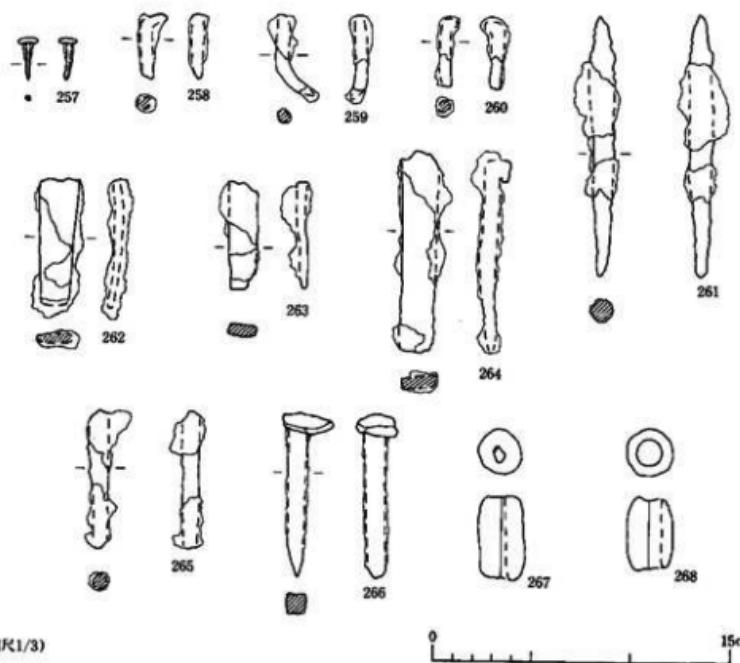
269は熙寧元寶(初鑄年:1068年、北宋)、書体は真書。270は永樂通寶(初鑄年:1408年、明)。271は半分欠損しているが寛永通寶と推される。17世紀以降である。



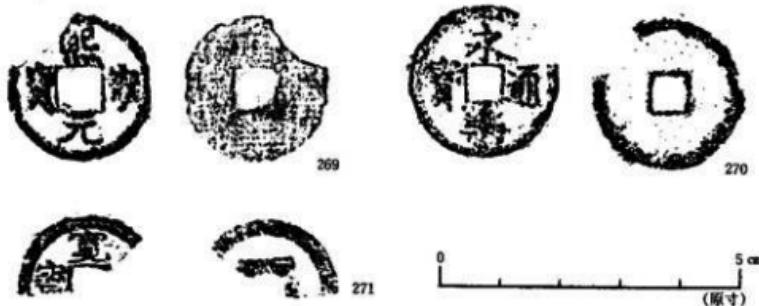
第76図 AT94 II 造構外出土遺物(近世陶磁1)



第75図 AT 94 II 造構外出土遺物(近世陶磁2)



第76図 AT94 II 造構外出土遺物(鉄製品・土製品)



第77図 AT94 II 造構外出土遺物(古錢)

6. 小結

第1次調査では「館跡」の範囲確認のために2ヶ所のトレンチ調査を実施した。そのため調査面積が狭いこと也有って、そこから得られた情報はわずかで、推定される部分が多い。しかし、第一地区で検出された館の区画を示すと推される堀（SD03）の検出は、館の範囲がある程度推測可能なものとなり、大きな成果であった。来年度以降の調査地点の選定に大きな指針を示すものである。

遺物、遺構の変遷に関する詳細は第VI章考察に譲るとして、ここでは以下、2地区の中世遺構に関する注目される成果を述べる。

〈第一地区〉

第一地区は当初、館の主体部の確認調査として実施されたが、調査の結果、上端幅2.2m～2.5m、下端幅2.1m～2.3m、深さ30cm～40cmの東西方向に伸びる堀（SD03）を検出した。このSD03堀は第二地区的調査成果とも合わせて考慮すると、北側に想定される館を区画する南堀であると推定することが可能となった。また、SD03堀の方位は十三湊を南北に分断する大土塁とも方位をほぼ同じくしており、SD03堀は中世十三湊の計画的な遺構配置時期に構築されたものと推される。

〈第二地区〉

第二地区は当初、館を区画する堀の確認調査、及び館と大土塁との間がどのような遺構の配置、利用状況が見られるかを目的として南北に長いトレンチ調査を実施した。調査の結果、堀跡は検出されず、区画遺構1・2としたそれぞれ2時期の変遷を持つ櫛型区画の東西道路敷と推される遺構が検出された。これらは第一地区で検出されたSD03堀と十三湊の大土塁とも方位を同じくしており、中世十三湊の計画的な遺構配置時期と重なるものである。区画遺構1・2の道路敷間にには多数のピット群、規模の小さな土坑群、井戸跡が検出されている。このことから、区画遺構1・2とした道路間には掘立柱建物に井戸を伴う屋敷地としての居住空間が想定される。また、小規模な廃棄土坑が多く検出されたことは当地が生活空間として活発に利用されていた状況が伺える。

遺構・遺物計測表

—1994年度 第1次調査—

〈遺構〉

- 1, AT94I SA柱穴列計測表
- 2, AT94I SA布掘り溝・SD溝計測表
- 3, AT94I SA布掘り溝ピット計測表
- 4, AT94I SK土坑計測表
- 5, AT94I SP柱穴計測表
- 6, AT94II SD溝状集石遺構(近世)計測表
- 7, AT94II SB掘立柱建物計測表
- 8, AT94II SA柱穴列計測表
- 9, AT94II SI堅穴遺構計測表
- 10, AT94II SA布掘り溝・SD溝計測表
- 11, AT94II SA布掘り溝ピット計測表
- 12, AT94II SE井戸計測表
- 13, AT94II SK土坑計測表
- 14, AT94II SP柱穴計測表

〈遺物〉

- 15, AT94I 出土遺物計測表
- 16, AT94II 出土遺物計測表
- 17, AT94II 井戸出土遺物の共伴関係一覧表
- 18, AT94II 土坑出土遺物の共伴関係一覧表
- 19, AT94I 出土遺物集計表
- 20, AT94II 出土遺物集計表
- 21, AT94 出土貿易陶磁一覧表
- 22, AT94 出土珠洲一覧表
- 23, AT94 出土瀬戸一覧表

凡　　例

〈遺構計測表〉

番　号：報告書での通し番号

整　理：調査時の遺構番号

グリッド X・Y：1 m 単位の座標で遺構の位置を北東コーナーの座標で表した。

●は国産陶器・土器、○は貿易陶磁器、▲は鉄製品、■その他（近世陶磁器を含む。）で表した。

備　考：遺構の切り合い関係は>、<の記号で表した。切り合い関係の不明なものについては、遺構=遺構？と表した。

〈遺物計測表〉

番　号：報告書での通し番号

種　類：青磁、白磁、瀬戸、珠洲、瓷器系などの名称

器　種：碗、皿、すり鉢、盤など用途別の分類

層　位：遺物の出土層位名

レベル：遺物の出土地点の標高

法　量：ここでは多くの略記号を用いている。

略記号で、□=口径、底=底径を示す。数値には、括弧の付かないものは実数、〔 〕内は復元値、() 内は現存長を示している。

個体数：口縁部計測法による個体数

備　考：時期別分類、重量、その他を示す。

整　理：調査時の通し番号

〈造構〉

1. A T94 I SA柱穴列計測表

造構No	柱間	総長(cm)	総長(尺)	主軸方位	備考
SA02	3	588	19.4	N-83.0'-W	SK01>SA02>SD03、第16回
SA03	2	386	12.8	N-88.0'-W	第17回

2. A T94 I SA布掘り溝・SD溝計測表

No	箇所	形状	断面	幅員	平均	深さ	主軸方位	記述	備考
SA01	1-A01	183	30	21	25.5	13.8	N-78.0'-W	●	SP47・SK06>SA01>SK01・SD03
SD04	1-D04	181	31	26	28.5	10.3	N-64.0'-W		

3. A T94 I SA布掘り溝ピット計測表

No	箇所	平面形	長径	短径	深さ	底面形状	
SA01	P1	1-A01-1	円形	19	17	18	0.882
	P2	1-A01-2	円形	6	6	17	1.633
	P3	1-A01-3	円形	10	9	8	0.969
	P4	1-A01-4	椭円形	24	20	40	0.953
	P5	1-A01-5	円形	10	10	6	1.065
	P6	1-A01-6	*	15	8	9	0.915
	P7	1-A01-7	椭円形	26	22	12	0.909
	P8	1-A01-8	円形	8	7	4	0.992

4. A T94 I SK土坑計測表

No	箇所	X	Y	平面形	長径	短径	深さ	底面形状	堆土	出土遺物	備考
SK01	1-K01	75.26	19.76	*	122	70	22	0.959	10YR2/3砂質		SA01>SK01>SP54・SP66 ・SP67
SK02	1-K02	75.16	19.86	*	119	36	8	1.048	10YR3/2砂質		SK03>SK02>SK04・SD03
SK03	1-K03	75.16	19.88	*	200	75	73	0.507	第21回		SK02>SK03・SK04・SD03
SK04	1-K04	75.14	19.85	方形	99	98	14	0.941	第21回		SP56・SK02・SK03>SK04
SK05	1-K05	75.18	19.88	*	110	40	300	10YR2/3砂質			SK05>SK03・SD03
SK06	1-K06	75.24	19.80	円形	86	77	16	0.922	第15回		SK06>SA01・SD03
SK07	1-K07	75.14	19.82	*	110	86	39	0.722	第21回	●▲, 木質	SP12>SK08>SD03
SK08	1-D02	75.26	19.88	*	337	53	21	0.945	第22回	●▲▲, 木炭	

5. A T 94 I S P 柱穴計測表

No.	番号	X	Y	平面形	長径	短径	傾き	透視レベル	壤土	出土遺物	備考
SP01	I-P01	75.28	19.74	*	24	19	20	0.873	7.5YR2/2秒質		
SP02	I-P02	75.26	19.74	*	55	21	20	0.978	7.5YR3/2秒質	SP02>SP56	
SP03										欠番	
SP04	I-P04	75.26	19.78	円形	36	31	21	1.017	10YR3/4秒質	SP04>SD03	
SP05	I-P05	75.26	19.78	*	28	11	8	1.043	7.5YR3/1秒質		
SP06	I-P06	75.26	19.78	円形	25	22	23	0.916	10YR2/3秒質		
SP07	I-P07	75.26	19.80	円形	27	25	26	1.005	10YR2/2秒質	SP06>SP07>SD03	
SP08	I-P08	75.26	19.80	円形	32	31	26	0.973	10YR3/2秒質	SP08>SP07	
SP09										欠番	
SP10	I-P10	75.26	19.82	円形	22	21	13	1.034	10YR3/2秒質		
SP11	I-P11	75.24	19.86	橢円形	22	16	10	1.025	2.5YR3/2秒質	SP11>SD03	
SP12	I-P12	75.24	19.86	円形	35	33	19	0.967	7.5YR2/3秒質	底面に石1. SP12>SK08 +SD03	
SP13	I-P13	75.22	19.84	橢円形	73	54	27	0.925	5YR3/1秒質	▲ 木炭	SP14>SP13>SD03
SP14	I-P14	75.22	19.84	方形	51	48	11	1.052	5YR3/1秒質	●	SP14>SK05 + SD03
SP15	I-P15	75.20	19.74	不整格円	48	46	30	0.859	5YR3/1秒質	▲▲	SP15>SD03
SP16	I-P16	75.20	19.76	円形	36	35	27	0.925	5YR3/2秒質		SP16>SD03
SP17	I-P17	75.22	19.76	不整格円	61	41	7	1.117	5YR3/1秒質		SP17>SD03
SP18	I-P18	75.20	19.74	*	48	12	14	1.001	5YR2/1秒質		SP18>SD03
SP19	I-P19	75.20	19.76	円形	9	8	3	1.129	7.5R2/3秒質		SP19>SD03
SP20	I-P20	75.20	19.76	橢円形	11	6	4	1.136	10R2/1秒質		SP20>SD03
SP21	I-P21	75.18	19.76	橢円形	34	26	7	1.114	5YR3/2秒質		SP21>SD03
SP22	I-P22	75.18	19.76	橢円形	50	38	17	1.020	5YR3/2秒質		SP22>SP23 + SD03
SP23	I-P23	75.18	19.78	円形	38	34	9	1.089	5YR3/2秒質		SP22>SP23>SD03
SP24	I-P24	75.20	19.78	方形	55	39	15	1.042	5YR3/1秒質		SP24>SD03
SP25	I-P25	75.18	19.78	円形	22	18	25	0.924	5YR4/1秒質		
SP26	I-P26	75.18	19.80	円形	31	30	33	0.828	10YR3/2秒質		SP26>SD03
SP27	I-P27	75.18	19.80	橢円形	12	10	6	1.078	7.5YR3/1秒質		
SP28	I-P28	75.18	19.80	円形	27	23	14	0.994	5YR2/1秒質		底面にL2. SP28>SD03
SP29	I-P29	75.18	19.88	橢円形	36	28	13	1.004	2.5YR3/1秒質	▲ 木炭	底面に石1. SP29>SD03
SP30	I-P30	75.18	19.74	*	28	20	27	0.858	7.5YR3/1秒質		
SP31	I-P31	75.18	19.76	*	25	10	24	0.899	7.5YR2/3秒質		
SP32	I-P32	75.16	19.76	円形	39	30	17	0.979	10YR2/1秒質		
SP33	I-P33	75.16	19.78	円形	20	18	14	1.055	7.5YR2/2秒質		
SP34	I-P34	75.16	19.78	円形	21	20	7	1.098	7.5YR2/3秒質		SP35>SP34
SP35	I-P35	75.16	19.78	円形	26	24	20	0.975	7.5YR2/3秒質		SP35>SP34
SP36	I-P36	75.16	19.78	円形	20	19	25	0.934	10YR2/3秒質		
SP37	I-P37	75.16	19.78	円形	24	21	17	1.012	10YR2/1秒質	木炭	
SP38	I-P38	75.16	19.80	円形	20	17	22	0.945	10YR2/3秒質		
SP39	I-P39	75.16	19.80	方形	25	24	15	1.029	7.5YR3/1秒質		
SP40										欠番	
SP41	I-P41	75.16	19.82	円形	18	16	19	0.949	10YR2/3秒質		
SP42	I-P42	75.14	19.80	円形	24	23	24	0.928	10YR2/1秒質		SP57>SP42=SP59?

N	整理番号	X	Y	平面形	長径	短径	深さ	断面形状	埋土	出土遺物	備考
SP43	1-P43	75.14	19.80	不整方形	70	56	24	0.945	10YR2/2砂質		
SP44	1-P44	75.16	19.84	円形	26	22	18	0.968	10YR2/3砂質	木炭	底面に木炭1
SP45	1-P45	75.22	19.76	円形	43	29	41	0.766	10YR2/1砂質		SP45>SD03
SP46	1-P46	75.18	19.84	円形	46	46	18	0.945	10YR2/3砂質		SP46>SD03
SP47	1-P47	75.24	19.78	円形	32	28	21	0.993	7.5YR2/1砂質		SP47>SA01・SD03
SP48	1-P48	75.16	19.82	円形	14	14	9	0.984	10YR2/2砂質		
SP49	1-P49	75.16	19.82	円形	17	15	12	0.970	10YR2/2砂質		
SP50	1-P50	75.16	19.84	円形	24	22	34	0.784	10YR2/2砂質		
SP51	1-P51	75.16	19.82	不整橢円	60	25	11	0.975	10YR2/3砂質		
SP52	1-P52	75.26	19.82	方形	19	18	25	0.965	10YR2/2砂質		
SP53	1-P53	75.16	19.80	不整円形	24	21	11	1.047	10YR2/2砂質		
SP54	1-P54	75.16	19.80	円形	9	7	12	1.023	10YR2/3砂質		
SP55										欠番	
SP56	1-P56	75.26	19.74	*	27	13	31	0.866	7.5YR3/2砂質		SP02>SP56
SP57	1-P57	75.14	19.80	*	24	5	8	1.084	10YR2/3砂質		SP42>SP57
SP58	1-P58	75.14	19.86	*	36	26	23	0.928	10YR2/3砂質		底面にG1, SP58>SK04
SP59	1-P59	75.14	19.80	円形	17	14	33	0.819	10YR3/3砂質		SP59>SP42?
SP60	1-P60	75.20	19.76	円形	29	18	11	1.132	7.5YR3/2砂質		SP61>SP60>SD03
SP61	1-P61	75.20	19.76	不整円形	29	19	11	1.079	7.5YR3/2砂質		SP61>SP60・SD03
SP62	1-P62	75.20	19.80	円形	31	27	36	0.956	7.5YR3/2砂質		SP62>SD03
SP63	1-P63	75.18	19.84	不整橢円	51	38	10	0.999	7.5YR3/2砂質		SP63>SD03
SP64	1-P64	75.26	19.76	*	24	16	2	1.163	7.5YR2/1砂質		SK01>SP64
SP65										欠番	
SP66	1-P66	75.26	19.76	楕円形	26	18	30	0.854	10YR2/3砂質		SK01>SP66
SP67	1-P67	75.28	19.76	椭円形	29	14	19	0.924	10YR2/3砂質		SK01>SP67
SP68	1-P68	75.14	19.76	円形	15	14	50	1.049	10YR2/1砂質		
SP69	1-P69	75.20	19.80	椭円形	24	17	22	0.928	10YR2/3砂質		SP69>SD03
SP70	1-P70	75.14	19.80	円形	30	23	16	1.021	10YR2/2砂質		
SP71	1-P71	75.26	19.86	椭円形	47	30	39	0.792	10YR2/3砂質	▲, 木炭	底面に石4, SP71>SD03
SP72	1-P72	75.18	19.80	円形	44	37	5	1.028	10YR2/3砂質	●	底面にG3, SP72>SD03
SP73	1-P73	75.24	19.74	*	28	30	9	1.069	7.5YR3/2砂質	●	SP73>SD03
SP74	1-P74	75.20	19.84	椭円形	43	34	11	0.885	7.5YR3/2砂質	骨片, 木炭	底面に石1, SP74>SD03
SP75	1-P75	75.22	19.74	円形	13	11	1	0.960	5YR3/2砂質		SP75>SD03
SP76	1-P76	75.24	19.75	不整形	50	25	27	0.791	10YR1.7/1砂		SP76>SD03
SP77	1-P77	75.24	19.76	円形	42	34	19	0.861	7.5YR3/1砂質		SP77>SD03
SP78	1-P78	75.22	19.84	円形	15	12	8	0.901			SP78>SD03
SP79	1-P79	75.24	19.84	*	24	7	37	0.769	7.5YR3/2砂質		SP79>SD03
SP80	1-P80	75.24	19.88	円形	23	17		0.594	10YR3/2砂質		SP80>SD03
SP81	1-P81	75.18	19.86	円形	24	20		0.806	7.5YR2/1砂質	●	底面に石1, SP81>SD03
SP82	1-P82	75.24	19.82	*	25	8	38	0.763			SK06>SP82>SD03
SP83	1-P83	75.14	19.88	*	20		35	0.820	7.5YR3/1砂質		SK02>SP83
SP84	1-P84	75.14	19.88	*	30		20	1.000	7.5YR2/1砂質		

6. A T94II SD 溝状集石造構(近世)計測表

No.	整理No.	突出長	最大幅	最小幅	平均幅	深さ	主軸方位	出土遺物	備考
SD01	2-ID03	220	44	21	32.5	4	N-18.7°-E	▲▲▲▲■■	
SD02	2-ID04	448	51	15	33	9.3	N-19.0°-E	■■■■■■■■■■	
SD03	2-ID05	208	62	23	42.5	11.9	N-20.0°-E	■	

7. A T94II SB 捩立柱建物計測表

造構No.	柱間 柱間	梁行 柱間	柱行長 (cm)	柱行長 (尺)	梁行長 (cm)	梁行長 (尺)	平面積 (m ²)	主軸方位	備考
SB01	2	2	418	13.8	442	14.6	18.47	N-12.0°-E	SK28>SB01=SK20?, 第34回

8. A T94II SA 柱穴列計測表

造構No.	柱間	總長(cm)	總長(尺)	主軸方位	備考
SA11	2	357	11.8	N-1.0°-W	SP018>SA11, 第34回
SA12	4	1009	33.3	N-9.0°-E	SA12>SP086・SK07・SK15, SA12=SK11?, 第35回
SA13	2	296	9.8	N-78.5°-W	SK43>SA13>SD03, 第36回

9. A T94II SI 穴空造構計測表

No.	整理No.	X	Y	平面形	長径	短径	深さ	底面レベル	埋土	出土遺物	備考
SI01	2-B05	74.42	18.92	*	273	62	34	1.065	第40回	○	

10. A T94II SA 布掘り溝・SD 溝計測表

No.	整理No.	突出長	最大幅	最小幅	平均幅	深さ	主軸方位	出土遺物	備考
SA01	2-D02	960	37	19	28	26.1	N-9.0°-E	●▲■	SA01>SK29・SK32・SK34・SA02・SA10, SA01=SA03?
SA02	2-D05	484	48	15	31.5	19.7	N-78.0°-W	○	SP025・SA01>SA02>SA01
SA03	2-D06	466	81	20	50.5	15.5	N-78.0°-W	●●	SP036・SK26>SA03=SA01?
SA04	2-D07	186	49	34	41.5	20.3	N-78.0°-W	○	SP038・SP039・SP041・SK43>SA05>SP030
SA05	2-D08	496	45	18	31.5	26.6	N-83.0°-W	●	SP031・SK02・SD03
SA06	2-D14	402	59	34	46.5	16	N-81.0°-W	○	SA06>SK22・SK38, SA06=SA07?
SA07	2-D15	498	45	36	40.5	32	N-80.0°-W	●	SP102・SE02>SA07=SA06?
SA08	2-D16	498	88	55	71.5	33.7	N-79.0°-W	●▲	SE02>SA08
SA09	2-D17	492	55	27	41	25.4	N-80.0°-W	●○	SP117>SA09>SP118, SA09=SD07?
SA10	2-D26	480	27	14	20.5	16	N-78.0°-W	●	SK05・SA01・SA02>SA10>SP028・SD02
SD01	2-D03	222	16	15	15.5	12.1	N-4.0°-E	○	SP098・SP112>SD01>SP017
SD02	2-D04	84	32	16	24	13.4	N-4.0°-E	○	SP021・SA10>SD02=SK29?
SD03	2-D09	38	36	30	33	36.3	N-4.0°-E	○	SP42・SA05>SD03
SD04	2-D10	140	19	10	14.5	8.1	N-19.0°-E	○	SD04=SK11?
SD05	2-D11	128	18	10	14	5.3	N-14.0°-E	○	SD05=SK27?
SD06	2-D12	50	14	11	12.5	10.9	N-88.0°-W	○	SD06=SK07?
SD07	2-D18	239	40	15	27.5	32	N-11.0°-E	○	SP58>SD07=SK37・SA02?

11. A T94II SA布掘り溝ビット計測表

	No.	箇所No.	平面形	長径	短径	深さ	底面形状
SA81	P1	2-D02-01	円形	9	8	6	1.134
	P2	2-D02-02	円形	19	17	21	0.909
	P3	2-D02-03	円形	7	6		1.191
	P4	2-D02-04	橢円形	18	11	8	1.065
	P5	2-D02-05	円形	6	5	8	1.068
	P6	2-D02-06	橢円形	12	6	5	1.094
	P7	2-D02-07	橢円形	9	5	6	1.090
	P8	2-D02-08	円形	8	7	13	0.929
	P9	2-D02-09	橢円形	10	6		1.067
	P10	2-D02-10	円形	6	5	1	1.128
	P11	2-D02-11	橢円形	10	6	5	1.091
	P12	2-D02-12	橢円形	13	8		1.187
	P13	2-D02-13	円形	8	7		1.185
	P14	2-D02-14	円形	7	6		1.192
	P15	2-D02-15	橢円形	12	8		1.155
	P16	2-D02-16	円形	7	6	10	1.038
	P17	2-D02-17	橢円形	12	7	9	1.047
	P18	2-D02-18	円形	7	6	15	1.067
	P19	2-D02-19	円形	8	7	7	1.064
	P20	2-D02-20	円形	8	7	3	1.123
	P21	2-D02-21	円形	10	9	18	0.978
	P22	2-D02-22	橢円形	10	7		1.217
	P23	2-D02-23	円形	9	9	6	0.984
	P24	2-D02-24	円形	17	14	9	0.952
	P25	2-D02-25	円形	8	8		
SA82	P1	2-D05-01	円形	8	6	2	1.235
	P2	2-D05-02	円形	13	12	36	0.886
	P3	2-D05-03	橢円形	16	13	7	1.080
	P4	2-D05-04	円形	7	6	7	1.116
	P5	2-D05-05	円形	6	5	9	1.098
	P6	2-D05-06	円形	6	6	9	1.098
	P7	2-D05-07	円形	6	5	11	1.080
	P8	2-D05-08	円形	8	6	2	1.074
	P9	2-D05-09	橢円形	26	10	15	0.956
	P10	2-D05-10	円形	23	21		
	P11	2-D05-11	円形	24	21		
SA83	P1	2-D06-01	橢円形	28	16	26	0.974
	P2	2-D06-02	橢円形	30	17	46	0.839
	P3	2-D06-03	*	15	8	23	1.036
	P4	2-D06-04	円形	13	12	13	1.059
	P5	2-D06-05	橢円形	19	13	11	1.047
	P6	2-D06-06	方形	28	22	14	1.050
	P7	2-D06-07	橢円形	34	12	29	0.937
	P8	2-D06-08	円形	20	16		
	P9	2-D06-09	*	9	9	24	0.836
	P10	2-D06-10	円形	18	15	3	1.040
	P11	2-D06-11	不要形	60	14	23	0.907
	P12	2-D06-12	橢円形	23	19	11	1.074
	P13	2-D06-13	*	24	15	13	1.114
	P14	2-D06-14	橢円形	33	20	37	0.793
	P15	2-D06-15	円形	10	8	8	0.976

	No.	箇所No.	平面形	長径	短径	深さ	底面形状
SA83	P16	2-D06-16	円形	6	4	8	1.026
	P17	2-D06-17	円形	4	3	7	1.039
	P18	2-D06-18	橢円形	29	18	20	0.906
SA84	P1	2-D07-01	円形	14	10	9	1.080
	P2	2-D07-02	円形	6	5	2	1.156
	P3	2-D07-03	橢円形	15	8	8	1.066
	P4	2-D07-04	橢円形	17	11	13	1.066
	P5	2-D07-05	橢円形	30	17	18	0.969
SA85	P1	2-D08-01	円形	13	12		
	P2	2-D08-02	橢円形	12	10	35	1.025
	P3	2-D08-03	円形	9	9	14	1.107
	P4	2-D08-04	橢円形	15	12	9	0.964
	P5	2-D08-05	橢円形	21	12	10	0.929
SA86	P1	2-D14-01	*	25	10	12	1.216
	P2	2-D14-02	橢円形	40	26	48	0.872
	P3	2-D14-03	橢円形	15	8	17	1.141
	P4	2-D14-04	円形	24	23	26	1.014
SA87	P1	2-D15-01	不要形	30	12	16	1.165
	P2	2-D15-02	円形	16	9	17	1.146
	P3	2-D15-03	橢円形	15	13	5	1.079
	P4	2-D15-04	円形	16	16	31	0.819
	P5	2-D15-05	円形	10	10	12	1.054
	P6	2-D15-06	橢円形	21	16	22	1.041
	P7	2-D15-07	円形	21	21	18	1.031
SA88	P1	2-D16-01	橢円形	31	20	37	0.659
	P2	2-D16-02	円形	35	30	1	1.033
	P3	2-D16-03	円形	13	12	10	0.906
	P4	2-D16-04	橢円形	26	15	15	1.186
SA89	P1	2-D17-01	橢円形	28	21	20	0.991
	P2	2-D17-02	円形	38	31	30	1.060
	P3	2-D17-03	橢円形	27	21	14	1.115
	P4	2-D17-04	橢円形	23	18	8	1.172
	P5	2-D17-05	橢円形	23	18	19	1.054
	P6	2-D17-06	橢円形	30	15	16	1.089
	P7	2-D17-07	円形	7	5		
SA90	P1	2-D26-01	*	5	5	1	1.210
	P2	2-D26-02	橢円形	6	4	3	1.217
	P3	2-D26-03	円形	9	7		
	P4	2-D26-04	円形	6	5	2	1.229
	P5	2-D26-05	橢円形	11	7	4	1.224
	P6	2-D26-06	円形	5	4	2	1.245
	P7	2-D26-07	円形	10	9	2	1.208
	P8	2-D26-08	円形	8	8	3	1.198
	P9	2-D26-09	円形	8	7	1	1.194
	P10	2-D26-10	円形	10	8	3	1.178
	P11	2-D26-11	円形	10	9	3	1.162
	P12	2-D26-12	円形	12	11	4	1.167

12. A T94II S E 井戸計測表

No	範囲%	X	Y	平面形	長径	短径	深さ	底面形状	埋土	出土遺物	備考
SE01	2	E01	74.66	18.98	方形	229	128	115	0.170	第47回	■■■■■■ ■■■■■■ ●●●●●● ○○▲▲■■ ●●●●●● ○○○■■■
SE02	2-E04	74.14	18.98	円形	247	216	99	0.465	第49回	- SK32 > SE01 > SP014 SE02 > SA07 - SA08	
SK03	2-X03	74.26	18.94	不整円形	176	156	96	0.440	第51回	SK06 > SE03 > SK12 + SK18	

13. A T94II SK 土坑計測表

No.	座標	X	Y	平面形	長径	短径	深さ	底面形状	壁上	出土遺物	備考
SK01	2-K01	74.62	19.00	*	72	48	7	1.209			
SK02	2-K02	74.48	18.92	*	72	57	29	1.160		SA05 > SK02 > SP030	
SK03	2-K03	74.20	19.00	円形	97	77	38	1.056		SK03 > SK38	
SK04	2-K04	74.56	18.92	*	86	45	35	1.019		底面に石1	
SK05	2-K05	74.58	18.98	円形	81	72			7.5YR3/2砂質	底面に石3, SK05 > SA10	
SK06	2-K06	74.22	18.94	不整方形	122	114	53	0.846		底面に石1, SP063 > SK96 > SE03	
SK07	2-K07	74.44	19.00	*	171	24	12	1.225		SP040 > SK07 - SD06 ?	
SK08	2-K08A	74.44	18.92	*	87	43	22	1.204	7.5YR3/2砂質	底面に石2	
SK09	2-K09	74.34	18.94	不整円形	107	100	41	0.999	第58回	○○○▲▲	底面に石1
SK10	2-K10	74.52	18.94	不整方形	151	120	44	0.906	第56回	●●●●	SK33 - SA03 > SK10
SK11	2-K11	74.32	19.00	小整円形	194	173	26	1.097	第57回	○○	SK11 - SP024 - SD04 ?
SK12	2-K12	74.30	18.92	*	140	98	16	1.241			SE03 > SK12
SK13	2-K13	74.30	18.98	椭円形	93	66	31	1.077	第57回		
SK14	2-K14	74.28	18.98	不整橢円	88	43	41	0.970	7.5YR3/2砂質		
SK15	2-K15	74.28	19.00	椭円形	108	58	26	1.115	7.5YR3/2砂質		SK071 > SK15
SK16	2-K16	74.39	19.00	*	77	43	38	0.994			
SK17	2-K17	74.28	19.00	*	92	29	45	0.938			
SK18	2-K18	74.26	18.96	*	199						
SK19	2-K19	74.22	19.00	不整橢円	123	83	29	1.026	第58回	▲	
SK20	2-K20	74.62	18.92	*	64	58	16	1.216			SK20 - SP122 ?
SK21	2-K21	74.66	18.92	*	59	29	13	1.260			
SK22	2-K22	74.18	18.94	円形	96	92	26	1.166			SA06 > SK22 > SP100
SK23	2-K23	74.08	18.92	*	86	18	45	1.006			
SK24	2-K24	74.08	18.96	円形	94	90	32	1.167	10YR3/3砂質		
SK25	2-K25	74.04	19.00	*	86	49	13	1.355	第59回	●	
SK26	2-K26	74.52	18.96	円形	72	65	16	1.130	7.5YR3/2砂質		SK26 > SA03
SK27	2-K27	74.26	18.98	不整橢円	129	94	34	0.928	第60回		SP073 > SK27 - SD05 ?
SK28	2-K28	74.66	18.94	不整方形	158	72	28	1.127			SK28 > SP121
SK29	2-K29	74.60	18.94	*	78	48	28	1.112			SA01 - SP021 > SK29 = SD02 ?
SK30											欠番
SK31											欠番
SK32	2-E02	74.64	18.96	円形	121	112	54	0.738	第61回	▲	SA01 > SK032 > SE01
SK33	2-E03	74.50	18.96	不整方形	141	101	64	0.641	第58回	●●	SP038 - SP039 > SK33 > SK16
SK34	2-E05	74.56	18.94	*	123	110	46	0.665	第62回	○	底面に石2, SA01 > SK34
SK35											欠番
SK36											欠番
SK37	2-X04	74.04	18.96	*	203	111	54	0.828	第59回	●	SD07 - SK37 ?
SK38	2-X05	74.18	18.96	*	180	72	24	1.144	第63回	●○	SP102 - SP116 - SK03 - SA06 - SA07 > SK38
SK39	2-X06	74.20	18.92	椭円形	95	72	20	1.199	第64回	●	底面に石1, SP076 > SK39
SK40											欠番
SK41											欠番
SK42	2-B04A	74.42	18.96	*	160	100	21	1.170			SP045 - SP049 - SK43 > SK42
SK43	2-B04B	74.44	18.96	不整方形	293	92	39	0.946	第65回	●, 本皮	底面に石2, SP015 - SP049 > SK43 > SP023 - SK42 + SA65
SK44	2-P058	74.40	18.98	椭円形	77	62	35	0.968			
SK45	2-P059	74.40	18.96	不整円形	98	81	11	1.265	7.5YR3/2砂質		
SK46	2-K06B	74.26	19.00	*	86	60	10	1.296	第66回	●	SP074 > SK46

14. A T94II S P柱穴計測表

No.	測定番号	X	Y	平面形	長径	短径	厚さ	面積	埋土	出土遺物	備考
SP001	2-P001	74.72	18.94	*	29	24	27	1.654			
SP002	2-P002	74.72	18.94	円形	38	37	35	0.985	7.5YR3/1秒質	●●	
SP003	2-P003	74.72	18.92	円形	16	15	9	1.247			
SP004	2-P004	74.72	18.98	円形	29	27	22	1.670	7.5YR3/2秒質		
SP005	2-P005	74.72	18.96	円形	29	26	35	0.942	7.5YR3/2秒質		
SP006	2-P006	74.72	19.00	橢円形	37	31	14	1.564	7.5YR3/1秒質		
SP007	2-P007	74.70	18.98	不規則円形	38	29	11	1.199	7.5YR3/1秒質		
SP008	2-P008	74.70	18.94	円形	46	42	45	0.888	7.5YR3/1秒質	SP007>SP010	
SP009	2-P009	74.70	18.94	円形	26	22	28	1.050	7.5YR3/1秒質	底面にF5	
SP010	2-P010	74.70	18.98	*	34	25	39	0.928			
SP011	2-P011	74.70	18.98	不規則円形	24	23	18	1.126	7.5YR3/2秒質	SP007>SP010	
SP012	2-P012	74.68	18.94	円形	41	32	59	0.770			
SP013	2-P013	74.70	19.00	円形	29	27	35	0.965	7.5YR3/2秒質	底面にE51, SP012>SP016	
SP014	2-P014	74.66	18.96	円形	34	16	24	1.121			
SP015	2-P015	74.42	18.98	円形	40	38	15	1.167			
SP016	2-P016	74.68	18.94	*	40	20	18	1.171	10YR3/2秒質	SP014>SE01	
SP017	2-P017	74.68	18.92	橢円形	35	24	26	1.178			
SP018	2-P018	74.68	18.92	円形	25	22	18	1.184	7.5YR3/2秒質	SP016>SP009	
SP019	2-P019	74.64	18.98	橢円形	23	14	16	1.150			
SP020	2-P020	74.60	18.98	円形	29	28	9	1.138			
SP021	2-P021	74.60	18.94	円形	25	22	50	0.892			
SP022	2-P022	74.66	18.96	方形容	32	32	16	1.136	10YR3/2秒質	SP001>SK29+SD02	
SP023	2-P023	74.46	18.96	円形	24	21	42	0.886			
SP024	2-P024	74.34	19.00	橢円形	65	36	56	0.801			
SP025	2-P025	74.58	18.92	*	33	14					
SP026	2-P026	74.60	18.92	*	26	21	2	1.261	7.5YR3/2秒質	SP024>SK11?	
SP027	2-P027	74.60	18.92	円形	30	28	11	1.254	7.5YR3/2秒質	SP025>SA02	
SP028	2-P028	74.56	18.96	*	33	33	17	1.230			
SP029	2-P029	74.58	19.00	円形	39	35	9	1.198	7.5YR3/2秒質	SA10>SP028	
SP030	2-P030	74.48	18.92	*	45	43	9	1.254			
SP031	2-P031	74.46	19.00	*	49	25	1	1.218			
SP032	2-P032	74.46	18.92	*	52	15	15	1.256			
SP033	2-P033	74.56	18.96	円形	29	25	33	0.981	10YR3/2秒質	SA05>SP031	
SP034	2-P034	74.46	18.92	Pt0	30	28	28	1.110			
SP035	2-P035	74.44	18.94	円形	23	21	37	0.986			
SP036	2-P036	74.54	18.92	*	49	38	31	1.033			
SP037	2-P037	74.50	19.00	不規則方形	45	37	41	0.832	7.5YR3/2秒質	底面に石1, SP036>SA03	
SP038	2-P038	74.48	18.94	橢円形	50	34	46	0.873	7.5YR3/2秒質	底面に石1	
SP039	2-P039	74.48	18.96	橢円形	42	30	34	0.974	7.5YR3/2秒質	SP038>SA05+SK33	
SP040	2-P040	74.48	19.00	円形	12	11	23	0.994			
SP041	2-P041	74.46	18.98	橢円形	50	33	31	0.990			
SP042	2-P042	74.46	18.94	円形	34	28	11	1.257	7.5YR3/2秒質	SP041>SA06	
SP043	2-P043	74.44	18.92	橢円形	42	31	40	1.061	7.5YR3/2秒質	SP042>SE03	
SP044	2-P044	74.44	18.94	円形	29	28	58	0.876	7.5YR3/2秒質		
SP045	2-P045	74.44	18.94	円形	32	26	37	0.989			
SP046	2-P046	74.40	19.00	*	36	35	38	0.993			
SP047	2-K047	74.40	18.92	円形	38	35	17	1.220	7.5YR3/1秒質	SP045>SK42	
SP048	2-P048	74.40	18.94	橢円形	43	34	42	0.972			
SP049	2-P049	74.42	18.96	橢円形	25	21	19	1.171			
SP050	2-P050	74.40	18.96	円形	35	34	45	0.869	7.5YR3/2秒質	SP049>SK42+SK43	
SP051	2-P051	74.40	19.00	*	21	19	10	1.264			
SP052	2-P052	74.38	18.96	円形	50	48	44	0.912	7.5YR3/2秒質		
SP053	2-P053	74.30	18.96	円形	47	43	43	0.957			
SP054	2-P054	74.38	18.96	円形	25	24	43	0.918	7.5YR3/2秒質		
SP055	2-P055	74.38	19.00	円形	35	32	37	0.951	7.5YR3/2秒質		
SP056	2-P056	74.36	19.00	円形	43	39	49	0.832			
SP057	2-P057	74.30	18.96	円形	26	15	25	1.154			
SP058	2-P1131	74.10	18.96	円形	39	38	30	1.186	7.5YR3/2秒質	底面に石1	
SP059	2-P058B	74.64	18.92	円形	29	18	15	1.212			
SP060	2-P060	74.38	18.94	橢円形	42	32	16	1.240			
SP061	2-P061	74.36	18.92	円形	22	20	8	1.288			
SP062	2-P062	74.32	18.92	*	63	32	36	1.009			

No	整理No	X	Y	平面形	長径	短径	深さ	面積・ペル	埋土	出土遺物	備考
SP063	2-P063	74.36	18.94	円形	46	34	43	0.986	7.5YR3/2砂質	▲	底面に石1 背面に石2。 SP062>SP064
SP064	2-P064	74.32	18.92	円形	45	38					
SP065	2-P065	74.32	18.92	円形	23	20	29	1.090			
SP066	2-P066	74.32	18.94	*	42	22	46	0.928			
SP067	2-P067	74.34	18.94	方形	42	30	45	0.936	7.5YR3/2砂質		
SP068	2-P068	74.32	18.94	円形	34	33	46	0.988	7.5YR3/2砂質		
SP069	2-P069	74.36	18.92	方形	42	24	49	0.994			
SP070	2-P070	74.30	18.94	円形	42	37	43	0.923	7.5YR3/2砂質		
SP071	2-P071	74.30	18.98	不規則円	59	46	16	1.221	7.5YR3/2砂質		底面にG1。 SP071>SK15
SP072	2-P072	74.28	19.00	*	77	18		67	0.717		SP072>SK17
SP073	2-P073	74.26	18.98	椭円形	53	42	51	0.877	7.5YR3/2砂質		SP072>SK27
SP074	2-P074	74.26	19.00	不規則円	47	43	29	1.100	7.5YR3/2砂質		底面に石1。 SP074>SK46
SP075	2-P075	74.24	18.98	円形	29	28	49	1.018	7.5YR3/2砂質		
SP076	2-P076	74.22	18.92	円形	17	15	33	1.074			SP076>SK39
SP077	2-P077	74.26	18.96	不規則円	46	41	33	1.045			
SP078	2-P078	74.24	18.96	円形	51	41	36	1.025	7.5YR3/2砂質		
SP079	2-P079	74.22	18.98	円形	28	27	21	1.193			底面に石1
SP080	2-P080	74.62	18.96	円形	32	31	25	1.071	7.5YR3/1砂質		
SP081	2-P081	74.28	18.94	不規則円	41	35	28	1.095			SP081>SK18
SP082	2-P082	74.28	18.94	不規則円	46	44	35	1.031			SP082>SK18
SP083	2-P083	74.24	18.92	不規則円	46	33	38	1.120			SP083>SK96
SP084	2-P084	74.22	18.98	椭円形	36	23	42	0.985			SP084>SP96
SP085	2-P085	74.64	18.92	円形	34	31	21	1.150	7.5YR3/2砂質		
SP086	2-P086	74.22	18.98	*	56	29	10	1.316			SP086>SP96
SP087	2-P087	74.64	18.92	*	49	38	52	0.852			SP086>SP97
SP088	2-P088	74.61	18.92	*	34	7			7.5YR3/2砂質		SP088>SP087
SP089	2-P089	74.68	18.92	円形	22	21	28	1.100	10YR3/1砂質		SP089>SP089
SP090	2-P090	74.68	18.96	円形	27	26	43	0.915	7.5YR3/2砂質		
SP091	2-P091	74.68	18.96	椭円形	62	46	36	0.966	7.5YR3/2砂質		底面に石1。 SP091>SE01
SP092	2-P092	74.06	18.94	不規則円	44	29	24	1.252			
SP093	2-P093	74.66	19.00	方形	42	28	22	1.120	2.5YR3/6砂質		SP093>SE01
SP094	2-P094	74.64	18.98	椭円形	32	24	29	1.035	7.5YR3/2砂質		
SP095	2-P095	74.60	19.09	*	29	25	2	1.244			SP095>SP119
SP096	2-P096	74.72	18.98	椭円形	38	26	39	0.924			
SP097	2-P097	74.72	18.98	椭円形	11	7	14	1.169	7.5YR3/3砂質		
SP098	2-P098	74.66	18.92	円形	34	31	14	1.240	7.5YR3/2砂質		SP098>SD01
SP099	2-P099	74.06	18.94	円形	34	32	33	1.047			
SP100	2-P100	74.29	18.94	*	44	36	10	1.369	10YR3/2砂質		SK22>SP100
SP101	2-P101	74.26	18.96	方形	45	26	37	1.045	7.5YR3/2砂質		底面に石1
SP102	2-P102	74.16	19.00	円形	42	39	21	1.199	10YR3/3砂質		底面に石1。 SP102>SA07 + SK38
SP103	2-P103	74.06	18.92	円形	36	29	42	0.947			
SP104	2-P104	74.10	18.94	椭円形	32	26	39	1.307	7.5YR3/2砂質		
SP105	2-P105	74.06	18.96	椭円形	47	37	37	1.112	10YR3/4砂質		
SP106	2-P106	74.06	19.06	円形	30	28	27	1.205	10YR3/3砂質		
SP107	2-P107	74.06	18.98	椭円形	25	25	24	1.223	7.5YR3/3砂質		
SP108	2-P108	74.04	18.98	不規則円	32	27	49	1.048	10YR3/2砂質		SP108>SP109
SP109	2-P109	74.04	19.06	*	44	44	36	1.118	10YR3/2砂質		SP108 + SP111>SP109
SP110	2-P110	74.02	19.00	*	27	9					SP111>SP109
SP111	2-P111	74.04	19.00	不規則円	30	24	25	1.198			SP112>SD01
SP112	2-P112	74.70	18.92	円形	36	33	50	0.844	7.5YR3/1砂質		
SP113	2-P113A	74.70	18.94	円形	41	35	13	1.210	10YR3/1砂質		
SP114	2-P114	74.54	18.98	円形	25	22	18	1.124	10YR3/2砂質		SP114>SE01
SP115	2-P115	74.32	18.96	椭円形	23	15	11	1.184			
SP116	2-P116	74.26	18.98	不規則円	33	17	38	1.045			SP116>SK38
SP117	2-P117	74.30	19.00	円形	48	42	9	1.328			SP117>SA09
SP118	2-P118	74.30	18.96	*	50	25	15	1.346			SA09>SP118
SP119	2-P119	74.72	18.96	*	22	15	25	1.060			SP96>SP119
SP120	2-P120	74.34	18.92	椭円形	40	30	14	1.300			
SP121	2-P121	74.66	18.92	*	47	20					底面に石4。 SK28>SP121
SP122	2-P122	74.62	18.92	円形	41	39	44	0.937			SP122=SK20?

〈遺物〉

15. A T 94 I 出土遺物計測表

番	種類	原種	X	Y	遺構	層位	L-V-L	法堤	断面	備考	整理No
1	青磁	瓶	75.22	19.84	SD03	1層	1.172	底6.2		内底に印花文 貴付を施して	1-094
2	鐵戸	平鏡	75.20	19.86		1層	1.084		鐵戸後I～II期 灰釉		1-079
3	鐵戸	平鏡	75.20	19.82		1層	0.912		鐵戸後III期 鉄輪 2次被覆		1-093a
4	中国	瓶	75.22	19.76		1層	1.126		鐵戸内側鐵輪		1-088
5	銅製品	すり鉢	75.20	19.84		1層	1.021		銅製IV～V期		1-090
6	銅口		75.24	19.74		1層	1.191		外而に漆解物付着		1-088
7	石製品	砾石	75.22	19.86		1層	1.181	共6.5. 幅1.8	52.4g		1-100
8	鐵製品	釘	75.20	19.86		2層	1.068	長(3.3), 幅0.8	3.8g		1-077
9	瓦質土器	火鉢	75.20	19.80		1層	1.186	底〔35.0〕			1-032
10	古銭		75.22	19.76		2層	1.206	底2.3	3.0g 「元祐通寶」(1086年) 打出		1-099a
11	古銭		75.22	19.76		2層	1.206	底2.3	2.6g 「嘉祐通寶」(1063年) 売出		1-099b
12	珠押	すり鉢	75.24	19.76	SA01	1層	1.153	□ [33.0]	0.04	銅製IV期	1-034
13	鐵戸	天目茶碗	75.22	19.84	SP14	埋土	1.150	□ [12.0]	0.17	鐵戸後I期 鉄輪	1-035
14	鐵戸	平鏡	75.18	19.80	SP72	埋土	1.126			鐵戸後I期 灰釉	1-033
15	瓦質土器	火鉢	75.24	19.72	SP73	埋土	1.163				1-069
16	鐵戸	天目茶碗	75.24	19.80	SP62	埋土	0.961			鐵輪	1-086
17	鐵製品	釘	75.22	19.84	SP13	埋土	長(5.6), 幅0.8		3.8g		1-110b
18	鐵製品	釘	75.20	19.74	SP15	埋土	長(4.3), 幅0.5		2.0g		1-108
19	鐵製品	釘	75.20	19.74		埋土	1.091	長(11.3), 幅0.8	64.4g		1-039
20	鐵製品	釘	75.18	19.86	SP29	棺上	1.052	長(18.5), 幅0.9	29.6g		1-038
21	鐵洞	すり鉢	75.14	19.84	SK07	1層	1.042			銅製I期	1-037
22	鐵津		75.14	19.82		1層		長7.6, 幅4.1	88.6g		1-111
23	鐵戸	折縫鏡	75.25	19.84	SK08	2層	1.008	□ [11.0]	0.06	灰釉	1-036
24	鐵製品	釘	75.25	19.74		埋土	長(3.6), 幅0.6		3.2g		1-106c
25	鐵製品	釘	75.25	19.74		埋土	長(3.4), 幅0.9		2.2g		1-106b
26	青磁	碗	75.22	19.78		田層	1.244	□ [15.0]	0.05	龍泉窯D型 外面に施蓮弁文	1-041
27	青磁	碗	75.22	19.88		田層	1.175	□ [16.0]	0.05	龍泉窯D型 外面に施蓮弁文	1-094
28	青磁	碗	75.20	19.89		田層	1.233			龍泉窯D型 外面に施蓮弁文	1-023
29	青磁	碗	75.22	19.78		田層	1.219			内底を施剥ぎ	1-005
30	青磁	碗	75.14	19.80		田層	1.276	□ [15.0]	0.04	龍泉窯D型 無文	1-041
31	青磁	碗	75.24	19.84		田層	1.383	□ [15.0]	0.01	龍泉窯D型 無文	1-058
32	青磁	碗				田層		□ [15.0]	0.06	龍泉窯D型 無文	1-112K
33	白磁	碗				田層				白磁D型	1-115
34	鐵戸	天目茶碗	75.22	19.80		田層	1.284	□ [13.0]	0.05	鐵戸後I期 鉄輪	1-056
35	鐵戸	天目茶碗	75.26	19.86		田層	1.529	□ [12.0]	0.19	鐵戸後II期 鉄輪	1-047
36	鐵戸	天目茶碗	75.20	19.88		田層	1.287			鐵戸後III期 鉄輪 漆化粧	1-050

番	種類	品種	X	Y	遺構	層位	レバ&6	法量	個数	備考	整理No.
37	廻戸	天目茶碗	75.24	19.80	日壇	1.323				廻戸後二期 灰陶 銅化粧	1-052
38	廻戸	平鍋			日壇		□ [16.0]	0.33		廻戸後I～II期 灰陶 I-022, I-023, I-113と整合	1-117
39	廻戸	平鍋	75.16	19.82	日壇	1.198	□ [14.0]	0.09		廻戸後I-II期 灰陶 I-022, I-113, I-117と整合	1-028b
40	廻戸	平鍋	75.22	19.84	日壇	1.234				廻戸後I～II期 灰陶	1-053
41	廻戸	瓶子	75.20	19.78	日壇	1.212	□ [6.0]	0.12		廻戸前III～IV期 灰陶 二次被焼	1-064
42	廻戸	瓶子	75.20	19.78	日壇	1.255				廻戸前III～IV期 灰陶 二次被焼	1-062
43	廻戸	罐	75.22	19.84	日壇	1.177	□ [11.0]	0.14		廻戸後二期 灰陶	1-066
44	廻戸	罐物小皿	75.18	19.80	日壇	1.288	□ [8.0]	0.33		廻戸後二期 灰陶 内面剥離	1-054
45	廻戸	罐物小皿	75.24	19.82	日壇	1.410	□ [16.0]	0.06		廻戸後二期 灰陶	1-060
46	廻戸	罐物小皿	75.18	19.82	日壇	1.146	□ [11.0]	0.08		廻戸後二期 灰陶 内面剥離	1-027
47	廻戸	罐物小皿			日壇		□ [11.0]	0.04		廻戸後二期 灰陶	1-119
48	廻戸	罐物小皿	75.20	19.80	日壇	1.360	底6.0			廻戸後二期 内面剥離付影形: 36, 1-10, トナン底	1-022
49	廻戸	罐物小皿	75.22	19.82	日壇	1.207	底 [4.5]			廻戸後二期 内面剥離付 トナン底I(鉢底)	1-012
50	廻戸	罐物小皿			日壇		底 [6.0]			廻戸後二期 内面剥離付	1-112m
51	廻戸	罐物小皿	75.16	19.82	日壇	1.162	底4.5			廻戸後二期 灰陶 内面ハケ焼付トナン底I	1-010
52	株洲	壺			日壇		□ [12.0]	0.07		株洲IV～V期	1-112a
53	株洲	壺			日壇					株洲IV～V期	1-112e
54	株洲	壺			日壇					株洲IV～V期	1-112f
55	株洲	壺	75.20	19.80	日壇	1.265				株洲IV～V期	1-026
56	株洲	壺			日壇	1.453				株洲IV～V期	1-123
57	株洲	壺			日壇	1.511				株洲IV～V期	1-122
58	株洲	壺			日壇					株洲IV～V期	1-112d
59	株洲	すり鉢	75.18	19.88	日壇	1.010	□ [29.0]	0.05		株洲二期	1-121
60	株洲	すり鉢	75.22	19.76	日壇	1.298	□ [33.0]	0.03		株洲II～III期	1-007
61	株洲	すり鉢	75.18	19.80	日壇	1.257	□ [32.0]	0.04		株洲IV～V期	1-031
62	株洲	すり鉢	75.16	19.82	日壇	1.174	□ [32.0]	0.11		株洲IV～V期	1-024
63	株洲	すり鉢			日壇		□ [36.0]	0.08		株洲V期 口縁裏面に波状文	1-112b
64	株洲	すり鉢			日壇					株洲V期 3片組合	1-126
65	株洲	すり鉢	75.22	19.84	日壇	1.210					1-006
66	株洲	すり鉢			日壇		底 [12.0]			株洲V期	1-112c
67	瓷器系	壺	75.16	19.82	日壇	1.155	底 [18.0]				1-009
68	瓷器系	壺			日壇		□ [16.0]	0.05		外面に草文	1-1121
69	瓷器系	壺	75.18	19.78	日壇	1.233					1-021
70	鉄製品	釘	75.14	19.80	日壇	1.286	長 (3.0), 幅0.5	1.6g			1-043
71	鉄製品	釘	75.22	19.84	日壇	1.256	長 (3.2), 幅0.8	4.4g			1-042
72	鉄製品	釘	75.20	19.78	日壇	1.205	長 (3.5), 幅0.9	4.4g			1-018
73	鉄製品	釘	75.20	19.80	日壇	1.263	長 (4.6), 幅0.9	4.3g			1-044
74	鉄製品	釘	75.22	19.84	日壇	1.198	長 (4.4), 幅0.7	3.8g			1-015
75	鉄製品	釘	75.14	19.80	日壇	1.161	長 (3.9), 幅0.9	3.2g			1-014
76	鉄製品	釘	75.20	19.78	日壇	1.205	長 (5.0), 幅0.9	4.6g			1-017
77	鉄製品	釘	75.16	19.84	日壇	1.122	長 (5.4), 幅1.0	6.6g			1-016

16. AT94II 出土遺物計測表

番	種類	器種	X	Y	遺構	層位	レベル	法量	測定	備考	監視
78	陶器	すり鉢	74.40	19.00	上面	埋土		底 [13.0]			2-276
79	肥前系 唐	すり鉢	74.40	19.00	SX01	埋土	1.552				2-275
80	近世期口	天目茶碗	74.46	18.98	上面	埋土	1.551			丸頭型 鉄輪 17世紀代	2-278
81	肥前系 透	すり鉢	74.44	18.98	SD01	埋土	1.575			鉄輪	2-277
82	鉄製品 釘	釘	74.46	18.98	埋土	1.595	長4.3, 幅0.8	3.0g			2-280a
83	鉄製品 釘	釘	74.46	18.98	埋土	1.596	長4.5, 幅0.6	3.0g			2-280c
84	鉄製品 釘	釘	74.46	18.98	埋土	1.595	長4.4, 幅0.6	1.8g			2-280b
85	鉄製品 釘	釘	74.46	18.98	埋土	1.595	長4.4, 幅0.8	2.8g			2-280d
86	陶器	すり鉢	74.44	19.00	上面	埋土	1.569	□ [30.0]	0.67	埋漬V期 口縁端面に波状文	2-281
87	陶器	すり鉢	74.44	19.00	埋土	1.595	底 [14.0]				2-283
88	陶器	すり鉢	74.45	19.00	埋土	1.589					2-285
89	陶器系 壺	壺	74.44	19.00	埋土	1.584					2-286
90	漆器系 壺	壺	74.36	19.00	SP56	埋土	1.329				2-317a
91	漆器系 壺	壺	74.36	19.00	SP63	埋土	1.329				2-317b
92	漆器系 壺	壺	74.36	19.00	SP63	埋土	1.329				2-317c
93	鉄製品 釘	釘	74.40	18.96	SP58		1.040	長13.9, 幅1.1	69.3g		2-327
94	鉄製品 釘	釘	74.36	18.92	SP63	埋土		長 (8.1), 幅1.3	20.8g		2-323
95	窓戸	平窓	74.70	18.92	SP11	埋土	1.150	底5.0		窓戸後II期 灰胎 輪高台	2-334
96	青磁	小皿	74.40	18.92	SI01	埋土	1.408	□ [11.0]	0.08		2-289
97	陶器	更	74.52		SA03	埋土	1.328				2-340
98	陶器	更	74.52		埋土	1.157					2-337
99	窓戸	縦細小皿	74.58		SA10	埋土	1.325	□ [12.0]	0.13	窓戸後I期 灰胎 内面ハケ重り	2-338
100	窓戸	平窓	74.60	18.94	SA01	埋土	1.274			窓戸後I～二期 灰胎	2-305
101	鉄製品 釘	釘	74.69	18.94	埋土	1.140	長3.1, 幅0.8	2.6g			2-345
102	石製品 砾石	砾石	74.46	18.96	埋土	1.288	長6.7, 幅2.8	32.2g			2-304
103	青磁	碗	74.16		SA07	埋土	1.328			青磁圓D瓶口 無文	2-316
104	窓戸	平窓	74.60	18.94	SA08	埋土	1.397	□ [16.0]	0.07	窓戸後II期 灰胎	2-309
105	鉄製品 釘	釘	74.12		埋土	1.327	長 (8.1), 幅1.0	18.4g			2-324
106	鉄津		74.12		埋土	1.424	長4.6, 幅3.6	27.2g			2-328
107	白磁	皿	74.10		SA09	埋土		□ [10.0]	0.04	白磁皿D群	2-315
108	窓戸	草花式花瓶	74.10	18.94	埋土	1.445				窓戸後I～二期 固物 間隔	2-343
109	鉄製品 釘	釘	74.10	18.94	埋土			長 (9.4), 幅0.8	19.0g		2-331
110	木製品 箸	箸			SE01	埋土	長21.9, 幅0.6				2-361
111	木製品 箸	箸				埋土	長21.2, 幅0.7				2-362
112	木製品 箸	箸				埋土	長 (19.0), 幅0.7				2-363
113	木製品 箸	箸				埋土	長 (15.3), 幅0.7				2-364
114	木製品 箸	箸				埋土	長 (16.2), 幅0.7				2-365
115	木製品 箸	箸				埋土	長 (11.0), 幅0.7				2-366
116	木製品 箸	箸				埋土	長 (7.1), 幅0.7				2-366
117	木製品 箸	箸				埋土	長 (6.3), 幅0.5				2-366
118	青磁	碗	74.14	18.94	SE02	1層	1.212	□ [16.0]	0.06	青磁圓D瓶 無文	2-318
119	白磁	皿	74.14	18.94	1層	1.265	□ [10.0]	0.05		白磁皿D群	2-326
120	窓戸	縦細小皿	74.14	18.94	1層	1.381	□ [11.0], 高 [5.0], 厚 [2.6]	0.05	窓戸後I～IV期 灰胎 内面薙茎で漆付痕		2-320
121	窓戸	平窓	74.12	18.94	1層	1.256				窓戸後I～二期 灰胎	2-297
122	窓戸	四耳壺	74.12	18.94	1層	1.248	底 [13.0]			窓戸中田～IV期 灰胎 平行沈線	2-298
123	陶器	すり鉢	74.14	18.94	埋土						2-294

番	種類	基盤	X	Y	遺構	層位	レバーレ	出土	測定	備考	基準
124	瓦質土器	火鉢	74.14	18.94		埋土	1.413			方形多板文	2-295
125	本製品	釘	74.14	18.94		I層	1.208	長4.4、幅1.0	9.5g		2-325
126	本製品	釘	74.14	18.94		埋土	1.390	長(3.0)、幅1.4	7.2g		2-322
127	本製品	釘子						長(16.9)、幅8.6、厚0.9			2-371
128	青磁	碗	74.26	18.96	SK03	イ層	1.417	IJ [15.0]	0.98	龍泉窯D類 無文 二次被熱	2-290a
129	青磁	碗	74.26	18.96		イ層	1.417			龍泉窯I類か 内面に刻花文	2-290b
130	青磁	碗	74.26	18.94		埋土				龍泉窯I類か 内面に刻花文	2-319
131	窓戸	平鏡	74.26	18.94		口層	0.932	直4.5		窓戸後期 灰陶 トナン模3 錐窓合	2-312
132	窓戸	折縁鏡皿	74.26	18.92		口層	1.038	□ [25.0]	0.04	窓戸後期 灰陶	2-301
133	窓戸	直縁大皿	74.26	18.94		イ層	1.382	□ [31.0]	0.05	窓戸後日～中期 灰陶 二次被熱	2-302
134	青磁	すり鉢	74.26	18.94		イ層	1.299	□ [30.0]	0.06	龍洲IV期	2-303
135	青磁	すり鉢	74.46	18.92		イ層	1.397	I [30.0]	0.06	龍洲IV～V期	2-291
136	本製品	箸				埋土		長(7.5)、幅0.7			2-369
137	本製品	箸				埋土		長(19.5)、幅0.7			2-370
138	青磁	碗	74.34	18.94	SK09	I層	1.223			龍泉窯I類 内面に刻花文	2-306
139	青磁	碗	74.34	18.94		I層	1.233			2-351と要合	2-299
140	中国	茶入	74.34	18.94		I層	1.299			灰陶	2-300
141	本製品	釘	74.34	18.94		I層	1.267	長(7.0)、幅0.8	8.0g		2-329
142	本製品	釘	74.34	18.94		I層	1.348	長(5.3)、幅0.8	4.4g		2-326
143	窓戸	平鏡	74.50	18.94	SK10	埋土		I [12.0]	0.05	窓戸後長期 灰陶	2-292a
144	窓戸	平鏡	74.50	18.92		イ層	1.277	□ [16.0]	0.05	窓戸後日 山型 灰陶	2-342
145	窓戸	四耳壺	74.50	18.92		埋土				窓戸前I～II期 灰陶 つまみ刺繍	2-292b
146	青磁	壺	74.50	18.92		イ層	1.197				2-344
147	窓戸	平鏡	74.50	18.96	SK33	I層	1.233	□ [13.0]	0.06	窓戸後長期 灰陶	2-314
148	青磁系	壺	74.50	18.96		I層	1.233				2-314
149	青磁	碗	74.32	18.98	SK11	I層	1.155	底 [9.0]		内底に印花文 背台内を輪刺ぎ	2-311
150	青磁	碗	74.32	18.98		I層	1.352				2-288
151	本製品	釘	74.22	19.00	SK19	I層	1.335	長(3.8)、幅0.8	3.6g		2-330
152	青磁	壺	74.04	19.00	SK25	I層				龍洲V期	2-293
153	青磁	壺	74.08	18.94	SK37	I層	1.470			龍洲IV～V期	2-313
154	信楽	壺	74.26	19.00	SK46	I層	1.340				2-341
155	本製品	釘	74.62	18.98	SK32	I層	1.288	長(4.8)、幅0.7	6.3g		2-321
156	青磁	碗	74.56	18.94	SK34	I層				龍泉窯D類か 無文	2-310
157	青磁	碗	74.18	18.98	SK38	I層	1.352				2-307
158	青磁	壺	74.18	18.98		I層	1.308				2-308
159	青磁	壺	74.20	18.92	SK39	I層	1.402			龍洲IV～V期	2-338
160	青磁	寸二鉢	74.44	18.98	SK43	I層				龍洲IV期小	2-336
161	青磁	碗	74.64	18.94		II層	1.648	□ [15.0]	0.08	龍泉窯B類 線曲蓮弁文と平行沈線	2-122
162	青磁	碗	74.70	18.94		II層	1.474	I [14.0]	0.04	龍泉窯D類 無文	2-299
163	青磁	碗	74.46	18.98		II層	1.579	I [15.0]	0.01	龍泉窯D類 無文	2-673
164	青磁	碗	74.48	18.92		II層	1.664	□ [16.0]	0.03	龍泉窯D類 無文	2-669
165	青磁	碗	74.70	19.00		II層	1.494	□ [16.0]	0.07	龍泉窯D類捺文	2-192
166	青磁	碗	74.36	18.94		II層	1.583	□ [15.0]	0.07	龍泉窯D類 無文 二次被熱	2-016
167	青磁	碗	74.72	18.95		II層	1.683			龍泉窯I類 内面に草花文	2-977
168	青磁	碗	74.12	19.00		II層	1.492			龍泉窯B類 外底に蓮弁文	2-269
169	青磁	碗	74.18	19.00		II層	1.713	底5.0		内底に波文 豊作も輪刺ぎ 2-135と要合	2-176
170	青磁	碗	74.99	18.96		II層	1.453	底 [7.0]		内底・高台内を輪刺ぎ 2-053と要合	2-226
171	青磁	碗	74.32	18.96		II層	1.469	□ [22.0]	9.02		2-156
172	青磁	碗	74.02	18.96		II層	1.517	I [25.0]	0.05	内面腹方向に鶴文 日 2-151と要合	2-159
173	青磁	碗	74.72	19.00		II層	1.596	□ [25.0]	0.05		2-056
174	青磁	碗	74.14	18.94		II層	1.628	底 [6.0]		内面腹方向に鶴文 日 2-159と要合	2-131
175	白磁	茶	74.46	19.00		II層	1.628	底 [6.0]		白磁A群	2-080

番号	施設	面積	X	Y	遺構	層位	レベル	出土品	測定値	備考	整理番号
176	白壁	築	74.40	19.00	II層	1.623	武 [4.0]	白磁皿D群 高台に抉り込み	2-075		
177	白壁	築	74.70	19.00	II層	1.465	灰 4.0	白磁皿D群	2-225		
178	白壁	築	74.68	18.98	II層	1.499	灰 [3.0]	白磁皿D群	2-232		
179	白壁	築	74.70	18.98	I層	1.465	灰 4.0	白磁皿D群 高台に抉り込み	2-346a		
180	中田	天目茶碗	74.18	19.00	II層	1.518	□ [12.0]	0.07	鉄物	2-154	
180	中田	天目茶碗	74.12	18.96	II層	1.582			鉄物	2-155	
181	高麗青磁 瓶	74.36	18.94	II層	1.710			内外面に草花文の白色象嵌	2-017		
182	窓戸	天目茶碗	74.02	18.92	II層	□ [12.0]	0.05	窓戸中IV期 鉄軸 2-045と接合	2-064a		
183	窓戸	天目茶碗	74.12	18.94	III層	1.285	□ [12.0]	0.07	窓戸後I期 鉄軸	2-287	
184	窓戸	天目茶碗	74.12	18.94	I層	□ [13.0]	0.04	窓戸後I～II期 鉄軸	2-354a		
185	窓戸	平鏡	74.46	18.96	II層	1.491	□ [15.0]	0.02	窓戸後II期 鉄軸	2-222	
186	窓戸	平鏡	74.68	18.94	II層	1.520	□ [16.0]	0.05	窓戸後II期 鉄軸 2-350と接合	2-214	
187	窓戸	平鏡	74.38	19.00	II層	□ [16.0]	0.02	窓戸後I～II期 鉄軸	2-253		
188	窓戸	平鏡	74.38	18.92	I層	□ [16.0]	0.06	窓戸後II期 2-214と接合	2-359		
189	窓戸	平鏡	74.38	18.92	I層	□ [16.0]	0.04	窓戸後I期 鉄軸	2-353		
190	窓戸	平鏡	74.52	18.96	II層	□ [16.0]	0.08	窓戸後II期 鉄軸	2-265		
191	窓戸	平鏡	74.30	18.96	II層	1.484		窓戸後I～II期 鉄軸 ナンバー1-063と接合	2-110		
192	窓戸	縹緲小皿	74.48	18.92	II層	1.433	□ [12.0]	0.04	窓戸後I～II期 鉄軸	2-194	
193	窓戸	縹緲小皿	74.48	18.92	II層	1.544	□ [10.0]	0.08	窓戸後II期 鉄軸 内面鑿打	2-203	
194	窓戸	丸皿	74.34	19.00	II層	1.413	□ [10.0]	0.06	窓戸中田～IV期 鉄軸	2-162	
195	窓戸	縹緲小皿	74.16	19.00	II層	1.768	□ [10.0]	0.01	窓戸後I～IV期 鉄軸 内面鑿打	2-034	
196	窓戸	縹緲小皿	74.38	18.96	II層	1.643	□ [10.0]	0.06	窓戸後I～IV期 鉄軸 内面鑿打	2-036	
197	窓戸	縹緲小皿	74.48	18.92	II層	1.573	□ [4.5]		窓戸後I～IV期(古) 鉄軸 内面鑿打	2-227	
198	窓戸	縹緲香炉	74.54	18.92	II層	1.673	□ [10.0]	0.12	窓戸後I期 鉄軸 □縹緲部に北緯	2-177	
199	窓戸	仏在瓶	74.38	18.92	II層	1.591			窓戸中I～II期 鉄軸 外観に沈底	2-357	
200	窓戸	網目付き	74.18	18.92	II層	1.628			窓戸後II期 鉄軸	2-106	
201	窓戸	大皿	74.70	18.98	III層	1.498			窓戸中期 鉄軸	2-215	
202	窓戸	内耳窓	74.20	18.98	II層	1.580	□ [32.0]	0.03	窓戸後II期 鉄軸	2-130a	
202	窓戸	内耳窓	74.20	18.98	II層	1.580	□ [32.0]	0.03	窓戸後II期 鉄軸	2-130b	
203	窓戸	網目付き	74.44	18.92	II層	1.547	□ [32.0]	0.05	窓戸後III期 鉄軸 2-250と接合	2-224	
204	窓戸	大皿	74.44	18.94	II層	1.745	□ [32.0]	0.02	窓戸後III期 鉄軸	2-002	
205	珠洲	ロクロ壺	74.52	18.96	I層	1.581	□ [8.0]	0.10	2-247と接合	2-349	
206	珠洲	ロクロ壺	74.52	18.96	II層	1.581			2-349と接合	2-247	
207	珠洲	甕	74.48	19.00	II層	1.581			珠洲IV～V期	2-099a	
208	珠洲	甕	74.50	18.90	II層	1.584			珠洲IV～V期	2-052	
209	珠洲	甕	74.54	18.94	II層	1.462			珠洲IV～V期	2-273	
210	珠洲	甕	74.52	19.00	II層				珠洲IV～V期	2-264a	
210	珠洲	甕	74.52	19.00	II層				珠洲IV～V期	2-264b	
210	珠洲	甕	74.52	19.00	II層				珠洲V～V期	2-264c	
211	珠洲	甕	74.20	18.98	II層	1.589			珠洲V～V期	2-125	
212	珠洲	甕	74.48	19.00	II層	1.581			珠洲V～V期 黑色の付着物	2-099c	
213	珠洲	甕	74.48	19.00	II層	1.581			珠洲V～V期	2-099d	
214	珠洲	甕	74.28	18.92	II層	1.597			珠洲V～V期	2-192	
215	珠洲	すり鉢	74.68	18.98	II層	1.453	□ [30.0]	0.05	珠洲IV期 口縁端面に波状文	2-256	
216	珠洲	すり鉢	74.18	18.96	II層	1.484	□ [30.0]	0.04	珠洲IV期 黒色の付着物	2-268	
217	珠洲	すり鉢	74.46	19.00	II層	1.598	□ [35.0]	0.10	珠洲IV期	2-095	
218	珠洲	すり鉢	74.54	18.98	II層	1.517	□ [30.0]	0.03		2-150	
219	珠洲	すり鉢	74.48	18.98	II層	1.605	□ [35.0]	0.05	珠洲V期 口縁端面に波状文	2-091	
220	珠洲	すり鉢	74.48	18.94	II層	1.639	□ [33.0]	0.06	珠洲V期 口縁端面に波状文	2-070	
221	珠洲	すり鉢	74.62	18.96	II層	1.646	□ [25.0]	0.10	珠洲V期～V期	2-114	
222	珠洲	すり鉢	74.68	18.92	II層	1.738	□ [30.0]	0.01	珠洲V期～V期	2-014	
223	珠洲	すり鉢	74.50	18.98	II層	1.762	□ [30.0]	0.06	珠洲IV～V期	2-005	
224	珠洲	すり鉢	74.50	18.98	II層	□ [30.0]	0.06	珠洲V期～V期	2-254		
225	珠洲	すり鉢	74.48	19.00	II層	1.581	□ [30.0]	0.02	珠洲V期 口縁端面に波状文	2-099a	
226	珠洲	すり鉢	74.66	18.92	II層	1.703	□ [30.0]	0.09	珠洲V期 口縁端面に波状文	2-115	
227	珠洲	すり鉢	74.50	18.94	II層	1.484	□ [30.0]	0.07	珠洲V期 口縁端面に波状文	2-235	

番	種類	器種	X	Y	遺構	部位	レーベル	法量	単位	備考	参考
228	漆器	すり鉢	74.18	19.00		II層	1.782			珠列 1列	2-067
229	漆器	すり鉢	74.48	19.00		II層	1.634	底 [15.0]			2-098a
230	漆器	すり鉢	74.12	19.00		II層	1.673	底 [12.0]		底面に静止糸切痕	2-025
231	漆器	すり鉢	74.42	18.92		II層	1.419	底 [11.0]		底面に静止糸切痕	2-257
232	漆器	豆鉢	74.42	18.98		II層	1.618	底 [9.0]		底面に静止糸切痕	2-055
233	土器	豆	74.44	18.94		II層	1.452	口 [13.0]	0.07	手づくね成形か	2-191
234	瓦質土器	鍋	74.42	18.98		II層	1.619	口 [40.0]	0.06	花文	2-089
235	瓦器系	盤	74.40	19.00		II層	1.603				2-054
236	漆器系	蓋	74.64	18.96		II層	1.661				2-201
237	漆器	蓋	74.48	19.00		II層	1.581				2-099f
238	肥前系	皿	74.46	18.98		II層	1.624	口 [12.0]	0.05	灰釉	2-059c
239	肥前系	皿	74.48	19.00		II層	1.615	底 4.5		灰釉 内底に砂粒跡	2-097
240	肥前系	皿	74.50	19.00		II層	1.607	底 4.0		灰釉 内底を蛇の目釉刷ぎ・砂目跡	2-083
241	肥前系	皿	74.46	18.96		II層	1.614	底 5.0		灰釉 内底を蛇の目釉刷ぎ・砂目跡	2-060
242	不明陶器	皿	74.66	18.94		II層	1.704	底 5.5		白色釉 内底を蛇の目釉刷ぎ	2-157
243	肥前系	大皿	74.46	1.90		II層	1.610	底 [8.0]		透明釉 内底に鉄釉結付け	2-040
244	肥前系	大皿	74.14	18.98		II層	1.554	口 [20.0]	0.05	化粧土に透明釉 2-133と整合	2-165
245	肥前系	碗	74.50	18.92		II層	1.642	口 [16.0]	0.05	透明釉 内外に網目文	2-166
246	肥前系	染付皿	74.08	19.00		II層	1.663	口 [13.0]	0.05	透明釉 内面に斜格子文 2-38aと整合	2-023a
247	肥前系	皿				I層		口 [15.0]	0.05	透明釉	2-352
248	肥前系	すり鉢	74.50	18.96		II層	1.596	口 [30.0]	0.02	鐵釉	2-087a
249	肥前系	すり鉢	74.44	19.00		II層	1.590	口 [30.0]	0.05	鐵釉	2-092
249	肥前系	すり鉢	74.48	19.00		II層	1.634	口 [30.0]	0.05	鐵釉	2-059b
249	肥前系	すり鉢	74.46	19.00		II層	1.565			鐵釉	2-233a
250	肥前系	すり鉢	74.16	18.94		II層	1.549	口 [30.0]	0.04	鐵釉	2-182
251	肥前系	すり鉢	74.36	18.94		II層	1.434	口 [30.0]	0.03	鐵釉	2-258
252	肥前系	すり鉢	74.50	18.96		II層	1.599	口 [30.0]	0.04	鐵釉	2-087b
253	肥前系	すり鉢	74.50	18.96		II層	1.586			鐵釉	2-087c
254	肥前系	すり鉢	74.50	19.00		II層	1.585	口 [30.0]	0.01	口縁部に鐵釉	2-241
255	肥前系	すり鉢	74.46	19.00		II層	1.614	口 [31.0]	0.05	II層部に鐵釉	2-244
256	肥前系	盤	74.48	19.00		II層	1.634	口 [30.0]	0.08	鐵釉	2-058d
257	製錠品	鉢	74.10	18.94		II層	1.668	底 2.0, 高 0.4	1.4g		2-032
258	製錠品	鉢	74.44	18.94		II層	1.420	底 (3.3), 高 1.1	4.6g		2-207
259	製錠品	鉢	74.28	19.00		II層	1.448	底 (4.4), 高 1.1	6.8g		2-151
260	製錠品	鉢	74.22	18.98		II層	1.470	底 (3.5), 高 1.0	4.4g		2-255b
261	製錠品	鉢	74.72	19.00		II層	1.322	底 12.9, 高 1.0	38.8g		2-206
262	製錠品	くさび	74.32	18.98		II層	1.418	底 (7.0), 高 1.5	32.2g		2-118
263	製錠品	くさび	74.12	18.94		II層	1.633	底 (5.4), 高 1.8	16.5g		2-144b
264	製錠品	くさび	74.38	19.00		II層	1.569	底 (10.0), 高 2.1	56.4g		2-085
265	製錠品	鉢	74.28	18.96		II層	1.404	底 (6.7), 高 1.0	12.4g		2-171
266	製錠品	鉢				埋丸		底 8.2, 高 1.2	49.4g		2-360
267	土器	土罐	74.28	18.96		II層	1.592	底 4.1, 高 2.2	22.8g		2-104
268	土器	土罐	74.72	18.98		II層	1.636	底 3.5, 高 2.2	15.8g		2-096
269	占鉢		74.10	18.94		II層	1.715	底 2.4	2.2g 「開泰元寶」(1068年) 茶青		2-033
270	占鉢		74.68	18.96		II層	1.516	底 2.4	2.8g 「永通萬寶」(1408年) 茶青		2-190
271	古鏡		74.08	18.94		II層	1.723		1.8g 「寛永通宝」		2-028

17. A T 94 II 井戸出土遺物の共伴関係一覧表

時期	遺物名	共 伴 遺 物												調査	
		青 磚		白磚		井 戸				珠 洋		そ の 他			
		前Ⅲ期	後Ⅲ期	後Ⅱ期	中Ⅱ期	後Ⅰ期	後Ⅲ期	後Ⅱ期	後Ⅰ期	IV期	V期	不明			
十三世紀 II a・b 期	SE01													木箸6 先端	
	SE03	2	1			1	1			1		1		木箸2 先端	
十三世紀 II c 期	SE02	1	1	1		1		1				1	瓦質1 鉄刃、木杓子1	先端	

※表の数値は出土点数(接合後)

18. A T 94 II 土坑出土遺物の共伴関係一覧表

時期	遺物名	共 伴 遺 物												調査	
		青 磚			井 戸				珠 洋			そ の 他			
		前Ⅲ期	後Ⅲ期	後Ⅱ期	前Ⅰ期	前Ⅲ期	後Ⅱ期	後Ⅰ期	後Ⅲ期	後Ⅱ期	後Ⅰ期	IV期	V期		
十三世紀 II a・b 期	SK09	1		1										中國茶入1 鉄刀2 先端	
	SK10				1	1						1		先端	
	SK11		1	1										先端	
	SK25										1			先端	
	SK33					1								漆器系1 先端	
	SK37									1				先端	
	SK38		1								1			先端	
	SK39									1				先端	
十三世紀 II c 期	SK46												傳承1	先端	
	SK34	1												先端	
時期不明	SK43									1				先端	
	SK19													鉄刃1 先端	
	SK32													鉄刃1 先端	

※表の数値は出土点数(接合後)

19. A T 84 I 出土遺物集計表

<中世陶磁器>

種類	器種	破片数/個体数	破片数/個体数	破片数/個体数
株式	唐丁種	1/0.08(18.2%)		
	甕	—	24/0.44(27.7%)	
	壺瓶	10/0 (* %)		
	すり鉢	13/0.36(81.8%)		
	不明	—		
四 周 器	大口	7/0.42(36.6%)		
	平頭	8/0.12(10.4%)		
	縹物小皿	10/0.29(35.2%)		
	丸皿	—		
	折縁小皿	1/0.06(5.2%)		
	折縁深皿	—		
	直縁大皿	—	31/1.15(72.3%)	64/1.59(85.9%)
	甕	—		
	壺	—		
	瓶子	2/0.12(10.4%)		
戸	瓶	1/0.14(12.2%)		
	大口大皿	—		
	花瓶	—		
	香炉	—		
	不明	2/0 (* %)		
漆器系	甕	5/0 (* %)	5/0 (* %)	
信楽	甕	—		
瓦質土器	大鉢	3/0 (* %)	3/0 (* %)	
土師器	甕	1/0 (* %)	1/0 (* %)	
質	甕	—	15/0.26(100.0%)	
	壺	—		15/0.26(100.0%)
	瓶	—		
昌	甕	1/0 (* %)	1/0 (* %)	
	白磁	—		
	中國	天目 壺 茶入	— 1/0 (* %) —	1/0 (* %)
高麗青磁	甕	—	—	
	合	—	—	81/1.85(100.0%)

個体数は全て：細部計画法（宇野1992）による

＊は存在するが、個体数の比率が数値として表れないもの

調査面積：70m²/遺構先端

<近世陶磁器>

種類	器種	破片数/個体数	破片数/個体数
肥前系	甕	3/0.08(100.0%)	
	壺	—	
	瓶	—	
	すり鉢	—	
	不明	1/0 (* %)	
備前系	すり鉢	—	
五世御器	甕	—	
	壺	—	
近世陶器	甕	—	
	壺	—	
	すり鉢	2/0 (* %)	6/0 (* %)
	不明	4/0 (* %)	
合	計	18/0.08(100.0%)	

<その他>

種類	器種	破片数/g	破片数/g
鉄製品	釘	14/ 68.4	
	錠	1/ 64.8	
	鉄錠	—	16/221.8
銅製品	錠	1/ 88.6	
	不明	—	
古銭	2/ 5.6	2/ 5.6	
木製品	箸	—	
	杓子	—	
	盒物	—	
土製品	土鍋	—	
	羽口	1	1/

20. AT94II 出土遺物集計表

〈中世陶磁器〉

種類	器種	破片数/個体数	破片数/個体数	破片数/個体数
時代	立 T種	2/0.1 (9.3%)		
	T種	5/0 (* %)		
	甕	4/0 (* %)	87/1.07 (39.0%)	
	提梁	40/0 (* %)		
	すり鉢	36/0.97 (99.7%)		
田 園 周 辺	丸皿	7/0.15 (9.9%)		
	平碗	24/0.59 (36.6%)		
	繩紋小皿	7/0.41 (25.9%)		
	丸皿	1/0.06 (3.7%)		
	折縁小皿	1/0.04 (2.3%)		
	折縁深皿	2/0.07 (4.3%)		
	高縁大皿	1/0.04 (2.5%)	68/1.61 (38.5%)	175/2.75 (76.6%)
	瓶	6/0.03 (1.9%)		
	壺	3/0 (* %)		
	瓶子	1/0 (* %)		
近 代 系 統	鉢	—		
	圓柱大皿	3/0.08 (5.0%)		
	花瓶	2/0 (* %)		
	香炉	1/0.13 (8.1%)		
	不明	9/0 (* %)		
	盃	13/0 (* %)	13/0 (* %)	
	信奉	4/0 (* %)	4/0 (* %)	
	瓦質土器	2/0 (* %)	2/0 (* %)	
	土器	1/0.07 (100.0%)	1/0.07 (2.3%)	
	鏡	42/0.42 (61.8%)		
馬 場	背鏡	1/0.13 (19.1%)	48/0.58 (81.6%)	
	鏡	5/0.13 (19.1%)		
	白磁	2/0 (* %)	8/0.09 (10.7%)	
西 部	白磁	6/0.09 (100.0%)		
	天目	2/0.07 (100.0%)		
	中国	—	3/0.07 (8.3%)	
高麗青磁	鏡	1/0 (* %)	1/0 (* %)	
	合	計	235/3.59 (100.0%)	

個体数は全て口縁部計測法(宇野1992)による
 *は存在するが、個体数の比率が数値として表われないもの
 調査面積：175m²/遺構実施

〈近世陶磁器〉

種類	器種	破片数/個体数	破片数/個体数
近世系 統	碗	70/0.14 (15.7%)	
	皿	30/0.39 (43.8%)	
	甕	2/0 (* %)	
	壺	2/0.08 (9.0%)	71/0.89 (93.7%)
	すり鉢	9/0.19 (21.3%)	
近世陶器	盤	3/0.05 (5.6%)	
	不明	18/0.04 (4.6%)	
	すり鉢	1/0.02 (100.0%)	1/0.02 (2.1%)
	合	計	135/0.95 (100.0%)

〈その他〉

種類	器種	破片数/g	破片数/g
金	刀	20/257.0	
銀	盤	1/ 38.8	22/323.0
鉄製品	鐵	1/ 27.2	
銅製品	銅	1/ 1.4	1/ 1.4
吉	鏡	3/ 6.8	3/ 6.8
審	審	10	
木製品	杓子	1	13
	曲物	2	
土製品	土器	2	2
	石臼		
合	計	41/331.2	

21. A T94 出土貿易陶磁一覧表

種類	器種・分類	破片数/個体数	破片数/個体数
青磁	龍泉碗 I 類	4/0 (* %)	
	龍泉碗 B 1 類	4/0.10 (10.6%)	
	龍泉碗 C 1 類	1/0.08 (8.5%)	
	龍泉碗 D 類	12/0.50 (53.3%)	63/0.94 (85.5%)
	不明	36/0 (* %)	
	計	1/0.13 (13.8%)	
白磁	白D群	2/0 (* %)	
	白不明	1/0 (* %)	9/0.09 (8.1%)
	白A群	1/0 (* %)	
	白D群	5/0.09 (100.0%)	
	天目	2/0.07 (100.0%)	
	直	1/0 (* %)	4/0.07 (6.4%)
高麗	高	1/0 (* %)	1/0 (* %)
	合	計	77/1.1 (100.0%)

22. A T94 出土珠洲一覧表

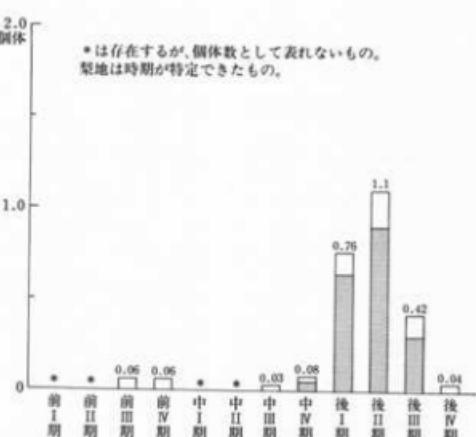
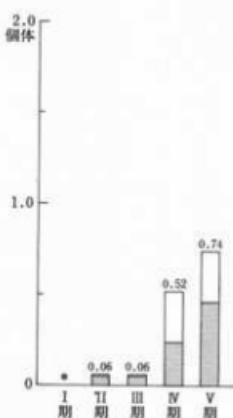
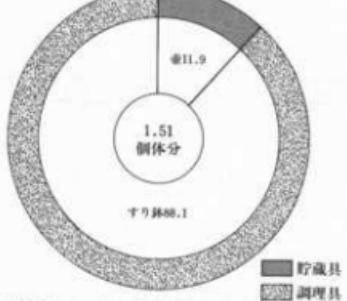
種類	I期	II期	III期	IV期	V期	不明	合計
壺	R					2 (0.1)	2 (0.1) [6.6%]
	T			2 (0.04)	2 (0.04)	6 (0.)	6 (0.08) [5.3%]
瓶				0.5 (0.)	1.5 (0.)	2 (0.)	4 (0.) [* %]
				12.5 (0.)	27.5 (0.)	10 (0.)	50 (0.) [* %]
すり鉢	2 (0.)	1.5 (0.06)	1.5 (0.06)	11.5 (0.48)	14.5 (0.7)	18 (0.03)	49 (1.33) [88.1%]
	合計	2 (0.)	1.5 (0.06)	1.5 (0.52)	26.5 (0.74)	45.5 (0.13)	34 (1.51) [100.0%]

個体数は全て口縁部計測法(宇野1992)による

*は存在するが、個体数の比率が数値として表れないもの

23. A T94 出土漆戸一覧表

器種	前I期	前II期	前III期	前IV期	中I期	中II期	中III期	中IV期	中 期	後I期	後II期	後III期	後IV期	不 明	合 計	
天目							1 (0.05)		3.5 (0.32)	3.5 (0.21)			6 (0.)	14 (0.58)	[21.0%]	
平 瓶									6 (0.12)	14 (0.52)	2 (0.02)		10 (0.05)	32 (0.71)	[25.7%]	
絹地小皿									2 (0.13)	4.5 (0.16)	7 (0.3)	1.5 (0.04)	2 (0.07)	17 (0.7)	[25.4%]	
丸 盆					0.5 (0.03)	0.5 (0.03)							1 (0.06)	1 (0.22)	[2.2%]	
折縁小皿									0.5 (0.02)	0.5 (0.02)			1 (0.06)	2 (0.11)	[3.5%]	
折縁深皿									1 (0.04)	1 (0.03)				2 (0.07)	[2.5%]	
直縁大皿									0.5 (0.02)	0.5 (0.02)			1 (0.04)	1 (0.14)	[1.4%]	
盤													6 (0.03)	6 (0.03)	[1.4%]	
亞 類	0.5 (0.)	0.5 (0.)				0.5 (0.)	0.5 (0.)	1 (0.)					3 (0.)	3 (0.)	[* %]	
瓶 子		1 (0.06)	1 (0.06)										1 (0.)	3 (0.12)	[4.4%]	
鉢 盤									1 (0.14)				1 (0.14)	1 (0.51)	[5.1%]	
鶴目付き 大皿									1 (0.)	2 (0.06)			3 (0.08)	3 (0.29)	[2.9%]	
花 瓶					0.5 (0.)	0.5 (0.)			0.5 (0.)	0.5 (0.)			2 (0.)	2 (0.)	[* %]	
香 炉									1 (0.13)				1 (0.13)	1 (0.43)	[4.4%]	
不 明													11 (0.)	11 (0.)	[* %]	
合 計	0.5 (0.)	0.5 (0.06)	1 (0.06)	1 (0.06)	0.5 (0.)	0.5 (0.)	1 (0.03)	2 (0.08)	1 (0.)	14.5 (0.76)	26.5 (1.1)	11.5 (0.42)	1.5 (0.04)	37 (0.21)	99 (2.76)	[100.0%]



V 第2次調査 (A T95)

1. 調査の目的

〈調査対象地〉

第2次調査は市浦村大字十三字琴湖岳489番地に所在する十三小学校プール北側の南北約17m、東西約33m、面積約561m²の畠地を対象としている(第4図)。本調査区は現在、畠地として利用されていることもあって、周辺よりも50cm程低い標高1.7~1.8m程の位置に形成されている。また、飛砂現象により、畠地の中央が窪んだ地形を呈していることが特徴である。調査区から東へ50m程で十三湖湖岸にたどり着く位置にある。また、本調査区の南側、十三小学校プールに挟まれた箇所は現在幅5m程の道路として利用されている。この地点に道路と直交して、2ヶ所の拡張トレンチを設定している(第159図)。拡張トレンチ1は1m×5mで面積5m²、拡張トレンチ2は1m×2.5mで面積2.5m²である。本年度の調査合計面積は568.5m²である。

〈調査前の知見〉

これまで十三小学校地区で行われた歴博調査と市浦村第1次調査の成果から明らかとなつた事柄、それによって推定される事柄について述べる。

市浦村第1次調査は「館跡」の範囲確認調査を目的として行われており、2本のトレンチ調査を実施した。第一地区からは調査区東西方向に渡って延びる上端幅2.2m~2.5m、深さ30cm~40cmの規模を有する堀SD03を検出した。SD03は十三湊を南北に分断する大土塁跡とほぼ方位を平行しており、中世十三湊の都市計画段階に構築された「館跡」を区画する南面の堀跡であると判断するに至った。このことから歴博による推定「館跡」の主体部が全体的にやや北側に想定される可能性が高くなつた。第二地区は2対の柵囲区画の東西道路敷と推される遺構が検出した。2対の東西道路敷はそれぞれ2時期の変遷を持つており、やはり大土塁と方位を平行している。この道路敷は明治22年(1889年)の地籍図の畠境のラインにほぼ一致しており、十三湊の南北中軸街路まで延びて直交する街路である可能性が高い。このことから、これら館、大土塁、東西道路敷が一連の都市計画段階に伴う遺構であると判断される。また、「館跡」と大土塁の間は当初、空閑地として予想されていたが、柵囲区画の道路敷に挟まれて井戸跡、土坑、柱穴などの多くの遺構が検出され、屋敷地の居住空間として活発に利用されていたという知見が得られた。以上のことから、今年度の調査区は「館跡」主体部である可能性が非常に高い地点であった。なお、地権者

によれば、かつて大型の礎石が出土したという情報が調査前に得られていた。

〈調査の目的〉

第2次調査は「館跡」範囲確認調査の2年目に当たる。今回の調査地点は歴博の推定による「館跡」想定図(第3図)によれば、堀跡が検出されるはずの地点であったが、第1次調査・第一地区で検出された堀SD03の位置から考慮すると、推定された「館跡」が若干北側に想定されるようになり、今回の調査地点は「館跡」の主体部である可能性が非常に高いと考えられた。以上の点から、この地点の性格を明らかにするための確認調査を実施した。

2. 調査の経過

第2次調査は8月21日に開始し、調査区の草刈り作業、発掘器材の搬入から行った。調査区内の畠地は一部すいか畠として利用されており、作物の刈り入れを待って、調査は調査区東側の休耕地から始めることとなった。

調査はまずトレンチを入れ、層位を確認した後、重機(バックホー)による表土剥ぎを行った。9月5日には調査区内にグリット設定をすべて行うことができた。調査区西側はすいか畠を残して、暫時調査区を広げていった。全面に調査区が拡張できたのは、9月14日であった。

遺構の検出状況をみると、調査区が現在も畠地として利用されているため、黒褐色砂質土上面で検出された上面遺構は近世から現代までの搅乱を含むものであった。この上面遺構の検出作業から完掘、平面図作成、写真撮影に至る作業は9月19日まで要した。

中世遺構面はまず調査区の東壁、南壁に沿ってサブトレンチを設定し、層位観察の後、検出作業を行っている。なお、セクション図の作成は北壁東側、東壁、南壁に限って行っている。9月20日から本格的な中世遺構面の検出作業が始まる。まず、調査区東側から遺構検出を開始した。その結果、調査区東壁に根石を伴う掘り方を持った大型の礎石跡と思われるSX01が検出した。さらに南北溝SD01・04・15~17・26・52など多くの溝(槽・堀)跡が重複して検出された。翌日にはさらに調査区の中央部から西側にかけて検出作業が行われた。その結果、SD01と直交する東西溝SD05が調査区西端まで伸びていることが明らかとなった。SD01と直交するSD05に挟まれた区画内には大型竪穴遺構SI01、掘立柱建物群(SB01・02・05など)、井戸跡(SE02・07)が検出された。このことによって、調査区域が溝、槽・堀によって区画された空間内に掘立柱建物、竪穴遺構、井戸の遺構配置が見られた。

9月24日には中世遺構面の検出を終え、検出写真、個別遺構の写真撮影を行う。本調査

区からは多くの遺構が重複して検出された。そこで遺構の調査方法に関しては調査期間や予算面、また遺跡が砂州上にあって風化しやすい特殊な立地条件から、部分的に遺構の完掘を行った他は平面プランの確認に終始している。個別の遺構ごとにみると、柱穴は柱痕を確認する作業をおこなった後、掘立柱建物が復元できるものについて半裁し、深さを確認する作業を行った。井戸跡は掘り方の検出を行ってから半裁し、セクション図の作成にとめている。溝、棚・堀跡は部分的な掘り下げ調査を行っている。特に S D01と周辺の溝、堀・堀は平面プランの確認が困難を極めたことから、S D01に直交したトレンチ調査を行い、遺構の切り合いで断面で確認した。10月6日には報道関係者を対象に、十三ヶ遺跡の別地点で調査を行っている青森県教育委員会と合同の記者発表会が行われた。そして、10月8日に一般公開のための現地説明会が行われた。その後、調査は引き続き行われ、遺構の調査と平面図の作成が平行して行われた。さらに、調査区と十三小学校プールに挟まれた現在、幅5m程の道路として利用している地点に2ヶ所のトレンチ調査を行い、遺構確認を行っている。10月28日にはすべての調査を終了させた。調査区の埋め戻し作業は山砂を入れて遺構面を保存してから、重機によって土砂を埋め戻している。

調査組織

調査指導機関 市浦村遺跡整備検討委員会

調査指導員 宇野 隆夫 (富山大学人文学部教授)

調査員 柳原 滋高 (市浦村教育委員会 学芸員)

調査作業員 中田 書矢、三林 健一、大川 進、近藤 美紀、平井 晶子

石井 淳平、向井 裕知、中谷 正和、井手口恵美、山崎 雅恵

春名 理史、小野 基、三浦 英俊、丸山 浩、鈴木 哲嗣

(富山大学人文学部考古学研究室学生)

千葉 博幸、神島 亘基 (北海道教育大学学生)

鳳至 幹夫 (市浦村教育委員会社会教育指導員)

地元作業員 葛西 文子、櫛引恵美子、成田 只則、三和 つま、吉田ルリ子

小山あぐり、奈良キミエ、新岡ハルエ、白川横子

調査協力者 市浦村立十三小学校

事務局 木村 義光 (市浦村教育委員会教育長)

白川 隆治 (市浦村教育委員会教育次長)

古川 徹 (市浦村教育委員会安藤の里振興室長)



上面造構の検出作業



S101の調査風景



SD01と周辺の検出作業



SB01の検出

3. 基本層序

調査区は現在も畠地として利用されており、掘削を繰り返している。また、砂質の強い地質であるために飛砂現象によって、畠地中央部が窪んでいる状況である。そのため畠地中央は耕作土の直下が地山面になるなど、場所によって堆積状況にかなりの違いを見せて いる。調査区のセクション図は第84～85図に示してある。十三段の基本層序に対応させると以下のようになる。

～第I層；耕作土、中世から現代遺物包含層～

第1層から第12層までを含む。第1層の黄灰色砂質土 (2.5Y 5／1) は耕作土の基盤となる。

～第II層；中世から現代までの遺物包含層～

第13～27層までを含む包含層である。

～第III層；近世遺構面と中世遺物包含層～

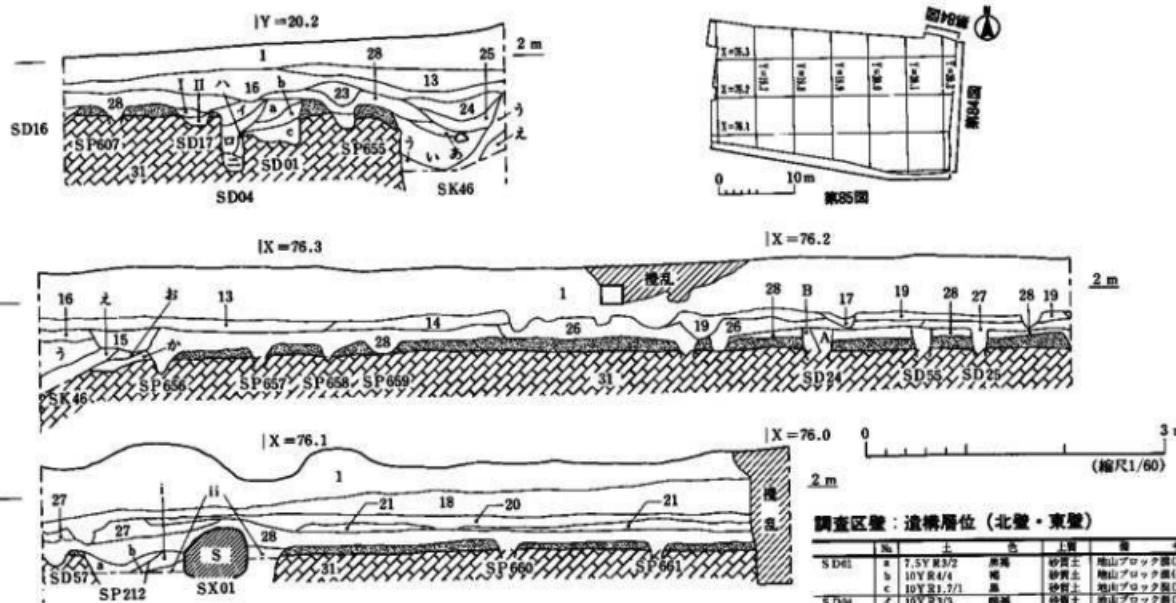
第28層の黒褐色砂質土 (10Y R 2／3) を基盤とする。近世遺物は混じらず、中世遺物が出土する。第28層直上から近世遺構が掘られている。また、一部、中世遺構の S D24・25・55が第28層から掘り込まれており、今後、層位の細分が必要である。

～第IV層；中世遺構面とその基盤層～

第30層の黒色砂質土 (10Y R 1.7／1) を基盤とする。部分的に第29層の黒色砂質土 (10Y R 2／1) が見られた。第30層直上から中世の遺構が掘り込まれている。

～第V層；無遺物層～

第31層の褐色砂質土 (10Y R 4／6) は無遺物層の地山である。



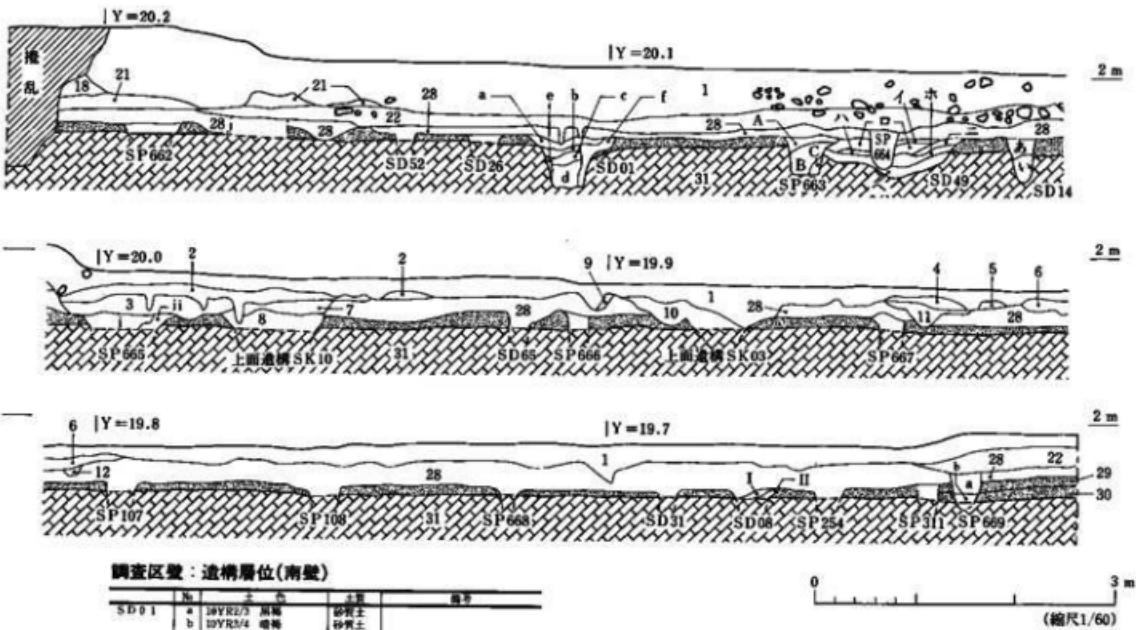
調査区壁：造構層位（北壁・東壁）

No	I	II	III	IV	色	土質	層位	名
SD61	a	7.5Y R3/2	黒褐色	砂質土	地山ブロック層(30%)			
	b	10Y R4/4	黒褐色	砂質土	地山ブロック層(40%)			
	c	10Y R1/2	黒褐色	砂質土	地山ブロック層(20%)			
SD64	i	10Y R2/2	黒褐色	砂質土	地山ブロック層(2%)			
	j	10Y R2/3	黒褐色	砂質土	地山ブロック層(1%)			
	k	10Y R3/3	黒褐色	砂質土	地山ブロック層(1%)			
SD16	l	10Y R3/2	黒褐色	砂質土	地山ブロック層(1%)			
SD17	m	7.5Y R2/2	黒褐色	砂質土	地山ブロック層(1%)			
SD24	A	10Y R2/2	黒褐色	砂質土	地山ブロック層(1%)			
	B	10Y R2/1	黒褐色	砂質土	地山ブロック層(1%)			
SD56	o	10Y R3/1	黒褐色	砂質土	地山ブロック層(1%)			
SK46	あ	10Y R2/2	黒褐色	砂質土	地山ブロック層(1%)			
	い	10Y R2/1	黒褐色	砂質土	地山ブロック層(1%)			
	う	10Y R4/6	黒褐色	砂質土	地山ブロック層(1%)			
	え	10Y R2/3	黒褐色	砂質土	地山ブロック層(1%)			
	か	2.5Y R4/2	モーブ青	砂質土	地山ブロック層(1%)			
	か	2.5Y 4/1	モーブ青	砂質土	地山ブロック層(1%)			
SX01	1	7.5Y R2/2	黒褐色	砂質土	炭層			
	2	7.5Y R2/2	黒褐色	砂質土	地山ブロック層			
SP212	o	10Y R2/1	黒褐色	砂質土	炭層			
	h	7.5Y R3/2	黒褐色	砂質土	地山ブロック層			
SP665	o	10Y R2/2	黒褐色	砂質土	炭層			

第84図 AT 95 調査区壁層位図(北壁・東壁)

No	I	II	III	IV	色	土質	層位	名
1用	2.5Y 5/1	黄灰	砂質土					
2	10Y R2/2	黄褐色	砂質土					
3	10Y R2/2	黑褐色	砂質土					
4	10Y R2/2	黑褐色	砂質土					
5	10Y R2/4	暗褐色	砂質土					
6	10Y R2/1	黑褐色	砂質土					
7	10Y R2/2	暗褐色	砂質土					
8	10Y R2/2	暗褐色	砂質土					
9	10Y R2/2	黑褐色	砂質土					
10	7.5Y R2/1	黑褐色	砂質土					
11	10Y R2/2	黑褐色	砂質土					
12	10Y R2/2	黑褐色	砂質土					
13	2.5Y R1.3/1	灰褐色	砂質土					
14	10Y R2/2	黑褐色	砂質土					
15	10Y R2/2	黑褐色	砂質土					
日用								

No	I	II	III	IV	色	土質	層位	名
16	10Y R2/1	黑褐色	砂質土					
17	2.5Y R2/2	黑褐色	砂質土					
18	2.5Y 4/4	にじい黄	砂質土					
19	10Y R3/2	黑褐色	砂質土					
20	10Y R3/3	暗褐色	砂質土					
21	10Y R2/2	暗褐色	砂質土					
22	10Y R2/2	暗褐色	砂質土					
23	7.5Y R2/1	黑褐色	砂質土					
24	7.5Y R2/1	黑褐色	砂質土					
25	5Y R3/1	黑褐色	砂質土					
26	10Y R2/1	黑褐色	砂質土					
27	10Y R2/2	黑褐色	砂質土					
28	10Y R2/3	黑褐色	砂質土					
29	10Y R2/1	黑褐色	砂質土					
30	10Y R1.3/1	黑褐色	砂質土					
V面	31	10Y R4/6	褐	砂				



調査区盤：造構層位(南壁)

No.	土	C	目	箇号
SD 0 1	a IGYR2/3 黄褐色 b IGYR2/4 黄褐色 c IGYR2/2 黄褐色 d IGYR2/2 黄褐色 e IGYR2/4 黄褐色 f IGYR2/2 黄褐色		10YR1/4暗褐色砂質土	
SD 0 8	I IGYR2/2 黄褐色 II IGYR2/2 黄褐色		10YR2/2 黄褐色砂質土(30%)	
SD 1 4	I IGYR2/2 黄褐色 ii IGYR2/2 黄褐色			
SD 2 6	IGYR2/2 黄褐色			
SD 4 9	I IGYR2/2 黄褐色 II IGYR2/2 黄褐色 III IGYR2/2 黄褐色 IV IGYR2/2 黄褐色 V IGYR2/2 黄褐色 VI IGYR2/2 黄褐色		10YR1/4暗褐色砂質土(30%)	

0
(縮尺1/60)

No.	I	C	目	箇号
SP 3 1	I	IGYR2/3 黄褐色	砂質土	
SP 4 2	II	IGYR2/2 黄褐色	砂質土	地山ブロック巣(14%)
SP 6 3	A	IGYR2/2 黄褐色	砂質土	
	B	IGYR2/2 黄褐色	砂質土	
	C	IGYR3/3 黄褐色	砂質土	
SP 6 4		IGYR2/2/3 黄褐色	砂質土	
SP 6 5	I	IGYR2/2 黄褐色	砂質土	
	II	IGYR2/2 黄褐色	砂質土	
SP 6 6		IGYR2/2 黄褐色	砂質土	
SP 6 7		IGYR2/1 黄褐色	砂質土	
SP 6 9	a	IGYR2/2 黄褐色	砂質土	
	b	IGYR2/2 黄褐色	砂質土	

第85図 AT95 調査区盤層位図(南壁)

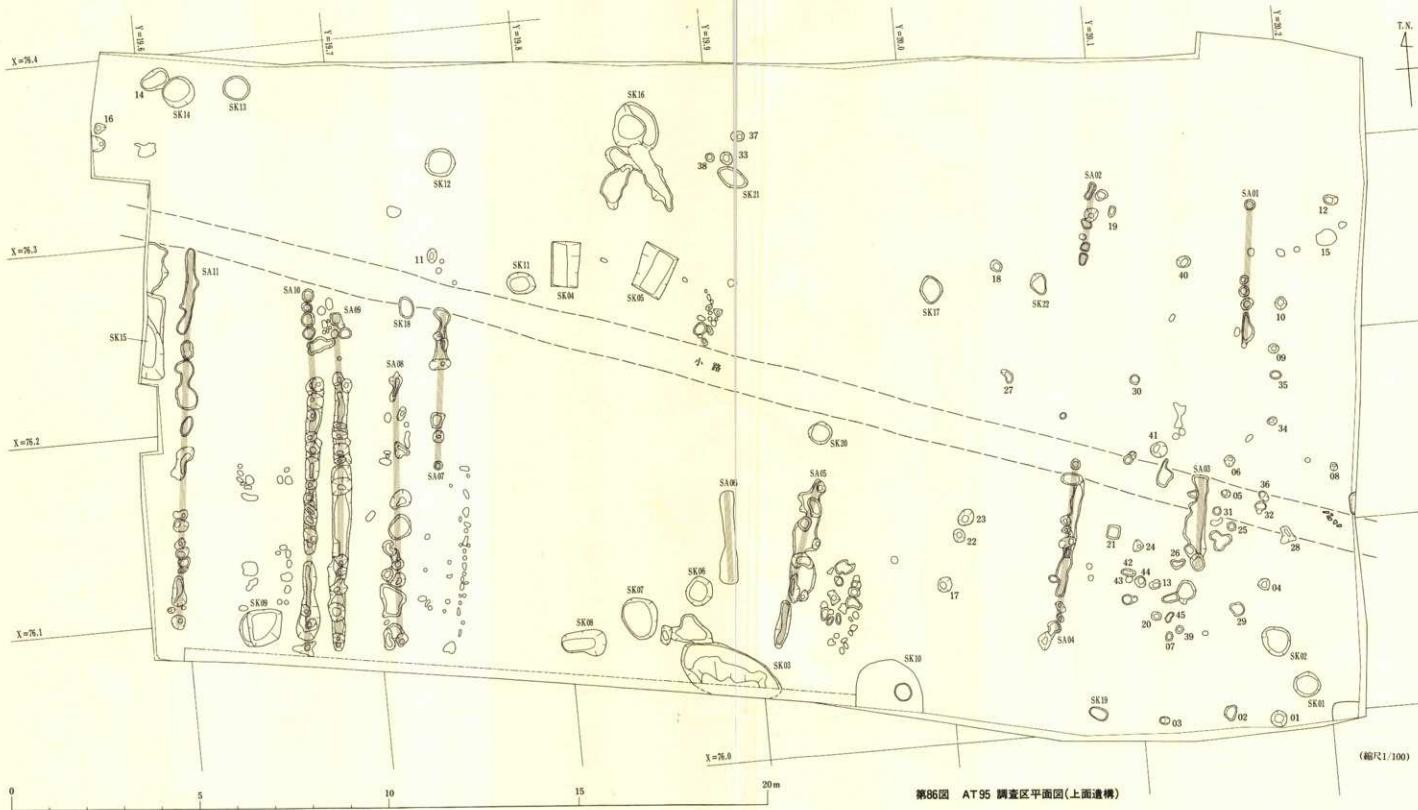
4. 調査の成果

a 検出遺構と遺物

本調査区では上面遺構と中世遺構の2つの遺構面を検出しており、別記して記述する。

上面遺構

本調査区は現在も畠地として利用されており、近世遺構の基盤層は掘削のためほとんどが消滅している。そのため、畠の耕作に伴う掘削によって現代の擾乱が多く見られる。上面遺構としたものは近世から現代までを含む遺構として捉えているが、明確に近世と思われる時期の遺構はない。その中で、ここでは柵・堀跡について取り上げる(第86図)。現在、十三塗遺跡一帯の畠地(現十三集落の東側)には防風砂用として「カッショ」と呼ばれる畠を区画する柵・堀がある。これら検出された柵・堀跡はすべて現代の「カッショ」跡と思われる区画柵・堀跡である。これらの「カッショ」跡は下層の中世遺構面で検出された区画遺構(溝、柵・堀)とほぼ同じ位置に重なって検出されており、中世以来の区画遺構の配置と規制を受けた土地利用を現代に至るまで踏襲していたものと判断することができる。主な遺構としては調査区東側にS A01~04、調査区中央にS A05・06、調査区西側にS A07~S A11がある。これらの遺構からはガラス片、塩化ビニルなど現代遺物が含まれていた。また、調査前の畠地には小路が東西方向にのびており、「カッショ」跡が途中、途切れるのもその影響と判断される。以下に、現代遺物を省く遺構出土遺物を掲載する。なお、同様に土坑、柱穴の出土遺物についても掲載する。



第86図 AT95 調査区平面図(上面遺構)

上面遺構の出土遺物 (第87・88図)

S A05

1は珠洲壺甌類の体部破片である。胎土は暗褐色を呈する。

S A08

2は鉄釘である。断面方形の角釘である。

S A09

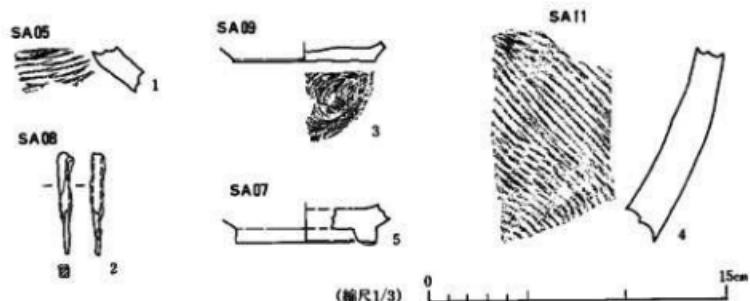
3は中世土師器皿の底部破片である。比較的硬質で、褐色を呈する。底部は回転糸切り痕を残す。年代的には12世紀後半と推される。

S A11

4は珠洲甌の体部破片である。叩き目は3cm幅で8条とやや粗い。

S A07

5は瀬戸の碗型鉢であろうか。内面に灰釉を施す。



上面遺構：「カッチャヨ」跡出土遺物 (図版33)

番号	遺構	種類	面積	層位	レベル	法 量	個体数	備 考	監理者
1	S A05	珠洲	甌	埋土	1.405				401
2	S A08	鐵製品	釘	埋土	1.419	長5.1、幅0.4	3.6g		512
3	S A09	土師器	甌	埋土	1.418	底 [7.0]		ロクロ成形 底面に回転糸切痕	434
4	S A11	珠洲	甌	埋土	1.489				864
5	S A07	瀬戸	碗型鉢	埋土	1.399	底 [7.0]		灰釉付高台 高台底面にトテン底	514

第87図 AT 95 上面遺構：「カッチャヨ」跡出土遺物

S K 07

6は珠洲すり鉢の体部2破片である。内面はロクロ痕が未調整で、凹凸が激しい。卸目の原体幅は2.5cmで、9条を数える。

7は瓷器系壺の体部破片である。

S K 08

8は鉄釘である。

S K 10

9は珠洲壺の体部破片である。叩き目は3cm幅で、8条を数える。珠洲IV期～V期である。

S K 03

10は珠洲すり鉢の体部破片である。内面は使用により、かなり磨滅している。内面の卸目の原体幅は3cmで、11条を数える。珠洲IV期～V期である。

11は鉄釘である。頭部は屈折し、平らである。断面方形の角釘である。

S K 15

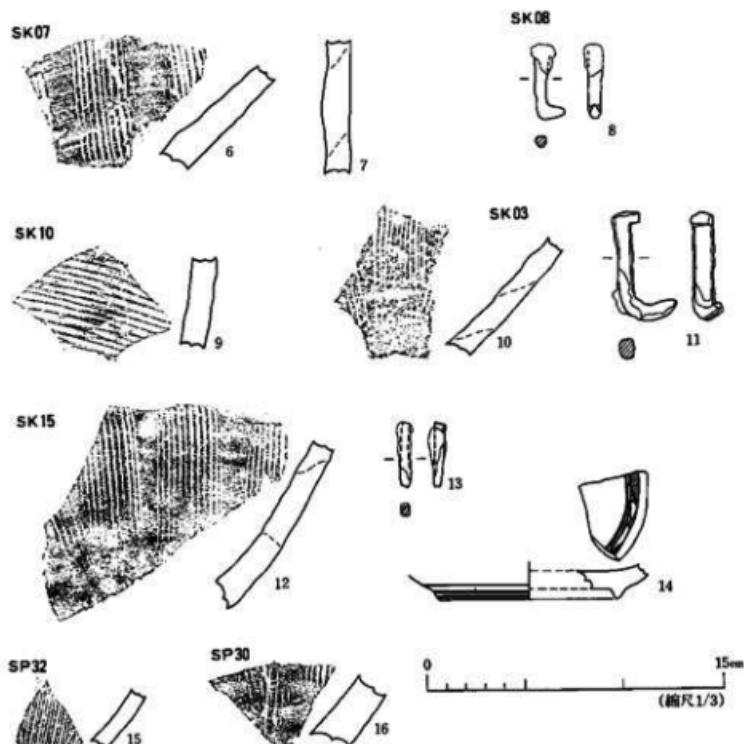
12は珠洲すり鉢の体部破片である。内面は使用により、磨滅している。卸目の原体幅は3cmで、12条を数える。珠洲IV期～V期である。13は鉄釘である。14は肥前・肥前系の染付皿の底部破片である。断面に漆によるつなぎ目が見られる。

S P 32

15は近世のすり鉢の体部破片である。内外面に鉄釉を施している。内面には卸目が見られる。

S P 30

16は珠洲すり鉢の体部破片である。内面は使用により、かなり磨滅している。珠洲IV期～V期である。



上面造構：土坑、柱穴出土遺物（図版33）

番号	遺構	種類	器種	層位	レベル	法量	個体数	参考	範囲
6	SK07	珠洲	すり鉢	埋土	1.368				402
		珠洲	すり鉢	埋土	1.451				403
7		委覆系	甕	埋土	1.260				406
8	SK08	鉄製品	釘	埋土	1.338	長3.7、幅0.9	3.6g		414
9	SK10	珠洲	甕	埋土	1.446			珠洲IV～V期	390
10	SK03	珠洲	すり鉢	埋土	1.355			珠洲IV～V期	411
11		鉄製品	釘	埋土	1.429	長5.4、幅1.0	15.6g		413
12	SK15	珠洲	すり鉢	埋土	1.426			珠洲IV～V期	805
13		鉄製品	釘	埋土	1.127	長(3.1)、幅0.6	2.0g		422
14		肥前系	皿	埋土	1.335	底[9.0]		透明釉 漆を用いた補修痕	421
15	SP32	近世陶器	すり鉢	埋土	1.479			鉄釉	392
16	SP30	珠洲	すり鉢	埋土	1.266			珠洲IV～V期	387

第88図 AT 95 上面造構：土坑、柱穴出土遺物

中世遺構

本調査区で検出した主な中世遺構には、掘立柱建物、竪穴遺構、区画遺構（溝、棚・塀）、井戸、土坑がある（第89図）。

掘立柱建物

本調査区西側一帯には多くの柱穴が検出され、掘立柱建物の建て替えが頻繁に行われていたことが分かった。ここでは明らかに掘立柱建物として復元可能な7棟を取り上げている。また、これ以外についても掘立柱建物になる可能性の高い遺構が数棟存在するが、現時点では明確ではないために、末尾に掘立柱建物となる可能性の高い柱穴列としてまとめて記述し、今後の検討材料としたい。

S B01掘立柱建物（第90・91図）

【位置】 調査区中央、西寄りに位置する。

【重複】 S D08を切っているが、S I01に切られる。S B02・S B05と重複する。

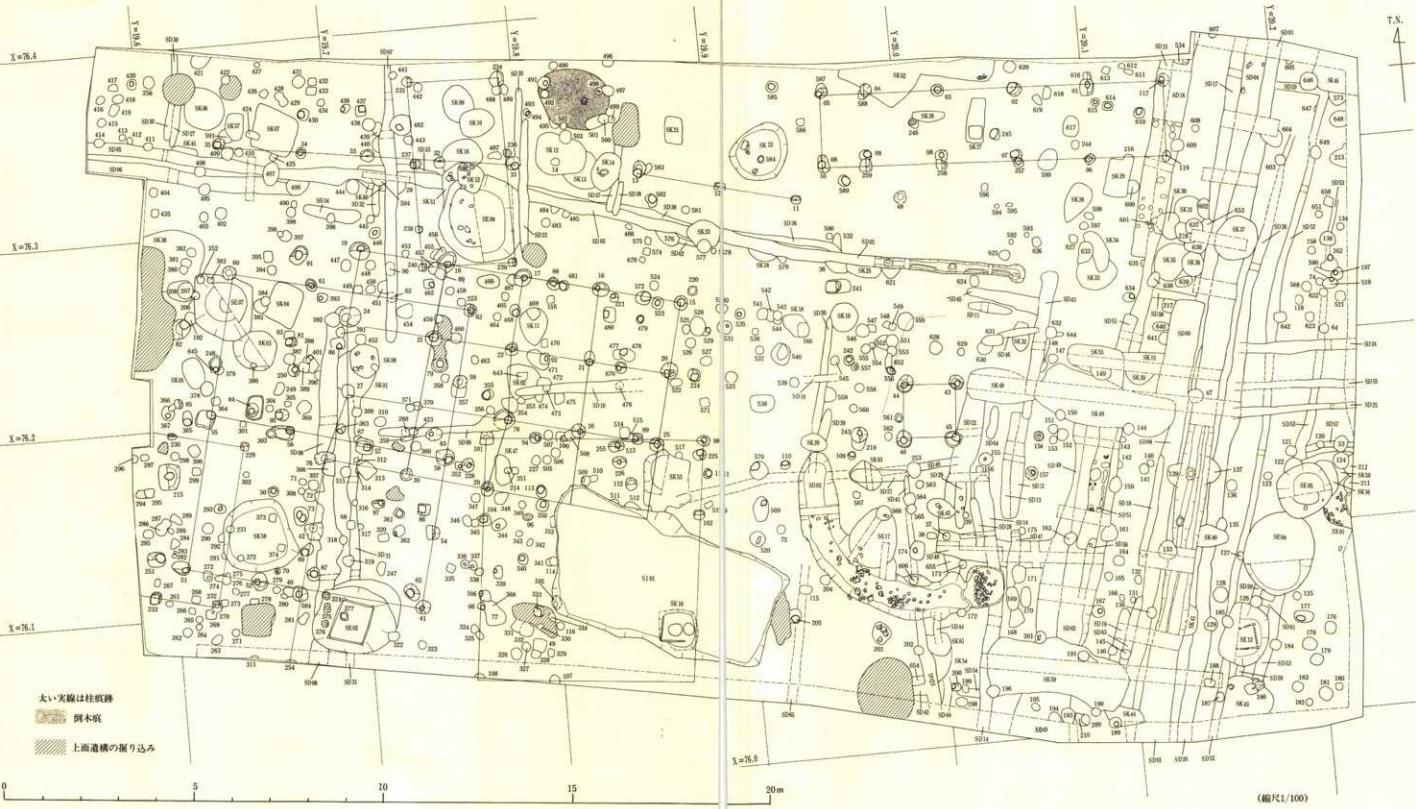
【規模】 衍行4間（総長8.58m）、梁行3間（総長5.58m）の東西棟続柱建物である。南東隅の柱穴2つがS I01に切られて消滅している。平面積は約48m²である。また、西側柱穴列から南にのびる柱筋3間分にS P42・S P584・S P254の柱穴列を確認したが、本建物と直接関係するものかどうか不明である。建物の主軸方位はN-76°-Wである。

【柱穴】 掘り方一形状はほとんどが円形で、大きさ径17cm～55cmである。深さは11cm～62cmで、平均で34cmを測る。柱痕一径13cm～23cmで、方形に近いものもあるが、ほとんどが円形で丸柱である。

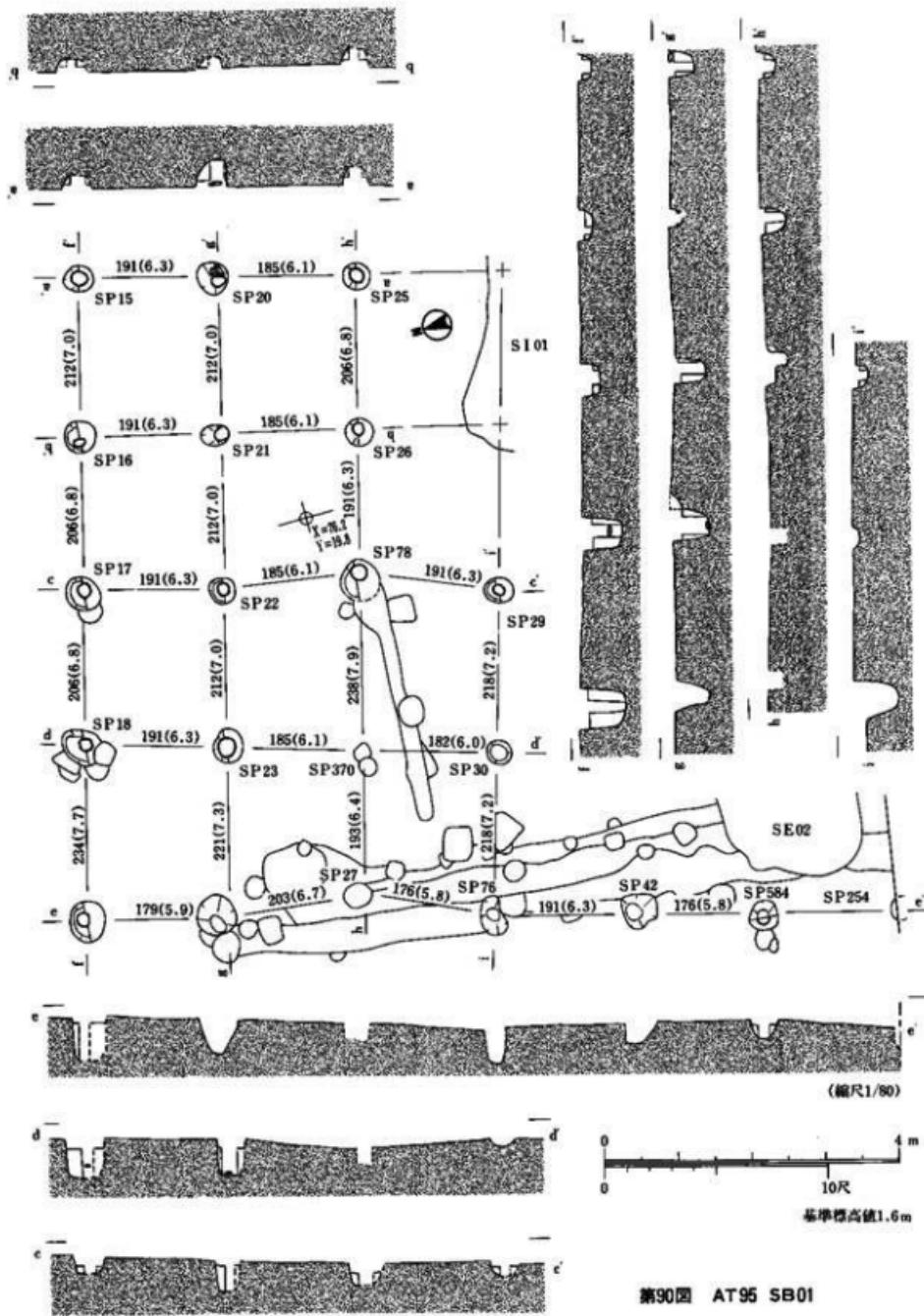
【柱間寸法】 衍行の平均柱間寸法は、2.14m（7尺）である。梁行の平均柱間寸法は、1.89m（6尺2寸）である。建物の設計寸法は衍行7尺、梁行6尺と考えられる。

【出土遺物】 S P26から19の鉄釘、S P76から18の瀬戸盤類の体部破片が出土している。古瀬戸後I期～II期のものである。S P42から17の瀬戸瓶口（梅瓶型）の底部破片が出土している。古瀬戸中III期～IV期である。

【年代】 S B01が14世紀代の構築されたS I01に切られていること。S I01に切られているS E10は13世紀代の遺物を出土し、S B01とセット関係を持った遺構配置が想定されること。また、建物の平面形からS B01は13世紀代に求められる。



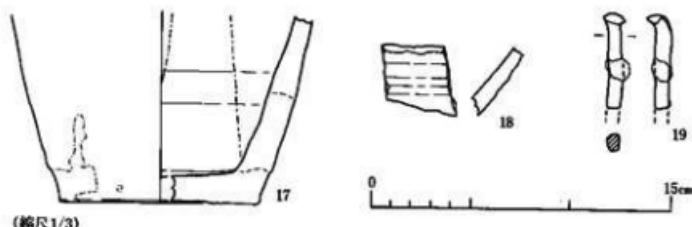
第89図 AT 95 調査区平面図(中世遺構)



第90図 AT95 SB01

第15表 AT95 SB01柱穴計測表

No	整理No	X	Y	平面形	長径	短径	深さ	柱底跡	柱底レベル	出土遺物	備考	調査
S P015	P015	76.26	19.88	円形	40	37	19	円形 径20.5	1.227			半裁
S P016	P016	76.26	19.84	横円形	45	39	20	横円形 径13	1.232			半裁
S P017	P017	76.28	19.80	円形	49	43	26	横円形 径18.5	1.166	S P017 > S P467		半裁
S P018	P018	76.28	19.76	横円形	59	44	53	円形 径18	0.887	埋土に石。SP089 > SP18		半裁
										> S P456 > S P457		
S P019	P019	76.30	19.72	円形	55	48	62	円形 径16.5	0.851			半裁
S P020	P020	76.22	19.88	円形	45	43	35	横円形 径17.5	1.044		上面に石2	完掘
S P021	P021	76.24	19.84	横円形	38	28	19	円形 径17.5	1.225			半裁
S P022	P022	76.24	19.80	円形	33	33	43	円形 径15	0.927			半裁
S P023	P023	76.24	19.76	円形	44	40	50	円形 径23	0.900		底面に石1	半裁
S P024	P024	76.26	19.72	円形	56	53	47		0.937		SP024 > SP392 > SD08	完掘
S P025	P025	76.18	19.88	円形	38	38	24	円形 径19	1.157			半裁
S P026	P026	76.20	19.82	円形	37	37	31	円形 径13.5	1.039	▲	S P026 > S P508	半裁
S P027	P027	76.22	19.78	円形	37	34					S P027 > S K01 > SD31	検出
S P029	P029	76.16	19.78	円形	39	33	21	横円形 径13.5	1.131			半裁
S P030	P030	76.18	19.74	円形	34	32	11					完掘
S P042	P042	76.16	19.68	不整形	49	46	28		1.009	●	S P042 > SD08	完掘
S P076	P076	76.18	19.70	横円形	54	30	58		0.769	●	SP076 > SP396 > SD08	完掘
S P078	P078	76.20	19.80	円形	56	54	39	円形 径19	1.005	▲	S D09 > SP078	半裁
S P254	P254A	76.08	19.66	*	25	9						検出
S P370	P370	76.22	19.74	方形	26	22					S P371 > S P370	検出
S P584	P584	76.12	19.68	円形	41	38	26	*径16	1.039		S P584 > SP040	半裁



(縮尺1/3)

SB01柱穴出土遺物（図版34）

番号	遺構	種類	基種	層位	レベル	法量	個体数	備考	整理No
17	S P42	窓戸	瓶瓶	埋土	1.218	底 [10.0]		窓戸中Ⅲ期～Ⅳ期 灰陶 底面にトチノ痕	778
18	S P76	瓶	瓶	埋土	1.217			窓戸後Ⅰ期～Ⅱ期 灰陶	794
19	S P26	鉄製品	釘	埋土	1.193	長(4.8)、幅0.6	4.8g		823

第91図 AT95 SB01出土遺物

S B02掘立柱建物（第92・93図）

【位置】調査区西隅に位置する。

【重複】S D07, S E02に切られている。S D31, S E07を切っている。S B01, S B10, S D08, S D09, S E02, S E07, S K03, S K04, S K58と重複する。

【規模】桁行4間（総長8.00m）、梁行3間（総長6.36m）の南北棟側柱建物である。平面積は約51m²である。S E02によって、南側梁行の柱穴1つが消失している。また、S P55—S P60間、及びS P56—S P61間の柱筋上にはそれぞれS P248, S P250の柱穴が並び、本建物と直接関係する可能性が高い。建物の主軸方位はN-14°-Eである。

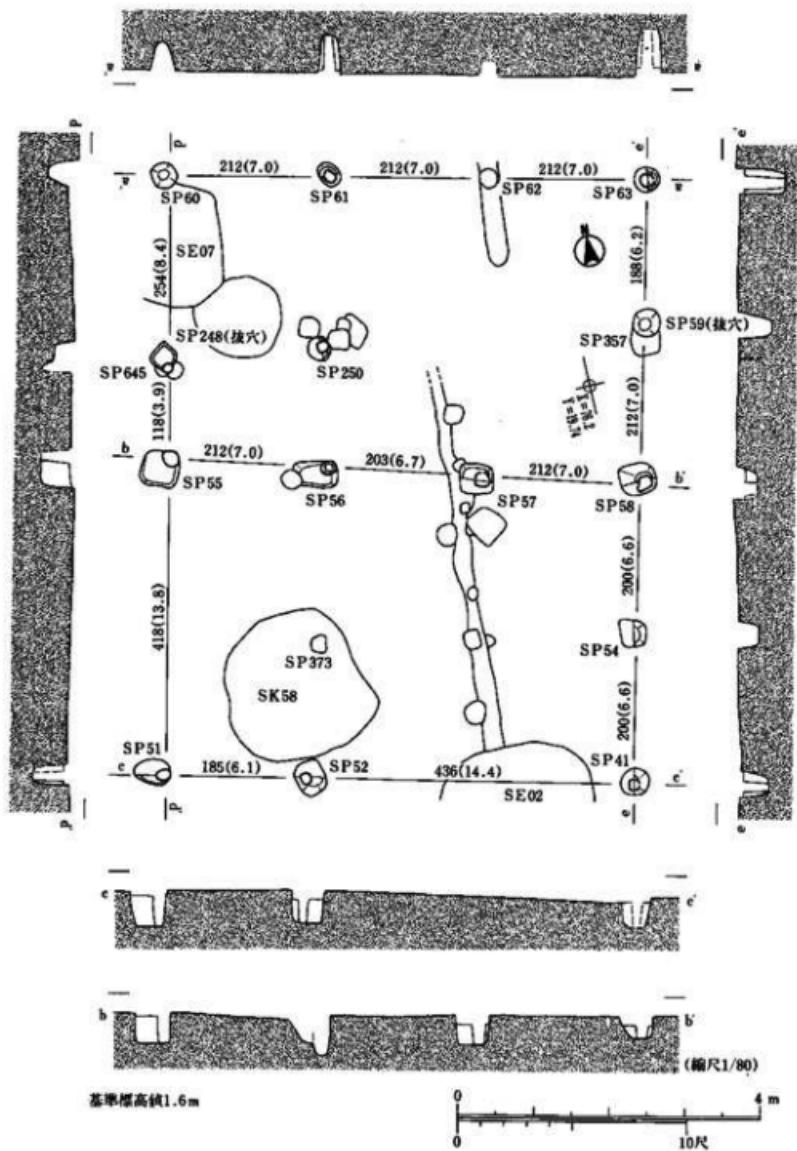
【柱穴】掘り方—S P55～58間の柱筋は方形で規模が大きいものである。大きさ43cm～48cmである。深さは31cm～52cmで、平均で41cmを測る。

その他の柱穴は円形か、不整な円形を呈する。大きさ径21cm～43cmである。深さは28cm～65cmで、平均で44cmを測る。柱痕—確認された柱痕は径13cm～22cm、すべて円形で丸柱である。なお、S P55から炭化した状態の柱痕が確認されている。

【柱間寸法】桁行の平均柱間寸法は、2.00m（6尺6寸）である。梁行の平均柱間寸法は、2.09m（6尺9寸）である。建物の設計寸法は桁行6尺6寸、梁行7尺と考えられる。

【出土遺物】S P645から20の瀬戸鉢皿の口縁部破片が出土した。やや大型品で、片口部分が欠損している。内外面に灰釉を施している。内面には卸目が見られる。古瀬戸中IV期である。S P41から21の瀬戸四（三）耳壺の体部破片が出土した。外面に灰釉を施す。外面には3条1帯の沈線が見られる。古瀬戸後I期～II期である。S P51から22の珠洲すり鉢の口縁部破片が出土している。口縁部は内傾して面取り調整を行い、端面に櫛目波状文を施す。珠洲V期である。S P54から23の鉄釘が出土している。S P56から24の瀬戸器種不明品の底部破片が出土している。

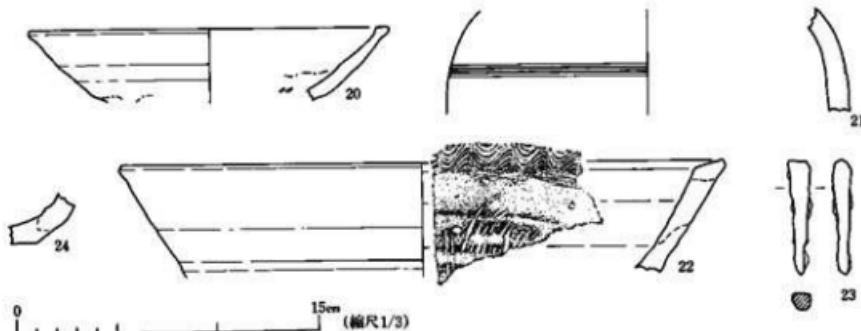
【年代】S B02がS D08と重複していること。建物の平面形、及び出土遺物から、現時点では大きく14世紀後半から15世紀前半と捉えたい。また、S B02はS E02, S E07と切り合い・重複しており、セット関係として成り立たない。



第92図 AT95 SB02

第16表 AT95 SB02柱穴計測表

No	整理No	X	Y	平面形	長径	短径	深さ	柱痕跡	判定レベル	出土遺物	備考	測定
S P041	P041	76.10	19.74	円形	40	35	40	* 径16	0.905	●		半裁
S P051	P051	76.14	19.62	椭円形	49	34	48	椭円形 径15.5	0.888	●		半裁
S P052	P052	76.12	19.66	方形	47	38	44	方形 径14.5	0.929			半裁
S P054	P054	76.14	19.74	方形	37	35	28		1.037	▲		半裁
S P055	P055	76.22	19.64	方形	48	46	42	円形 径21	0.944			完掘
S P056	P056	76.20	19.68	方形	61	34	52	円形 径20	0.808	●	S P303> S P056	完掘
S P057	P057	76.20	19.72	方形	44	41	39	* 径20	0.949		SP057>SP067+SD31	半裁
S P058	P058	76.18	19.76	方形	46	43	31	不整形 径21.5	1.043			半裁
S P060	P060	76.30	19.66	円形	35	34	41		1.024		S P060> S E07	完掘
S P061	P061	76.28	19.70	椭円形	35	26	52	方形 径14.5	0.953			半裁
S P062	P062	76.28	19.74	円形	24	24					S D07> S P062	検出
S P063	P063	76.26	19.78	円形	34	33	65	* 径17	0.767			半裁
S P250	P250	76.24	19.68	円形	33	29	37	円形 径15	0.939		SP250>SP387-SP389	半裁
S P373	P373	76.16	19.66	方形	22	19					S P373> S K58	検出
S P357	P357	76.22	19.76	方形	39	38	44		0.912		S P059> S P357	検出
S P059	P059	76.22	19.76	円形	37	36	44		0.912		SP357柱穴、SP059>SP357	完掘
S P645	P645	76.24	19.64	円形	22	20	43	円形 径13	0.945	●	SP248>SP645>SP379	検出
S P248	P248	76.24	19.64	方形	34	33	43	円形 径13	0.945		S P645柱穴、S P248	完掘
											> S P373+ S P645	



SB02柱穴出土遺物（図版34）

番号	遺構	断面	断面	層位	レベル	法重	個体数	備考	整理No
20	S P645	椭円	鉢	埋土	1.093	□ [18.0]	0.03	椭円中IV期 灰胎 内面ハケ塗り	808
21	S P41	椭円	内凹面	埋土	1.265			椭円後I-II期 灰胎 外面に平行沈線	771
22	S P51	球状	すり鉢	埋土	1.347	□ [30.0]	0.08	球状V期 口縁端面に波状文	789
23	S P54	鉄製品	釘	埋土	1.299	長(5.5)、幅1.0		6.2g	793
24	S P56	椭円	不明	埋土	1.310			内外面漆胎	786

第93図 AT95 SB02出土遺物

S B 05掘立柱建物（第94図）

【位置】調査区中央、やや南寄りに位置する。

【重複】S I 01とS D 09に切られている。S B 01とS E 10に重複する。

【規模】この建物が調査区南壁にかかっていること、S I 01に大きく切られており、正確な規模は不明であるが、桁行3間以上（南北総長6.34m）、梁行3間（東西総長5.82m）の南北棟継柱建物が想定される。調査区域外南へ延びる可能性が高い。建物の主軸方位はN-7°-Eである。

【柱穴】掘り方一形状はS P 99～101が方形に近く、その他は円形である。大きさ径10cm～39cmである。深さは28cm～43cmで、平均で37cmを測る。柱痕一径13cm～21cmで、すべて円形で丸柱である。

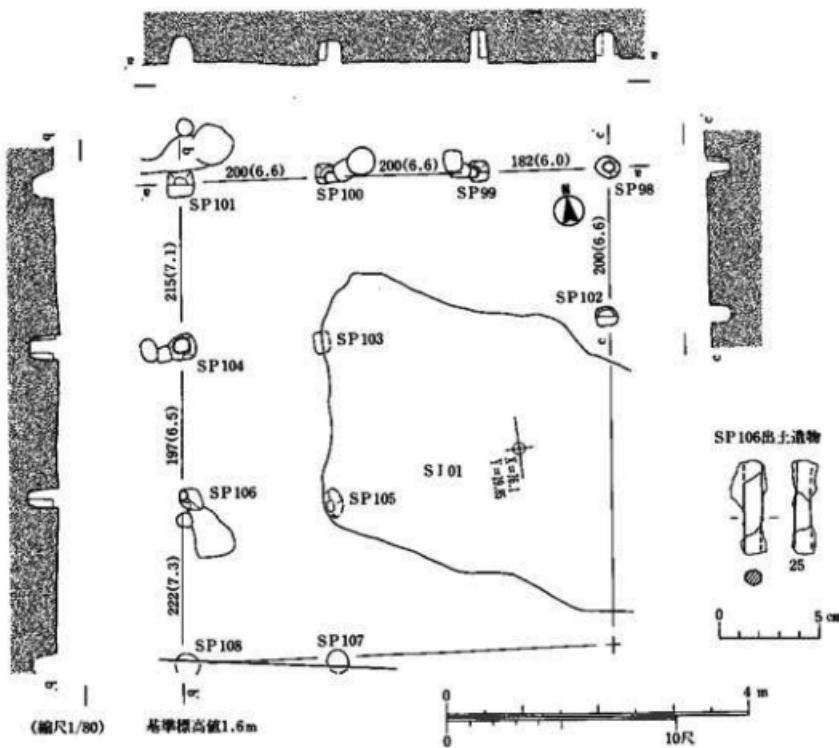
【柱間寸法】桁行の平均柱間寸法は、2.11m（6尺9寸）である。梁行の平均柱間寸法は、1.94m（6尺4寸）である。

【出土遺物】S P 106から25の鉄釘片が出土している。

【年代】S B 01との遺構の切り合い関係はないが、14世紀代に構築されたS I 01に切られていること。13世紀代のS E 10と重複すること。また、遺構の配置状況を考慮すると、S B 05はS B 01に切られているS D 05・S D 31と12世紀後半代に求められるS B 07・S D 03の宗教建築遺構に挟まれており、S B 07の建物主軸方位とも一致している。このことから、S B 05は12世紀後半代に想定される。

S B 07掘立柱建物とS D 03周溝（第95図）

S B 07掘立柱建物とそのすぐ南側で検出されたS D 03周溝は一連の遺構として捉えることができるので、まとめて記述する。S B 07は1間×1間の掘立柱建物で、柱間寸法は1.37m（4尺5寸）の規模をもっており、これまで検出された他の掘立柱建物の構造規模、柱間寸法とは全く異なる特殊な遺構である。用途として神社の小堂のような宗教的建築遺構を想定することができる。また、S D 03はS B 07の南面を弧状に巡る周溝であり、成立当初は溝底面に葺石を敷き詰めていたと考えられる特殊な遺構である。S D 03から12世紀後半代に比定される珠洲すり鉢破片が出土している。さらに、この周辺からS P 39、S P 170、S K 61など骨片を伴う遺構や骨片がまとまって出土する地点があり、宗教的意味合いの強い空間であったと推定できる。これらの遺構の廃絶時期としては、S B 07とS D 03を直接切っている遺構出土遺物は確認できなかったが、周辺の空間内にある遺構S K 63、S P 253などの出土遺物を考慮すると、14世紀代にはその役割を失ったと考えられる。以下、個別に遺構の記述を行う。



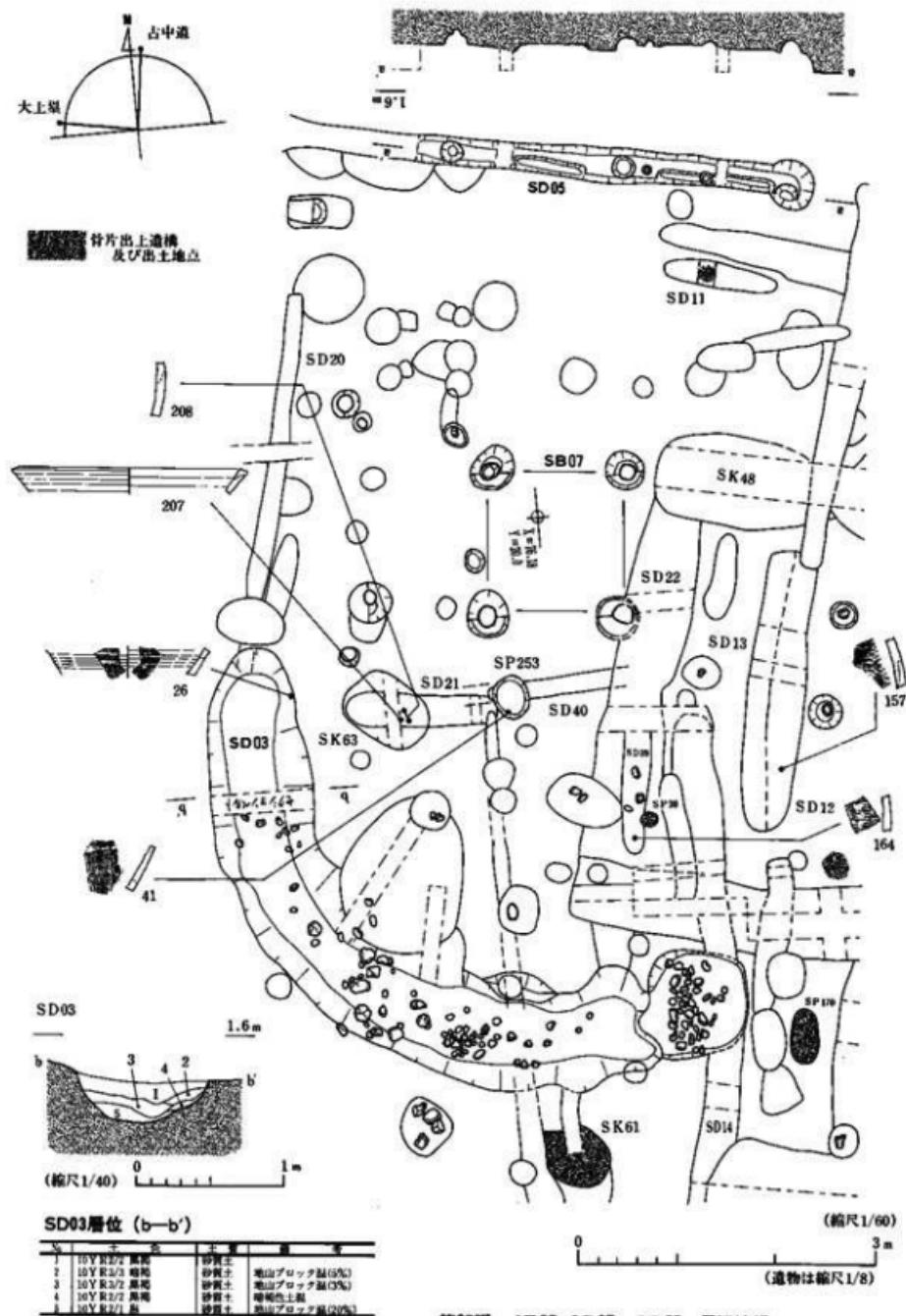
SB05柱穴

No.	整理No.	X	Y	平面形	縦	幅	柱痕跡	柱レベル	出土物	備考	調査	
SP098	P098	76.18	19.90	横円形	35	29	37	円形 径16.5	0.971		半裁	
SP099	P099	76.18	19.86	方形	28	25	43	方形 径13.5	0.919	SP515>SP099	半裁	
SP100	P100	76.18	19.82	方形	29	26	31	方形 径15.5	1.038	SP508>SP100	半裁	
SP101	P101	76.20	19.78	方形	34	34	35		0.940	SP09>SP101	半裁	
SP102	P102	76.14	19.88	横円形	31	26	39		0.909		半裁	
SP103	P103	76.14	19.80	*	28	11				S101>SP103	検出	
SP104	P104	76.14	19.78	円形	38	34	40	横円形 径20.5	0.918	SP345>SP104	半裁	
SP105	P105	76.10	19.80	横円形	39	27	28		0.992	S101>SP105	完掘	
SP106	P106	76.10	19.78	横円形	38	30	43	円形 径12.5	0.846	▲▲	SP106>SP368	半裁
SP107	P107	76.06	19.80	円形	30	24					検出	
SP108	P108	76.06	19.76	*	29	10					検出	

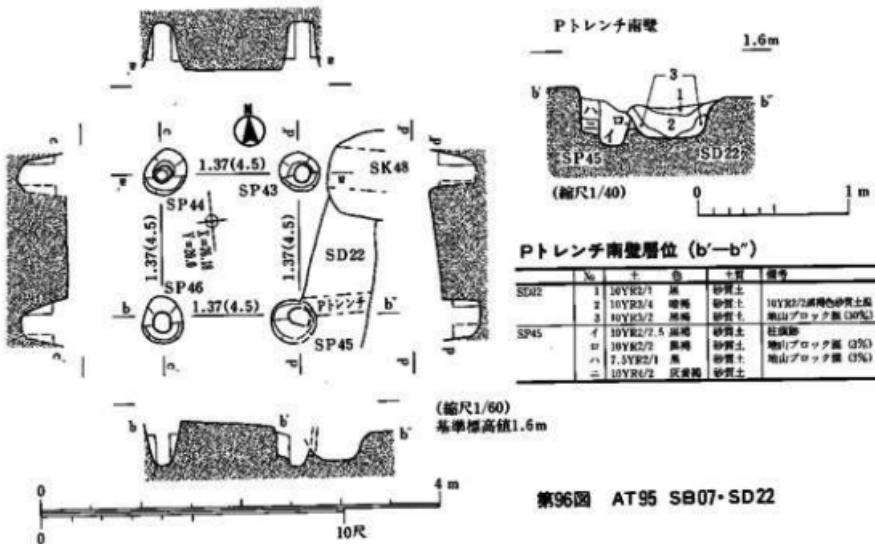
SB05柱穴出土遺物(図版34)

番号	遺構	種類	品種	層位	レベル	法尾	副様	備考	重量
25	SP106	鉄製品	釘	埋土	1.155	共(4.5), 幅1.0			8.0g

第94図 AT95 SB05・出土遺物



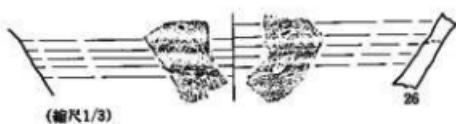
第95図 AT 95 SB07、SD03、周辺造構



第96図 AT95 SD07-SD22

SB07柱穴

No.	埋没年	X	Y	平面形	長径	短径	厚さ	柱痕跡	柱跡のれん出土物	備考	調査
SP043	P043	76.20	20.02	円形	40	37	48	円形 径16	0.971		完掘
SP044	P044	76.20	20.00	椭円形	48	39	47	椭円形 径17	0.973		完掘
SP045	P045	76.16	20.02	円形	48	45	45	不整円形 径19	0.935	SD22>SP045	完掘
SP046	P046	76.18	20.00	椭円形	45	40	46	円形 径19	0.968		完掘



SD03出土遺物 (図版48)

番号	種類	形態	層位	いじめ	出土	部位	標号	形態
26	陶器	すり鉢	堆土	1.33		裏面	26	すり鉢

0 10cm

第97図 AT95 SD03出土遺物

S B 07据立柱建物 (第96図)

[位置] 調査区中央、東寄りに位置する。

[重複] S D 22に切られる。

[規模] 衍行1間(総長1.37m), 梁行1間(総長1.37m)の建物である。平面積は約1.1m²である。

[柱穴] 掘り方—形状はすべて円形及び不整な円形である。大きさは径37cm~48cmである。深さは45cm~48cmで、平均で47cmを測る。柱痕—検出された柱痕跡は径16cm~19cmで、円

形で丸柱である。

【柱間寸法】 衍行、梁行の柱間寸法は、それぞれ1.37m（4尺5寸）である。

【出土遺物】 出土遺物なし。

S D 03周溝（第95・97図）

調査区中央南東寄り、S B07の南に位置する周溝である。周溝は弧状にめぐっており、幅0.9m～1.06m、外周の長さ8.5m、深さ26cm程の規模をもつ。

堆積土は5層に分かれ。黒色・黒褐色系の埋土を含む。新旧関係はS K17、S K46、S D14などに切られており、これらの遺構より時期的に古い。周溝の東端には径5cm～10cm程の河原石が40cm×80cmの矩形状に集積して検出された。河原石はほぼ底面に近い位置で、敷き詰められた状態で検出した。その他、周溝西側において、埋土中に河原石、拳大程の礫が多く検出されている。このことから、当初は周溝全体に河原石が葺石状に敷き詰められていたと考えられるが、S D03の廃絶後、上からの新たな遺構の構築・攪乱等によって葺石が破壊されて浮上し、一部東端で痕跡をとどめるのみとなったと判断される。出土遺物は周溝の西端から26の珠洲すり鉢の体部破片が出土している。胎土はやや粗く、焼成もやや不良で褐色ぎみとなる。器壁は薄く、内外面にはロクロ痕が明瞭に残る。内面には鉢目は見られない。珠洲Ⅰ期（12世紀後半）と思われる。

S B 08掘立柱建物（第98図）

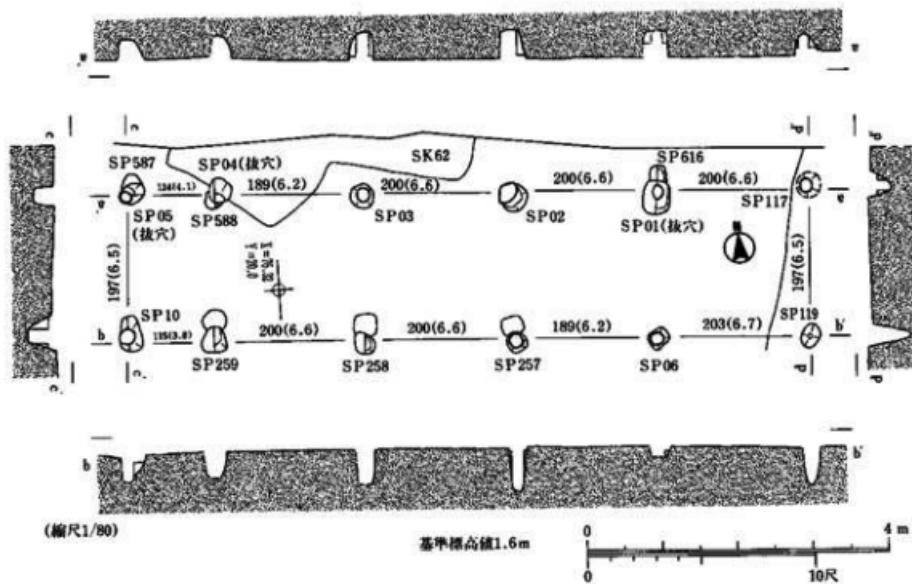
【位置】 調査区北東隅に位置する。

【重複】 S D15、S D16と切れ合っているが、上からの耕作、攪乱によって新旧関係は不明である。

【規模】 S B08は調査区北側に接しているため、さらに調査区外北側に延びる可能性が高い。建物が北側に延びる可能性を考えると、西側に1間の庇を有する建物が想定されるが、確認された規模を示すと、衍行5間（総長9.13m）、梁行1間（総長1.97m）の東西棟建物となる。平面積は18m²である。建物の主軸方位はN-87°-Wである。調査面積の拡大を待つ、再度検討したい。

【柱穴】 掘り方一形状はほとんどが円形及び不整な円形である。大きさは径10cm～47cmである。深さは18cm～59cmで、平均で36cmを測る。柱痕一検出された柱痕跡は径15cm～28cmで、ほとんどが円形で丸柱である。

【柱間寸法】 西側の衍行1間分の柱間寸法とその他4間分の柱間寸法は大きくことなる。西側の衍行1間分の平均柱間寸法は1.195m（3尺9寸）である。その他4間分の平均柱間寸法は1.98m（6尺5寸）である。梁行の柱間寸法は、1.97m（6尺5寸）である。



SB08柱穴

No.	整理番号	X	Y	平面形	長径	短径	深さ	柱痕跡	柱頭レベル	出土遺物	備考	調査
SP002	P002	76.36	20.08	円形	39	36	38	梢円形 径27.5	1.038			完掘
SP003	P003	76.36	20.04	円形	33	30	39	円形 径18.5	1.035			完掘
SP006	P006	76.32	20.12	方形	28	22	18	梢円形 径19.5	1.220			半裁
SP010	P010	76.32	19.98	梢円形	47	29	37	円形 径20	1.020	○		半裁
SP117	P117	76.34	20.16	円形	35	31	29	円形 径17	1.110		SP117=SD15?	半裁
SP119	P119	76.30	20.16	梢円形	31	25	56		0.876		SP119=SD16?	完掘
SP257	P257	76.32	20.08	円形	27	26	59	円形 径18	0.826		SP257>SP007	完掘
SP258	P258	76.32	20.04	円形	33	27	48		0.933		SP258>SP008	半裁
SP259	P259	76.32	20.00	不整形円形	37	29	38		1.037		SP259>SP009	半裁
SP587	P587	76.36	19.98	梢円形	38	30	28	円形 径15.5	1.104		SP005>SP587	検出
SP005	P005	76.36	19.98	梢円形	36	26	28	円形 径15.5	1.104		SP587抜穴、SP005>SP587	半裁
SP588	P588	76.36	20.00	*	28	10	29		1.075		SP004>SP588	半裁
SP004	P004	76.36	20.00	円形	33	30	29		1.075		SP588抜穴、SP004>	半裁
SP616	P616	76.36	20.12	梢円形	44	22	36	梢円形 径15	1.065		SP001>SP616	半裁
SP001	P001	76.34	20.12	方形	43	38	36	梢円形 径15	1.065		SP616抜穴、SP001>SP616	半裁

SB10出土遺物



10cm

SB08抜穴出土遺物 (図版34)

番号	遺物	種類	特徴	層位	レベル	送金	備考	割合%
27	SP10	骨器	角	堆土	1.393			82%

第98図 AT95 SB08・出土遺物

【出土遺物】 S P10から27の青磁碗体部破片が出土している。年代の判別は難しい。

【年代】 S D15, S D16との切り合い関係が不明であり、青磁碗片が出土しているが、遺構年代の決め手にはならない。建物はさらに北側に延びる可能性が高いため、平面形も不明である。現段階では建物主軸方位、遺構配置状況から、中世十三次の廃絶前段階の15世紀中頃と想定したいが、今後の調査面積の拡大を待って再度遺構の検討を要する。

S B 10掘立柱建物（第99図）

【位置】 調査区南西隅に位置する。

【重複】 S K58を切っている。S B02と重複する。

【規模】 規模等は不明である。検出された規模を見ると南北2間（検出総長4.3m）、東西1間（検出総長1.91m）であるが、調査区西・南壁にかかっており、さらに西・南側に延びる可能性が高い。

【柱穴】 掘り方一形状は隅柱であるS P229, S P232は方形である。大きさは20cm×23cmである。深さは平均で39cmを測る。その他の柱穴は円形及び不整な円形である。大きさは径18cm～29cmである。深さは26cm～37cmで、平均で32cmを測る。柱痕—S P233で検出された柱痕跡は方形で、23cm×26cmのものである。

【柱間寸法】 南北の2間分の平均柱間寸法は2.15m（7尺）である。

【出土遺物】 出土遺物なし。

【年代】 時期不明。

S B 11掘立柱建物（第100図）

【位置】 調査区中央、北西寄りに位置する。

【重複】 S D33を切っている。S E09と重複する。

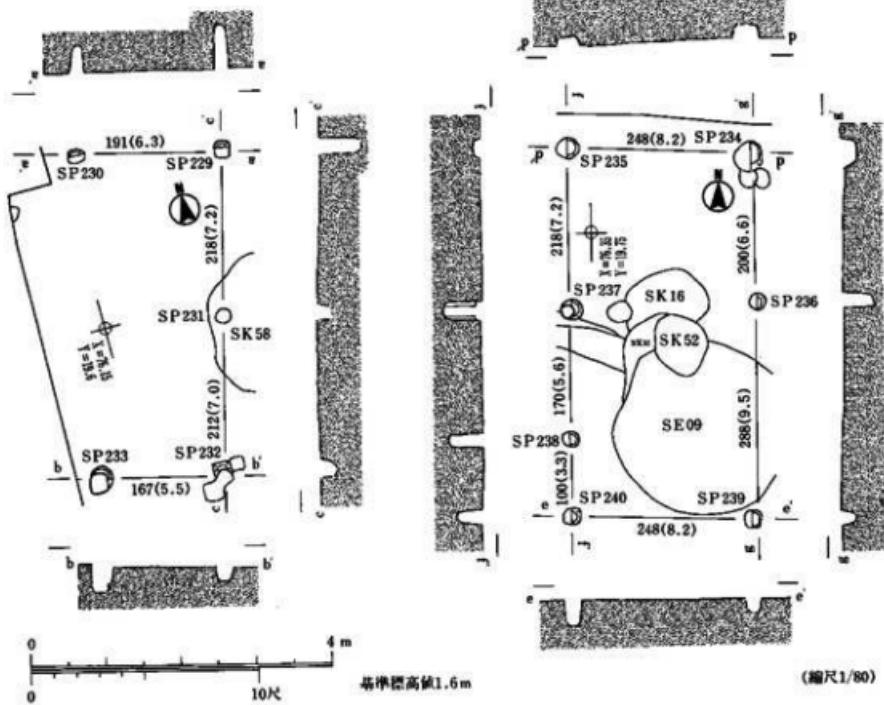
【規模】 調査区北壁にかかっており、さらに北にのびる可能性がある。確認された規模をみると、桁行3間（総長4.88m）、梁行1間（総長2.48m）の南北棟側柱建物である。西側桁行のS P237—S P240間の柱筋にS P238があるが、これと対になる東側桁行の位置ではなく、S E09によって消失していると思われる。

【柱穴】 掘り方一形状は隅柱のS P239, S P240は方形である。大きさは20cm×23cmである。深さは平均で28cmを測る。その他の柱穴は円形である。大きさは径21cm～42cmである。深さは12cm～51cmで、平均35cmを測る。

【柱間寸法】 桁行の柱間寸法は一定しない。梁行の柱間寸法は2.48m（8尺2寸）である。

【出土遺物】 出土遺物なし。

【年代】 出土遺物はないが、遺構の配置状況から15世紀代と推される。



SB10柱穴

No	整理No	X	Y	平面形	長径	短径	深さ	柱底跡	柱底シルバ出土品物	備考	調査
SP229	P229	76.20	19.66	方形	21	20	59		0.725		半裁
SP230	P230	76.20	19.62	椭円形	23	18	37		0.968		半裁
SP231	P231	76.16	19.64	円形	22	21				SP231>SK58	検出
SP232	P232	76.12	19.64	方形	23	20	18		1.155	SP220+SP273>SP232	半裁
SP233	P233	76.12	19.60	円形	29	28	26	方形 径24	1.122		半裁

SB11柱穴

No	整理No	X	Y	平面形	長径	短径	深さ	柱底跡	柱底シルバ出土品物	備考	調査
SP234	P234	76.38	19.80	椭円形	42	38	20		1.177	SP234>SP488+SP489	半裁
SP235	P235	76.38	19.76	円形	30	27	12		1.335		半裁
SP236	P236	76.34	19.80	円形	21	21	46		0.906		半裁
SP237	P237	76.34	19.76	円形	27	27	51	円形 径19	0.926	SP237>SD33	半裁
SP238	P238	76.30	19.76	椭円形	23	20	44		0.999		半裁
SP239	P239	76.28	19.80	方形	23	22	20		1.219		半裁
SP240	P240	76.28	19.76	方形	22	20	35		1.070		半裁

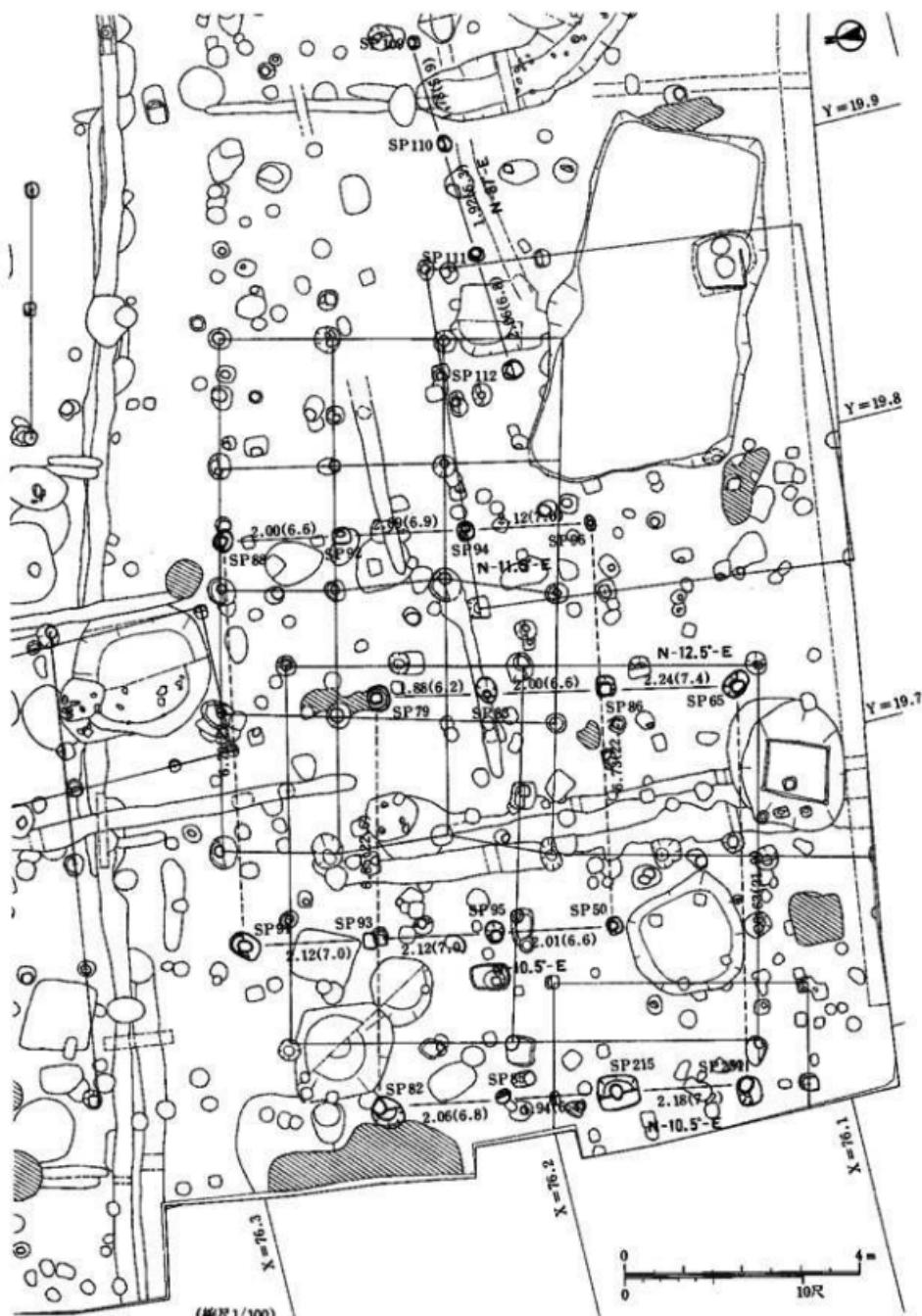
第17表 AT85 挖立柱建物計測表

番号No.	柱行 柱間	柱行 柱間	柱行長 (cm)	柱行長 (尺)	柱行長 (cm)	柱行長 (尺)	平均幅 (m)	主軸方位	備考
SB01	4	3	858	28.3	558	18.4	47.87	N-76.0°-W	SP09+SP371+SD09+SB01>SB01>SP040+SP306 -SP392+SP456+SP457+SP467+SP508+SK01 -SD08+SD31
SB02	4	3	800	26.4	636	21.0	59.88	N-14.0°-E	SP303+SB02>SD07>SB02>SP067+SP379+SP387 -SP389+SK54+SB07+SD31
SB05	3	3	634	20.9	582	19.2	36.89	N-7.0°-E	SP345+SP508+SP515+SD09+SB01>SB25>SP368
SB07	1	1	137	4.5	137	4.5	1.87	N-4.5°-E	SD22>SB07
SB08	5	1	913	30.1	197	6.5	17.98	N-87.0°-W	SB08>SP007+SP008+SP009+SK62, SB08=SD15 -SD16?
SB10	2	1	430	14.2	191	6.3	8.21	N-14.0°-E	SP270+SP273>SB10>SK58
SB11	3	1	488	16.1	248	8.2	12.10	N-0°-E	SB11>SP488+SP489+SD33

他の掘立柱建物の可能性について（第101図）

今回は掘立柱建物として取り上げなかったが、上記以外の他にも掘立柱建物として復元される可能性の高い柱穴列について取り上げ、今後の検討材料としたい。

- ① S P 88・92・94・96で構成する3間の南北柱穴列に対して、その西側にS P 91・93・95・50で構成する3間の南北柱穴列がある。しかし、その間の東西柱筋の柱穴が見当たらない。前者の柱穴列の主軸方位はN-11.5°-E、後者はN-10.5°-Eである。
- ② S P 79・83・86・65で構成する3間の南北柱穴列に対して、その西側にS P 82・85・215・251で構成する3間の南北柱穴列がある。西側の南北柱穴列は柱穴規模がやや不揃いである。また、東西柱筋の柱穴が見当たらない。前者の柱穴列の主軸方位はN-12.5°-E、後者はN-10.5°-Eである。
- ③ S P 109~112で構成する3間の東西柱穴列である。柱穴列の主軸方位はN-87°-Eである。



第101図 AT95 その他柱穴列の想定図

柵・塀

ここで柵・塀とした柱穴列は区画造構に沿って延びるものを取り上げている。

SA02 (第102図)

調査区中央北寄り、SD05の北1.2m程離れた位置に沿って延びている。

SP11, SP12, SP13の2間分を検出した。検出長は4.18mである。

柱間寸法はSP11—SP12間は2m(6尺6寸), SP12—SP13間は2.18m(7尺2寸)である。掘り方はSP11・SP13が円形, SP12は方形を呈する。深さは34cm~44cmである。SA02の主軸方位はN-76°-Wを示す。新旧関係はSP583より新しい。

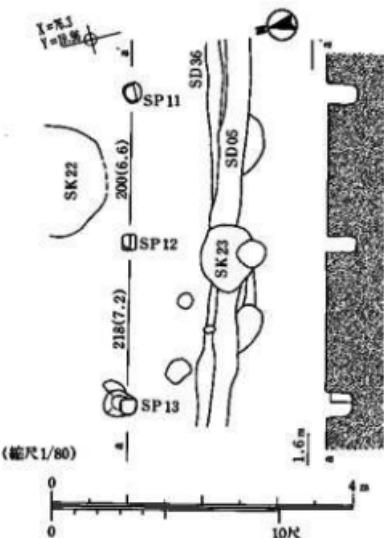
SA04 (第103図)

調査区北西寄り、SD05の北50cm程離れた位置に沿って延びている。

SP31~SP35の4間分を検出した。

検出長は7.88mである。柱間寸法はSP31—SP32間は2.03m(6尺7寸),

SP32—SP33間は1.91m(6尺3寸), SP33—SP34間は1.70m(5尺6寸), SP34—SP35間は2.24m(7尺4寸)である。掘り方はすべて円形を呈する。深さは10cm~49cmである。SA04の主軸方位はN-81.5°-Wを示す。新旧関係はSD23・SD35より古く、SP591・SK16より新しい。



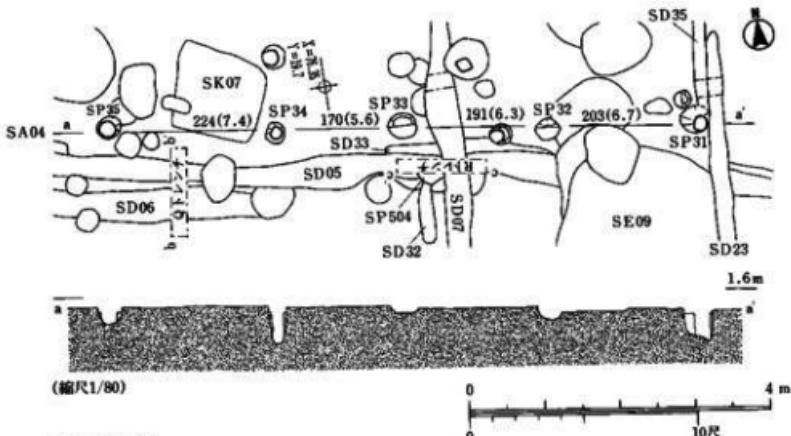
SA02柱穴

No.	標高	X	Y	平面	高さ	直径	柱底深	柱底-地表	層号	層名
SP011	P011	26.30	19.96	PE	28	23	39	1.006		牛糞
SP012	P012	26.32	19.92	方	21	18	44	0.980		牛糞
SP013	P013	26.32	19.88	PE	42	37	34	1.031	SP012-SP013	灰土

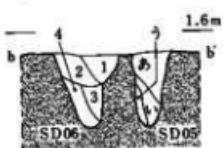
第102図 AT95 SA02

第18表 AT95 柱穴列計測表

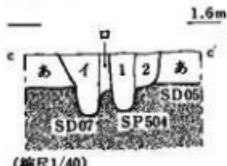
柱間m	標高 m	高さ cm	層名 (層)	主軸方位	備考
SA02	2	418	13.8	N-76.0°-W	SA02>SP583
SA04	4	788	26.0	N-81.5°-W	SD23-SD35>SA04>SP591-SK16



Q テンチ西壁



R テンチ南壁



(縮尺1/40)

Q テンチ西壁層位 (b-b')

No.	土色	土質	備考
SD05	あ い う	砂質土 砂質土 砂質土	災害 段・地山ブロック調 地山ブロック調
	1 2 3	10YR2/1黒褐色 10YR2/2暗褐色 10YR5/6黄褐色	
	4	10YR2/1黒	
SD06	1 2 3 4	10YR2/1黒褐色 10YR2/2暗褐色 10YR5/6黄褐色 10YR2/1黒	砂質土 砂質土 砂質土 砂質土

R テンチ南壁層位 (c-c')

No.	土色	土質	備考
SP504	1 2	砂質土 砂質土	
	4 口	10YR2/1黒褐色 10YR2/3褐褐色	
SD07	1	砂質土	
	口	砂質土	
SD05	あ	10YR2/1黒	砂質土

0 2 m

SA04柱穴

No.	管理No.	X	Y	平面形	長径	短径	深さ	柱洞跡	壁レベル	出土遺物	備考	調査
SP031	P031	76.34	19.80	円形	41	36	42	円形 検17.5	0.942	SD23-SD35>SP031	半数	
SP032	P032	76.34	19.76	楕円形	32	28	18		1.230	SP032>SK36	半数	
SP033	P033	76.34	19.74	円形	37	33	10		1.351		半数	
SP034	P034	76.35	19.70	円形	28	25	49	円形 検16	0.966		半数	
SP035	P035	76.35	19.66	円形	33	29	20	円形 検20	1.238	SP035>SP031	半数	

第103図 AT95 SA04、SD05、SD06、SD07

第19表 AT95 柱穴計測表(柱痕跡を確認できたもの)

No.	整理番号	X	Y	平均値	高径	短径	深さ	直径	柱頭跡	柱底シベル	主な著者	番号	調査	
SP067	P067	76.32	20.68	円形	31	24	53	横円形 径21	0.885	SP257>SP067	光澤			
SP068	P068	76.32	20.64	円形	33	33	39	円形 径12.5	1.024	SP258>SP068	半裁			
SP069	P069	76.32	20.66	円形	34	29	30	横円形 径19.5	1.028	SP259>SP069	半裁			
SP070	P070	76.18	19.66	円形	28	27	50	不規方形 径14	0.830	●▲	半裁			
SP071	P071	76.12	19.74	横円形	48	36	35	不規方形 径23.5	0.850	■	半裁			
SP072	P072	76.10	19.76	円形	31	20	40	円形 径12		●	SP066>SP072	検出		
SP073	P073	76.14	19.68	不規方形	38	25	40	円形 径18.5		▲	SP066>SP073	検出		
SP074	P074	76.14	19.66	円形	15	15	40	円形 径7		▲	SP066>SP074	検出		
SP075	P075	76.16	19.68	横円形	49	37	40	横円形 径17			SP066>SP075	検出		
								円形 径19				SP066>SP075	検出	
SP076	P076	76.24	19.76	円形	44	36	28	円形 径19	1.117				光澤	
SP077	P077	76.24	19.70	円形	36	29	40	不規方形 径17						
SP078	P078	76.26	19.68	円形	31	24	48	円形 径19	0.881	SP39>SP078>SD08	検出			
SP079	P079	76.26	19.66	横円形	58	48	54	円形 径22	0.845	SP081>SP079	半裁			
SP080	P080	76.20	19.76	横円形	43	34	34	円形 径11.5	1.066	SP082>SP102	半裁			
SP081	P081	76.22	19.66	円形	35	31	48	円形 径14.5	0.879	SP083>SD09	光澤			
SP082	P082	76.16	19.74	円形	32	31	41	円形 径20.5	0.975		半裁			
SP083	P083	76.12	19.68	円形	37	34	36	円形 径18	0.951	SP087>SD08	半裁			
SP084	P084	76.28	19.82	円形	35	34	43	円形 径15.5	0.971	SP481>SP084	半裁			
SP085	P085	76.30	19.70	横円形	53	39	45	横円形 径22.5	1.008		半裁			
SP086	P086	76.24	19.82	円形	30	26	40	横円形 径11		SP082>SP471	検出			
SP087	P087	76.18	19.82	円形	31	29	51	円形 径14.5	0.820		半裁			
SP088	P088	76.28	19.82	円形	35	34	32	円形 径19.5	0.893		半裁			
SP089	P089	76.30	19.70	横円形	53	39	45	横円形 径22.5	1.008		半裁			
SP090	P090	76.24	19.82	円形	30	26	40	横円形 径11			半裁			
SP091	P091	76.18	19.82	横円形	31	29	51	円形 径14.5	0.820		半裁			
SP092	P092	76.24	19.82	円形	30	26	40	横円形 径11			半裁			
SP093	P093	76.18	19.82	円形	31	29	51	円形 径14.5	0.820		半裁			
SP094	P094	76.22	19.68	円形	36	32	45	円形 径19.5	0.893		半裁			
SP095	P095	76.22	19.68	円形	36	32	45	円形 径19.5	0.893		半裁			
SP096	P096	76.16	19.72	円形	34	22	46	不規方形 径15	0.810		半裁			
SP097	P097	76.16	19.72	円形	21	20	33	円形 径14	1.038		半裁			
SP098	P098	76.16	19.98	円形	26	24	29	横円形 径18	1.073		半裁			
SP100	P100	76.16	19.98	円形	27	22	27	円形 径17.5	1.063		半裁			
SP110	P110	76.16	19.94	円形	34	30	38	円形 径21	1.012		半裁			
SP111	P111	76.16	19.90	横円形	35	33	32	円形 径12	0.959		半裁			
SP112	P112	76.16	19.80	横円形	46	35	40	円形 径15.5			半裁			
SP113	P113	76.14	20.06	円形	35	33	32	円形 径12	0.959		半裁			
SP114	P114	76.24	20.24	横円形	46	35	40	円形 径15.5			半裁			
SP115	P115	76.16	20.10	円形	34	32	40	円形 径14.5			半裁			
SP116	P116	76.16	20.10	円形	45	40	52	横円形 径11.5			半裁			
SP117	P117	76.06	20.26	横円形	52	31	40	横円形 径19			半裁			
SP118	P118	76.02	20.10	横円形	34	27	40	円形 径13.5			半裁			
SP119	P119	76.24	20.24	円形	36	31	40	円形 径12			半裁			
SP120	P120	76.04	20.02	方形	22	20	20	方形 径11			半裁			
SP121	P121	76.08	19.94	円形	38	38	40	円形 径20			半裁			
SP122	P122	76.18	19.62	円形	69	54	25	横円形 径23.5	1.102		半裁			
SP123	P123	76.18	19.98	横円形	53	38	32	横円形 径13.5	1.095		半裁			
SP124	P124	76.18	19.98	横円形	46	41	32	横円形 径13.5	1.095		半裁			
SP125	P125	76.26	19.86	円形	25	22	21	円形 径14	1.216		半裁			
SP126	P126	76.22	19.90	円形	36	34	50	円形 径18.5	0.890		半裁			
SP127	P127	76.18	19.90	横円形	37	29	31	円形 径17	1.014	▲	半裁			
SP128	P128	76.18	19.84	円形	38	32	35	円形 径12.5	1.011		半裁			
SP129	P129	76.18	19.76	円形	38	32	48	円形 径11	0.858		半裁			
SP130	P130	76.22	19.98	円形	28	28	34	円形 径17	1.066		半裁			
SP131	P131	76.32	20.06	不規方形	29	26	36	横円形 径24			半裁			
SP132	P132	76.34	20.02	横円形	27	23	40	横円形 径17.5			半裁			
SP133	P133	76.14	19.60	横円形	47	49	46	方形 径23	0.877	●	半裁			
SP134	P134	76.10	19.80	円形	31	29	40	方形 径22			半裁			
SP135	P135	76.12	19.78	横円形	35	35	35	円形 径9			半裁			
SP136	P136	76.12	19.80	円形	30	27	40	横円形 径16.5			半裁			
SP137	P137	76.14	19.78	横円形	42	30	40	円形 径11.5			半裁			
SP138	P138	76.16	19.80	円形	35	32	40	円形 径15			半裁			
SP139	P139	76.12	19.78	横円形	35	35	35	円形 径8			半裁			
SP140	P140	76.12	19.80	円形	30	27	40	横円形 径16.5			半裁			
SP141	P141	76.14	19.78	横円形	42	30	40	円形 径11.5			半裁			
SP142	P142	76.16	19.76	円形	20	20	40	円形 径8			半裁			
SP143	P143	76.18	19.78	横円形	33	26	40	横円形 径22			半裁			
SP144	P144	76.16	19.74	不規方形	27	24	40	円形 径17			半裁			

No.	監視No.	X	Y	半偏形	異性	輪郭	深さ	計前跡	計前レベル	地土面積	備考	調査
SP361	P362	76.14	19.72	横円形	35	29		横円形 径9.5				検出
SP363	P363	76.20	19.70	円形	26	24		円形 径15				検出
SP365	P365	76.22	19.62	横円形	40	25		円形 径20.5				検出
SP367	P367	76.22	19.62	横円形	41	34	50	円形 径13.5	0.843	SP366>SP367	半蔵	
SP393	P393	76.28	19.70	方形	26	23		円形 径12				検出
SP421	P421	76.24	19.70	方形	40	32		円形 径13				SP398>SP399>SP421
SP425	P425	76.40	19.60	円形	26	25		横円形 径11.5				検出
SP430	P430	76.38	19.70	円形	32	31		円形 径19				検出
SP436	P436	76.38	19.72	横円形	27	21		円形 径12				検出
SP437	P437	76.38	19.72	方形	27	27		方形 径17.5				検出
SP446	P446	76.30	19.72	円形	32	28		横円形 径14				検出
SP462	P462	76.28	19.76	方形	26	23		円形 径14.5				検出
SP468	P468	76.26	19.80	円形	33	27		円形 径17.5				検出
SP478	P478	76.22	19.86	横円形	44	32		円形 径20				SP478>SP477
SP479	P479	76.24	19.86	円形	22	20		方形 径14				検出
SP480	P480	76.26	19.86	方形	40	32		横円形 径18.5				検出
SP481	P481	76.26	19.82	円形	26	25		横円形 径22.5				SP481>SP488
SP482	P482	76.36	19.74	円形	60	55		方形 径16				検出
SP481	P481	76.38	19.82	円形	33	31		円形 径13				上部にE1, SP482>SD4
SP513	P513	76.18	19.86	円形	31	28	33	円形 径12	1.019	SP255>SP513	半蔵	
SP255	P255	76.18	19.84	円形	31	28	33	円形 径12	1.019	SP500穴, SP255>SP30	半蔵	
SP516	P516	76.22	19.86	円形	32	31	55	円形 径13	0.845		半蔵	
SP518	P518	76.24	20.24	横円形	41	29		円形 径11				SP588>SP504>SP255
SD693	P523	76.26	19.88	円形	34	31		円形 径14.5				・SP588, SP518-SD53?
SP529	P529	76.24	19.90	円形	25	19		横円形 径14				検出
SP531	P531	76.24	19.92	円形	35	30		円形 径6				検出
SP535	P535	76.24	19.92	円形	28	28		円形 径12				検出
SP536	P536	76.24	19.92	円形	17	17		円形 径9				検出
SP537	P537	76.22	19.96	円形	20	19		円形 径10				検出
SP569	P569	76.14	19.92	横円形	66	40		円形 径14.5				検出
SP570	P570	76.16	19.92	円形	58	47		横円形 径18				SP570-SD40?
SP572	P572	76.26	19.88	円形	36	36		横円形 径24				検出
SP582	P578	76.39	19.88	不要横円形	34	26		円形 径21				検出
SP585	P585	76.36	19.94	円形	38	36		円形 径18				検出
SP589	P589	76.32	19.98	円形	32	31		円形 径22.5				検出
SP610	P610	76.34	20.14	円形	28	28		横円形 径17.5				上部に石!
SP614	P614	76.34	20.12	方形	26	23		方形 径14.5				検出
SP615	P615	76.34	20.12	円形	21	21		円形 径10.5				検出
SP634	P634	76.24	20.12	横円形	31	26		円形 径11				検出

■SB柱穴は跡く

その他の柱穴出土遺物（第104・105図）

Yグリット（≤19.8）

S P 40

28は青磁酒会壺の体部破片である。外面には鏽連弁文が見られる。

S P 49

29は珠洲壺蓋類の体部破片である。叩き目は粗い。珠洲V期と思われる。

S P 50

30は珠洲すり鉢の口縁部破片である。器壁はやや厚いが、口縁部は水平に面取り調整されている。胎土は粗く、やや褐色を呈する。珠洲IV期である。

31は鉄釘である。

S P 65

32は土鍾である。径2cmの穴がある。

S P 66

33は瀬戸折縁深皿の口縁部破片である。灰釉を施す。口縁部は一旦外折するが、端部が内側に折り返される。古瀬戸中IV期である。

S P 249

34は瓦質土器の口縁部付近の2破片である。口縁端部は欠損している。1条の突帯が残る。焼きが悪く、表面は灰色を呈する。

S P 251

35は珠洲すり鉢の体部破片である。胎土は悪く、白い砂粒が多く含まれる。褐色を呈する。

S P 252

36は瀬戸四（三）耳壺の体部破片である。外面に2条1帶の沈線が見られる。内外面に灰釉を施す。瀬戸後I期～II期である。

S P 453

37は青磁碗の口縁部破片である。器壁は薄く、内外面無文で口縁端部が外反するタイプである。透明感の強い釉が薄くかかるため、体部の回転ヘラ削り痕が明瞭である。

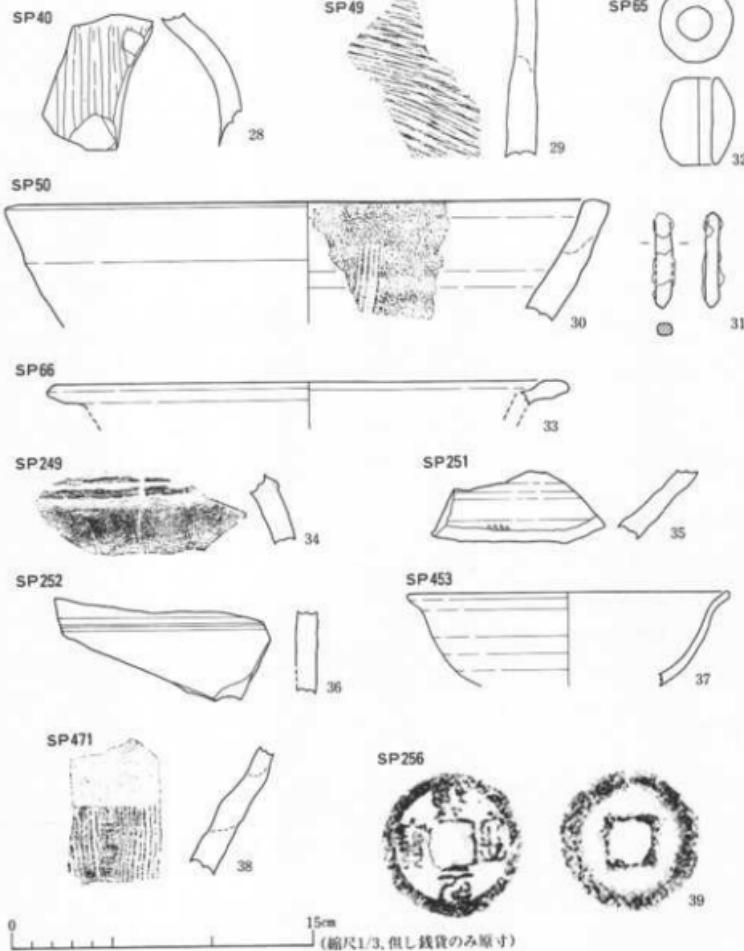
S P 471

38は珠洲すり鉢の体部破片である。胎土はやや褐色を呈する。珠洲IV期～V期である。

S P 256

39は熙寧元寶（初鋤年：1068年、北宋）で、書体は篆書体である。

Y グリッド(≤19.8)



柱穴出土遺物 (Yグリッド≤19.8、図版34・46)

番号	遺構	種類	器種	層位	レベル	法量	個体数	圖考	整理番
28	SP40	青磁	酒合壺	埋土	1.322			外面に鍋蓋弁文	785
29	SP49	珠洲	亞鹽	埋土	1.340			珠洲V期	795
30	SP50	珠洲	すり鉢	埋土	1.311	E1 [30.0]	0.10	珠洲IV期	775
31	SP65	銀製品	刃	埋土	1.228	長4.8、幅0.7		5.0g	776
32	SP249	土製品	土師	埋土	1.154	長4.3、幅3.6		45.2g	770
33	SP66	潤戸	折縫深皿	埋土	1.287	E1 [25.0]	0.04	潤戸中IV期 灰釉	792
34	SP251	瓦質土器	火鉢	埋土	1.381				802
		瓦質土器	火鉢	埋土	1.381				806
35	SP252	珠洲	すり鉢	埋土	1.236				798
36	SP252	潤戸	四三耳壺	埋土	1.337			潤戸後I～II期 灰釉 外面に平行沈線	803
37	SP453	青磁	陶	埋土	1.169	E1 [16.0]	0.13	潤泉湖D頃 無文	814
38	SP471	珠洲	すり鉢	埋土	1.307			珠洲IV～V期	874
39	SP256	古錢		埋土	1.345	径2.4		3.2g [昭和元寶] (1968年)篆書	809

第104図 AT95 柱穴出土遺物(Yグリッド≤19.8)

Yグリット (19.8~20.0)

S P 48

40は小札である。半分に欠損しており、全体の形状は不明であるが、長方形を呈する。大きさは最大幅3.1cm、最小幅2.7cm、推定長5.3cm、厚さ0.3cmを測る。穿孔は3個以上が2列に並ぶものと推される。穿孔の径は0.3cmを測る。

S P 253

41は珠洲すり鉢の体部破片である。器壁は薄い。内面の叩き目は2.7cmで11条を数える。胎土は粗く、焼成も不良でやや褐色を呈する。珠洲IV期～V期である。

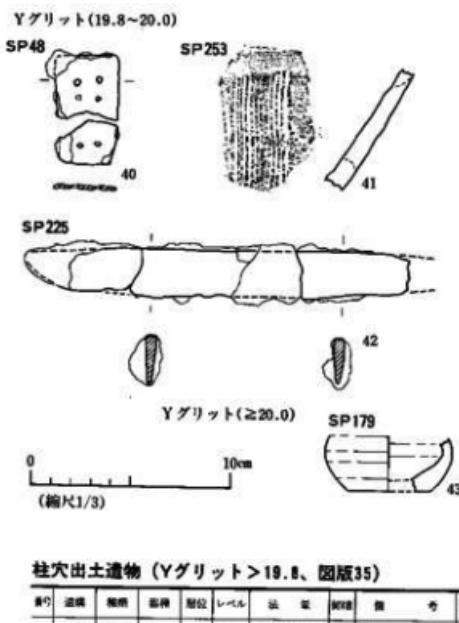
S P 225

42は刀子である。3破片に欠損している。形状は直刀である。鉄銷が多く付着し、現状では刃部と柄部の把握は困難である。残存長は19cm、刃幅は2cm～2.5cmを測る。

Yグリット (≥ 20.0)

S P 179

43は瀬戸合子の底部破片である。外面に灰釉を施す。古瀬戸中I期～II期である。



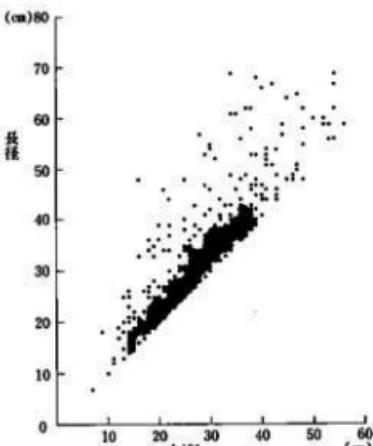
柱穴出土遺物 (Yグリット > 19.8 、図版35)

番号	遺構	種類	基準	部位	レベル	法	基準	重	寸	備考
40	SP48	鉄製品	小札	埴土	1.330	高5.4、幅3.1		7.4g		824
41	SP253	陶器	すり鉢	埴土	1.309					825
42	SP225	鉄製品	刀子	埴土	1.272	長19.7、幅2.2		99.0g		822
43	SP179	瀬戸	合子	埴土	1.322	底 [4,1]			底口字1～日期実験	825

第105図 AT95 柱穴出土遺物 (Yグリット > 19.8)

柱穴の平面規模と深さ（第106・107図）

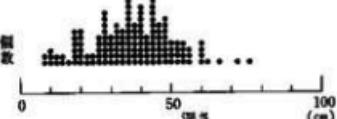
ここでは検出された柱穴の平面規模と深さの法量散布図を作成した。柱穴の平面形には円形、横円形、方形に分かれるが、ここでは縦軸を柱穴の長径、横軸を柱穴の短径として、柱穴の平面規模を示した。それを見ると、長径・短径が15cm～40cmの範囲内に集中する傾向を示した。また、AT94第1地区（第19・20図）とAT94第2地区（第37・38図）の柱穴平面規模を比較した場合、長径・短径が40cm以上の大型のものが増える傾向を示した。また、深さも40cm前後のものが多く、相対的に他地区より深いことを示した。



第106図 AT95 柱穴の平面規模

豊穴遺構

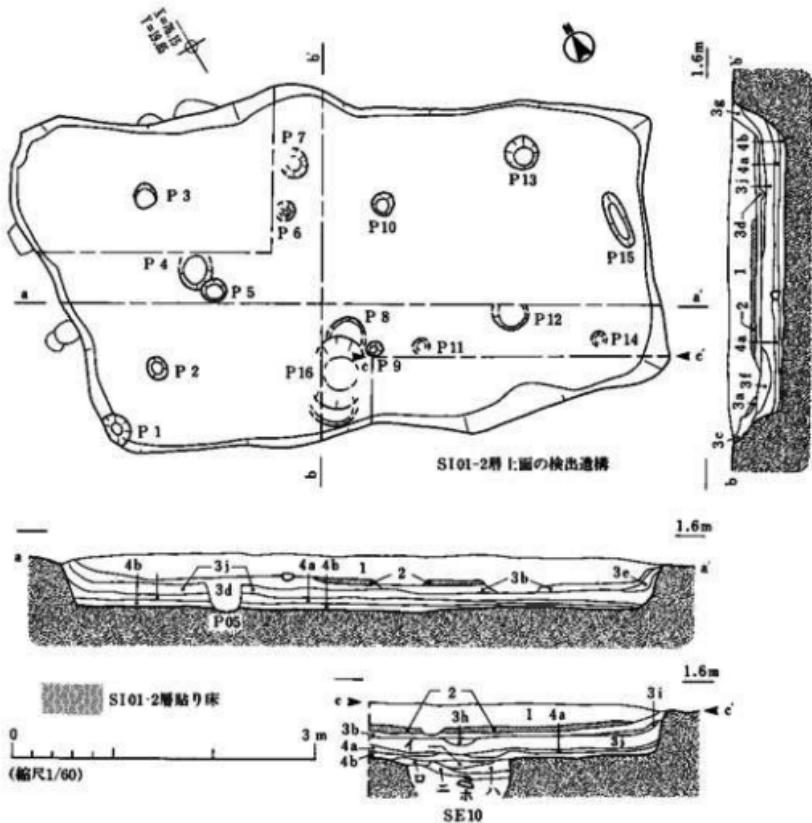
S 101豊穴遺構（第108・109図）



第107図 AT95 柱穴の深さ

調査区の中央南寄り、グリットX76.08～76.14、Y19.82～19.90に位置する大型豊穴遺構である。平面形は不整な長方形を呈する。長軸600cm、短軸340cmを測る。出入り口となる明確な張り出し部は認められなかった。底面には炭化物を多量に含んだ堆積層が堅くしまっており、貼り床を施している。深さは検出面から地山面まで54cm、検出面から最終時期の貼り床面まで24cmを測る。貼り床層は30cmほど堆積している。貼り床層から炭化物の他に、多くの陶磁器類、鉄製品が出土している。堆積層の状況と出土した陶磁器類の年代観から、堆積層を時期別に4層に分けることが可能である。

貼り床層から見ていくと、最下層の第4層は4a・4b層に細分できた。どちらも黒色土のシルト質に炭化物を多量に含んで、しまりのある層位である。第3層は3a～3j層に細分したが、3b・3j層が面的に広がる基本層位である。3j層は黒褐色土のシルト質に炭化物を多量に含んでしまりがある。3b層は暗褐色の砂質土に炭化物が混じってしま



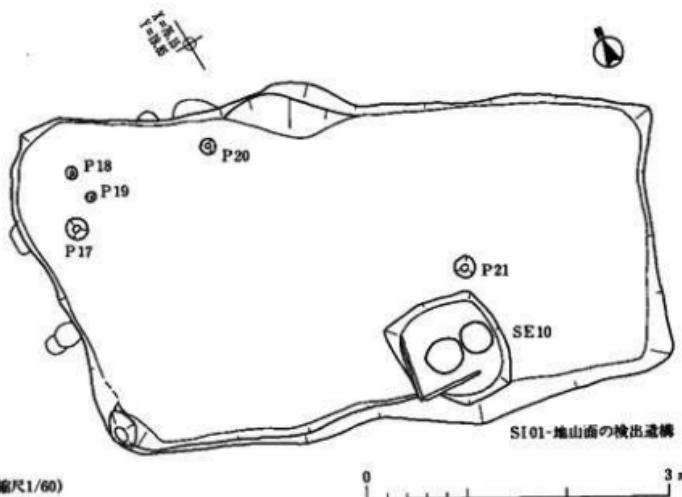
SI01層位 (a-a', b-b', c-c')

No.	土色	土質	備考
1	10YR2/2 黒褐	砂質土	炭泥
2	10YR3/3 暗褐	砂質土	10YR5/6黄褐色砂質土泥
3 a	10YR3/1 黒褐	砂質土	
3 b	10YR3/3 暗褐	砂質土	炭泥
3 c	7.5YR2/1 黒	砂質土	炭泥
3 d	10YR2/1 黒	砂質土	炭泥
3 e	7.5YR2/2 黒褐	砂質土	炭泥
3 f	10YR2/2 黒褐	シルト	10YR6/4にぶい黄褐色粘質土泥 炭多量に混
3 g	7.5YR2/3 黒暗褐	砂質土	10YR4/3にぶい黄褐色粘質土泥 炭泥
3 h	10YR2/2 黒褐	砂質土	
3 i	10YR3/2 黒褐	砂質土	10YR4/3にぶい黄褐色砂泥
3 j	10YR2/3 黒褐	シルト	10YR6/4にぶい黄褐色粘質土泥 炭多量に混
4 a	2.5Y2/1 黒	シルト	10YR6/4にぶい黄褐色粘質土泥 炭多量に混
4 b	10YR2/1 黒	シルト	10YR6/4にぶい黄褐色粘質土泥 炭多量に混

SE10層位 (c-c')

No.	土色	土質	備考
イ	10YR1.7/1 黒	粘質土	
ロ	10YR2/1 黒	粘質土	10YR7/2にぶい黄褐色シルト泥 炭泥
ハ	10YR2/1 黒	粘質土	
ニ	10YR1.7/1 黒	砂質土	黄褐色砂泥
ホ	10YR4/2 灰黄褐	砂質土	10YR1.7/1黒色粘質土泥

第108図 AT95 SI01(貼り床上面)



第109図 AT95 SI01(地山面)

第20表 AT95 SI01床面ピット計測表(ぬり床上面)

No.	整地%	平面形	長径	短径	深さ	面積	出土遺物
P1	I01-01	椭円形	34	24	22	1.063	
P2	I01-02	円形	24	18	12	0.946	
P3	I01-03	円形	24	22	13	0.935	
P4	I01-04*		30	18	34	0.721	
P5	I01-05	円形	25	23	5	1.079	●■
P6	I01-06*		18	10	15	0.964	
P7	I01-07*		27	10	6	1.018	
P8	I01-08*		38	22	7	1.068	▲▲
P9	I01-09	円形	16	15	19	0.887	
P10	I01-10	円形	23	22	22	0.843	
P11	I01-11*		14	5	9	1.058	
P12	I01-12*		36	15	6	1.016	
P13	I01-13	円形	38	38	9	0.991	
P14	I01-14*		14	8	6	1.048	
P15	I01-15	椭円形	58	18	13	0.968	
P16	I01-16*		89	35	12	1.061	

第21表 AT95 SI01床面ピット計測表(地山面)

No.	整地%	平面形	長径	短径	深さ	面積	出土遺物
P17	I01-17	円形	22	20	8	0.797	
P18	I01-18	円形	12	11	6	0.813	
P19	I01-19	円形	9	9	6	0.817	
P20	I01-20	円形	15	15	8	0.776	
P21	I01-21	円形	22	20	10	0.724	

第22表 AT95 穫穴造構計測表

No.	整地%	X	Y	平面形	長径	短径	深さ	面積	出土遺物	備考	調査
SI01	I01	76.08 ~76.14	19.82 ~19.90	方形	600	340	54	0.809	第2-24表参照 ・SE10, SI01=SP114・SK53?	SI01>SP103・SP105・SP511・SP512	完掘

りがある。また、第3層全体は鉄製品を多く含む層位であった。第2層は暗褐色の砂質土に黄褐色砂質土が多く混じっており、黄色が目立つ層位であった。第2層は全面に広がるものではなく、部分的にしか認められない層位である。第1層は竪穴遺構の覆土であり、黒褐色の砂質土に炭化物をやや含んでいた。

第4層とした最下層の貼り床内には14世紀代の良好な一括性の高い資料が認められた。また、第3層と第4層の出土遺物の中には同一個体と思われる珠洲すり鉢（49・52）が出土していることから、ほぼ同時期に第3層の貼り床の補修工事を行ったものと推される。第1層の覆土には15世紀前半代を下限とする遺物群を含んでいる。このことから、14世紀代に構築されたS I 01竪穴遺構は数度の貼り床の補修工事を経て、15世紀中頃には廃絶したものと推される。

また、第2層上面において掘り込みの浅いピット状の遺構が確認されたが（第108図）、地山面まで大きく掘り込むようなしっかりとしたものではなく、上部構造を支える柱穴として明確に捉えることができない。さらに、地山面からS E 10井戸、柱穴を検出した。S E 10の詳細については後述するが、この井戸から13世紀代と推される瓷器系壺の体部破片が出土しており、S E 10の廃絶後にS I 01が構築されていることが分かった。竪穴遺構の性格・用途としては鍛冶工房跡、倉庫跡などが想定されるが、現段階では不明としたい。

S I 01竪穴遺構の出土遺物

竪穴遺構内からは多くの遺物が出土しており、ここで取り上げたものは陶磁器46点、鉄製品59点、古銭2点である。また、竪穴遺構内において層位的にまとまって遺物を取り上げることができたため、一括性の高い遺物群を抽出することが可能となった。そこで層位ごとに遺物の記述を行っていく。

【第4層出土遺物】（第110図）

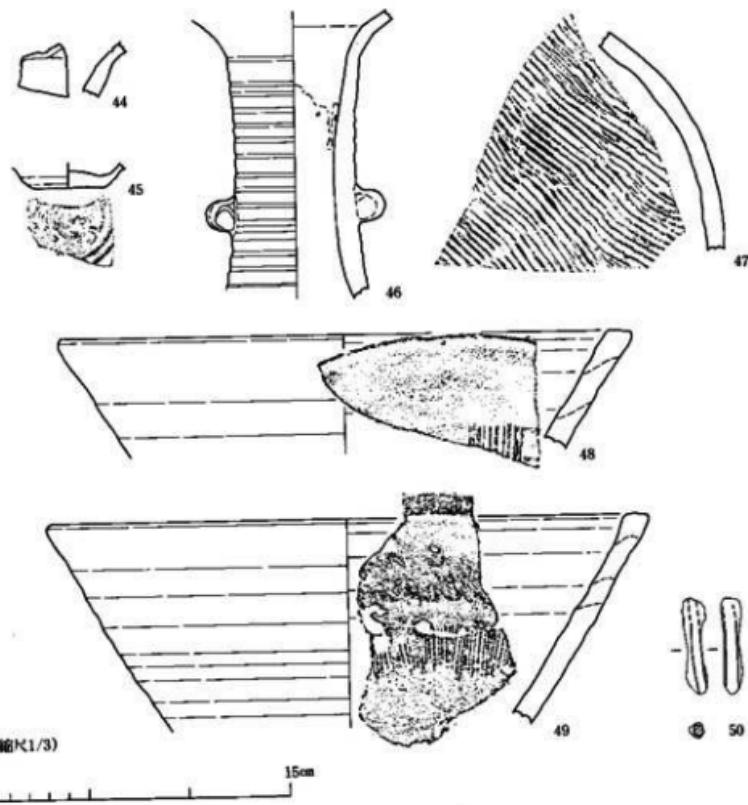
竪穴遺構の最下層の貼り床から出土した遺物群である。竪穴遺構の成立時期を示す14世紀代の一括性の高い資料と考えられる。

陶磁器

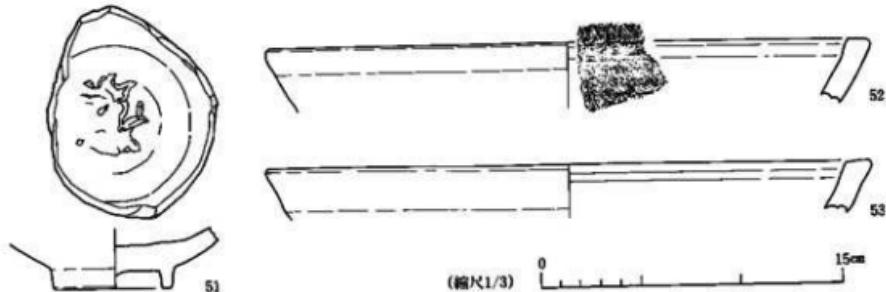
44は白磁水注の頸部破片と思われる。胎土、色調とも灰白色を呈している。

45は瀬戸丸皿の底部破片である。内面は灰釉が施されており、外面は無釉で底部は回転糸切り痕を残す。古瀬戸中期の製品である。

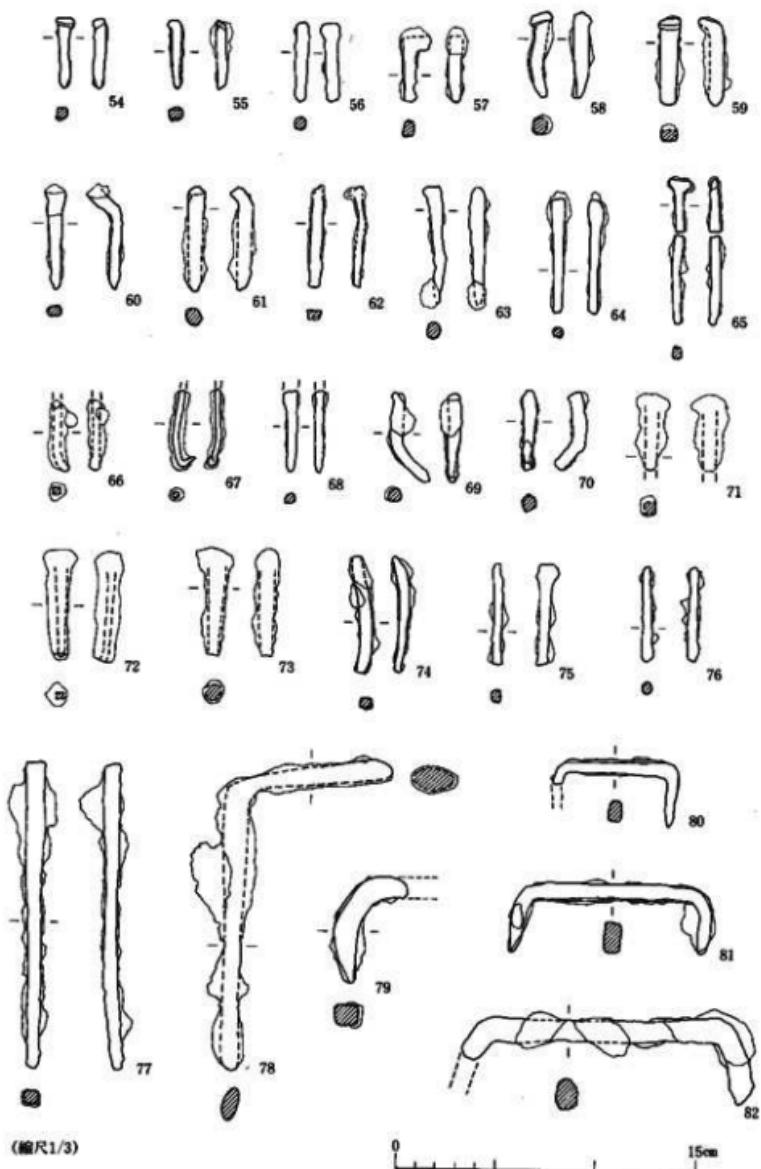
46は瀬戸仏花瓶の頸部破片である。鉄釉を施す。頸部下方に双耳環を貼付している。頸部には多くの沈線が巡る。上下の割れ口には漆によるつなぎ目が見られる。古瀬戸中I期～



第110図 AT95 S101-4層 出土遺物



第111図 AT95 S101-3層 出土遺物<陶磁器>



第112図 AT95 S101-3層 出土遺物(鉄製品)

II期のものである。

47は珠洲壺の体部破片である。叩き目は3cm幅で9条を数える。焼きもよく、青灰色を呈する。珠洲IV期である。

48・49は珠洲すり鉢の口縁部破片である。48は口縁部はわずかに肥厚しているが、口縁部は水平して面取り調整している。珠洲IV期である。49は口縁部が肥厚せず、水平に面取り調整している。口縁端面と口縁部直下の内面には櫛目波状文を施している。内面は使用により磨滅しているが、御目が隙間無く埋まっている。調整技法から見れば、珠洲V期を特徴とする技法であるが、口縁部形態から珠洲IV期の範疇に含まれる。

鉄製品

50は鉄釘である。

〔第3層出土遺物〕(第111~113図)

陶磁器

51は青磁碗の底部破片である。疊付から底部内面にかけて釉が削り取られている。釉は黄灰色を呈し、焼きが悪い。底部内面は印花文が施されているが、厚い釉のため不明である。

52・53は珠洲すり鉢の口縁部破片である。52・53はそれぞれ口縁部が肥厚せず、水平に面取り調整している。52は口縁端面と口縁部直下の内面には櫛目波状文を施している。珠洲IV期である。また、52は49と同一個体と思われる。

鉄製品

54~77は鉄釘である。断面方形の角釘である。78~82は鍔である。用途によりさまざまな大きさがある。

銅製品

83は熙寧元寶(初鑄年:1068年、北宋)で、書体は真書体である。



第113図 AT95 S101-3層
出土遺物(古銭)

[第2層出土遺物] (第114図)

陶磁器

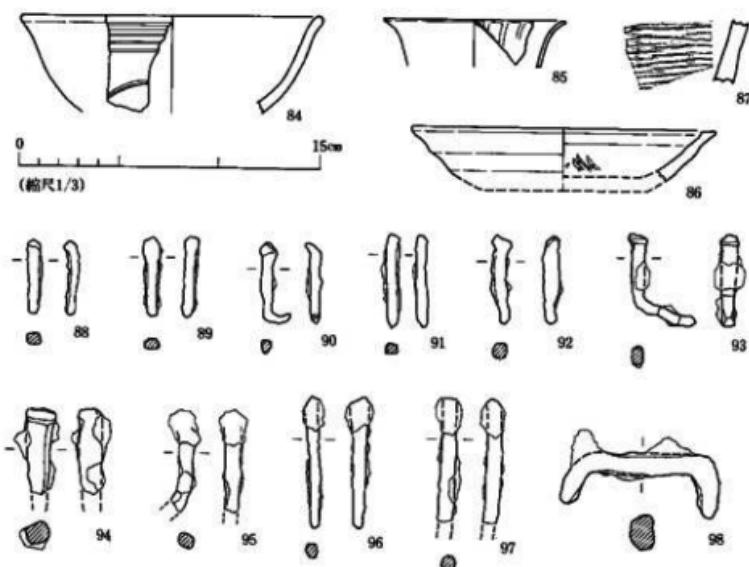
84は青磁碗の口縁部破片である。口縁端部は外反する。内面は無文、外面は上位に太い4条の沈線が巡り、下方に連弁文と推される弧状の沈線が見られる。

85は青白磁の小壺と思われる口縁部破片である。内面に菊花状の彫り込みが見られる。

86は瀬戸鉢皿の口縁部破片である。外面は無釉、口縁端部から内面にかけて灰釉が施されている。古瀬戸後I期である。87は珠洲壺の体部破片である。

鉄製品

88～97は鉄釘である。断面方形の角釘である。98は鎧である。



第114図 AT95 S101-2層 出土遺物

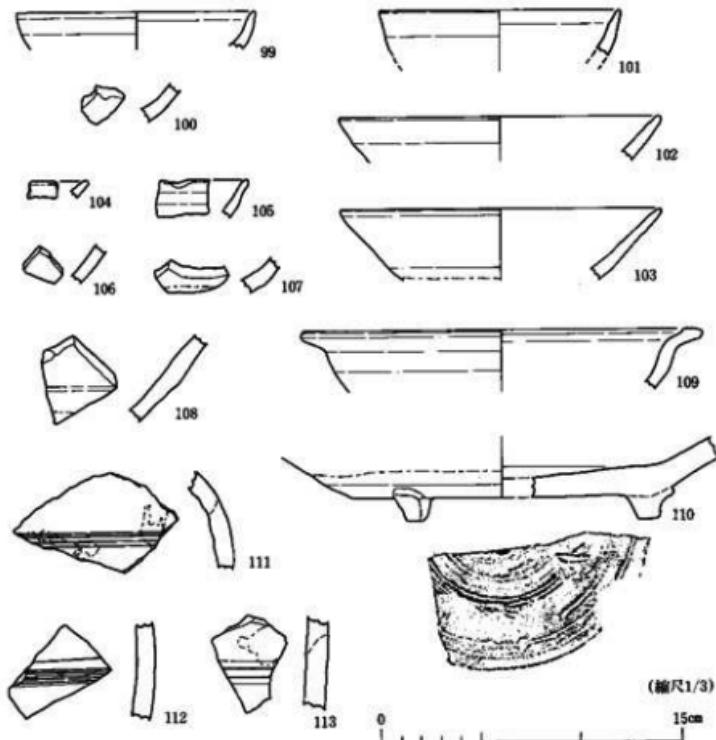
[第1層出土遺物] (第115～117図)

陶磁器

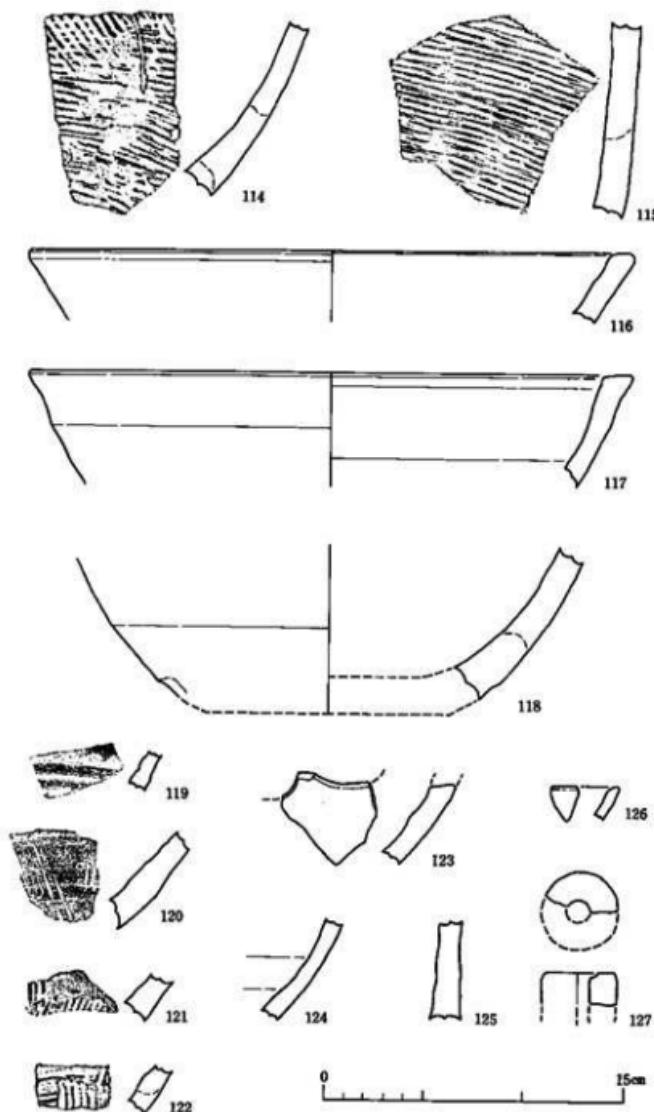
99是中国製鉄釉碗(天目碗)の口縁部破片である。胎土は灰色で、緻密である。

100は青磁碗の体部破片である。

101～113は瀬戸製品である。101は鉄釉碗(天目碗)の口縁部破片である。古瀬戸後Ⅰ期のものである。102～105は平碗の口縁部破片、106は体部破片である。すべて灰釉を施す。102は器壁がやや厚く、端部は丸みを帯びる。全体に被熱を受けている。古瀬戸中Ⅳ期～後Ⅰ期である。103は器壁は全体に薄く、端部が尖っている。古瀬戸後Ⅰ期である。105は口唇部がくびれ、端部が尖っている。古瀬戸後Ⅱ期である。104・106は古瀬戸後Ⅰ期～Ⅱ期である。107は小壺の体部破片である。灰釉を施す。被熱を受けている。古瀬戸後Ⅰ期～Ⅱ期である。108は盤類の体部破片で、古瀬戸後Ⅰ期～Ⅱ期である。109は折縁深皿の口縁部破片、110はその底部破片である。それぞれ灰釉を施す。109は口縁部が一旦外折するが、端部は内側に折り返され、端面が段状を呈する。古瀬戸中Ⅳ期である。110は底部内面がハケ塗りされている。釉層は薄く、ハケ塗り痕は明瞭である。古瀬戸後Ⅰ期～Ⅱ期である。



第115図 AT95 S101-1層 出土遺物(貿易陶磁・瀬戸)



(縮尺1/3)

第116図 AT95 S101-1層 出土遺物(珠洲・国産その他)

111～113は瓶類の体部破片である。すべて灰釉を施す。111は瓶子（梅瓶型）である。4条一帯の沈線が巡る。古瀬戸中III期～IV期である。112は四（三）耳壺と思われる。5条一帯の沈線が巡る。古瀬戸後I期～II期である。113は太い沈線が帶状に巡る。被熱を受けている。古瀬戸後I期～II期である。

114～122は珠洲製品である。114・115は壺甌類の体部破片である。それぞれ還元硬質で、焼きも良い。珠洲IV期～V期である。114は底部付近のもので、叩き目が交差している。115は叩き目が3cm幅で8条を数える。116～122はすり鉢の口縁部、体部破片である。116・117は口縁端部は肥厚せず、水平に面取りされている。117は端部をやや外方向に引き出している。珠洲IV期である。118は酸化軟質で、うすい褐色を呈する。内面は使用により、磨滅している。119は内面に強いクロロ痕を残す。珠洲すり鉢としたが、種類・器種が異なるかもしれない。121・122は珠洲IV期～V期である。

123・124は瓦質土器の火鉢類（風炉）の体部破片である。123には透かし痕が見られる。

125は瓷器系壺の体部破片である。酸化硬質で、焼きしまりが良い。

126は土師器皿の口縁部破片である。器壁はやや厚く、端部が丸みを帯びる。時期不詳。

127は土鍾である。欠損している。

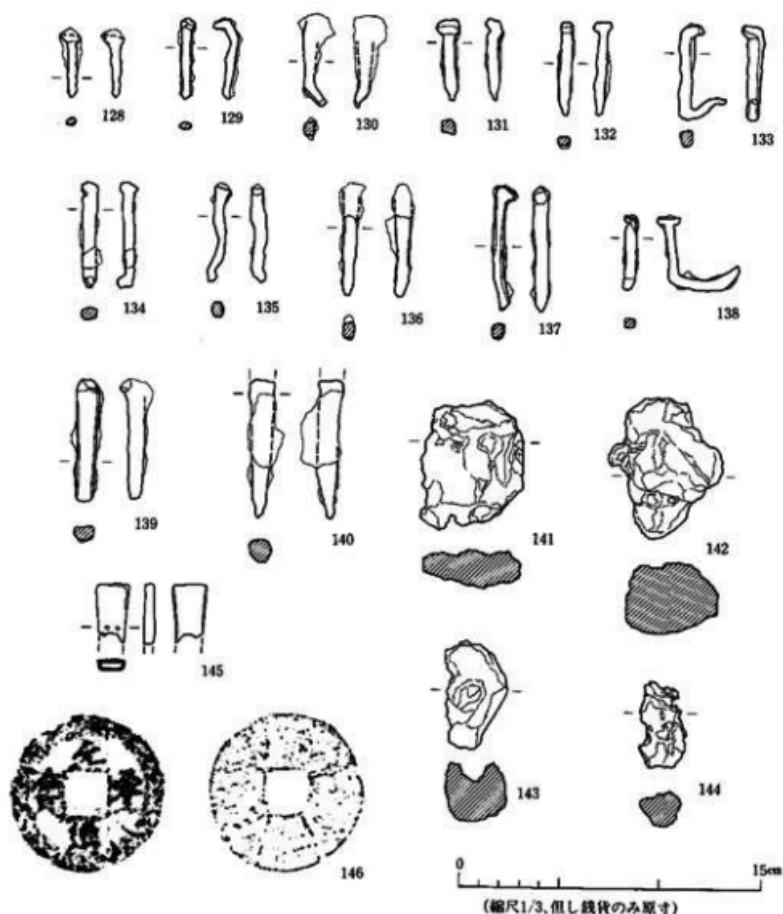
鉄製品

128～140は鉄釘である。141～144は鉄滓である。

銅製品

145は用途不明の銅製品である。2ヶ所に穿孔が見られる。

146は元豊通寶（初鋤年：1078年、北宋）で、書体は行書体である。



第117図 AT95 S101-1層 出土遺物(鐵製品・銅製品・古錢)

第23表 AT95 SI01出土遺物計測表（鉄製品以外）

番号	層位	種類	器種	レベル	法環	測定値	備考	割合
44	4層	白磁	水注	0.911			頭部	658
45		瀬戸	丸皿	0.941	底 [3.5]		瀬戸中期 灰釉	528
46		瀬戸	仏花瓶	0.833			瀬戸中～II期 灰釉 外面に平行沈線 漆を用いた補修痕	535
47		珠洲	壺	0.928			珠洲IV期	667
		珠洲	壺	0.906			珠洲IV期	668
48		珠洲	すり鉢	0.905	口 [28.5]	0.13	珠洲IV期	669
49		珠洲	すり鉢	0.905	口 [30.0]	0.05	珠洲IV期 口縁端面と内面に波状文 2片接合	659
51	3層	青磁	碗	1.060	底5.6		身付・高台内を釉剥ぎ 内底に印花文	532
52		珠洲	すり鉢	1.014	口 [29.0]	0.07	珠洲IV期 口縁端面と内面に波状文	705
53		珠洲	すり鉢	0.954	口 [30.0]	0.05	珠洲IV期	661
83		古鉢		0.954	径2.5		1.4g 「熊事元寶」(1068年) 真書	648
84	2層	青磁	碗	1.016	口 [15.0]	0.08	龍泉窯C1類 外向に雷文風の口縁帯	529
		青磁	碗	1.063			龍泉窯C1類	587
85		青白磁	小壺	1.145	口 [9.0]	0.10	内面に菊花状の彫り込み	593
86		瀬戸	鉢皿	1.097	L1 [15.0]	0.03	瀬戸後I期 灰釉 内面ハケ塗り	581
87		珠洲	壺	1.072				670
99	1層	中国	天目茶碗	1.281	口 [12.0]	0.05	鐵釉	675
100		青磁	碗	1.204				530
101		瀬戸	天目茶碗	1.209	口 [12.0]	0.05	瀬戸後I期 灰釉	534
102		瀬戸	平碗	1.344	口 [16.0]	0.07	瀬戸中IV～後I期 灰釉	539
103		瀬戸	平碗	1.201	口 [16.0]	0.10	瀬戸後I期 灰釉	560
104		瀬戸	平碗	1.219	口 [16.0]	0.03	瀬戸後I～II期 灰釉	555
105		瀬戸	平碗	1.225	口 [16.0]	0.01	瀬戸後II期 灰釉	684
106		瀬戸	平碗	1.350			瀬戸後I～II期 灰釉	678
107		瀬戸	小壺	1.191			瀬戸後I～II期 灰釉 二次被熱	600
		瀬戸	小壺	1.199			瀬戸後I～II期 灰釉 二次被熱	676
108		瀬戸	盤	1.266			瀬戸後I～II期 灰釉	531
109		瀬戸	折縁深皿	1.214	口 [20.0]	0.05	瀬戸中IV期 灰釉	567
		瀬戸	折縁深皿	1.229			瀬戸中IV期 灰釉	566
110		瀬戸	折縁深皿	1.387	底 [15.0]		瀬戸後I～II期 灰釉 内面ハケ塗り	517
111		瀬戸	梅瓶	1.215			瀬戸中III～IV期 灰釉 平行沈線	526
112		瀬戸	四(三)耳壺	1.200			瀬戸後I～II期 灰釉 平行沈線	713
113		瀬戸	瓶子	1.153			瀬戸後I～II期 灰釉 平行沈線 二次被熱	691
114		珠洲	壺	1.336			珠洲IV～V期	525
115		珠洲	壺	1.247			珠洲IV～V期	594
116		珠洲	すり鉢	1.260	口 [30.0]	0.02	珠洲IV期	527
117		珠洲	すり鉢	1.165	口 [30.0]	0.04	珠洲IV期	599
118		珠洲	すり鉢	1.254				541
119		珠洲	すり鉢	1.188				536
120		珠洲	すり鉢	1.155				682
121		珠洲	すり鉢	1.387			珠洲IV～V期	516
122		珠洲	すり鉢	1.198			珠洲IV～V期	573
123		瓦質土器	風炉	1.277			体部に透かし窓	714
124		瓦質土器	風炉	1.203				537
125		瓦質土器	壺	1.201				712
126		土器	皿	1.284	口 [14.0]	0.02		524
127		土製品	土鍋	1.220	長(1.6), 幅(3.7)		12.4g	572
145		銅製品	不明	1.294	長(2.8), 幅1.7		4.8g 2ヶ所に穿穴	540
146		古鉢		1.222	径2.6		1.6g 「元豐通寶」(1078年) 行書	686

第24表 AT95 SI01出土遺物計測表(鉄製品)

番号	層位	形態	レベル	身長	身幅	身厚	頭長	頭幅	頭厚	重量	残存	量
50	4層	釘	0.999	(4.7)	0.6	0.5				4.2		665
54	3層	釘	1.032	3.4	0.4	0.5	0.6	0.9	0.4	2.0	ほぼ完形	619
55		釘	1.012	3.4	0.6	0.6	0.7	0.5	0.3	2.8	ほぼ完形	701
56		釘	1.040	3.9	0.5	0.5	0.9	0.6	0.4	3.6	ほぼ完形	616
57		釘	1.025	(3.2)	0.6	0.7	1.5	0.6	0.6	5.2	頭一上部が残存	621
58		釘	0.998	4.1	0.7	0.7	1.1	0.7	0.5	4.0	ほぼ完形	618
59		釘	1.027	(4.3)	0.9	0.7	1.1	1.0	0.6	9.8	頭～上部が残存	610
60		釘	0.952	6.0	0.7	0.5	—	—	—	3.8	ほぼ完形	655
61		釘	0.952	5.2	0.8	0.8	1.0	0.8	0.6	4.6	ほぼ完形	639
62		釘	1.041	5.0	0.7	0.5	0.8	0.6	0.4	4.4	ほぼ完形	624
63		釘	1.002	6.0	0.8	0.8	—	—	—	7.4	ほぼ完形	700
64		釘	1.061	6.0	0.8	0.6	—	—	—	5.6	ほぼ完形	651
65		釘	1.025	7.0	0.5	0.7	0.6	1.2	—	3.8	ほぼ完形	625
66		釘	1.010	(3.3)	—	—				3.4	下部が残存	666
67		釘	1.002	(3.9)	0.4	0.3				2.2	下部が残存	663
68		釘	0.996	(3.9)	0.8	0.5				2.2	下部が残存	653
69		釘	1.085	4.5	0.6	0.6	—	—	—	3.4	ほぼ完形	612
70		釘	1.036	3.8	0.8	0.6	—	—	—	3.0	ほぼ完形	696
71		釘	1.110	(3.7)	—	—				12.6		698
72		釘	1.067	(5.3)	—	—				9.2		613
73		釘	0.970	(5.4)	—	—				10.0		641
74		釘	1.038	(5.7)	0.7	0.7				6.2		614
75		釘	1.038	(4.9)	0.6	0.5				4.6		632
76		釘	1.054	(4.6)	0.5	0.4				2.2		608
77		釘	0.990	(15.1)	0.9	0.9				31.6	中～下部が残存	631
78		釘	0.995	(21.5)	1.6	0.7				69.2		692
79		釘	1.053	(7.0)	1.1	1.0				14.2		609
80		釘	1.022	(9.7)	1.0	0.6				14.2		615
81		釘	1.008	15.2	1.4	0.8				47.6	完形	629
82		釘	0.968	(18.6)	1.5	1.0				70.2		630
88	2層	釘	1.150	(3.5)	0.7	0.5				3.0		591
89		釘	1.134	(3.7)	0.7	0.5				2.6		592
90		釘	1.161	5.0	0.5	0.5	—	—	—	2.2	ほぼ完形	584
91		釘	1.098	4.5	0.6	0.5	—	—	—	2.8	ほぼ完形	579
92		釘	1.099	(4.2)	0.8	0.8				4.2		671
93		釘	1.158	6.5	0.8	0.5	1.0	0.9	0.3	7.0	完形	589
94		釘	1.111	(4.1)	1.3	1.1	1.0	1.5	0.6	13.2	頭～上部が残存	598
95		釘	1.085	(5.0)	0.8	0.7				5.8		520
96		釘	1.066	6.3	0.7	0.6	—	—	—	5.6	完形	695
97		釘	1.117	(5.9)	0.7	0.7				7.6		672
98		釘	1.017	16.4	1.7	1.1				39.8	完形	693
128	1層	釘	1.211	3.1	0.5	0.5	1.0	1.0	0.4	3.0	ほぼ完形	551
129		釘	1.304	4.0	0.5	0.4	1.0	0.7	0.4	3.0	ほぼ完形	562
130		釘	1.269	5.0	0.8	0.7	—	—	—	8.2	ほぼ完形	605
131		釘	1.350	4.0	0.6	0.7	0.8	1.2	0.5	3.2	ほぼ完形	518
132		釘	1.234	4.6	0.7	0.5	0.9	0.6	0.4	4.4	完形	549
133		釘	1.217	7.0	0.8	0.7	1.2	0.6	0.6	5.2	完形	561
134		釘	1.263	6.0	0.7	0.8	0.8	1.0	0.5	7.8	完形	564
135		釘	1.248	4.9	0.7	0.5	0.9	0.6	0.4	3.6	完形	563
136		釘	1.185	5.5	0.6	0.8	—	—	—	6.2	ほぼ完形	523
137		釘	1.143	6.2	0.7	0.6	1.2	0.8	0.6	6.2	完形	571
138		釘	1.208	6.7	0.6	0.5	0.7	1.2	0.4	4.2	完形	674
139		釘	1.146	5.9	1.3	0.7	—	—	—	16.0	ほぼ完形	597
140		釘	1.273	(6.7)	1.2	1.2				18.6	下部が残存	546
141		鉄滓	1.224	6.2	5.0	1.7				82.4		552
142		鉄滓	1.277	6.9	5.7	3.5				97.0		554
143		鉄滓	1.266	5.3	3.0	2.9				60.2		690
144		鉄滓	1.203	4.2	2.4	1.6				7.8		596

(単位: cm. g)

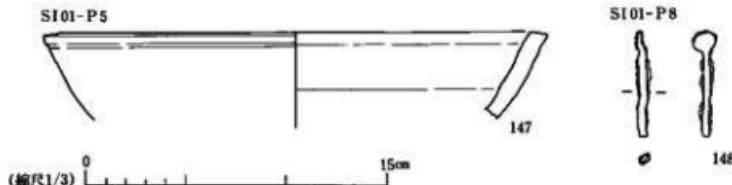
S I 01 積穴造構内の遺構と出土遺物

P05 (第118図)

第2層の上面から掘り込む柱穴である。147の珠洲すり鉢の口縁部破片である。器壁は薄く、体部は丸みをもつ。口縁部は水平に面取りされている。焼成もよく、還元硬質で青灰色を呈する。内面の鉤目は見られない。珠洲II期か。

P08 (第118図)

148の鉄釘が出土している。



SI 01—貼り床上面ピット出土遺物 (図版38)

番号	遺構	種類	器種	層位	レベル	法量	個体数	備考	整理番号
147	S I - P 5	珠洲	すり鉢		0.873	□ [25.0]	0.06	珠洲II期	709
148	S I - P 8	鉄製品	釘		1.077	長(5.2)、幅0.4		2.6g	689

第118図 AT95 SI 01-貼り床上面ピット出土遺物

S E 10井戸 (第119図)

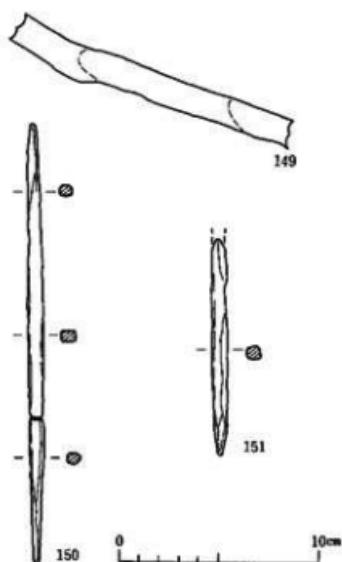
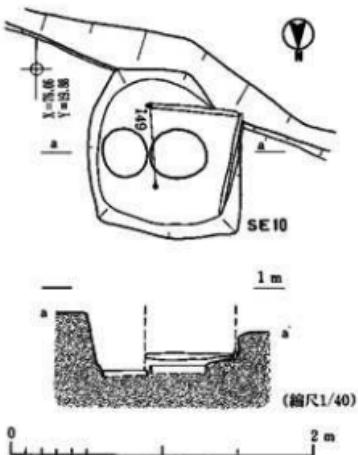
S I 01豊穴遺構に切られている井戸である。S I 01の地山面で検出された。S I 01によって深く削られており、正確な規模は知り得ないが、検出された規模で平面形は111cm×102cmの方形を呈する。深さは中世面から90cm程度を測る。内部には木組み井戸の横桟が南側と西側の位置に残存していた。また、水溜め、浄水施設として曲物が2基設置してある。径36cmと径30cm程度の大小の規模をもつ。出土遺物には149の壺器系甕の体部破片である。年代的には13世紀代と推される。150・151は木製品の箸である。

S I 01豊穴遺構出土遺物の分析

ここでは豊穴遺構から出土した遺物の正確な地点を落として層位的に取り上げることができたため、以下のようにさまざまな分析を可能とした。

①出土遺物の散布状況 (第120・121図)

ここで示した遺物散布図は出土地点と層位の明らかな遺物を取り上げて、堆積層位ごとに遺物のまとまりと傾向、及び遺物の接合関係を把握する目的で作成した。それによると、遺物量は各層位ごとによって量差が見られるが、全体的に遺物の散布にまとまりではなく、全面に広がる傾向が見られる。遺物の接合関係を見ると、第3層と第4層の遺物に同一個体と思われるものが含まれていることから第3層と第4層はほぼ同時期の堆積土(貼り床)と考えられる。また、第3層・第4層の遺物がその上層の第1層・第2層の遺物と接合するもの、或いは同一個体

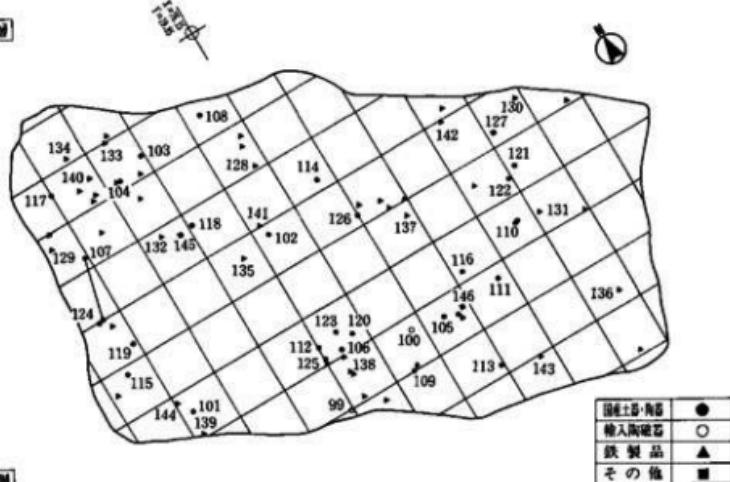


SE 10出土遺物 (図版38・42)

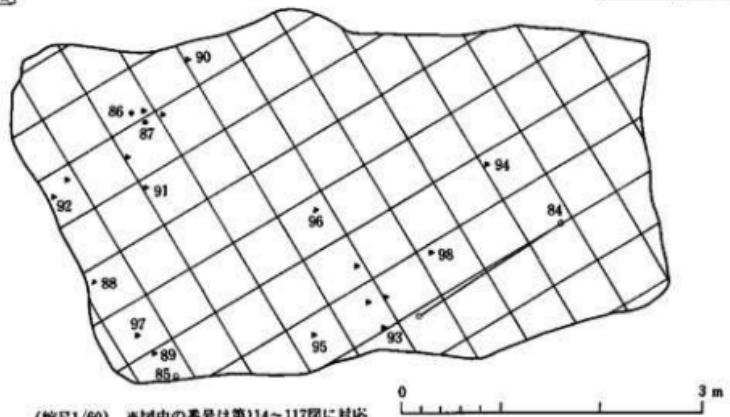
番号	種類	着目	層位	レベル	法 量	固有数	備考	使用年
149	壺器系	甕	本層	0.546				760
	壺器系	甕	本層	0.553				761
150	木製品	箸	埋土		長21.6、幅0.7			876
151	木製品	箸	埋土		長10.6、幅0.8			877

第119図 AT 95 SE 10・出土遺物

第1周



第2刷



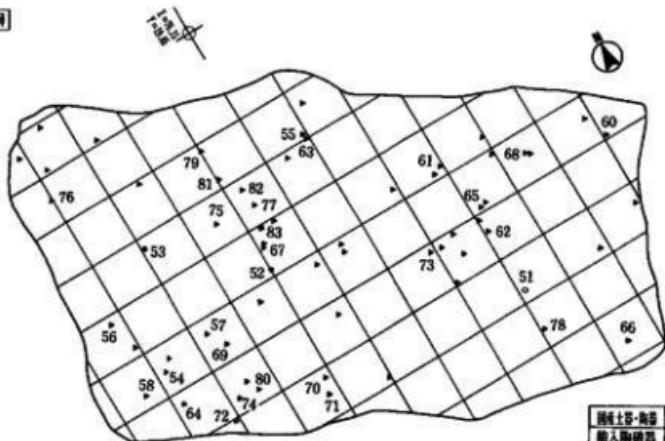
(縮尺1/60) *図中の番号は第114~117図に対応

A horizontal scale bar representing a distance of 3 meters. The bar starts at a point labeled '0' and ends at a point labeled '3 m'. The distance between '0' and '3 m' is divided into six equal segments by five tick marks.

第120図 AT95 S101遺物の出土散布図(第1層・第2層)

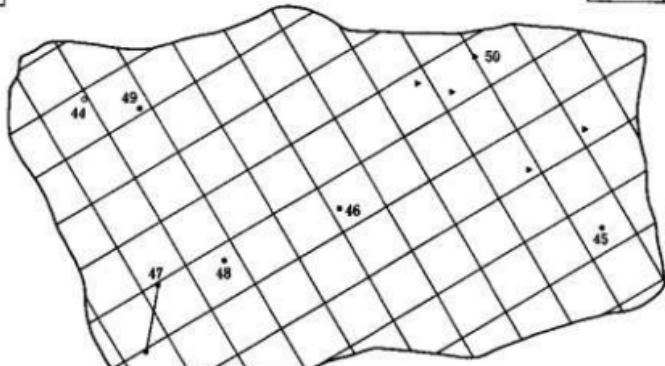
と思われるものはなかった。これは第1層・第2層と第3層・第4層は時期差のある堆積土と判断できる。このことは前記した層位ごとの出土遺物を見ると、第3層・第4層の遺物が14世紀代、第1層の遺物が14世紀～15世紀前半代の年代観を示しており、これを裏付けている。

第3層



縄文土器・陶器	●
輸入陶磁器	○
鉄製品	▲
その他	■

第4層



(縮尺1/60) *図中の番号は第110~113図に対応



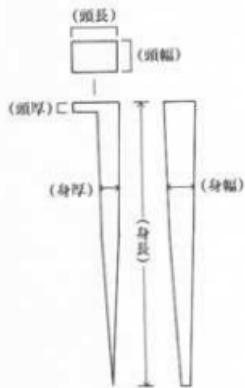
第121図 AT95 S101遺物の出土散布図(第3層・第4層)

②層位別鉄製品の重量散布状況 (第124図)

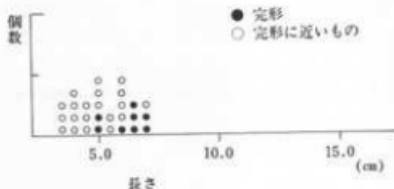
ここでは竪穴内から出土した鉄製品を1m方眼ごとに分けた重量散布図を作成した。それによると、注目されるのは全体の中で第3層中の鉄製品が最も密で広く散布している状況が見られる。これは竪穴遺構の貼り床構築に際して、意図的に鉄製品を廃棄、混入させたものと判断できる。また、第4層が最も鉄製品を含まない層と言える。第1層は他の層位と比べて、堆積が厚い分だけかなり密に広く散布している。

③鉄釘の法量 (第123・124図)

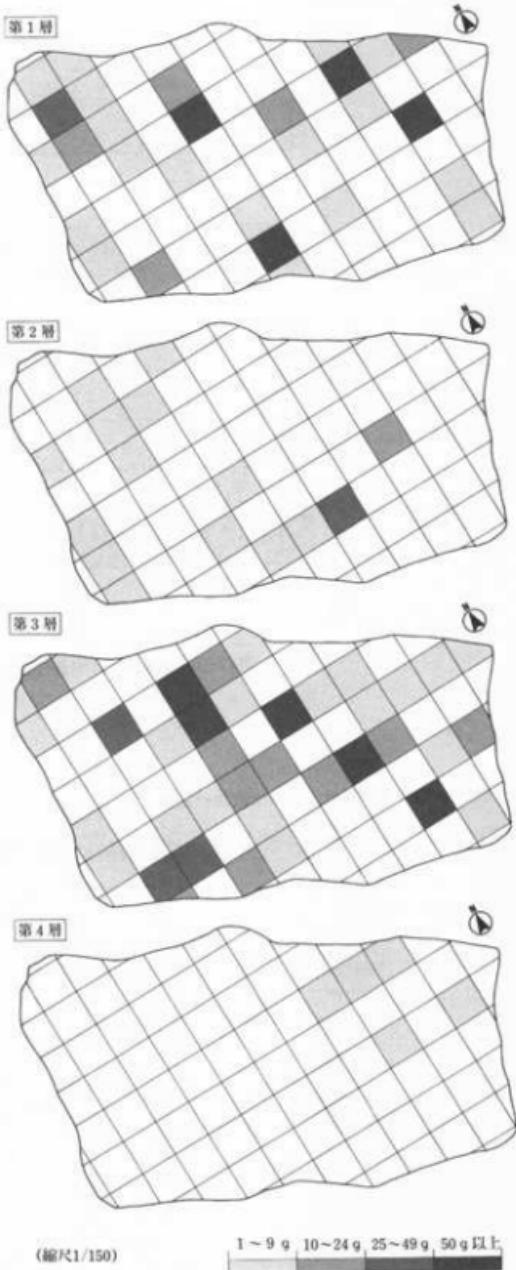
これは堅穴内から出土した鉄釘の法量を示したものである。このグラフは横軸が長さ、縦軸が個数を表している。全体でみると、3.5cmから7.0cmまでの長さを持つものが含まれており、6.5cm前後の規模を持つものが多い傾向を示した。



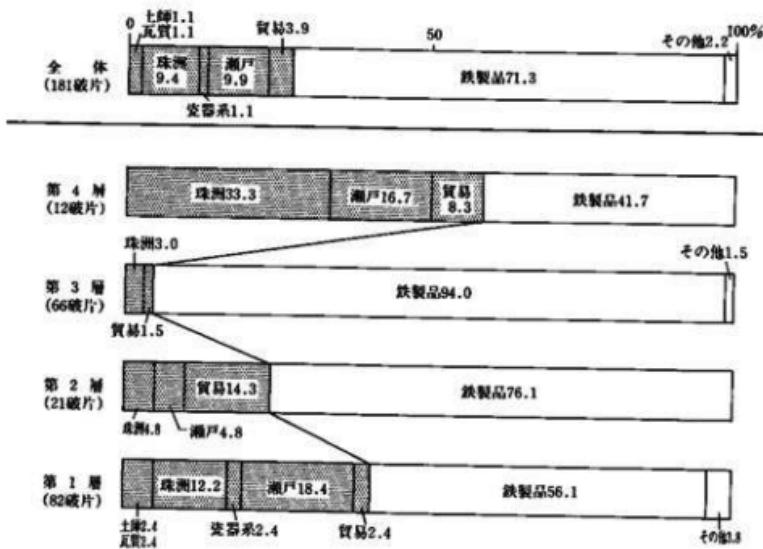
第122図 鉄釘の計測部位・名称



第123図 AT95 SI01出土の鉄釘法量



第124図 AT95 SI01層位別の鉄製品出土散布図(重量)



第125図 AT95-S101層位別の出土造物構成比

第25表 AT95 SI01層位別の出土遺物一覽表

半面は被覆細胞、裏面は口縫部細胞

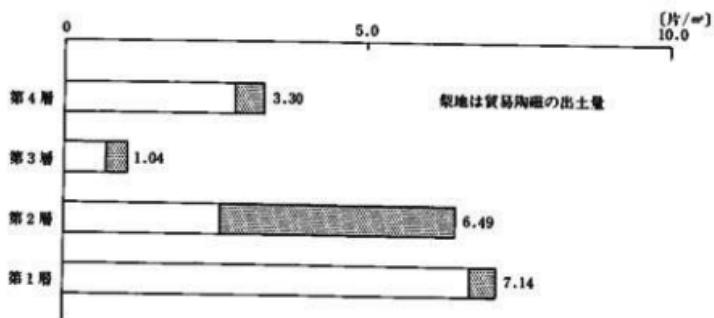
④層位別出土遺物の構成比（第125図）

ここでは層位別に出土遺物の構成比を算出した。構成比を算出するに当たっては陶磁器は破片数、鉄製品は破片を含めた点数として求めており、分析に用いた全体の件数は181破片である。これによると、全体を比較すると陶磁器が26.5%、鉄製品が71.3%を示し、鉄製品の割合がかなり高いことが分かる。層位別に見ると、逆に第4層の最下層の貼り床内では陶磁器が全体の58.3%と高い比率を示している。また、第3層の貼り床内では鉄製品の比率が94.0%を示しており、貼り床の構築に際して、意図的に鉄製品を混入させたものと考えられる。

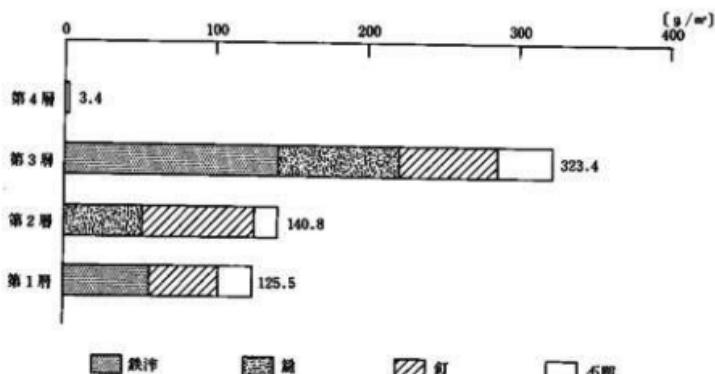
⑤層位別1m³当たりの遺物出土量（第126・127図）

これは陶磁器と鉄製品を分けて、層位別に容積1m³当たりの遺物量を算出したものである。算出に当たって、層位別の容積は竪穴の床面積19.25m²に第1層の標準高0.24m、第2層0.04m、第3層0.15m、第4層0.11mをそれぞれ掛け合わせて算出している。陶磁器の容積別出土量は1m³当たりの破片数で示した。それによると、第1層が7.14破片、第2層が6.49破片、第3層が1.04破片、第4層が3.30破片を示し、第1層の1m³当たりの出土量がかなり高いことを示している。

また、鉄製品の容積別出土量は1m³当たりの重量をg表示で示した。それによると、第3層で323.4gと高い比率を示した。これは鉄滓と銛を多く含んでいるためである。逆に第4層は3.4gとなり、鉄製品を重量で示した場合、ほとんど表示されないことになる。



第126図 AT95 SI01層位別の土器・陶磁器出土量(1m²あたり)



第127図 AT95 SI01層位別の鉄製品出土量(1m²あたり)

第26表 AT95 SI01層位別の鉄製品出土量一覧表

層位	堆積土量(m ³)	鉄滓	鋼	鉄釘	不明	合計
4層	2.12	破片数		1	4	5
		重量		5.0g	2.2g	7.2g
		重量/m ³		2.4g	1.0g	3.4g
3層	2.89	破片数	5 5	32	20	62
		重量	408.4g 232.0g	191.6g	102.7g	934.7g
		重量/m ³	141.3g 80.3g	66.3g	35.5g	323.4g
2層	0.77	破片数		1 10	5	16
		重量		40.4g 56.2g	11.8g	108.4g
		重量/m ³		52.5g 73.0g	15.3g	140.8g
1層	4.62	破片数	8	22	16	46
		重量	265.6g	212.0g	102.4g	580.0g
		重量/m ³	57.5g	45.9g	22.1g	125.5g
合計	10.40	破片数	13 6	65	45	129
		重量	674.0g 272.4g	464.8g	219.1g	1630.3g
		重量/m ³	64.8g 26.2g	44.7g	21.1g	156.8g

区画遺構

ここで区画遺構として取り上げたものは、遺構の配置と構成、空間利用を大きく規制する区画溝・棚・塀である。第III章〈遺構の表記について〉で述べたように、第2次調査(A T95)は遺構の平面プランの検出作業に終始しているため、検出された遺構の性格について不明なものが多い。特にここで取り上げる溝と棚・塀の性格の違いは平面プランでは確認できない。そこでここでは便宜上、すべてSD溝と表記し、部分的に掘り上げて遺構の性格が明らかとなったものについては文中に記述している。

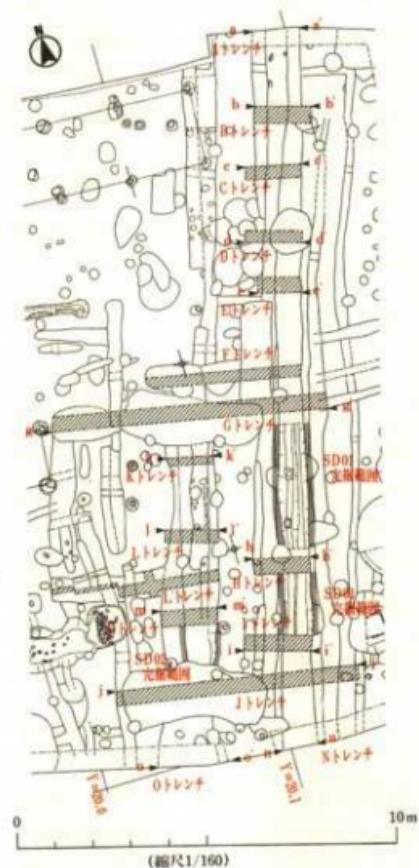
調査区東側に位置するSD01・02・04・15・16・17・26などの南北溝は調査区を大きく東西に2分する重要な区画遺構である。これらの南北溝は長期間に渡って存続しており重複が激しいだけでなく、さらに部分的な補修工事を行っているため、平面プランの検出が困難であった。そこで、これら南北溝に対して直交する形で、A～Pトレンチを設定して断ち割り調査を実施し、層位観察を行った(第96・128図)。また、東西溝SD05・06に対してはQ・Rトレンチの調査、及び部分的な完掘を実施している(第103図)。

また、多くの区画遺構が重複して検出されたことから、区画遺構の時期別の配置状況を示すことが可能となった。以下、区画遺構のトレンチ調査、時期別の配置状況の順に示す。

区画遺構のトレンチ調査

Aトレンチ・調査区北壁(第130図)

新旧関係はSD04はSD01を切っており、時期的に新しい。SD04とSD17の新旧関係は不明である。遺構規模を見ると、SD17は上端幅34cm、深さ16cmを測る。SD04は上端幅54cm、下端幅20cm、深さ70cmを測る。SD



第128図

AT95 調査区東部のSDサブトレンチ設定図

SD01はSD04に切られており、幅は不明であるが、深さは40cmを測る。SD04は下端幅20cm程で均等に深く掘り込まれており柱穴の断面跡と思われることから、柵跡か板塀跡の性格が考えられる。

B トレンチ北壁 (第130図)

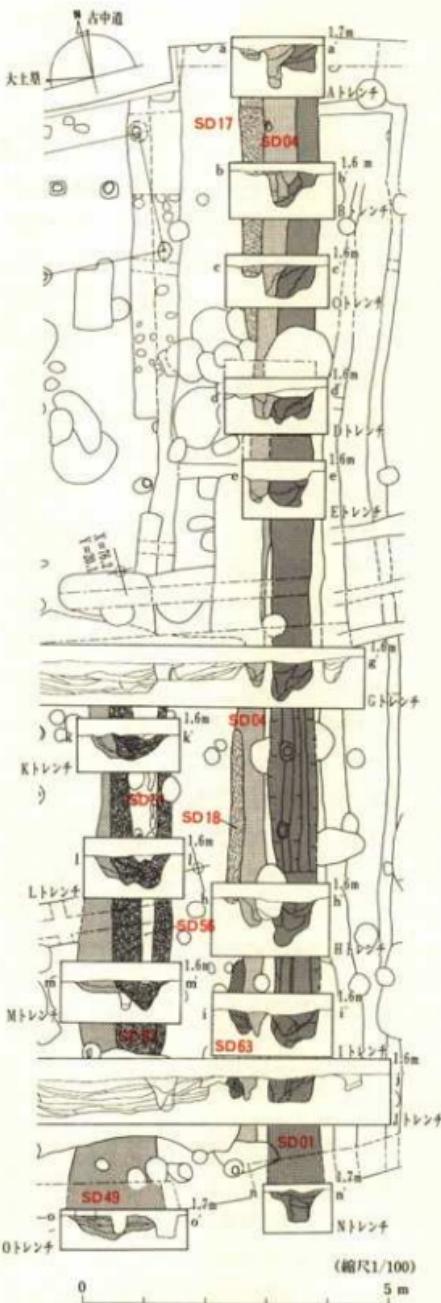
新旧関係はSD17はわずかにSD04を切っており、時期的に新しい。また、ここでもSD04がSD01を切っている状況が見られる。SD01→SD04→SD17の順に新しくなる。遺構規模を見ると、SD17は上端幅34cm、深さ6cmで、かなり浅い。SD04は上端幅60cm、下端幅28cm、深さ50cmを測る。SD01は大きくSD04に切られており、幅は不明であるが、深さ60cmを測る。

C トレンチ北壁 (第130図)

新旧関係はBトレンチ北壁で見たように、SD01→SD04→SD17の順に新しくなる状況が読み取れる。遺構規模を見ると、SD17は上端幅34cm、深さ18cmを測る。SD04は上端幅約40cm、下端幅16cm、深さ52cmを測る。SD01はSD04に切られており、幅は不明であるが、深さ54cmを測る。

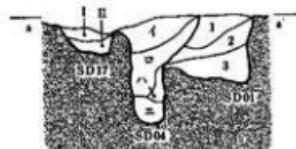
D トレンチ南壁 (第130図)

新旧関係はSD01→SD04の順に新しくなるが、さらにSD04とSD01を切るSK37の時期的に新しい土坑がある。さらに、SD04はSP638に切られている。遺構規模を見ると、SD04は上端幅約46cm、下端幅24cm、深さ40cmを測る。SD01はSD04とSK37に大

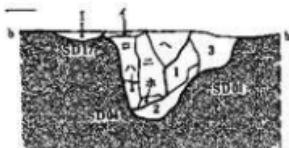


第129図 AT95 調査区東部のSD重複状況

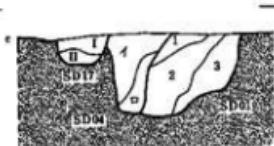
Aトレンチ(調査区北壁)



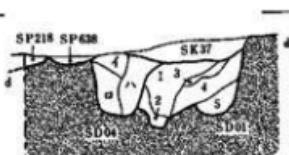
Bトレンチ



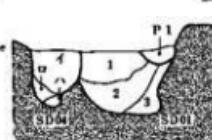
Cトレンチ



Dトレンチ



Eトレンチ



(縮尺1/40)

基準標高1.6m

0 2 m

Aトレンチ北壁層位(a-a')

No.	土色	土質	符号
SD17	I 10YR2/1 黒 II 10YR2/3 黄褐	砂質土 砂質土	
SD04	イ 10YR2/3 黄褐 ロ 10YR2/3 黄褐 ハ 10YR2/3 黄褐 ニ 10YR2/3 黄褐	砂質土 砂質土 砂質土 砂質土	地山ブロック層(2%)
SD01	一 10YR2/3 黄褐 二 10YR2/3 黄褐 三 10YR2/3 黄褐 四 10YR2/3 黄褐	砂質土 砂質土 砂質土 砂質土	地山ブロック層(1%) 地山ブロック層(40%) 地山ブロック層(20%)
	五 10YR4/4 黄 六 10YR1/2/1 黄	砂質土 砂質土	地山ブロック層(2%)

Bトレンチ北壁層位(b-b')

No.	土色	土質	符号
SD17	1 10YR2/1 黒褐	砂質土	
SD04	ロ 10YR2/1 黒 ロ 10YR2/1 黒 ハ 10YR2/3 黄褐 ニ 10YR2/3 黄褐 キ 10YR5/6 にぼい黄褐 ハ 10YR2/3 黄褐	砂質土 砂質土 砂質土 砂質土 砂 砂質土	地山ブロック層(2%) 地山ブロック層(2%)
SD01	一 10YR4/4 黄 二 10YR3/2 黄褐 三 10YR2/1 黑	砂質土 砂質土 砂質土	地山ブロック層(1%)

Cトレンチ北壁層位(c-c')

No.	土色	土質	符号
SD17	1 10YR2/3 黄褐	砂質土	
SD04	II 10YR2/1 黒 ロ 10YR2/3 黄褐 ハ 10YR2/3 黄褐	砂質土 砂質土 砂質土	地山ブロック層(10%) 黄褐色砂質
SD01	一 10YR2/3 黄褐 二 10YR3/2 黄褐 三 10YR2/2 黄褐	砂質土 砂質土 砂質土	地山ブロック層(2%) 地山ブロック層(7%)

Dトレンチ南壁層位(d-d')

No.	土色	土質	符号
SP218	10YR2/2 黄褐	砂質土	灰・鐵
SP638	10YR2/2 黄褐	砂質土	地山ブロック層(45%)
SK37	10YR2/1 黑	砂質土	地山ブロック層(20%)
SD04	イ 10YR2/2 黄褐 ロ 10YR2/2 黄褐 ハ 10YR2/3 黄褐	砂質土 砂質土 砂質土	地山ブロック層(20%) 地山ブロック層(20%)
SD01	一 10YR4/4 黄 二 10YR3/2 黄褐 三 10YR2/2 黄褐 四 10YR2/2 黄褐	砂質土 砂質土 砂質土 砂質土	10YR2/2 黄褐色砂質土(5%) 地山ブロック層 地山ブロック層 2.3YR3/4 リーフ層色砂質土(3%) 地山ブロック層(15%)

Eトレンチ南壁層位(e-e')

No.	土色	土質	符号
P1	10YR2/2 黄褐	砂質土	平緩面積付近
SD04	イ 10YR2/2 黄 ロ 10YR4/4 にぼい黄褐 ハ 10YR2/3 黄褐	砂質土 砂 砂質土	地山ブロック層(10%)
SD01	一 10YR2/2 黄褐 二 10YR5/3 にぼい黄褐 三 10YR2/2 黄褐	砂質土 砂 砂質土	地山ブロック層(2%) 地山ブロック層(15%)

第130図 AT95 SDサブトレンチ土層断面図(A、B、C、D、Eトレンチ)

きく切られており、幅は不明であるが、深さ56cm程を測る。S P 638は上端幅32cm、深さ6cmを測る。S D17はDトレンチまでは伸びていない。

E トレンチ南壁 (第130図)

ここではS D01とS D04は接しており、切り合い関係は不明であった。
遺構規模を見ると、S D01は上端幅約70cm、下端幅約40cm、深さ58cm程である。S D04は上端幅約50cm、下端幅約20cm、深さ40cm程である。

G トレンチ南壁 (第131図)

ここでは5.6m程の長いトレンチ調査を行った。S D01、S D04、S D26の切り合いは見られず、10cm~20cmの間隔をあける。遺構規模を見ると、S D01は上端幅60cm、下端幅20cm、深さ64cmを測る。S D04は上端幅34cm、下端幅14cm、深さ40cmを測る。S D26は上端幅46cm、下端幅20cm、深さ36cmを測る。S K49はS D04をわずかに切っており、時期的に新しい。堆積土のi・ii・iii層はS D43の埋土である。S D43はS K48とS K49に切られており、時期的に古い。S D43の遺構規模は上端幅が不明、下端幅は20cm、深さ40cmを測る。

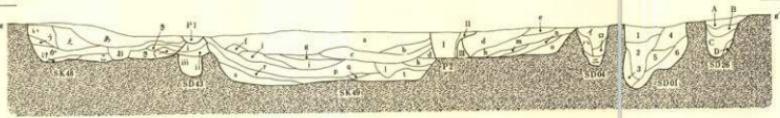
H トレンチ北壁 (第131図)

新旧関係はS P 133はS D01とS D04を切っており、時期的に新しい。
遺構規模はS P 133は上端幅48cm、下端幅30cm、深さ32cmを測る。S D01とS D04はS P 133に切られており、上端幅はそれぞれ不明である。S D01の下端幅30cm、深さ78cm、S D04の下端幅20cm、深さ48cmを測る。また、S D18はS D04をわずかに切っており、時期的に新しい。

I トレンチ南壁 (第131・133図)

ここではS D01とS D04の切り合い関係は見られない。S D04はS D63を切っており、時期的に新しい。遺構規模を見ると、S D01は上端幅76cm、下端幅44cm、深さ62cmを測る。S D04は上端幅40cm、下端幅8cm、深さ40cmを測る。S D63はS D04に切られており、上端幅は不明であるが、下端幅16cm、深さ40cmを測る。トレンチ出土遺物にはS D04から152の瓷器系甕の体部破片が出土している。なお、G-Iトレンチ間でS D01の完掘を行った結果(第128図)、S D01の西側隅にわずかであるが柱跡の痕跡を検出したことから、S D01は板塀跡であると判断された。

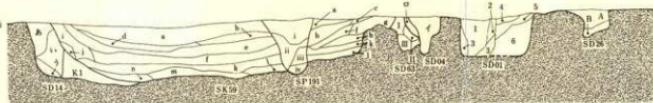
Gトレント



Jトレント北壁層位(j-i')

No.	名前	位置	層位
SP191			砂質土
a	I DYR2/2	黑褐色	砂質土
b	II DYR2/2	黑褐色	砂質土
c	III 7.3YR2/2	黑褐色	砂質土
d	IV 7.3YR2/2	黑褐色	砂質土
e	V 7.3YR2/2	黑褐色	砂質土
f	VI 7.3YR2/2	黑褐色	砂質土
g	VII 7.3YR2/2	黑褐色	砂質土
h	VIII 7.3YR2/2	黑褐色	砂質土
i	IX 7.3YR2/2	黑褐色	砂質土
j	X 7.3YR2/2	黑褐色	砂質土
k	XI 7.3YR2/2	黑褐色	砂質土
l	XII 7.3YR2/2	黑褐色	砂質土
m	XIII 7.3YR2/2	黑褐色	砂質土
n	XIV 7.3YR2/2	黑褐色	砂質土
SD14			細粒土
o	I DYR2/2	黑褐色	砂質土
p	II DYR2/2	黑褐色	砂質土
q	III 7.3YR2/2	黑褐色	砂質土
r	IV 7.3YR2/2	黑褐色	砂質土
s	V 7.3YR2/2	黑褐色	砂質土
t	VI 7.3YR2/2	黑褐色	砂質土
u	VII 7.3YR2/2	黑褐色	砂質土
v	VIII 7.3YR2/2	黑褐色	砂質土
w	X 7.3YR2/2	黑褐色	砂質土
x	XI 7.3YR2/2	黑褐色	砂質土
y	XII 7.3YR2/2	黑褐色	砂質土
z	XIII 7.3YR2/2	黑褐色	砂質土
SK64			細粒土
aa	I DYR2/2	黑褐色	砂質土
ab	II DYR2/2	黑褐色	砂質土
ac	III 7.3YR2/2	黑褐色	砂質土
ad	IV 7.3YR2/2	黑褐色	砂質土
ae	V 7.3YR2/2	黑褐色	砂質土
af	VI 7.3YR2/2	黑褐色	砂質土
ag	VII 7.3YR2/2	黑褐色	砂質土
ah	VIII 7.3YR2/2	黑褐色	砂質土
ai	X 7.3YR2/2	黑褐色	砂質土
aj	XI 7.3YR2/2	黑褐色	砂質土
ak	XII 7.3YR2/2	黑褐色	砂質土
al	XIII 7.3YR2/2	黑褐色	砂質土
am	XIV 7.3YR2/2	黑褐色	砂質土
an	XV 7.3YR2/2	黑褐色	砂質土
SD61			細粒土
ba	I 7.3YR2/2	黑褐色	砂質土
bb	II 7.3YR2/2	黑褐色	砂質土
bc	III 7.3YR2/2	黑褐色	砂質土
bd	IV 7.3YR2/2	黑褐色	砂質土
be	V 7.3YR2/2	黑褐色	砂質土
bf	VI 7.3YR2/2	黑褐色	砂質土
bg	VII 7.3YR2/2	黑褐色	砂質土
bh	VIII 7.3YR2/2	黑褐色	砂質土
bi	X 7.3YR2/2	黑褐色	砂質土
bj	XI 7.3YR2/2	黑褐色	砂質土
bk	XII 7.3YR2/2	黑褐色	砂質土
bl	XIII 7.3YR2/2	黑褐色	砂質土
bm	XIV 7.3YR2/2	黑褐色	砂質土
bn	XV 7.3YR2/2	黑褐色	砂質土
SD58			細粒土
ca	A 7.3YR1/1	黑褐色	砂質土
cb	B 7.3YR2/2	黑褐色	砂質土

Jトレント



Nトレント南壁層位(n-n')

No.	名前	位置	層位
SD01	1	I DYR2/2	黑褐色
2	II DYR2/2	黑褐色	
3	III DYR2/2	黑褐色	
4	IV DYR2/2	黑褐色	
5	V DYR2/2	黑褐色	
6	VI DYR2/2	黑褐色	

10YR5/4暗褐色砂質土層

3 m 基準標高1.6m

(縮尺1/40)

第131図 AT95 SDサブトレント土層断面図(G、H、I、J、Nトレント)

Gトレント南壁層位(g-g')

No.	名前	位置	層位
P1			地山ブロック層(2%)
P2	1	7.3YR2/1	砂質土
2	II 7.3YR2/2	砂質土	
3	III 7.3YR2/2	砂質土	
4	IV 7.3YR2/2	砂質土	
5	V 7.3YR2/2	砂質土	
6	VI 7.3YR2/2	砂質土	
7	VII 7.3YR2/2	砂質土	
8	VIII 7.3YR2/2	砂質土	
9	IX 7.3YR2/2	砂質土	
10	X 7.3YR2/2	砂質土	
11	XI 7.3YR2/2	砂質土	
12	XII 7.3YR2/2	砂質土	
13	XIII 7.3YR2/2	砂質土	
14	XIV 7.3YR2/2	砂質土	
15	XV 7.3YR2/2	砂質土	
16	XVI 7.3YR2/2	砂質土	
17	XVII 7.3YR2/2	砂質土	
18	XVIII 7.3YR2/2	砂質土	
19	XIX 7.3YR2/2	砂質土	
20	XX 7.3YR2/2	砂質土	
21	XI 7.3YR2/2	砂質土	
22	XII 7.3YR2/2	砂質土	
23	XIII 7.3YR2/2	砂質土	
24	XIV 7.3YR2/2	砂質土	
25	XV 7.3YR2/2	砂質土	
26	XVI 7.3YR2/2	砂質土	
27	XVII 7.3YR2/2	砂質土	
28	XVIII 7.3YR2/2	砂質土	
29	XIX 7.3YR2/2	砂質土	
30	XX 7.3YR2/2	砂質土	
31	XI 7.3YR2/2	砂質土	
32	XII 7.3YR2/2	砂質土	
33	XIII 7.3YR2/2	砂質土	
34	XIV 7.3YR2/2	砂質土	
35	XV 7.3YR2/2	砂質土	
36	XVI 7.3YR2/2	砂質土	
37	XVII 7.3YR2/2	砂質土	
38	XVIII 7.3YR2/2	砂質土	
39	XIX 7.3YR2/2	砂質土	
40	XX 7.3YR2/2	砂質土	
41	XI 7.3YR2/2	砂質土	
42	XII 7.3YR2/2	砂質土	
43	XIII 7.3YR2/2	砂質土	
44	XIV 7.3YR2/2	砂質土	
45	XV 7.3YR2/2	砂質土	
46	XVI 7.3YR2/2	砂質土	
47	XVII 7.3YR2/2	砂質土	
48	XVIII 7.3YR2/2	砂質土	
49	XIX 7.3YR2/2	砂質土	
50	XX 7.3YR2/2	砂質土	
51	XI 7.3YR2/2	砂質土	
52	XII 7.3YR2/2	砂質土	
53	XIII 7.3YR2/2	砂質土	
54	XIV 7.3YR2/2	砂質土	
55	XV 7.3YR2/2	砂質土	
56	XVI 7.3YR2/2	砂質土	
57	XVII 7.3YR2/2	砂質土	
58	XVIII 7.3YR2/2	砂質土	
59	XIX 7.3YR2/2	砂質土	
60	XX 7.3YR2/2	砂質土	
61	XI 7.3YR2/2	砂質土	
62	XII 7.3YR2/2	砂質土	
63	XIII 7.3YR2/2	砂質土	
64	XIV 7.3YR2/2	砂質土	
65	XV 7.3YR2/2	砂質土	
66	XVI 7.3YR2/2	砂質土	
67	XVII 7.3YR2/2	砂質土	
68	XVIII 7.3YR2/2	砂質土	
69	XIX 7.3YR2/2	砂質土	
70	XX 7.3YR2/2	砂質土	
71	XI 7.3YR2/2	砂質土	
72	XII 7.3YR2/2	砂質土	
73	XIII 7.3YR2/2	砂質土	
74	XIV 7.3YR2/2	砂質土	
75	XV 7.3YR2/2	砂質土	
76	XVI 7.3YR2/2	砂質土	
77	XVII 7.3YR2/2	砂質土	
78	XVIII 7.3YR2/2	砂質土	
79	XIX 7.3YR2/2	砂質土	
80	XX 7.3YR2/2	砂質土	
81	XI 7.3YR2/2	砂質土	
82	XII 7.3YR2/2	砂質土	
83	XIII 7.3YR2/2	砂質土	
84	XIV 7.3YR2/2	砂質土	
85	XV 7.3YR2/2	砂質土	
86	XVI 7.3YR2/2	砂質土	
87	XVII 7.3YR2/2	砂質土	
88	XVIII 7.3YR2/2	砂質土	
89	XIX 7.3YR2/2	砂質土	
90	XX 7.3YR2/2	砂質土	
91	XI 7.3YR2/2	砂質土	
92	XII 7.3YR2/2	砂質土	
93	XIII 7.3YR2/2	砂質土	
94	XIV 7.3YR2/2	砂質土	
95	XV 7.3YR2/2	砂質土	
96	XVI 7.3YR2/2	砂質土	
97	XVII 7.3YR2/2	砂質土	
98	XVIII 7.3YR2/2	砂質土	
99	XIX 7.3YR2/2	砂質土	
100	XX 7.3YR2/2	砂質土	
101	XI 7.3YR2/2	砂質土	
102	XII 7.3YR2/2	砂質土	
103	XIII 7.3YR2/2	砂質土	
104	XIV 7.3YR2/2	砂質土	
105	XV 7.3YR2/2	砂質土	
106	XVI 7.3YR2/2	砂質土	
107	XVII 7.3YR2/2	砂質土	
108	XVIII 7.3YR2/2	砂質土	
109	XIX 7.3YR2/2	砂質土	
110	XX 7.3YR2/2	砂質土	
111	XI 7.3YR2/2	砂質土	
112	XII 7.3YR2/2	砂質土	
113	XIII 7.3YR2/2	砂質土	
114	XIV 7.3YR2/2	砂質土	
115	XV 7.3YR2/2	砂質土	
116	XVI 7.3YR2/2	砂質土	
117	XVII 7.3YR2/2	砂質土	
118	XVIII 7.3YR2/2	砂質土	
119	XIX 7.3YR2/2	砂質土	
120	XX 7.3YR2/2	砂質土	
121	XI 7.3YR2/2	砂質土	
122	XII 7.3YR2/2	砂質土	
123	XIII 7.3YR2/2	砂質土	
124	XIV 7.3YR2/2	砂質土	
125	XV 7.3YR2/2	砂質土	
126	XVI 7.3YR2/2	砂質土	
127	XVII 7.3YR2/2	砂質土	
128	XVIII 7.3YR2/2	砂質土	
129	XIX 7.3YR2/2	砂質土	
130	XX 7.3YR2/2	砂質土	
131	XI 7.3YR2/2	砂質土	
132	XII 7.3YR2/2	砂質土	
133	XIII 7.3YR2/2	砂質土	
134	XIV 7.3YR2/2	砂質土	
135	XV 7.3YR2/2	砂質土	
136	XVI 7.3YR2/2	砂質土	
137	XVII 7.3YR2/2	砂質土	
138	XVIII 7.3YR2/2	砂質土	
139	XIX 7.3YR2/2	砂質土	
140	XX 7.3YR2/2	砂質土	
141	XI 7.3YR2/2	砂質土	
142	XII 7.3YR2/2	砂質土	
143	XIII 7.3YR2/2	砂質土	
144	XIV 7.3YR2/2	砂質土	
145	XV 7.3YR2/2	砂質土	
146	XVI 7.3YR2/2	砂質土	
147	XVII 7.3YR2/2	砂質土	
148	XVIII 7.3YR2/2	砂質土	
149	XIX 7.3YR2/2	砂質土	
150	XX 7.3YR2/2	砂質土	
151	XI 7.3YR2/2	砂質土	
152	XII 7.3YR2/2	砂質土	
153	XIII 7.3YR2/2	砂質土	
154	XIV 7.3YR2/2	砂質土	
155	XV 7.3YR2/2	砂質土	
156	XVI 7.3YR2/2	砂質土	
157	XVII 7.3YR2/2	砂質土	
158	XVIII 7.3YR2/2	砂質土	
159	XIX 7.3YR2/2	砂質土	
160	XX 7.3YR2/2	砂質土	
161	XI 7.3YR2/2	砂質土	
162	XII 7.3YR2/2	砂質土	
163	XIII 7.3YR2/2	砂質土	
164	XIV 7.3YR2/2	砂質土	
165	XV 7.3YR2/2	砂質土	
166	XVI 7.3YR2/2	砂質土	
167	XVII 7.3YR2/2	砂質土	
168	XVIII 7.3YR2/2	砂質土	
169	XIX 7.3YR2/2	砂質土	
170	XX 7.3YR2/2	砂質土	
171	XI 7.3YR2/2	砂質土	
172	XII 7.3YR2/2	砂質土	
173	XIII 7.3YR2/2	砂質土	
174	XIV 7.3YR2/2	砂質土	
175	XV 7.3YR2/2	砂質土	
176	XVI 7.3YR2/2	砂質土	
177	XVII 7.3YR2/2	砂質土	
178	XVIII 7.3YR2/2	砂質土	
179	XIX 7.3YR2/2	砂質土	
180	XX 7.3YR2/2	砂質土	
181	XI 7.3YR2/2	砂質土	
182	XII 7.3YR2/2	砂質土	
183	XIII 7.3YR2/2	砂質土	
184	XIV 7.3YR2/2	砂質土	
185	XV 7.3YR2/2	砂質土	
186	XVI 7.3YR2/2	砂質土	
187	XVII 7.3YR2/2	砂質土	
188	XVIII 7.3YR2/2	砂質土	
189	XIX 7.3YR2/2	砂質土	
190	XX 7.3YR2/2	砂質土	
191	XI 7.3YR2/2	砂質土	
192	XII 7.3YR2/2	砂質土	
193	XIII 7.3YR2/2	砂質土	
194	XIV 7.3YR2/2	砂質土	
195	XV 7.3YR2/2	砂質土	
196	XVI 7.3YR2/2	砂質土	
197	XVII 7.3YR2/2	砂質土	
198	XVIII 7.3YR2/2	砂質土	
199	XIX 7.3YR2/2	砂質土	
200	XX 7.3YR2/2	砂質土	
201	XI 7.3YR2/2	砂質土	
202	XII 7.3YR2/2	砂質土	
203	XIII 7.3YR2/2	砂質土	
204	XIV 7.3YR2/2	砂質土	
205	XV 7.3YR2/2	砂質土	
206	XVI 7.3YR2/2	砂質土	
207	XVII 7.3YR2/2	砂質土	
208	XVIII 7.3YR2/2	砂質土	
209	XIX 7.3YR2/2	砂質土	
210	XX 7.3YR2/2	砂質土	
211	XI 7.3YR2/2	砂質土	
212	XII 7.3YR2/2	砂質土	
213	XIII 7.3YR2/2	砂質土	
214	XIV 7.3YR2/2	砂質土	
215	XV 7.3YR2/2	砂質土	
216	XVI 7.3YR2/2	砂質土	
217	XVII 7.3YR2/2	砂質土	
218	XVIII 7.3YR2/2	砂質土	
219	XIX 7.3YR2/2	砂質土	
220	XX 7.3YR2/2	砂質土	
221	XI 7.3YR2/2	砂質土	
222	XII 7.3YR2/2	砂質土	
223	XIII 7.3YR2/2	砂質土	
224	XIV 7.3YR2/2	砂質土	
225	XV 7.3YR2/2	砂質土	
226	XVI 7.3YR2/2	砂質土	
227	XVII 7.3YR2/2	砂質土	
228	XVIII 7.3YR2/2	砂質土	
229	XIX 7.3YR2/2	砂質土	
230	XX 7.3YR2/2	砂質土	
231	XI 7.3YR2/2	砂質土	
232	XII 7.3YR2/2	砂質土	
233	XIII 7.3YR2/2	砂質土	
234	XIV 7.3YR2/2	砂質土	
235	XV 7.3YR2/2	砂質土	
236	XVI 7.3YR2/2	砂質土	
237	XVII 7.3YR2/2	砂質土	
238	XVIII 7.3YR2/2	砂質土	
239	XIX 7.3YR2/2	砂質土	
240	XX 7.3YR2/2	砂質土	
241	XI 7.3YR2/2	砂質土	
242	XII 7.3YR2/2	砂質土	
243	XIII 7.3YR2/2	砂質土	
244	XIV		

J トレンチ北壁（第131図）

ここでは6.6m程の長いトレンチ調査を行った。S D01, S D04, S D26の切り合いは見られず、それぞれ20cm～30cmの間隔をあける。S D63はS D04とS K59に切られており、時期的に古い。遺構規模を見ると、S D01は上端幅96cm、下端幅60cm、深さ40cmを測る。S D04は上端幅34cm、下端幅10cm、深さ36cmを測る。S D26は上端幅46cm、下端幅26cm、深さ26cmを測る。S P191はS K59を切っており、時期的に新しい。また、S K59は長さ3.7m、深さ50cmを測る。自然堆積の状況を示す大型の土坑である。

K トレンチ北壁（第132・133図）

ここでは3時期の溝の変遷が見られる。S D49はS D02に切られ、S D02はS D51に切られている。新旧関係はS D49→S D02→S D51の順に新しくなる。遺構規模を見ると、S D49はS D02に大きく切られており、幅は不明であるが、深さ40cmを測る。S D02は上端幅96cm、深さ40cmを測る。S D51は幅40cm、深さ8cm程で規模の小さいものである。トレンチ出土遺物には153の土鉢、154の砾石がある。

L トレンチ北壁（第132図）

ここでもKトレンチ同様、3時期の溝の変遷が見られる。新旧関係はS D49→S D02→S D51の順に新しくなる。遺構規模を見ると、S D49はS D02に大きく切られており、幅は不明であるが、深さ30cm程である。S D02は上端幅1m、下端幅60cm、深さ50cmを測る。S D51は上端幅40cm、深さ10cm程で、やはり規模は小さい。

M トレンチ北壁（第132図）

ここでは4時期の柱穴・溝の変遷が見られる。新旧関係はP 1→S D49→S D02→S D56の順に新しくなる。S D51はMトレンチまで続かない。遺構規模を見ると、S D49はS D02に切られているが、幅は70cm以上と広く、深さ20cmと浅くなっている。S D02は上端幅90cm、深さ46cmで、断面V字型を呈する。S D56は上端幅18cm、深さ4cm程で、わずかに痕跡としてとどめている程度である。

N トレンチ・調査区南壁1（第131図）

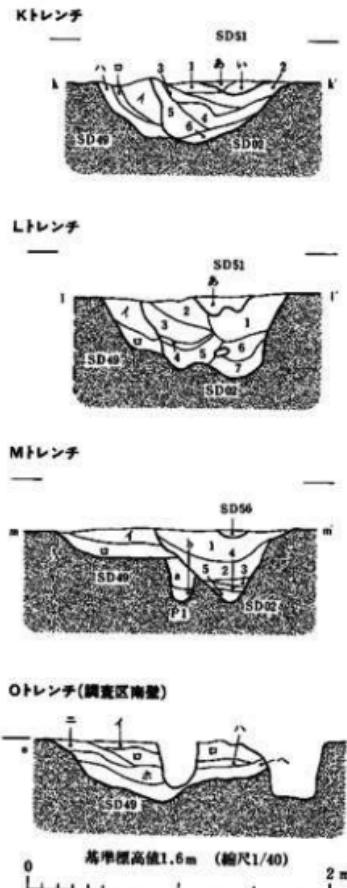
S D01の遺構規模は上端幅86cm、下端幅30cm、深さ50cmを測る。

O トレンチ・調査区南壁2（第132図）

SD49は2つの柱穴に切られている。SD2はOトレンチまで続かない。遺構規模を見ると、SD49は上端幅1.4m以上、深さ38cmを測る。

Pトレンチ南壁(第96図)

ここではSD22とSP45の切り合い関係を把握する目的でトレンチ調査を行った。新旧関係ではSD22はSP45を切っており、SP45より時期的に新しい。このことから、SB07はSD22より時期的に古いと言える。SD22の遺構規模は上端幅約60cm、下端幅34cm、深さ22cmを測る。



Kトレンチ北壁層位(K-K')

No.	土色	土質	備考
SD51	あ い	10YR2/1黒 10YR2/2黒褐	砂質土 地山ブロック風(1%) 砂質土 地山ブロック風(2%)
SD02	1 2 3 4 5 6	10YR2/3黒褐 10YR2/1黒褐 10YR2/2黒褐 10YR2/1黒 10YR2/2黒褐 10YR3/1黒褐	砂質土 砂質土 砂質土 砂質土 砂質土 砂質土
SD49	イ ロ ハ	10YR2/1黒 10YR3/2黒褐 10YR2/2黒褐	砂質土 地山ブロック風(5%) 砂質土 地山ブロック風(15%) 砂質土

Lトレンチ北壁層位(I-I')

No.	土色	土質	備考
SD51	あ	10YR2/3黒褐	砂質土
SD02	1 2 3 4 5 6 7	10YR2/1黒 10YR2/2黒褐 10YR2/1.5黒 10YR2/1黒 10YR3/1黒褐 10YR2/1黒 10YR3/2黒褐	砂質土 砂質土 砂質土 砂質土 砂質土 砂質土 砂質土
SD49	イ ロ	10YR1.7/1黒 10YR4/2赤黄褐	砂質土 砂質土

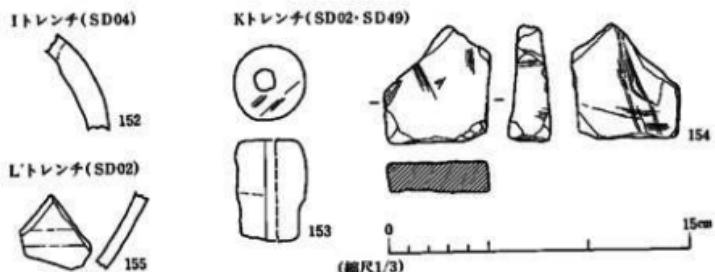
Mトレンチ北壁層位(m-m')

No.	土色	土質	備考
SD56	10YR3/2黒褐	砂質土	
SD02	1 2 3 4 5	10YR2/3黒褐 10YR2/2黒褐 10YR2/4.5赤褐 10YR2/1黒 10YR3/2黒褐	砂質土 砂質土 砂質土 砂質土 砂質土
SD49	イ ロ	10YR2/2黒褐 10YR1.7/1黒	砂質土 地山ブロック風
P1	ニ ホ	10YR3/1.5黒褐 10YR4/3赤い黄褐	砂質土 地山ブロック風(7%) 砂質土

Oトレンチ南壁層位(o-o')

No.	土色	土質	備考
SD49	イ ロ ハ ニ ホ ヘ	10YR2/3黒褐 10YR2/2黒褐 10YR2/3黒褐 10YR2/2黒褐 10YR2/2黒褐 10YR2/1黒	砂質土 砂質土 砂質土 砂質土 砂質土 砂質土

第132図 AT95 SDサブトレンチ土層断面図3(K,L,M,Oトレンチ)



SDサブトレンチ出土遺物(図版40)

番号	遺構	種類	器種	層位	レベル	法量	副量	備考	割合%
152	SD04	姿器系	甕	埋土	1.158			Iトレンチ	873
153	SD02-SD06	土製品	土甕	埋土		長4.9、幅3.5		Kトレンチ 60.6g	835
154		石製品	砥石	埋土		長(5.7)、幅5.1		Kトレンチ 62.8g	836
155	SD02	白磁	碗	埋土	1.016			Lトレンチ	834

第133図 AT95 SDサブトレンチ出土遺物

Qトレンチ西壁 (第103図)

S D05・06の遺構規模を見ると、S D05は上端幅26cm、深さ50cm、S D06は上端幅42cm、深さ48cmを測る。なお、S D05は東端部分の完掘行っており、溝の掘形に柱を埋め込む布堀りであることが分かった。その柱穴の間には板塀を備え付けた跡と思われる浅い掘り込みが見られた(第95図)。

Rトレンチ南壁 (第103図)

S D07はS D05を切っており、S D05より時期的に新しい。S D07上端幅32cm以上、深さ40cmを測る。

他のトレンチ出土遺物 (第133図)

L'トレンチ

S D02から155の白磁碗の体部破片が出土している。色調は灰白色を呈する。胎土は緻密で、内外面に透明感の強い釉が薄くかけられ、体部のヘラ削り痕が見られる。

区画遺構の時期別の配置状況

ここでは区画遺構の時期別の配置状況を読み取る作業を積極的に行い、第27表に示したように、区画遺構の時期変遷を大きく4時期に細分することができた。以下、4時期に細分するまでの一連の作業過程を示しておきたい。なお、時期別分類は国立歴史民俗博物館の研究報告に依拠して対応させている。I a期は12世紀後半、I b期は13世紀～14世紀初め、II a・b期は14世紀後半～15世紀前半、II c期は15世紀中葉に相当する。

(過程1) 区画遺構の主軸方位

検出された区画遺構は複雑に重複し合っているが、主軸方位がある一定の範囲内に集中していることから、以下の通り、大きく2群に分けることが可能であった(第136図)。

I群：区画遺構の主軸方位が南北方向でN-2.0°-WからN-7.0°-Eの範囲を示すもの。東西方向ではN-78.3°-WからN-89.0°-Wの範囲を示すもの。

南北方向：S D07・08・23・31・35・41・44

東西方向：S D06・09・10・24・25・40・55

II群：区画遺構の主軸方位が南北方向でN-11.5°-EからN-17.8°-Eの範囲を示すもの。東西方向ではN-74.0°-WからN-76.8°-Wの範囲を示すもの。

南北方向：S D01・04・12・13・15・16・17・18・19・20・

22・26・43・51・52・53・59・63・65

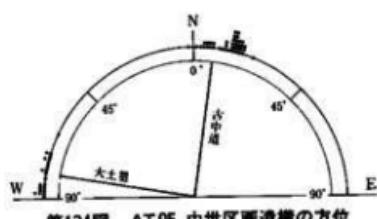
東西方向：S D05・36

(過程2) 区画遺構の切り合い関係

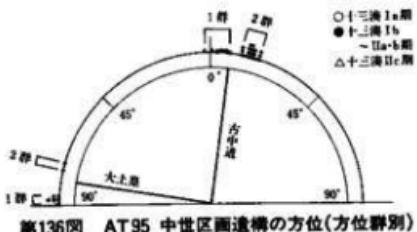
上記の2群に分類した区画遺構はさらに区画遺構の切り合い関係を細かく見た場合、I群を切るII群、II群を切るI群が存在することから、この時点で3時期に細分が可能であった(第138図)。

(過程3) 主要な遺構の配置と構成、切り合い関係から

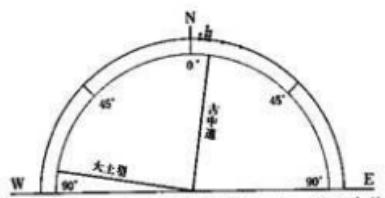
ここでは主要な遺構である掘立柱建物や竪穴遺構を取り上げ、区画遺構との配置や構成、切り合い関係、遺構出土遺物を踏まえた結果、主軸方位II群をさらに2時期の変遷に細分可能であった。これらの一連の作業過程から、区画遺構を群別・時期別(主要な遺構も含めて)に分類したものを十三塗遺跡の時期別変遷に対応させて、模式的に示したもののが第27表である。



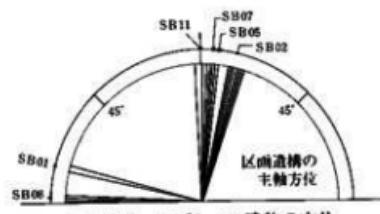
第134図 AT95 中世区画造構の方位



第136図 AT95 中世区画造構の方位(方位群別)

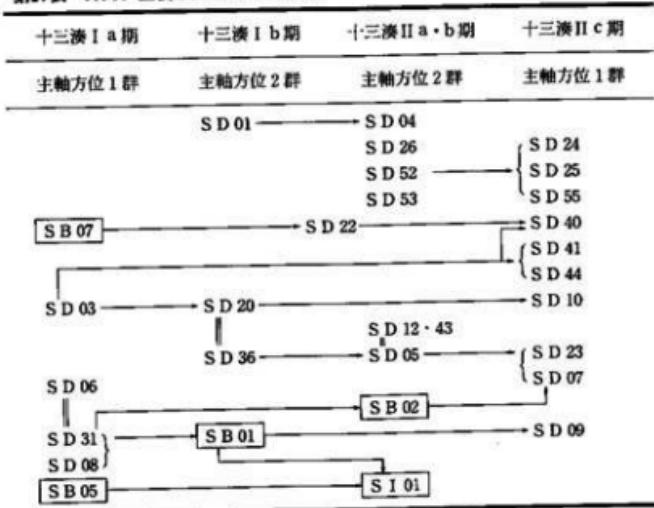


第135図 AT95 上面造構:「カッチャヨ」路の方位

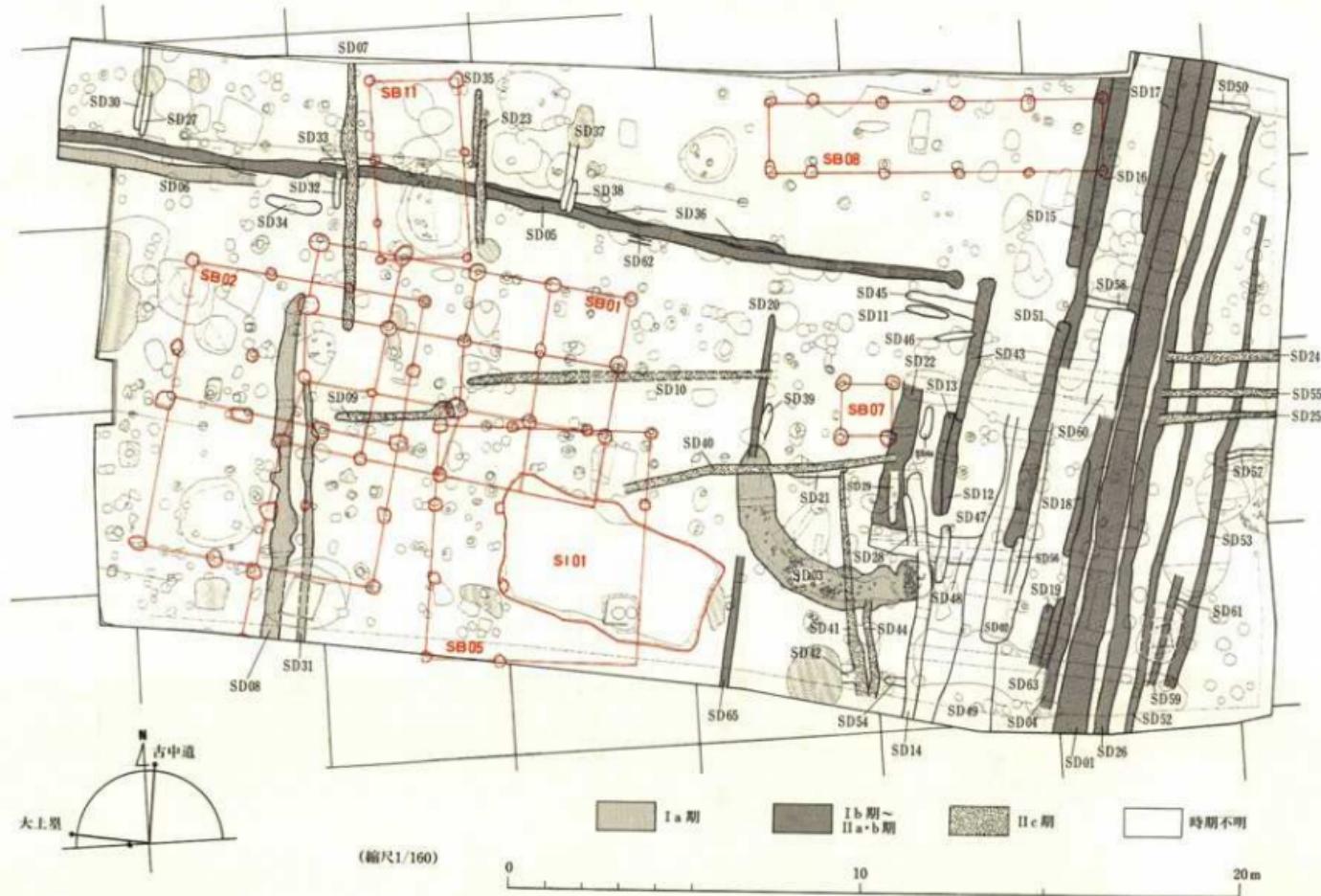


第137図 AT95 SB建物の方位

第27表 AT95 主要SB・SDの重複関係



凡例: →新旧関係 = 対応関係



区画造構の出土遺物（第139図）

II a・b期

S D05

156は青磁盤の口縁部破片である。口縁部が受け口を呈するタイプである。内面には櫛描きによる沈線が見られる。

S D12

157は瓷器系壺の体部破片である。外面に押印文が見られる。

II c期

S D09

158は手づくね製土師器皿で、いわゆる「京都系かわらけ」と呼ばれるものである。15世紀中葉のものと推される。159は瓦質土器の火鉢類である。160は瓷器系壺の体部破片である。161は珠洲すり鉢の口縁部破片である。口縁部はやや外方向に引き延ばし、ほぼ水平に面取り調整を施している。珠洲IV期である。

S D07

162は鉄釘である。

S D24

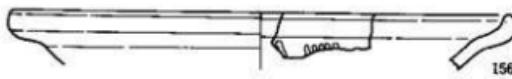
163は瀬戸四耳壺の体部破片である。紐輪積み成形で、内面は指撫で調整を施した後、ヘラ状工具による搔き上げ痕が認められる。外面には灰釉がハケ塗りされている。古瀬戸前II期である。

S D29

164は珠洲壺の体部破片である。外面の叩き目は薄く、不明瞭である。

十三層II A・B期

SD05



156

SD12



157

十三層II C期

SD09



158



159



160

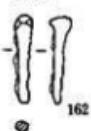
SD29



164

SD07

SD24



162



163

(縮尺1/3)



区画遺構出土遺物(図版40)

番号	遺構	種類	器種	層位	レベル	法量	測定	備考	量測
156	SD05	青磁	盤	埋土	1.441	□ [25.0]	0.07	内面に墨書きによる沈線	748
157	SD12	壺器系	甕	埋土	1.192			外腹に押印文 2片接合	833
158	SD09	土師器	皿	埋土	1.331	□ [14.0]	0.04	手づくね成形 2片接合	767
159		瓦質土器	火鉢類	埋土	1.323				768
160		瓦質土器	甕	埋土	1.308				765
161		珠洲	すり鉢	埋土	1.306	□ [30.0]	0.04	珠洲IV期	766
162	SD07	鉄製品	釘	埋土	1.320	長4.3、幅0.5		3.0g	811
163	SD24	窓戸	四耳壺	埋土	1.481			瀬戸前II期 灰陶 129と接合	830
164	SD29	珠洲	壺	埋土	1.322				832

第139図 AT95 区画遺構出土遺物(時期別)

第28表 A T 95 布振り溝・溝計測表

No	整理番号	検出回数	最大幅	最小幅	平均幅	深さ	主軸方位	出土遺物	備考
SD01	D01	1810	80	34	57	60	N-14.5°-E	SP047・SP133・SP137・SP139・SP604・SK37・SK40・SK41・SK44・SD04>SD01>SD50	
SD02	D02	593	99	68	83.5	50	N-14.7°-E	○ SP159・SP161・SP163・SK49・SK59・SD51・SD56>SD02>SP142・SP143・SD49	
SD03	D03	120	65	92.5	37			● SP172・SP606・SK17・SD14・SD20・SD40・SD41・SD44>SD03>SP671, SD03=SP204?	
SD04	D04	1674	56	26	41	46	N-15.8°-E	● SP047・SP130・SP133・SP139・SP145・SP638・SK37・SK44・SK49・SK59・SD18・SD60>SD04>SP653・SD01・SD17・SD58・SD63, SD04=SK36?	
SD05	D05	934	48	22	35	42	N-76.8°-W	○▲ SP407・SP408・SP409・SP411・SP414・SP504・SK23・SK51・SE09・SD07・SD23・SD37・SD38>SD05>SP028・SP036・SP406・SP484・SP485・SP576・SP579・SP621・SK24・SK25・SK45・SK60・SD33・SD36, SD05=SP412・SP444?	
SD06	D06	532	44	32	38	29	N-78.3°-W	▲、炭 SP405・SP406・SP407・SP408>SD06	
SD07	D07	728	44	16	30	18	N-4.0°-E	▲、炭 SP441・SP482>SD07>SP028・SP062・SP090・SP439・SP440・SP451・SP504・SK60・SD05・SD33	
SD08	D08	884	60	25	42.5	44	N-7.0°-E	SP024・SP042・SP076・SP080・SP087・SP306・SP318・SP391・SP392・SE02>SD08>SP072・SP390・SK01	
SD09	D09	346	46	18	32	10	N-87.7°-W	●●●● SP083・SP356>SD09>SP078・SP101・SP260・SP359・SP423	
SD10	D10	857	33	15	24			SP473>SD10>SP472・SP474・SP475・SP476・SK02・SD20	
SD11	D11	114	26	12	19			SD11=N-75.3°-W 骨片	
SD12	D12	279	36	19	27.5			● SD43>SD12, SD12=SD13?	
SD13	D13	280	26	21	23.5	46	N-11.8°-E	SD13=SD12?	
SD14	D14	668	44	31	37.5	44	N-4.5°-E	SP196・SK59・SD28>SD14>SD03・SD48・SD54	
SD15	D15	542	41	28	34.5			SD15=SP117・SD16?	
SD16	D16	770	42	20	31			SP534・SP601・SP609・SP636・SK15・SD51>SD16>SP635・SK30・SD58, SD16=SP119・SD15?	
SD17	D17	498	40	16	28	16	N-15.2°-E	SD17>SP602・SP653・SD04	
SD18	D18	255	25	15	20	10	N-16.5°-E	SD18>SD04	
SD19	D19	186	30	24	27			SP145・SP146・SK59>SD19, SD19=SD63?	
SD20	D20	350	20	18	19	6	N-12.7°-E	SK20>SD10>SD20>SP559・SK19・SD03, SD20=SD39?	
SD21	D21	154	34	31	32.5			SD40・SD41>SD21>SK63	
SD22	D22	352	68	54	61	22	N-13.8°-E	SP039・SK42・SK48・SD28・SD29・SD40・SD48>SD22>SP045	
SD23	D23	346	26	18	22	14	N-4.7°-E	SD23>SP031・SE09・SD05・SD36, SD23=SD35?	
SD24	D24	282	34	24	29	19	N-87.0°-W	● SD24>SD26・SD52・SD53	

No.	監理No.	検出長	最大幅	最小幅	平均幅	深さ	主軸方位	出土遺物	備考
SD25	D25	322	26	14	20	6	N-88.3°-W	SD25>SD26・SD62・SD53	
SD26	D26	1615	52	13	32.5	28	N-14.3°-E	SP129・SP135・SP137・SP603・SK40・SK41・SD24・SD25・SD55>SD26	
SD27	D27	111	20	16	18		N-14.0°-E	SD27=SD30?	
SD28	D28	90	22	20	21		N-3.7°-W	SD28>SD14・SD22・SD48	
SD29	D29	144	30	22	26		N-6.0°-E	SP039・SK42>SD29>SD22	
SD30	D30	288	18	16	17		N-9.8°-E	SD30=SD27?	
SD31	D31	526	27	15	21	43	N-3.3°-E	SP027・SP057・SP067・SP068・SP309・SP312・SP314・SP315・SP316・SP319・SE02>SD31>SP317, SD31=SP313・SK01?	
SD32	D32	84	18	16	17		N-7.0°-E	SP504>SD32>SK60	
SD33	D33	220	22	11	16.5		N-80.0°-W	SP237・SD05・SD07>SD33	
SD34	D34	148	37	28	32.5		N-76.2°-W	SP398>SD34	
SD35	D35	185	19	16	17.5	18	N-5.8°-E	SD35>SP031, SD35=SD23?	
SD36	D36	841	22	14	18		N-74.0°-W	SK23・SD05・SD23・SD37・SD38>SD36>SP532	
SD37	D37	92	20	16	18		N-3.5°-E	SK14>SD37>SD05・SD36	
SD38	D38	90	16	14	15		N-16.8°-E	SD38>SD05・SD36	
SD39	D39	85	26	15	20.5		N-22.5°-E	SK20>SD39, SD39=SD20?	
SD40	D40	750	19	18	18.5		N-89.0°-W	SP258>SD40>SK53・SD03・SD21・SD22, SD40=SP570・SK63?	
SD41	D41	613	37	10	23.5		N-2.0°-W	SP174・SP202・SP564>SD41>SP634・SK54・SK61・SD03・SD21, SD41=SP565・SD42・SD44?	
SD42	D42	36	34	24	29		N-86.0°-E	SD42=SP654・SD41?	
SD43	D43	400	46	21	33.5	41	N-15.0°-E	SP632・SK48・SK49・SD46>SD43>SP148・SD12・SD45, SD43=SK49?	
SD44	D44	232	22	18	20		N-1.0°-E	SD44>SK54・SK61・SD03, SD44=SD41?	
SD45	D45	195	45	24	34.5		N-72.8°-W	SD43>SD45	
SD46	D46	112	20	16	18		N-85.5°-E	SP631>SD46>SK32・SD43	
SD47	D47	158	25	16	20.5	33	N-10.5°-E	SP169・SP171>SD47>SP175・SD48	
SD48	D48	290	74	58	66		N-78.5°-W	SP037・SP171・SD14・SD28・SD47・SD49>SD48>SP671・SD22	
SD49	D49	66	88	71	79.5	32	N-15.0°-E	SP163・SP193・SP194・SP195・SP201・SP663・SP664・SK49・SK59・SD02>SD49>SD48	
SD50	D50	122	25	16	20.5		N-78.7°-E	SP646・SD01>SD50, SD50=SD52?	
SD51	D51	630	52	33	42.5	13	N-16.2°-E	SK15・SK49・SK55・SD56>SD51>SD02・SD16	

No	发现地	検出長	最大幅	最小幅	平均幅	深さ	主軸方位	出土遺物	備考
SD62	D52	1664	34	17	25.5	27	N-14.7° -E	SP127・SP185・SP187・SP573・SP642・SE04・SE12・SD24・SD25・SD55 > SD52 > SP647・SK43, SD52=SP649・SD50 ?	
SD63	D53	1282	33	11	22		N-14.2° -E	SP121・SP122・SP138・SP184・SK43・SK50・SE04・SE05・SE12・SD24・SD25・SD55 > SD53 > SP650・ SD57, SD53=SP064・SP074・SP162・SP518・SP580・SP622・SD61 ?	
SD64	D54	65	24	17	20.5		N-82.3° -W	SP199・SP200・SD14 > SD54	
SD65	D55	135	23	18	20.5		N-86.8° -W	SD55 > SD26・SD52・SD53	
SD66	D56	136	24	18	21		N-17.0° -E	SD56 > SD02・SD51	
SD67	D57	125	16	14	15		N-85.2° -E	SP053・SP120・SD53 > SD57	
SD68	D58	125	25	22	23.5		N-75.0° -W	SD04・SD16・SD60 > SD58 > SP217	
SD69	D59	248	21	17	19		N-17.8° -E	SP126・SK43・SE04・SE12 > SD59	
SD70	D60	366	81	75	78		N-17.3° -E	SD60 > SP217・SP641・SK15・SD04・SD58, SD60=SP047・SP640 ?	
SD61	D61	36	19	18	18.5		N-65.3° -W	SP126 > SD61, SD61=SD53 ?	
SD62	D62	52	15	10	12.5		N-72.7° -W	SP576・SK23 > SD62	
SD63	D63	191	24	16	20	39	N-17.8° -E	SP145・SK59・SD04 > SD63, SD63=SD19 ?	
SD64	D64	86	26	21	23.5		N-16.3° -E		
SD65	D65	363	18	14	16		N-11.5° -E	SD65=SP115・SP205 ?	

井 戸

本調査区で井戸跡は7基検出されている。なお、S E10については竪穴遺構の項で取り上げており、ここでは省略する。

S E 02井戸（第140図）

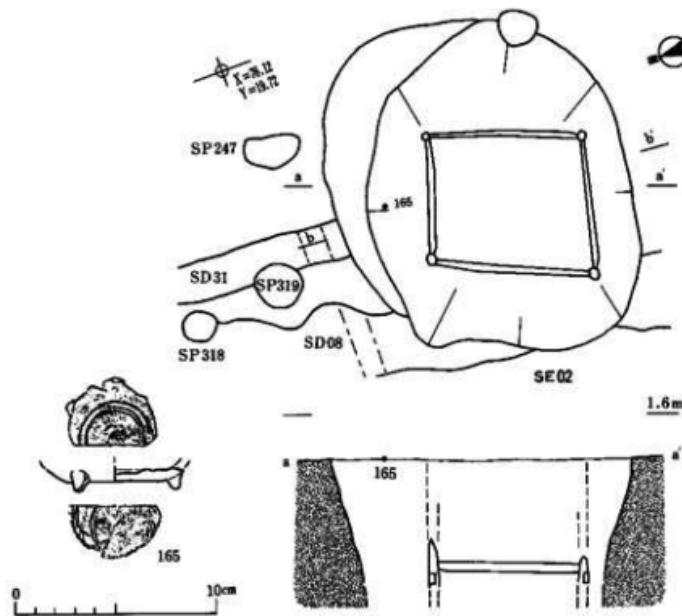
調査区の南西隅、グリットX76.10、Y19.70に位置する井戸である。平面形は東西にやや長い不整な梢円形である。遺構規模は上端で249cm×201cm、深さ72cm以上を測る。断面は壁が直線的に立ち上がる。井戸は完掘している。中世遺構面から70cm程下げた所から湧水が激しくなってきたが、木組み井戸の井戸側の4つの隅柱、及び横棟が確認された。井戸側の規模は約100cm四方の方形を呈する。堆積土は12層に分けた。新旧関係はS P 321・322・375～377より古く、S D 08・31より新しい。出土遺物には165の瓦質土器の香炉底部片が出土している。

S E 04井戸（第141・142図）

調査区の南東隅、グリットX76.10、Y20.20に位置する井戸である。平面形は南北にやや長い不整な梢円形である。遺構規模は上端で224cm×184cm、深さ75cm以上を測る。断面は壁が直線的に強く立ち上がる。井戸は南側半分を半裁している。中世遺構面から80cm程下げた所から湧水が激しく、さらに20cm程下げたところで木組み井戸の隅柱が確認された。しかし、セクションの崩壊する恐れがあったため、井戸側の検出を行っていない。堆積土は12層に分けている。人為的に埋められたと思われる。新旧関係はS E 05より古く、S P 127、S D 52・53・59より新しい。出土遺物を見ると、166は珠洲すり鉢の口縁部破片である。口縁部は肥厚せず、外傾して面取り調整をしている。内面の御目も丁寧で細かい。珠洲III期である。167は手づくね製の土師器皿である。いわゆる「京都系かわらけ」と呼ばれるものである。年代は15世紀中葉と推されるのものである。168は鉄釘片である。169は砥石である。

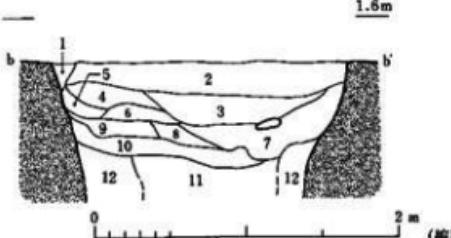
S E 05井戸（第141・142図）

調査区の南東隅、グリットX76.12、Y20.20に位置する井戸である。平面形は東西にやや長い不整な梢円形である。遺構規模は上端で143cm×133cm、深さ70cm以上を測る。断面は壁がややゆるく立ち上がる。井戸は北側半分を半裁している。中世遺構面から70cm程下げた所から湧水が激しく、セクションの崩壊する恐れがあったため、掘り下げを中止した。掘り下げが足りなかったため、井戸側は確認していない。堆積土は17層に分けている。下



SE02層位 (b-b')

番号	土 質	土質	鑑定
1	16Y20/3 濁泥	砂質土	
2	16Y22/2 黒泥	砂質土	灰化
3	7.5Y22/3 細砂	砂質土	
4	16Y22/3 黒泥	砂質土	
5	2.5Y3/3 布ヨリーブ	砂質土	
6	16Y22/2 黒泥	砂質土	
7	16Y22/2 黒泥	砂質土	灰化
8	16Y22/3 黒泥	砂質土	
9	16Y23/2 黒泥	砂質土	灰化
10	16Y21/2 黒泥	砂質土	灰化
11	16Y23/1 黒泥	砂質土	
12	16Y23/3 塵泥	砂質土	

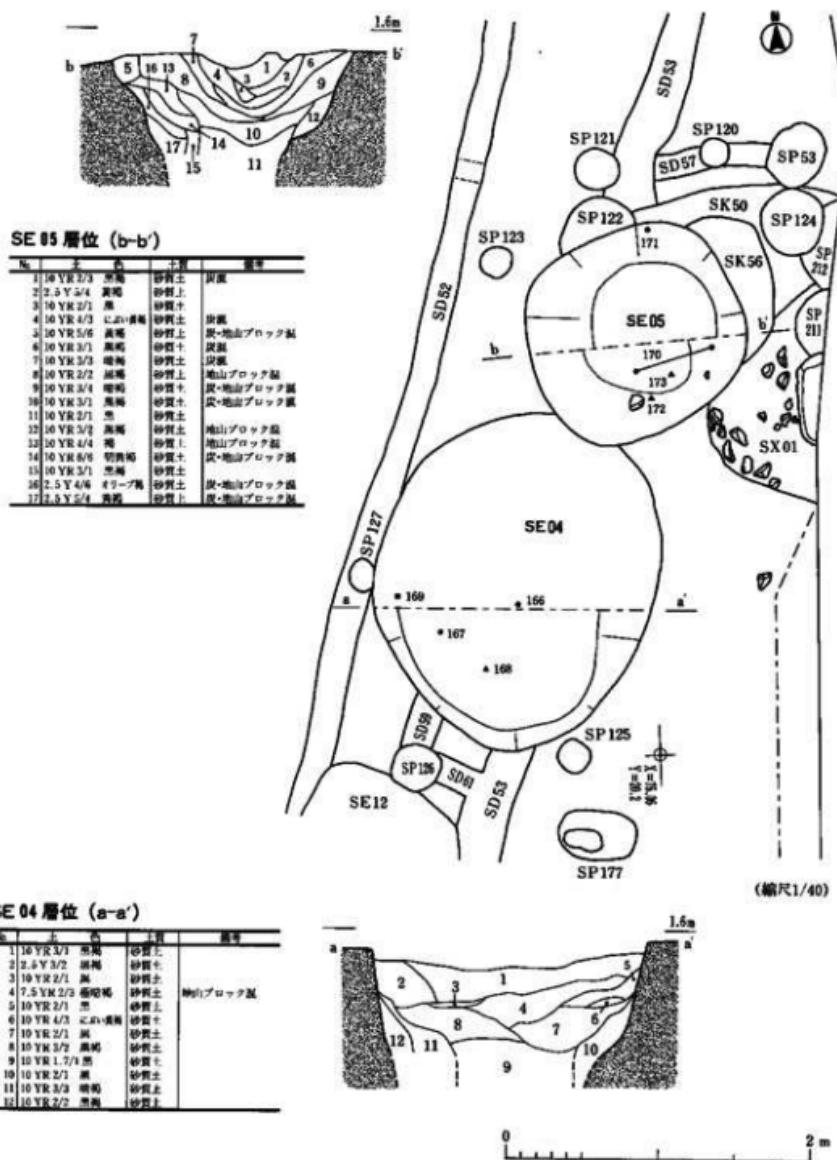


SE02出土遺物 (図版40)

番号	種類	器種	層位	レベル	法量	個体数	備考	整理番
165	瓦質土器	香炉	2層	1.338	底 [5.0]		底面に回転糸切痕 321と接合	722

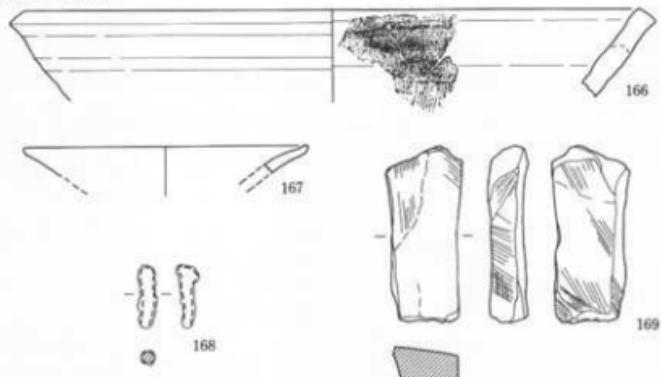
第140図 AT95 SE02・出土遺物

層で井戸側の立ち上がりラインを確認した(破線で示した部分)。人為的に埋められたと思われる。新旧関係はSP122, SK50-56, SE04, SD53, SX01より新しい。出土遺物を見ると、170は瀬戸綠釉小皿の口縁部破片である。灰釉を施す。古瀬戸後III期である。171は珠洲壺の体部破片である。還元硬質で焼きも良い。叩き目は3cm幅で7条を数える。珠洲IV期～V期である。172・173は鉄釘である。

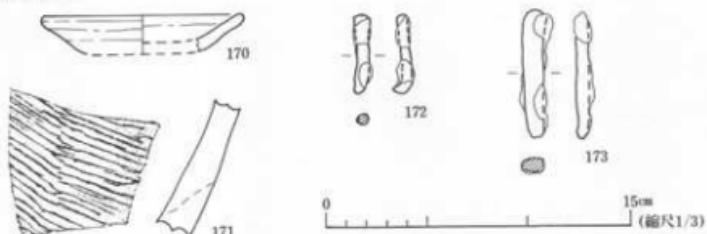


第141図 AT95 SE04, SE05

SE04 出土遺物



SE05 出土遺物



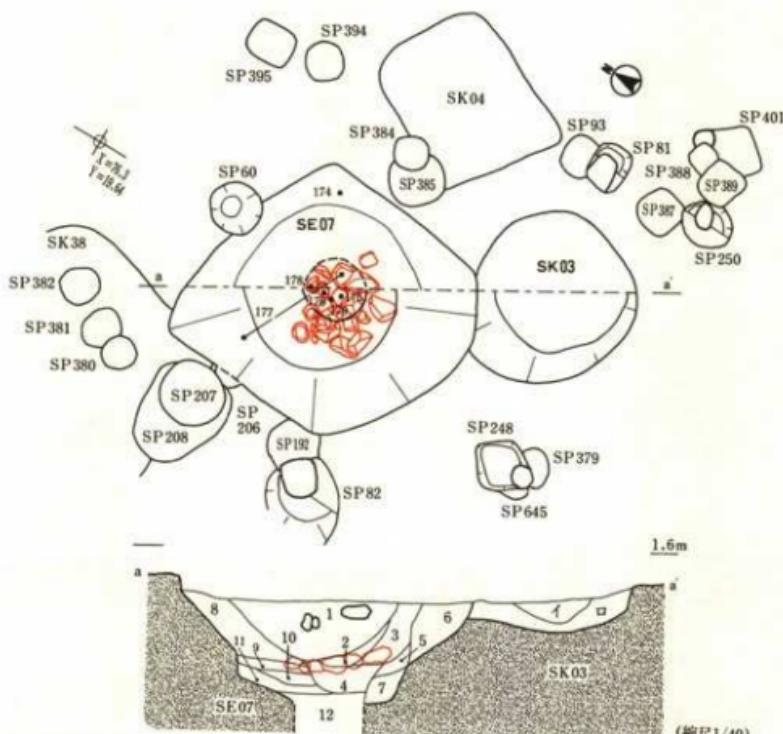
SE04、SE05 出土遺物(図版40・41)

番号	遺構	種類	器種	層位	レベル	法量	個体数	備考	参考
166	SE04	珠洲	すり鉢	9層	0.707	□ [30.0]	0.07	珠洲Ⅳ期	728
167		土師器	三	8層	1.075	□ [14.0]	0.01	手づくね成形	727
168		鐵製品	釘	埋土	1.418	長(3.1), 幅0.6	3.2g		726
169		石製品	砥石	12層	0.850	長(8.7), 幅3.3	82.8g		729
170	SE05	瀬戸	縦釉小皿	埋土	1.465	□ [10.0]	0.08	瀬戸Ⅱ後田期 灰釉	730
		瀬戸	縦釉小皿	埋土	1.455	□ [10.0]	0.03	瀬戸Ⅱ後田期 灰釉	732
171		珠洲	甕	埋土	1.135			珠洲IV～V期	733
172		鐵製品	釘	埋土	1.345	長(3.8), 幅0.7	3.8g		734
173		鐵製品	釘	埋土	1.457	長(6.3), 幅1.0	12.6g		731

第142図 AT95 SE04、SE05出土遺物

S E 07井戸 (第143・144図)

調査区の西側隅、グリット X76.28, Y19.64に位置する井戸である。平面形は不整な方形である。遺構規模は上端で167cm×155cm、深さ80cmほどを測る。井戸は西側半分を半裁している。中世遺構面から50cm程下げた所には、拳大ほどの礫がほぼ方形に集石しており、井戸の廃棄に伴う行為と思われる。さらにその下層から曲物が確認された。水溜、浄水施



SE 07 層位 (a-a')

No	上	底	厚
1	10YR2/2	黒褐色	砂質土
2	10YR1.7/1	黒褐色	砂質土
3	10YR1/1	黒褐色	砂質土
4	10YR2/1	黒褐色	砂質土
5	7.5YR3/3	暗褐色	砂質土
6	10YR3/2	暗褐色	砂質土
7	2.5Y4/3	オーリーブ褐色	砂質土
8	2.5Y4/2	暗灰褐色	砂質土
9	10YR3/4	暗褐色	砂質土
10	2.5Y3/2	暗褐色	砂質土
11	10YR3/2	暗褐色	砂質土
12	10YR2/1	黒褐色	砂質土

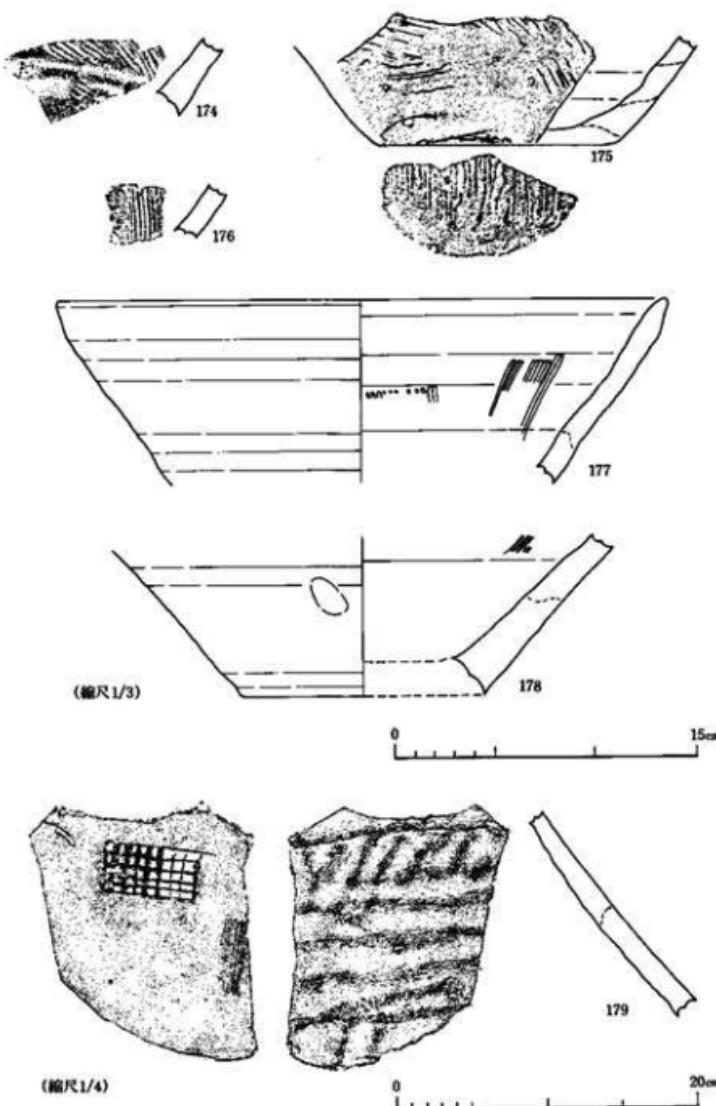


SK 03 層位 (a-a')

No	上	底	厚	地質
1	10YR3/1	黒褐色	砂質土	
2	10YR2/2	黒褐色	砂質土	

第143図 AT 95 SE 07、SK 03

設として利用されたものである。直径40cmの円形を呈する。堆積土は12層に分かれた。新旧関係はS P 60・206・252・383より古く、S P 192, S K 03・38より新しい。出土遺物を見ると、174～178は珠洲である。174は壺甌類の体部破片である。粘土紐の輪積み痕が明瞭



第144図 AT95 SE07出土遺物

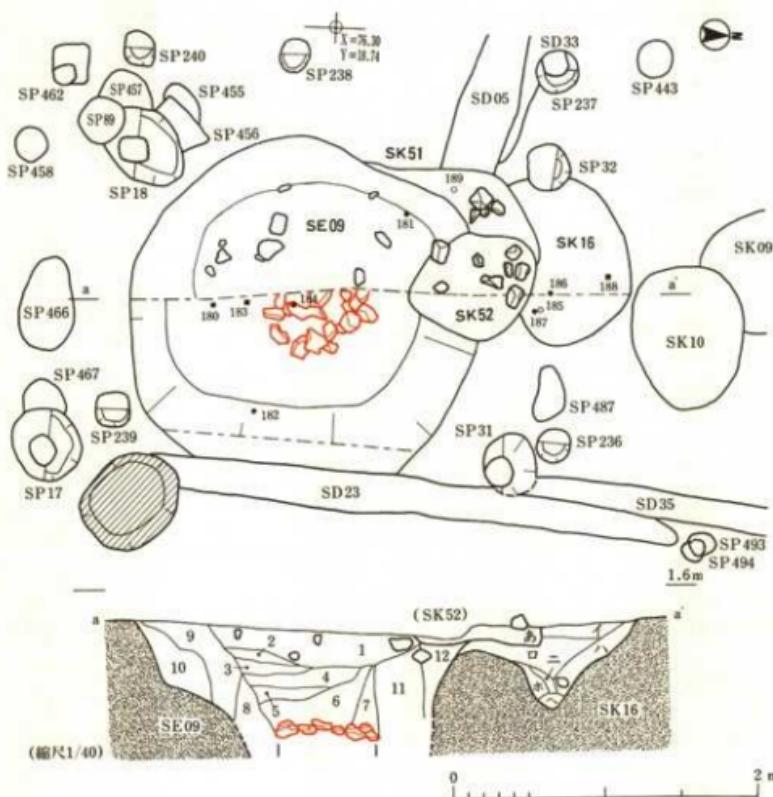
である。175は壺の底部破片である。酸化硬質で、褐色を呈する。底部は静止糸切り痕が見られる。176はすり鉢の体部破片である。177はすり鉢の口縁部破片である。口縁端部は内傾しているが、面取り調整が甘く、端部が尖っている。内面は使用により、磨滅している。外面はクロコ目痕が顕著である。178はすり鉢の体部下方の破片である。内面は使用により、磨滅している。174～178は珠洲IV期～V期である。179は瓷器系壺の体部上位の破片である。外面に押印文、及び櫛目文が見える。

第29表 AT95 SE07出土遺物計測表(図版41)

番号	種類	器種	層位	レベル	法量	割合	備考	割合
174	珠洲	壺	埋土	1.395			珠洲IV～V期	742
175	珠洲	壺	1層	1.146 底 [11.0]			珠洲IV～V期 底面に静止糸切痕 311と接合	745
176	珠洲	すり鉢	1層	1.262			珠洲IV～V期	744
177	珠洲	すり鉢	埋土	1.348 口 [30.0]	0.12		珠洲IV～V期	743
	珠洲	すり鉢	2層	0.878 口 [30.0]	0.09		珠洲IV～V期	747
178	珠洲	すり鉢	1層	1.124			珠洲IV～V期	746
179	瓷器系	壺	埋土	1.410			外面に押印文と櫛目文 内面に黒色の付着物	741

S E 09井戸 (第145・146図)

調査区の中央北西寄り、グリット X 76.30, Y 19.78に位置する井戸である。平面形はほぼ円形に近い。遺構規模は上端で235cm×230cm、深さ75cm以上を測る。井戸は東側半分を半裁している。中世遺構面から60cm程下げた所には、拳大ほどの礫が集石しており、井戸の廃棄に伴う行為と思われる。また、このレベルで湧水が激しくなり、セクションの崩壊する恐れがあったため、掘り下げを中止した。掘り下げが足りなかつたため、井戸側は確認していない。堆積土は12層に分けている。上層においても礫が多く含まれており、廃棄に伴う行為であろうか。新旧関係はSK52, SD23より古く、SK51, SD05より新しい。出土遺物を見ると、180～182は珠洲である。180は壺の体部破片である。181はすり鉢の体部破片である。酸化硬質で、褐色を呈する。182はすり鉢の底部破片である。内面は使用のため、磨滅している。180～182は珠洲IV期～V期である。183は磁石である。184は瓷器系壺の口縁部破片である。口縁部は「受け口」状を呈している。縁帶幅は2.7cmと狭い。この他に骨片も出土している。



SE09 層位 (a-a')

No.	土色	土質	層号
1	10YR2/2 黑褐色	砂質土	
2	10YR3/2 黑褐色	砂質土	
3	10YR3/2 黑褐色	砂質土	
4	10YR2/2 黑褐色	砂質土	
5	10YR2/2 黑褐色	砂質土	
6	10YR3/3 灰褐色	砂質土	
7	10YR4/2 灰黃褐色	砂質土	
8	10YR4/2 灰黃褐色	砂質土	
9	10YR3/3 灰褐色	砂質土	
10	10YR3/3 灰褐色	砂質土	
11	10YR3/4 灰褐色	砂質土	
12	10YR3/2 黑褐色	砂質土	

灰褐色

SK16層位 (a-a')

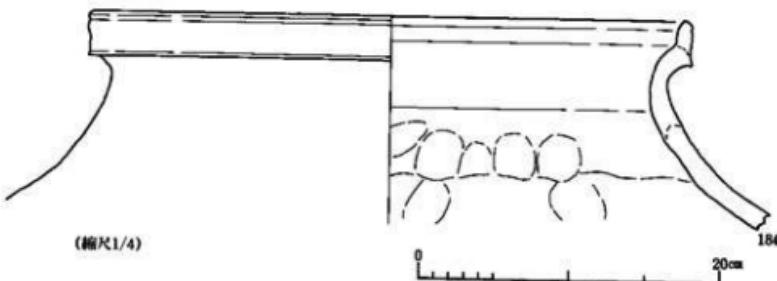
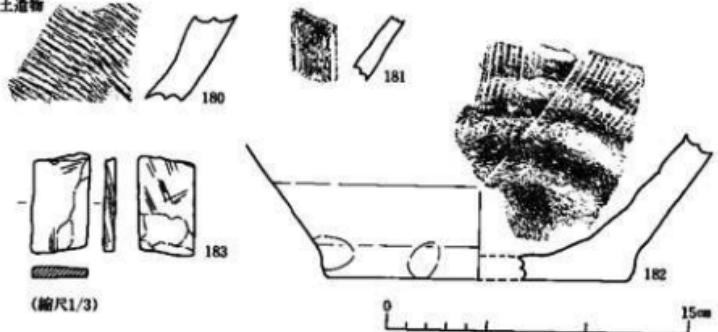
No.	土色	土質	層号
イ	10YR2/3 黑褐色	砂質土	
ロ	10YR2/3 黑褐色	砂質土	
ハ	10YR4/4 黑褐色	砂質土	
ニ	10YR3/2 黑褐色	砂質土	10YR4/2灰黃褐色砂質土
ホ	10YR2/2 黑褐色	砂質土	10YR4/4褐色砂質土
ヘ	10YR3/1 黑褐色	砂質土	

SK52層位 (a-a')

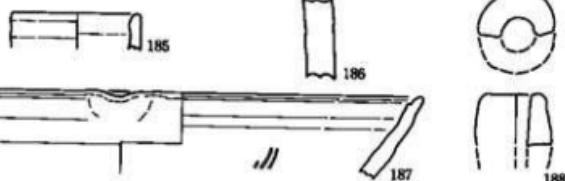
No.	土色	土質	層号
ホ	10YR2/1 黑褐色	砂質土	

第145図 AT95 SE09, SK16, SK51, SK52

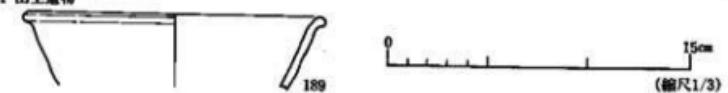
SE09 出土遺物



SK16 出土遺物



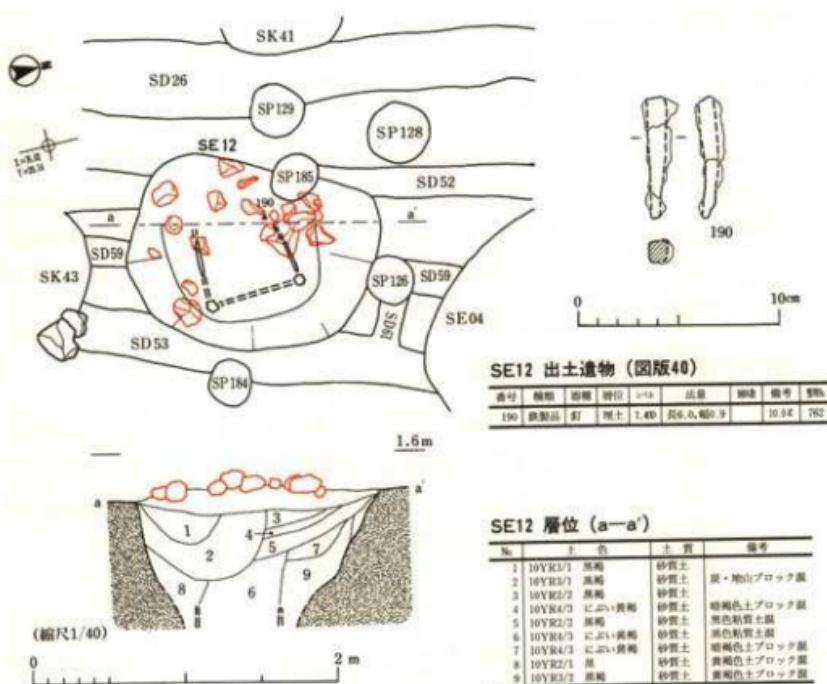
SK51 出土遺物



SE09、SK16、SK51出土遺物(図版41・42)

番号	遺構	種類	器種	層位	レベル	法量	個体	備考	参考
180	SE09	珠洲	甕	1層	1.392			珠洲IV～V期	750
181		珠洲	すり鉢	埋土	1.346			珠洲IV～V期	749
182		珠洲	すり鉢	3層	1.075	底 [15.0]		珠洲IV～V期	751
183		石製品	砥石	4層	0.998	長(4.6), 幅2.7	13.4g		757
184		漆器系	甕	6層	0.857	口 [40.0]	0.03	内面に黒色の付着物	759
185	SK16	青磁	陶型青磁	口層	1.056	口 [6.0]	0.25		754
186		漆器系	甕	口層	1.219				753
187		珠洲	すり鉢	口層	1.035	口 [30.0]	0.06		755
188		土製品	土錐	ハ層	1.273	長(2.5), 幅[3.8]	19.2g		756
189	SK51	青磁	甕	埋土	1.316	口 [15.0]	0.01	龍泉窯D類 無文	752

第146図 AT95 SE09、SK16、SK51出土遺物



第147図 AT95 SE12・出土遺物

第30表 AT95 井戸計測表

No.	整形%	X	Y	平面形	長径	短径	深さ	底面レベル	出土遺物	備考	調査
SE02	E02	76.10	19.70	椭円形	249	201	(72)	(0.580)	●▲▲	SP321・SP322・SP375・SP376 -SP377>SE02>SD08・SD31	完掘
SE04	E04	76.10	20.20	椭円形	224	184	(75)	(0.750)	●●▲■	SE05>SE04>SP127・SD52 -SD53・SD59	半蔵
SE05	E05	76.12	20.20	円形	143	133	(67)	(0.760)	●●●▲▲	SE05>SP122・SK50・SK56・SE04 -SX01・SD53	半蔵
SE07	E07	76.28	19.64	不整形形	167	155	(82)	(0.580)	●●●●●●●	SP060・SP252・SP383>SE07 >SP192・SP206・SK03・SK38	半蔵
SE09	E09	76.30	19.78	円形	235	230	(75)	(0.650)	●●●●■	SK52・SD23>SE09>SK51・SD05	半蔵
SE10	E10	76.08	19.88	不整形形	111	102	(84)	(0.417)	●●●■■■	SI01>SE10	完掘
SE12	E12	76.06	20.18	椭円形	159	122	(74)	(0.590)	▲▲▲	SP126・SP185>SE12>SE52 -SD53・SD59	半蔵

*深さ等のデータは満水レベルで計算

S E 12井戸（第147図）

調査区の南東隅、グリット X76.06, Y20.18に位置する井戸である。平面形は南北に長い不整な橿円形である。断面は壁がやや緩く立ち上がる。遺構規模は上端で159cm×122cm、深さ70cm以上を測る。井戸は東側半分を半裁している。中世遺構面から80cm程下げた位置に木組み井戸の井戸側である隅柱と横棟が確認された。縦板は検出されていない。井戸側の規模は60cm四方の方形を呈するものと思われる。堆積土は11層に分かれる。上層には拳大の礫が集積している。井戸の廃棄に伴う行為と思われる。新旧関係は S P 126・185より古く、S D 52・53・59より新しい。出土遺物は190の鉄釘がある。

井戸の時期別年代推定（第148図）

ここでは検出された井戸跡を時期別に年代推定する試みを行っている。井戸跡を時期別・年代推定するに当たっては全体の遺構配置、他の遺構との切り合い関係、遺構出土遺物を検討した結果、以下のように大きく3時期に分かれる。出土遺物の共伴関係は第31表に示した。なお、時期別分類は国立歴史民俗博物館の研究報告に依拠している。

I b期（13世紀～14世紀初め）

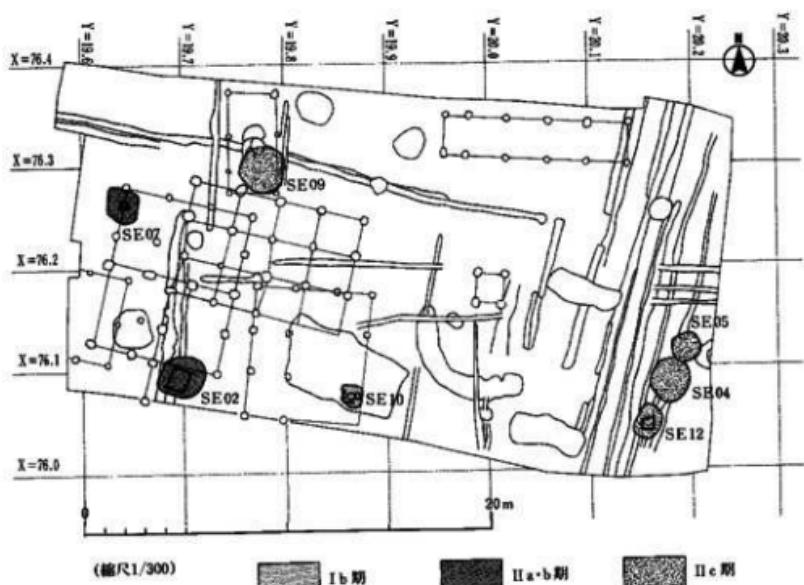
この時期に当たる井戸にはS E10がある。S E10は14世紀代に成立したS I 01竪穴遺構に切られており、S B 01総柱建物とセット関係が想定される井戸である。出土陶磁器は瓷器系壺が1点出土しており、この時期の指標となる遺物と考えられる。

II a・b期（14世紀後半～15世紀前半）

この中世十三渢の最盛期に当たる時期にはS E02・07が見られる。それぞれの井戸はこの時期に相当するS B 02掘立柱建物とは重複しており、セット関係は認められない。出土遺物を見ると、遺構の下限年代を示す遺物にS E02の瓦質香炉1点、S E07は珠洲IV期～V期の年代に相当する珠洲壺・すり鉢が出土している。

II c期（15世紀中葉）

この時期に相当する井戸にはS E04・05・09・12がある。これらの井戸は中世十三渢の発展段階の都市計画的な遺構を掘削・破壊する最終時期のものである。S E04・05・12は隣接し、さらにS E04はS E05に切られている。この時期には井戸場として認識された空間と判断されるだけでなく、少なくとも3小間に細分される。出土遺物を見ると、遺構の下限年代を示す遺物にS E04からいわゆる「京都系かわらけ」と呼ばれる手づくね製の



第148図 AT95 井戸の年代推定図

第31表 AT95 井戸出土遺物の共伴関係一覧表

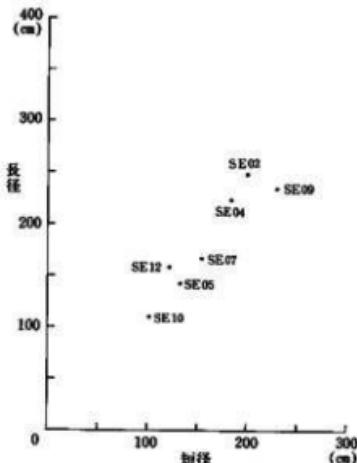
時 期	遺構名	共 伴 遺 物								調査	
		青磁	白磁	瀬 戸		珠 瓶			その 他		
				瀬戸後田期	III期	IV期	V期				
十三済 I b期	SE10							壺器系1	木箸2	完掘	
十三済 II a・b期	SE02							瓦質1		完掘	
	SE07					5		壺器系1		半斂	
十三済 II c期	SE04				1			土師1	鉄釘1、砥石1	半斂	
	SE05			1		1			鉄釘2	半斂	
	SE09					3		壺器系1	砥石1	半斂	
	SE12								鉄釘1	半斂	

*表の数値は出土点数(複合算)

中世土師器皿が出土しており、年代的には15世紀中葉と考えられる。さらにSE05からは古瀬戸後III期に比定される瀬戸縁釉小皿が出土している。その他、SE09からは珠洲IV期～V期の年代に比定される珠洲甕・すり鉢が出土している。ここで注目される点は15世紀中葉に比定される中世土師器皿（京都系かわらけ）がこの時期の指標となる遺物と考えられることである。中世土師器皿の存否によって、前時期の遺構との年代差・時期差をある程度読み取ることができると考えている。

井戸の平面規模と深さ（第149・150図）

ここでは井戸の平面規模と深さの法量散布図を示した。データ件数が少なく、散布の傾向を読み取るのは不十分であるが、およそ2グループに分かれる傾向を示した。

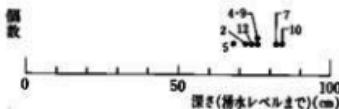


第149図 AT95 井戸の平面規模

土 坑

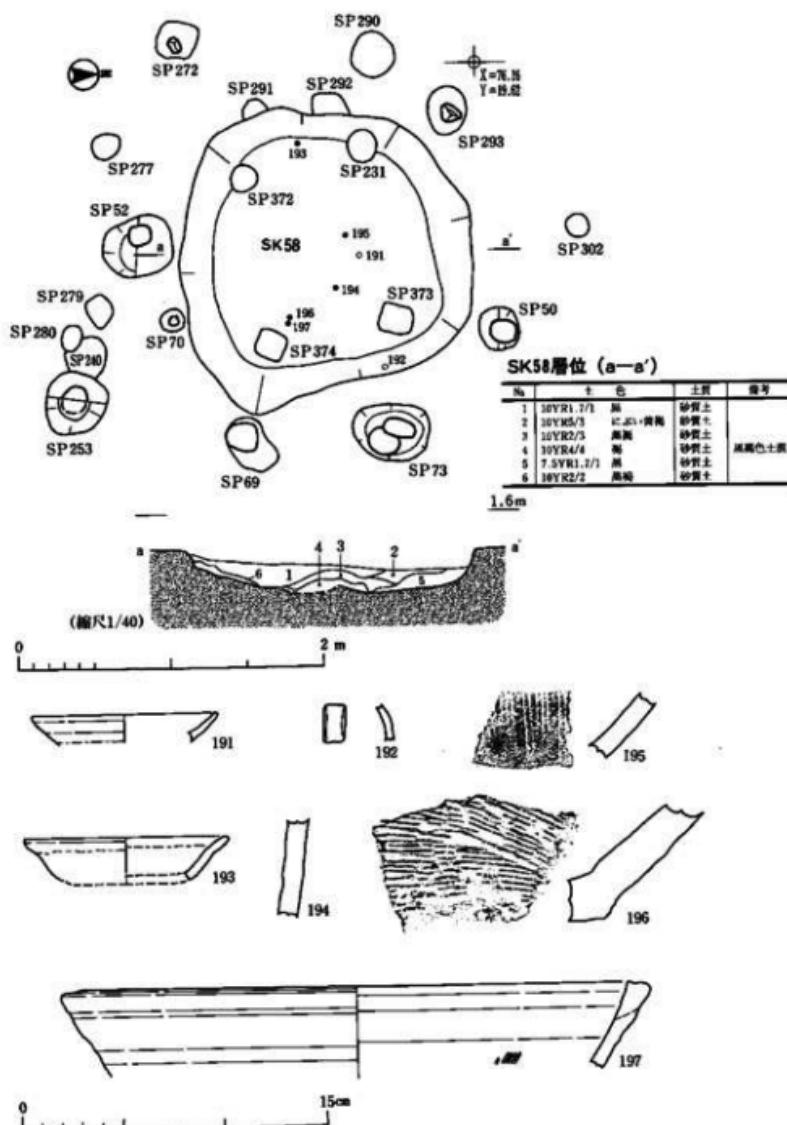
S K58土坑（第151図）

調査区の南西隅、グリットX76.16, Y19.66に位置する土坑である。平面形は不整な円形である。遺構規模は上端で202cm×192cm、下端で140cm×146cm、深さ29cmを測る。断面形は浅い皿形を呈し、底面はほぼ平坦である。堆積土は6層に分かれる。遺構検出段階では、周辺のSP273から人頭大の河原石が直立した状態で検出されており、その他周辺のピットともあわせて、6角形の上屋構造の建物を作った井戸跡であろうと推測されていたが、調査の結果、浅い皿形の用途不明の土坑であることが分かった。この土坑が周辺の検出されている掘立柱建物内に伴うものであるのか、その外にあるものか、或いはSP273と合わせて宗教的な意味合いをもつ遺構なのか、全く不明である。新旧関係はSP231・372～374よりも古く、SP291・292より新しい。出土遺物を見ると、191は白磁皿の口縁部破片である。白磁皿D群である。192の不明磁器である。193は瀬戸縁釉小皿の口縁部破片である。



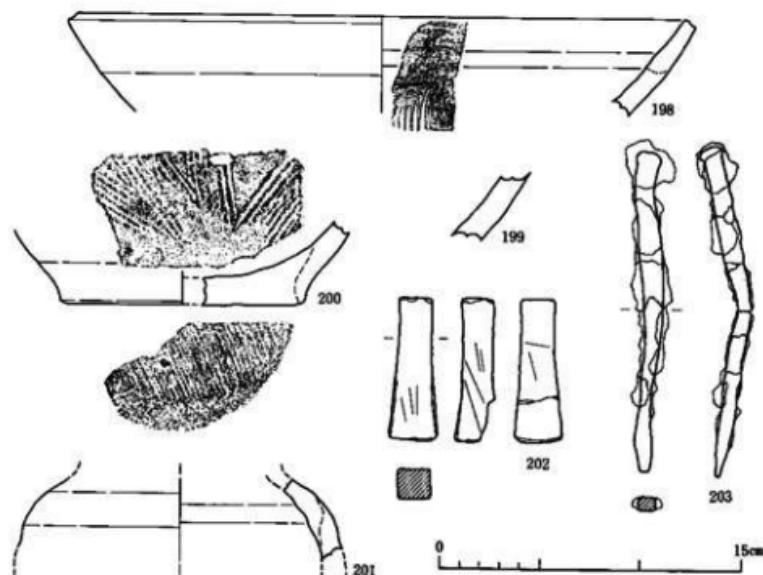
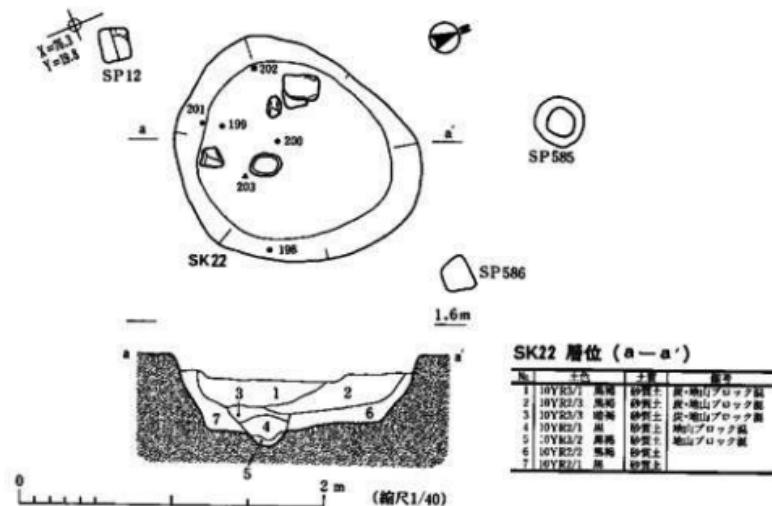
第150図 AT95 井戸の深さ

灰釉を施す。古瀬戸後III期である。194は壺器系壺類の体部破片である。195～197は珠洲
である。195はすり鉢の体部破片、196は壺の底部破片である。195・196は珠洲IV期～V期



第151図 AT95 SK58・出土遺物

である。197はすり鉢の口縁部破片である。口縁部は水平に面取りされている。体部外面はロクロ目が強い。珠洲IV期である。



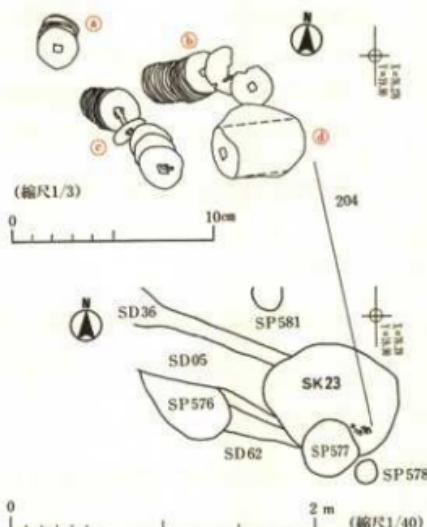
第152図 AT95 SK22・出土遺物

第32表 SK58、SK22出土遺物計測表（図版40・42）

番号	遺構	種類	器種	層位	レベル	法量	回数	備考	整備%
191	SK58	白磁	皿	埋土	1.272	□ [9.0]	0.05	白磁皿D群 331と接合	720
192		不明磁器		3層	1.158				715
193		瀬戸	縁軸小皿	1層	1.261	□ [10.0]	0.06	瀬戸後田期 灰釉	718
194		瓷器系	壺	4層	1.166				717
195		珠洲	すり鉢	3層	1.207			珠洲IV～V期 482と接合	721
196		珠洲	甕	1層	1.158			珠洲IV～V期	716
197		珠洲	すり鉢	埋土	1.350	□ [27.0]	0.10	珠洲IV期 342と接合	719
198	SK22	珠洲	すり鉢	埋土	1.419	□ [30.0]	0.03	珠洲III期	735
199		珠洲	すり鉢	1層	1.250			珠洲IV～V期	738
200		珠洲	すり鉢	1層	1.147	底 [11.0]		珠洲IV～V期 底部に砂土と灰土 内面に炭化物	737
201		珠洲	ロクロ壺	6層	1.077			珠洲IV～V期	739
202		石製品	砾石	埋土	1.340	長7.0、幅2.3			41.6 g
203		鉄製品	釘	1層	1.133	長16.0、幅1.0			740
									736

SK22土坑（第152図）

調査区の中央北寄り、グリット X76.34、Y 19.94 に位置する土坑である。S D05 東西溝の北側にある。平面形は南北にやや長い不整な梢円形である。遺構規模は上端で 164cm × 142cm、下端で 126cm × 116cm、深さ 54cm を測る。断面形は逆台形状を呈し、底面はほぼ平坦である。底面から浅いピット状の掘り込み、さらに床面上直上から拳大の礫と粘土ブロック塊を検出した。堆積土は 7 層に分かれた。1～3 層には炭化物、地山ブロックを含む。4～5 層は地山ブロックを含む。土坑を掘り上げて廃棄した後、すぐに埋め戻したものであろうか。出土遺物には 198～201 の珠洲、202 の砾石、203 の鉄釘がある。198～200 はすり鉢である。198 は口縁部が肥厚せず、外傾して面取り調整している。端部はやや窪んでいる。珠洲 III 期である。199 は体部破片である。酸化硬質で褐色を呈する。200 は底部破片である。内面は使用が激しくかなり磨滅しており、炭化物が付着している。外面は静止糸切り痕を残す。201 はロクロ壺（壺 R 種）の肩部である。199～201 は珠洲 IV 期～V 期である。



SK23 出土遺物（図版42）

番号	遺構	種類	器種	層位	レベル	備考	整備%
a-204	SK23	古鉄	壺	埋土	23.6 g	8枚	87%a
b-204	SK23	古鉄	壺	埋土	66.2 g	27枚	87%b
c-204	SK23	古鉄	壺	埋土	66.4 g	15枚	87%c
d-204	SK23	古鉄	壺	埋土	47.4 g	枚数不明	87%d

第153図 AT95 SK23-出土遺物

S K 23土坑（第153図）

調査区の中央北寄り、グリット X76.30, Y19.90に位置する土坑である。新旧関係は S P577より古く、S D05・36・62より新しく、平面形は梢円形を呈する。遺構規模は上端で 88cm×73cmである。南東隅に 1 緒として葉紐に通した銭縒（204）が切れた状態で出土している。

S K 16・51土坑（第145・146図）

調査区の中央北西寄り、グリット X76.34, Y19.78に位置する土坑である。S K16は S K51・52に切られ、S K51は S K52, S E09に切られている。切り合いが激しく、それぞれの遺構規模は不明である。S K16の深さは59cmである。

出土遺物は S K16から185～188が出土、S K51から189が出土している。185は青磁筒型香炉の口縒部破片である。186は壺器系壺の体部破片である。187は珠洲すり鉢の口縒部破片である。器壁は薄く、端部が尖っている。188は土鍤破片である。189は青磁碗の口縒部破片である。内外面無文で口縒部が端反るタイプで、龍泉窯系碗D類である。器壁は薄く、端部が玉縒状になる。焼きは悪く、胎土は褐色を呈する。

その他の土坑出土遺物（第154図）

S K 08

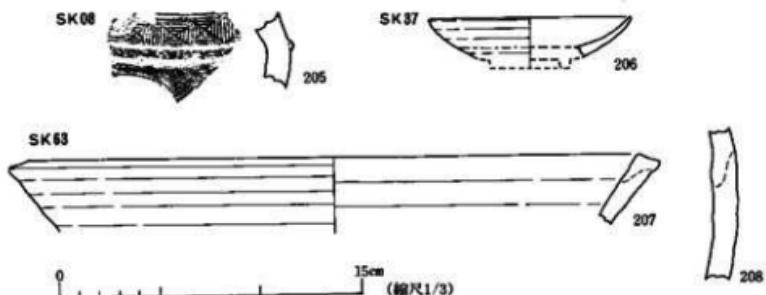
205は瓦質土器の口縒部付近の破片である。1条の突帯上位にはスタンプ文が見られる。下方に透かしが見られる。風炉と思われる。

S K 37

206は白磁皿の口縒部破片が出土している。白磁皿D群である。

S K 63

207は珠洲すり鉢の口縒部破片である。焼成はやや悪く、褐色ぎみとなる。胎土もやや粗い。口縒部はやや外傾して面取り調整をしている。端面はやや凹んでいる。珠洲IV期である。208は壺器系壺の体部破片である。胎土は緻密である。外面には自然釉が付着している。



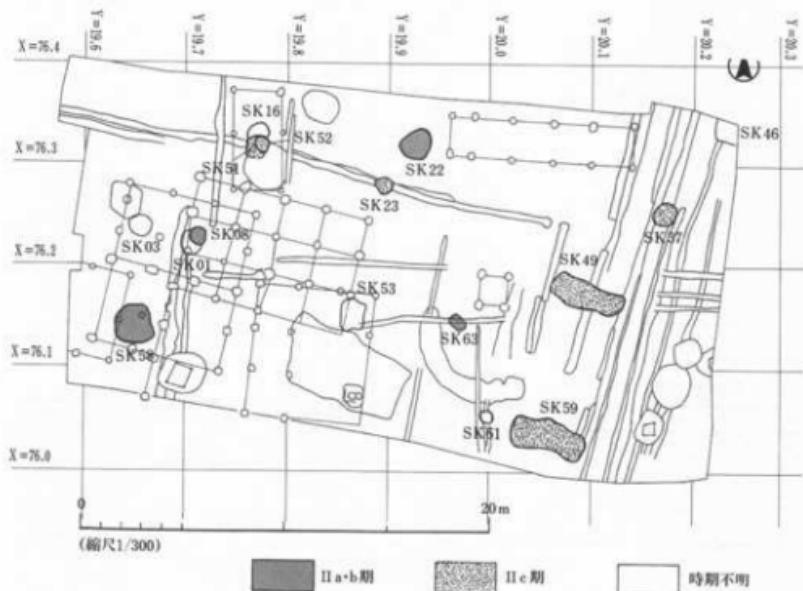
土坑出土遺物（図版42）

番号	遺構	種類	器種	層位	レベル	法量	部数	備考	割合
205	SK08	瓦質土器	風炉	埋土	1.245			方形多面文 体部に透かし窓 505と接合	804
206	SK37	白磁	皿	埋土	1.412	□ [10.0]	0.12	白磁皿D群	829
207	SK63	珠撰 壺器系	すり鉢	埋土	1.038	□ [30.0]	0.05	珠撰IV期	817
208		壺器系	壺	埋土	1.184			外面に自然軸	818
208		壺器系	壺	埋土	1.177			外面に自然軸	819

第154図 AT95 土坑出土遺物

第33表 AT95 土坑計測表

No.	E-W	X	Y	平面圖	縦	横	Rt	RR-14	出土遺物	備考	調査
SK03	E08	76.24	19.66	円形	118	106	31	1.070		SP386・SE07>SK03	半蔵
SK08	K08	76.24	19.72	不整円形	90	73	38	0.980	●	上面に石4。SP452・SP461>SK08>SK01	半蔵
SK16	K16	76.34	19.78	椭円形	112	86	59	0.800	●●○■	埋土にG1。SP032・SK51・SK32>SK16	半蔵
SK22	E06	76.34	19.94	椭円形	164	142	54	0.663	●●●▲■	底面にE2。粘土ブロック	完掘
SK23	K23	76.30	19.90	椭円形	88	73				SP577>SK23>SD05・SD36・SD62	完掘
SK37	K37	76.26	20.18	椭円形	124	103	17	1.270	○	SK37>SD01・SD04	DIレ
SK51	K51	76.34	19.78	*	133	43			○	上面に石4。SK32・SE09>SK51>SK16・SD65	検出
SK52	K52	76.34	19.78	椭円形	84	72	12	1.210		上面にE7。SK32>SP62・SK16・SK51・SE09	半蔵
SK58	E01	76.16	19.66	不整円形	262	192	29	1.070	●●●●●○○	SP231・SP372・SP373・SP374>SK58>SP291・SP292	完掘
SK63	K63	76.16	19.98	椭円形	85	63			●●●▲	SD21>SK63、SK63~SD46?	完掘



第155図 AT95 主要土坑の年代推定図

第34表 AT95 土坑出土遺物の共伴関係一覧表

時 期	遺構名	共 伴 遺 物								調査	
		青 磁		白 磁		瀬 戸		珠 環			
		碗D類	香炉	皿D群		瀬戸後田期	III期	IV期	V期		
十三後 II a + b 期	SK08									瓦質1	半裁
	SK22						1	3		鐵釦、磁石1	完掘
	SK58			1	1			1		壺器系1 不明磁器1	完掘
	SK63							1		壺器系1	完掘
十三後 II c 期	SK23									古銭50枚以上	完掘
	SK37			1							GV少
	SK51	1									検出
時期不明	SK16		1						1	壺器系1 土鏡1	半裁

■表の数値は出土点数 (複合後)

土坑の時期別年代推定（第155図）

ここでは検出された主要な土坑について、時期別に年代推定する試みを行った。時期別に年代推定するに当たって、全体の遺構の配置と切り合い関係、遺構出土遺物を中心に検討した結果、大きく2時期に分けられる。出土遺物の共伴関係は第34表に示した。なお、時期別分類は国立歴史民俗博物館の研究報告に依拠している。

II a・b期（14世紀後半～15世紀前半）

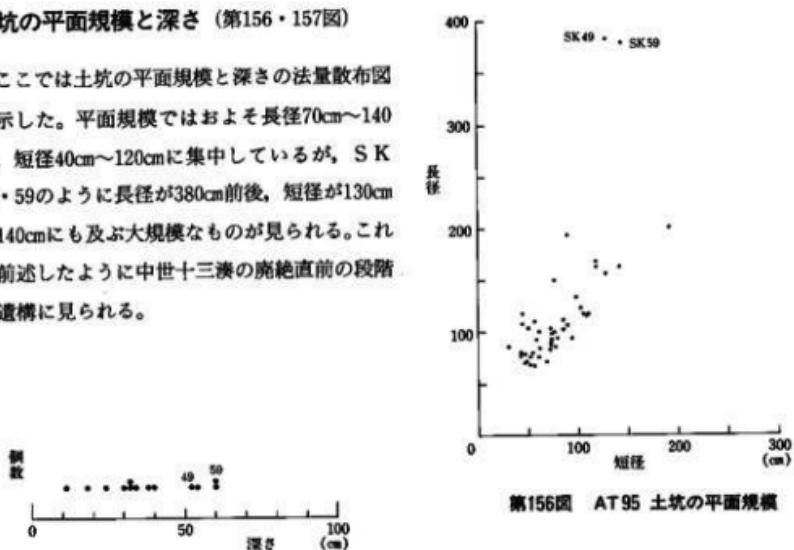
この時期に当たる土坑にはSK08・22・58・63がある。遺構の下限年代を示す遺物にSK22・58・63から珠洲IV期～V期に相当する珠洲製品が出土している。

II c期（15世紀中葉）

この時期の土坑は前段階の中世十三湊の発展段階の都市計画的な遺構を掘削、破壊するものである。特徴的なことはSK49・59のように大規模な土坑が見られるようになることがある。この時期は中世十三湊の廃絶直前の段階であり、何らかの大規模な廃棄行為が活発に行われたものと推される。出土遺物では前段階と明確に時期差・年代差を示す遺物は見られなかった。

土坑の平面規模と深さ（第156・157図）

ここでは土坑の平面規模と深さの法量散布図を示した。平面規模ではおよそ長径70cm～140cm、短径40cm～120cmに集中しているが、SK49・59のように長径が380cm前後、短径が130cm～140cmにも及ぶ大規模なものが見られる。これは前述したように中世十三湊の廃絶直前の段階の遺構に見られる。



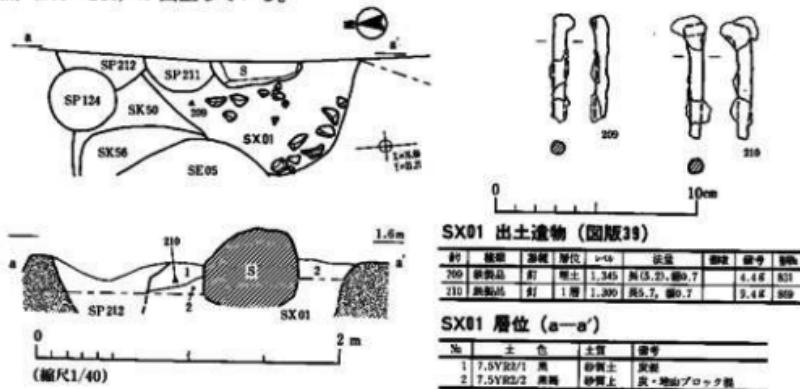
第156図 AT95 土坑の平面規模

第157図 AT95 土坑の深さ

その他の遺構

S X01 (第158図)

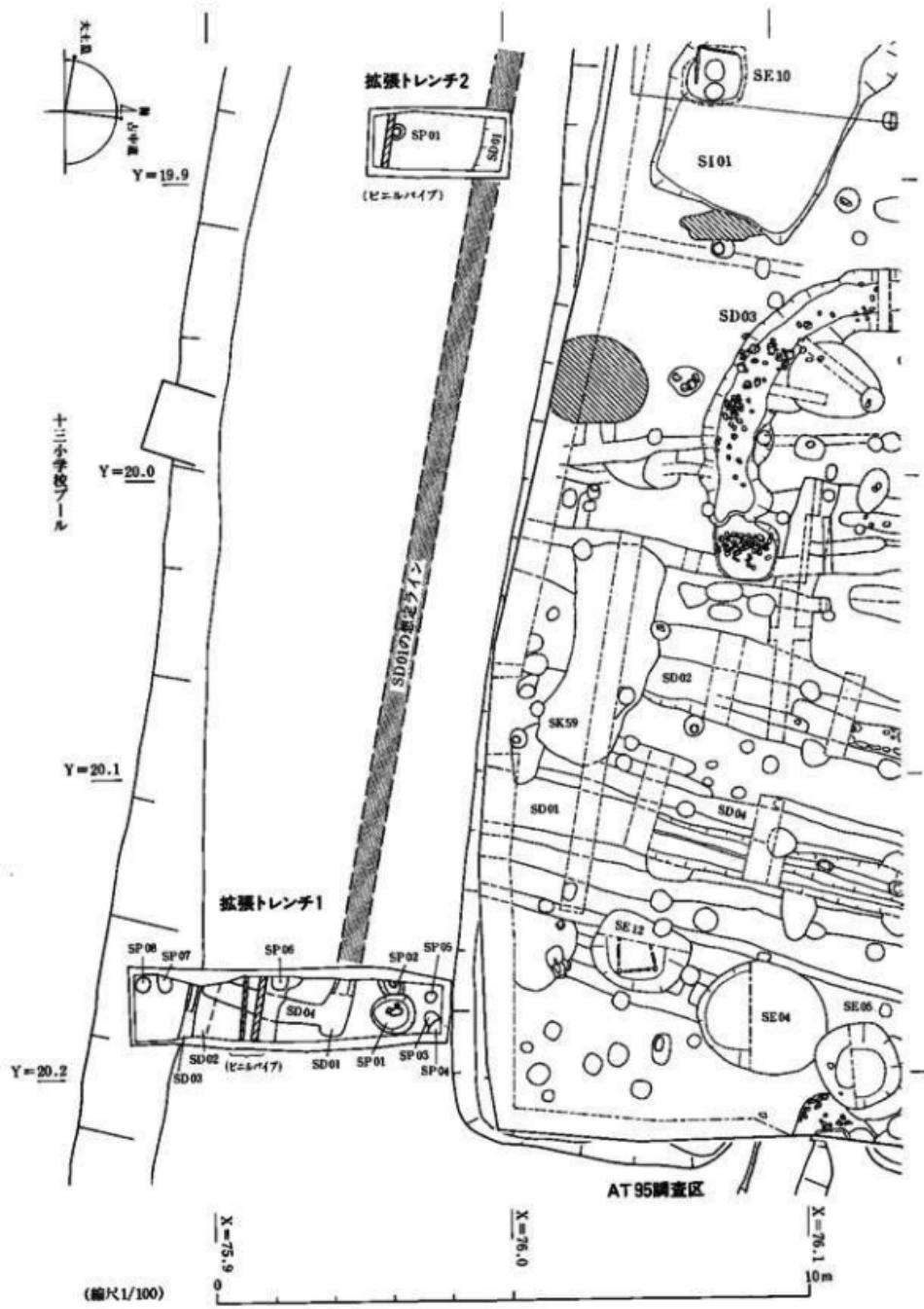
調査区東壁際で検出されている。S X01は礎石と思われる遺構に、拳大の根石を伴った掘り形を伴っている遺構である(以下、便宜上「礎石」、「掘り形」と個別に呼称する)。遺構が調査区壁にかかっており、全体の礎石規模は不明であるが、東西長60cm、高さ50cmを測り、中世遺構面から20cm程の高さで礎石が露出している。掘り形の検出規模は東西幅70cm、南北幅1.4mを測る。掘り形はS E05・SK56に切られており、S E05・SK56より時期的に古い。これに対となる礎石及び掘り形は調査区内では確認できないことから、この礎石跡と対になるものが調査区外の東側一帯にある可能性が考えられる。このことから、S D01に区画された東側一帯は礎石建物が位置する主殿空間が想定されるが、今後の調査面積の拡大を待つて慎重に評価しなければならない。出土遺物は掘り形の埋土から鉄釘2点(209・210)が出土している。



第158図 AT95 SX01・出土遺物

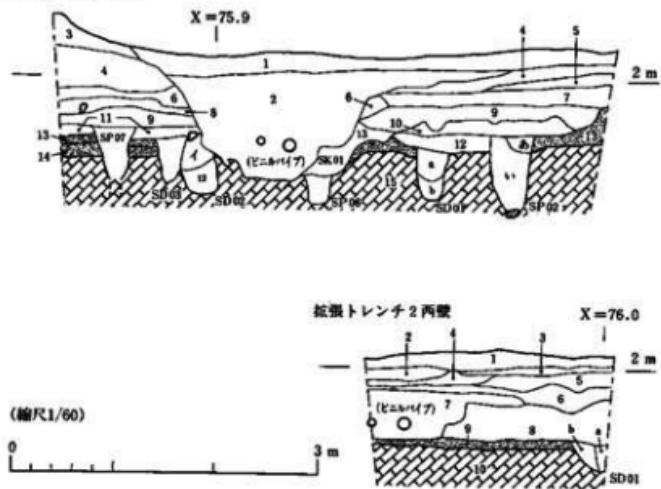
拡張トレンチ調査区

本調査区と十三小学校及びプールに挟まれた間は現在、幅5m程の道路として利用されている。この道路と直交する形で2ヶ所のトレンチ調査を実施した。その理由としては十三塗遺跡における現在の地割りが中世から踏襲されている場合が多いことから、調査地点の道路下には堀などの区画施設が存在する可能性も指摘されていたことから、その確認調査を行った。なお、東側に位置するものを「拡張トレンチ1」、西側に位置するものを「拡張トレンチ2」として記述する。(第159~161図)



第159図 AT95 拡張レンチ1・2

拡張トレンチ1西壁



拡張トレンチ2西壁

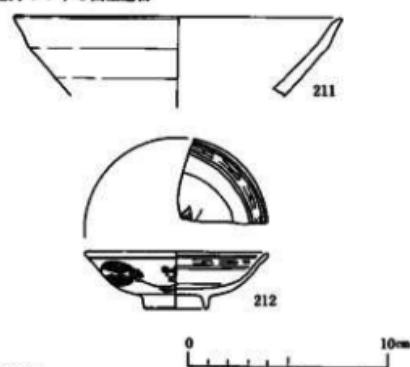
No.	土色	土質	備考
道路盛土	1 10YR6/6 黄褐色	砂質土	標準
1 10YR6/3	にじい黄褐色	砂質土	
2 10YR6/2	灰褐色	砂質土	
3 10YR6/2	淡黄褐色	砂質土	
4 10YR6/1	灰褐色	砂質土	
5 10YR5/1	褐色	砂質土	
6 10YR3/1	褐色	砂質土	10YR5/4CLJN-黄褐色砂質土層(30%)
7 10YR3/3	褐色	砂質土	
8 10YR3/2	褐色	砂質土	
9 10YR1.7/1	褐色	砂質土	
SD01	a 10YR4/4 褐	砂質土	
	b 10YR3/2 褐	砂質土	

第160図 AT95 拡張トレンチ層位図・出土遺物

拡張トレンチ1西壁層位

No.	土色	土質	備考
道路盛土	1 10YR6/6 黄褐色	砂質土	標準
2 10YR4/3	にじい黄褐色	砂質土	黒褐色土ブロック混
3 10YR4/3	褐色	砂質土	
4 10YR5/3	にじい黄褐色	砂質土	
5 10YR4/4	にじい黄褐色	砂質土	
6 10YR7/4	褐色	砂質土	
7 10YR3/5	褐色	砂質土	標準
8 10YR2/2	褐色	砂質土	標準
9 10YR6/4	にじい黄褐色	砂質土	標準
10 10YR2/3	褐色	砂質土	標準
11 10YR3/2	褐色	砂質土	標準
12 10YR3/3	褐色	砂質土	標準
13 10YR2/3	褐色	砂質土	標準
14 10YR1.7/1	褐色	砂質土	標準
SD01	a 10YR2/3 褐	砂質土	
	b 10YR6/6 にじい黄褐色	砂質土	
SD02	c 10YR4/4 褐	砂質土	
	d 10YR5/4 にじい黄褐色	砂質土	
SD03	e 10YR4/3 にじい黄褐色	砂質土	標準
SP02	f 10YR3/3 褐	砂質土	
	g 10YR5/4 にじい黄褐色	砂質土	
SP06	h 10YR2/3 褐	砂質土	10YR4/3淡褐色砂質土層(30%)
SP07	i 10YR4/3 にじい黄褐色	砂質土	灰-褐色
SK01	j 10YR3/3 褐	砂質土	標準

拡張トレンチ1出土遺物



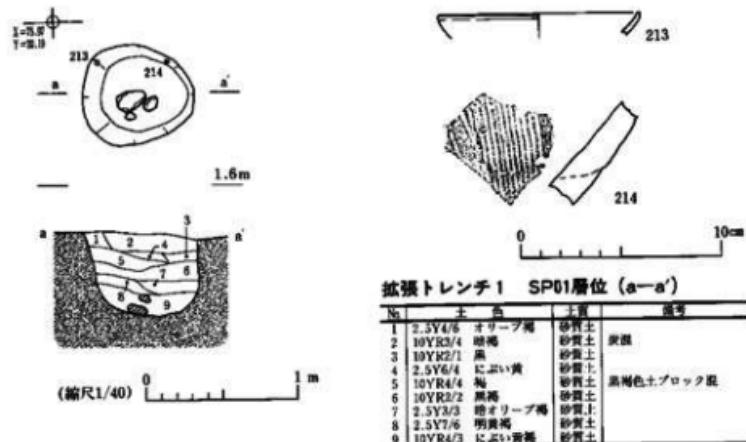
拡張トレンチ1

東西1m×南北5mのトレンチ調査区で、面積は5m²である。

層序を見ると、第4層から上水道の配管工事による上端幅2.3m、深さ70cmの規模で大きく掘り込み、第15層の地山面まで破壊されている。第13・14層が中世遺構面とその基盤層である。

検出された遺構は柱穴S P01～08、溝S D01～04がある。

S P01は大型の柱穴で、平面形は不整な円形で径74cm×66cm、深さ53cmの規模を持ち、底辺には根石を伴う。出土遺物には213の白磁皿の口縁部破片がある。白磁皿D群である。214の珠洲すり鉢の体部破片がある。内面には御目が全体に見られる。珠洲V期である。S D01は東西方向にのびる溝である。遺構規模は上端幅31～46cm、深さ50cmである。調査区外の東側にはのびていない。調査区外の西側にのびており、その延長線上には拡張トレンチ2のS D01があり、一連のものと推測される。S D04はS D01に接続して、南北方向にのびる溝である。S D04はS D03の東西溝と接して、西側に屈折して調査区外にのびるよう



第161図 AT95 拡張トレンチ1-SP01・出土遺物

第35表 AT95 拡張トレンチ1出土遺物計測表 (図版33)

番号	遺構	種類	器種	層位	レベル	法 量	個体数	備 考	整理%
211	拡張トレンチ1	窓戸	平輪			□ [16.0]	0.08	潮戸後1期 灰軸 二次被熱	857
212		肥前系	小皿			□ [9.0]高[2.8]底[3.0]	0.21		858
213	拡張トレンチ1-SP01	白磁	皿	6層	1.037	□ [10.0]	0.04	白磁皿D群	845
214		珠洲	すり鉢	3層	1.129			珠洲V期	846

である。S D03は東西溝である。調査区外の東西の両方向にのびている。遺構規模は上端幅22cm、深さ44cmである。

また、包含層から211の瀬戸平碗の口縁部破片が出土している。灰釉を施す。被熱を受けている。古瀬戸後Ⅰ期である。212の肥前・肥前系の染付小皿が出土している。

拡張トレンチ2

東西1m×南北2.5mのトレンチ調査区で、面積は2.5m²である。

層序を見ると、拡張トレンチ1で見られたように、ここでも第8層から上水道の配管工事による大きな掘り込みがある。第9層は中世遺構面とその基盤層である。中世遺構面までは掘削されていない。

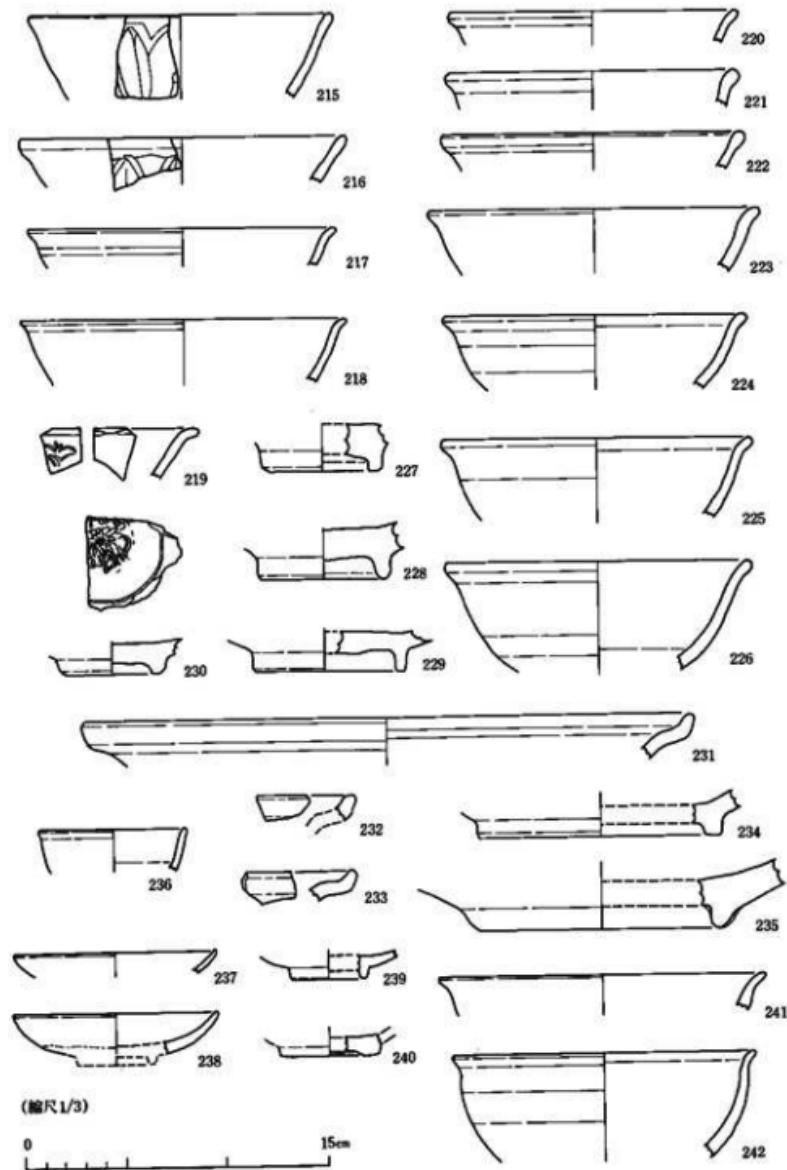
検出された遺構は柱穴S P01、溝S D01がある。S D01は2時期の変遷が見られる東西方向の溝である。調査区外の東西両方向にのびている。東側の延長線上には拡張トレンチ1のS D01があり、一連のものと推される。遺構規模は上端幅35~45cm、深さ30cmである。出土遺物はなし。

b 遺構外出土遺物

包含層出土遺物には陶磁器、鉄製品(鉄釘)、古銭が出土した。中世陶磁器は貿易陶磁器と国产陶磁器に大別される。貿易陶磁器には青磁、白磁がある。国产陶磁器には瀬戸、珠洲、壺器系、瓦質土器がある。近世陶磁器には肥前・肥前系がある。中世陶磁器が示す全体の年代観は13世紀~15世紀中頃である。

〈青磁〉(第162図)

青磁は碗、盤の器種が出土している。遺物番号は215~236である。215~226は青磁碗の口縁部破片である。215・216は鏡連弁文をもつもので、龍泉窯系統B1類に分類される。217・218、220~226は内外面無文の端反碗で、龍泉窯系統D類に分類される。217・218、224~226は全体的にシャープなつくりで、釉も薄く、ロクロ目が明瞭である。220~223は口縁端部が玉縁状を呈し、釉・器肉も厚く鈍いつくりである。219は口縁部が端反るタイプであるが、内面に花文様が施してある。227~230は青磁碗の底部破片である。227・230は内底見込み部、高台内をそれぞれ円形に釉剥離している。疊付の釉は削りとらない。230は見込み部に印花文をもつ。228は釉が疊付を越えて、高台内面途中までかかり、外底無釉のものである。229は内面に印花文、高台内を蛇の目状に釉剥離している。231~233は青磁盤の口縁部破片である。3つは同一個体と思われる。口縁部が受け口を呈するタイプである。234~235は青磁盤の底部破片である。236は青磁の小碗であ



第162図 AT 95 造構外出土遺物(貿易陶磁)

ろうか。口縁部破片である。

〈白磁〉(第162図)

白磁は碗、皿の器種が出土している。遺物番号は237～242である。

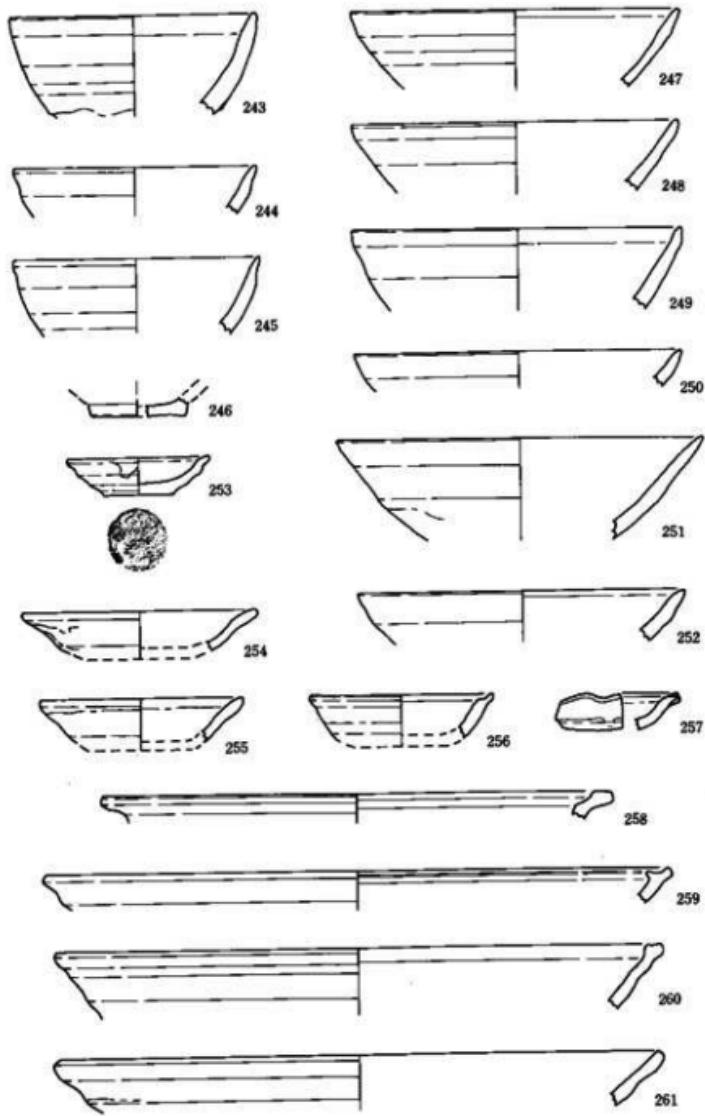
237・238は白磁皿の口縁部破片、239はその底部破片である。釉調は灰白色を呈し、貫入が認められる。白磁皿D群である。241・242は白磁碗の口縁部破片である。釉調は灰白色を呈し、口縁部が外反するタイプである。白磁碗C群に当たる。240は碗の底部破片である。削り出し高台で、高台は低い。

〈瀬戸〉(第163・164図)

瀬戸は碗、皿類、盤類のほか、特殊品と考えられるものに尊式花瓶、双耳小壺、香炉、瓶子、燭台が出土している。遺物番号は243～266である。

243～245は鉄釉碗(天目碗)の口縁部破片、246はその底部破片である。243は体部が丸く、口唇部がほぼ直立し、端部が尖る。古瀬戸後Ⅰ期である。244・245は口唇部がややくびれている。古瀬戸中Ⅳ期である。246は底部外面に濃い鉄釉を施す。古瀬戸後Ⅱ期である。247～252は灰釉平碗の口縁部破片である。247・250・251は体部が全体に丸みを持ち、口縁端部は尖っている。古瀬戸後Ⅰ期である。248・249は器壁がやや厚く、口唇部はややくびれ、端部は尖っている。古瀬戸後Ⅱ期である。それぞれ被熱を受けている。252は器壁が厚く、口唇部はくびれが強い。端部は尖っている。古瀬戸後Ⅲ期である。

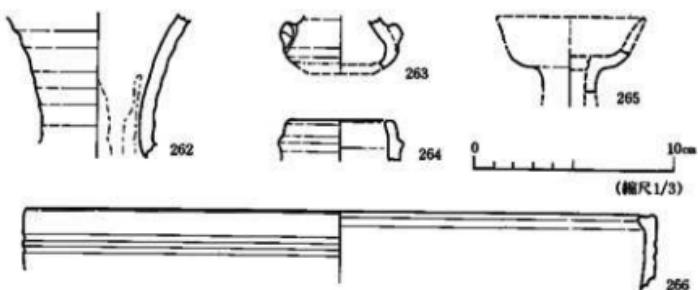
253～257は皿類である。253は丸皿である。灰釉を施す。口径7.0cm、器高1.8cmである。口縁部はやや外反する。古瀬戸中Ⅲ期～Ⅳ期である。254は小皿である。灰釉を施し、口縁部は外反する。古瀬戸後Ⅰ期～Ⅱ期である。255は縁釉小皿の口縁部破片である。灰釉を施す。古瀬戸後Ⅱ期～Ⅲ期である。256は折縁小皿の口縁部破片である。灰釉を施す。口縁部は一端外反してから、端部が上むく。古瀬戸中Ⅲ期～Ⅳ期である。257は輪花中皿の口縁部破片である。灰釉を施す。口縁部を指で押さえて波状口縁にしている。古瀬戸後Ⅰ期～Ⅱ期である。258～261は盤類である。258は折縁深皿の口縁部破片である。灰釉を施す。古瀬戸中Ⅳ期である。259・260は卸目付き大皿の口縁部破片である。それぞれ灰釉を施す。259は古瀬戸後Ⅳ期(古)、260は古瀬戸後Ⅱ期である。261は直縁大皿の口縁部破片である。灰釉を施す。被熱を受けている。古瀬戸後Ⅱ期である。262～266は瀬戸の特殊品である。262は尊式花瓶の頸部破片である。灰釉を施す。古瀬戸中Ⅳ期～後Ⅰ期である。263は水滴の体部破片である。灰釉を施している。古瀬戸後Ⅰ期～Ⅱ期である。264は梅瓶の口縁部破片である。灰釉を施す。頸部には凸帯が巡っている。古瀬戸後Ⅰ期～Ⅱ期である。265は燭台である。灰釉が施してある。古瀬戸後Ⅰ期～Ⅱ期である。266は筒型香炉の口縁部破片であ



(縮尺1/3)

0 15cm

第163図 AT 95 造構外出土遺物(漆戸 1)



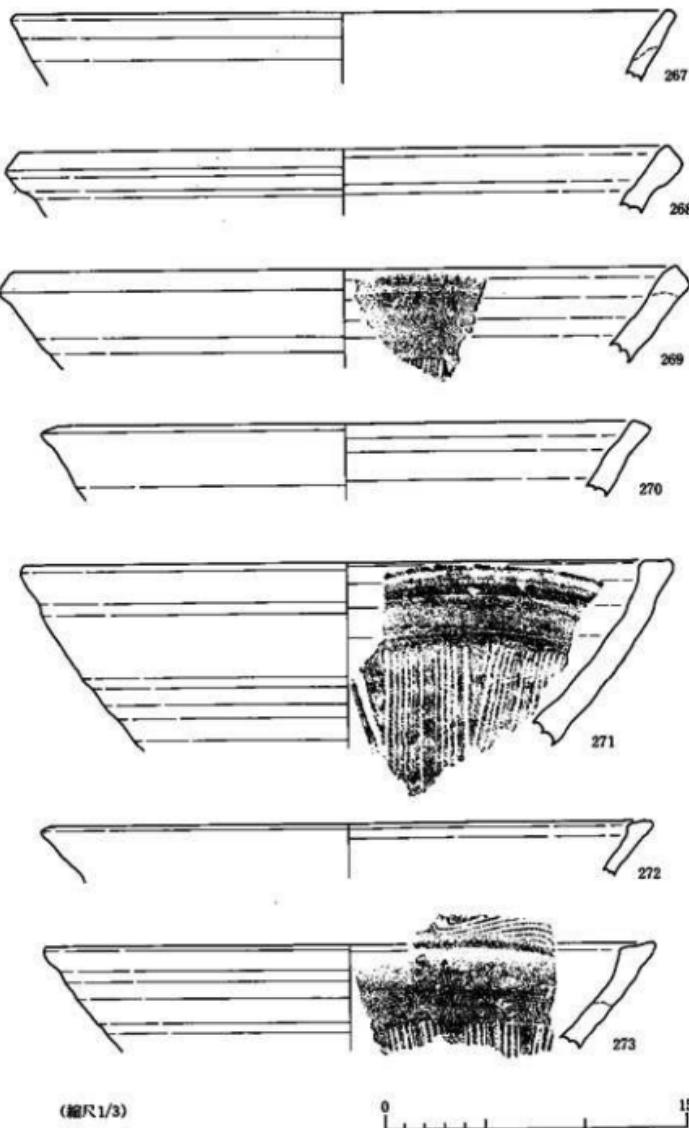
第164図 AT95 造構外出土遺物(瀬戸2)

る。外面には2本の沈線が巡る。被熱を受けている。推定口径31cmの大型製品である。古瀬戸後Ⅰ期～Ⅱ期である。

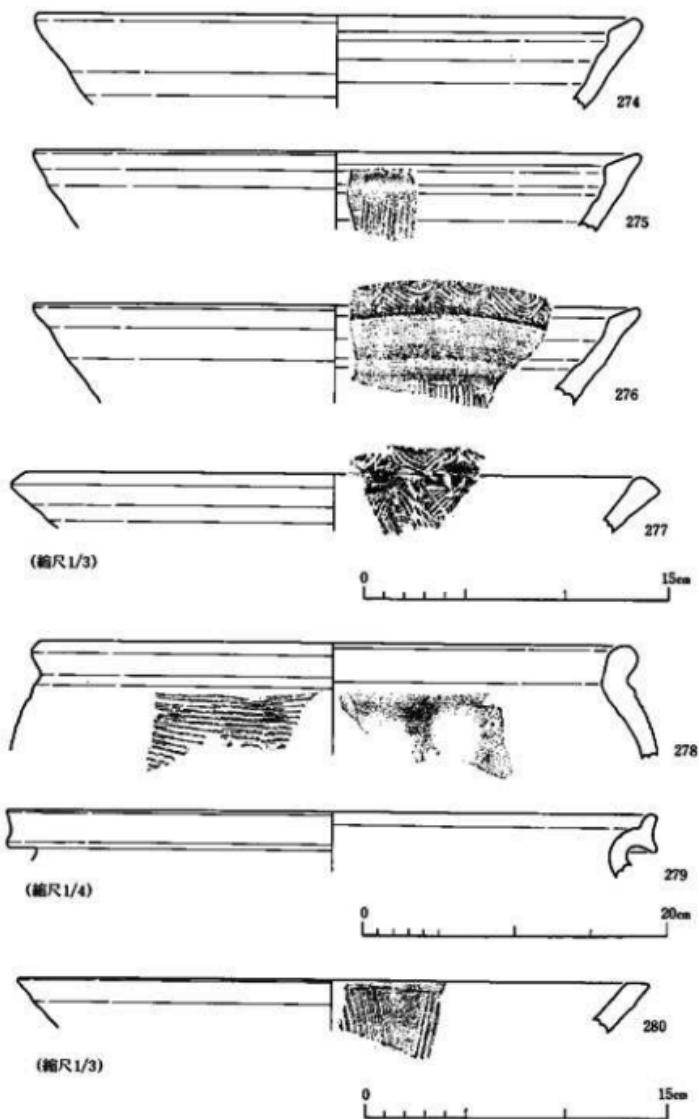
〈珠洲〉(第165・166図)

珠洲は壺、すり鉢の器種が出土している。遺物番号は267～278である。

267～277は珠洲すり鉢の口縁部破片である。267は器壁が薄く、口縁部は外傾しているが、面取り調整があまい。卸し目は見られない。珠洲Ⅰ期～Ⅱ期と思われる。268～270は口縁部が外傾して、面取り調整している。口縁端部の櫛目波状文はない。珠洲Ⅲ期～Ⅳ期前半と思われる。268は口縁端部がやや肥厚し、焼成も悪く、褐色を呈している。271は口縁部が水平して面取り調整を施している。端面はやや窪んでいる。卸し目の原体幅は1.9cmで、7条を数え、全面に施している。珠洲Ⅳ期後半と思われる。272は器壁が薄く、口縁部はやや内傾しているように見える。口縁端部内面直下に1本の沈線が巡る。焼成も悪く、褐色を呈している。時期不明。273は片口付近のものである。口縁端部は肥厚し、内傾して面取り調整を施している。端面には櫛目波状文が巡る。珠洲Ⅴ期である。274は口縁部の摩滅が激しいが、内傾して面取り調整を施している。端面に櫛目波状文はない。口縁端部内面直下に1本の沈線が巡る。焼成も悪く、褐色を呈している。珠洲Ⅳ期～Ⅴ期である。275は口縁部が内傾して面取り調整を施している。端面に櫛目波状文はない。口縁端部内面直下に1本の沈線が巡り、その下方から卸し目が施されている。珠洲Ⅳ期～Ⅴ期である。277は口縁部は外傾して面取り調整されていると思われる。端面に櫛目波状文、内面には櫛目格子文？が施してある。焼成は酸化軟質で灰白色を呈する。珠洲Ⅴ期である。278は口縁部は肥厚し、端部を丸くおさめている。叩き目は3cm幅で8条を数え、やや粗い。珠洲Ⅴ期である。



第165圖 AT 95 造橋外出土遺物(珠洲1)



第166図 AT 95 造構外出土遺物(珠洲2・瓷器系)

〈瓷器系〉(第166図)

279は瓷器系甕の口縁部破片である。口縁部は断面N字状を呈する。縁帯幅は2.5cmである。

280は瓷器系すり鉢の口縁部破片である。口縁部は水平に面取りが施されている。口縁端面直下から卸し目が施されている。

〈瓦質土器〉(第167図)

281・283は火鉢類の口縁部破片で、同一個体と思われる。口縁部付近には2帯の突帯の間にスタンプ文が巡っている。282は火鉢類の底部破片、下方には1帯の突帯が巡っている。

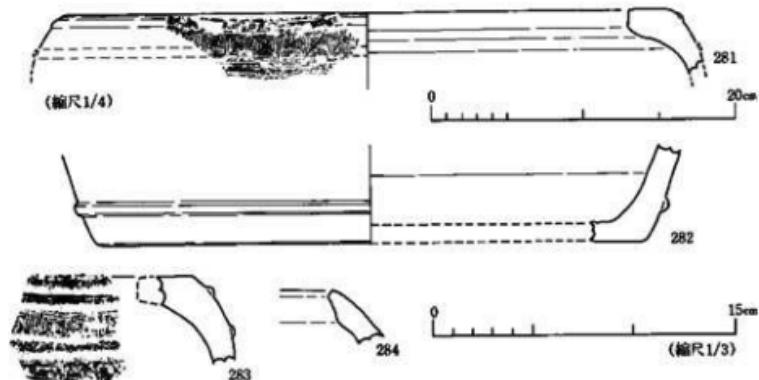
〈肥前・肥前系〉(第168図)

近世陶磁器は産地・時期等が不明であるため、一括して示した。

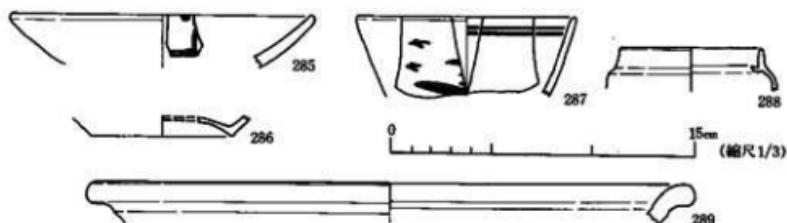
285は染付皿、287は染付碗である。286は鉄釉陶器皿か蓋である。288は鉄釉陶器の急須であろうか。289は鉄釉すり鉢の口縁部破片である。

〈古鏡〉(第169図)

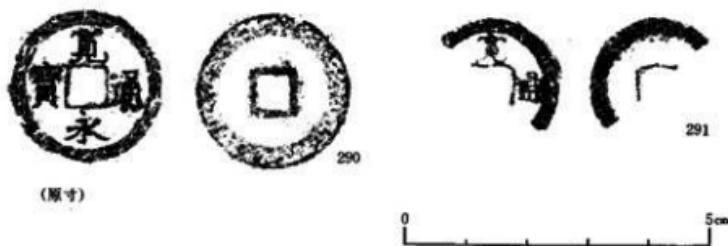
290は寛永通宝、291も半分欠損しているものも、同じ寛永通宝と思われる。17世紀以降のものである。



第167図 AT95 造構外出土遺物〈瓦質土器〉



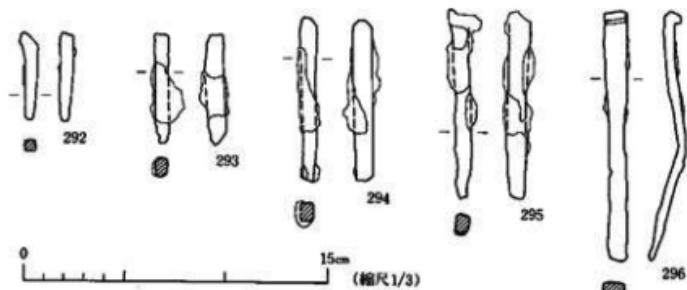
第168図 AT 95 造構外出土遺物(近世陶磁)



第169図 AT 95 造構外出土遺物(古銭)

〈鉄製品〉(第170図)

中世遺物と思われる鉄製品には鉄釘、くさび状鉄製品が出土している。
292～295は鉄釘である。断面方形の角釘で、大小さまざまなものがある。
296はくさび状鉄製品である。



第170図 AT 95 造構外出土遺物(鉄製品)

5. 小 結

第2次調査は昨年の第1次調査の成果を受けて、十三小学校北側の畠地を選定した。当初は館の主体部と堀跡が検出されるという予想のもと、調査が実施された。調査の結果、本調査地区は最盛期には館跡主体部となる場所で、内部は溝、柵欄によって区画された空間内に掘立柱建物、大型竪穴造構、井戸を配置した空間的利用が見られた。館を区画する堀跡は検出されなかった。また、これら多くの遺構は重複して検出されており、遺構の時期別変遷の理解についても可能となった。遺構の変遷、遺物については第VI章考察でまとめているので、詳細はそちらに譲りたい。ここでは2点の注目される成果について述べる。

1つ目は12世紀後半代の中世十三湊の初源を示すSB07とSD03の宗教建築とした遺構が確認されたことである。SB07は1間×1間の神社の小堂と推される建物であり、SD03は内部に葺石を伴った周溝である。これらは一体的なものと考えられ、SD03からは珠洲Ⅰ期（12世紀後半）のすり鉢破片が出土している。また、この遺構の周辺からは骨片を伴う遺構が多く検出されたことから、宗教的な意味合いの強い空間であったと考えられる。本調査地区は中世十三湊の成立当初から重要な位置を占める場所であった。

2つ目はこれまで十三湊の都市計画的な遺構の配置時期が十三湊を南北に分断する土塁の北側地区において、14世紀後半から見られると考えられていた。しかし、この地区において、十三湊の都市計画的な遺構の配置時期が13世紀代まで遡ることが明らかとなった。主要な遺構ではSD36、SD20によって区画された中に、SB01の総柱建物にSE10井戸が付随する遺構の配置が見られる。また、東側に位置するSD01南北溝は出土遺物が伴わなかったものの、これら一連の遺構と一体的なものであったと想定される。

遺構・遺物計測表

—1995年度 第2次調査—

〈遺構〉

- 1, AT95 上面遺構：SA「カッショ」跡計測表
- 2, AT95 上面遺構：SK土坑計測表
- 3, AT95 上面遺構：SP柱穴計測表
- 4, AT95 SB掘立柱建物計測表
- 5, AT95 SA柱穴計測表
- 6, AT95 SI堅穴遺構計測表
- 7, AT95 S I 01床面ピット計測表
- 8, AT95 SA布掘り溝・SD溝計測表
- 9, AT95 SA布掘り溝ピット計測表
- 10, AT95 SE井戸計測表
- 11, AT95 SK土坑計測表
- 12, AT95 SP柱穴計測表
- 13, AT95 拡張トレンチ：SD溝計測表
- 14, AT95 拡張トレンチ：SK・SP計測表

〈遺物〉

- 15, AT95 出土遺物計測表
- 16, AT95 出土遺物集計表
- 17, AT95 出土貿易陶磁一覧表
- 18, AT95 出土珠洲一覧表
- 19, AT95 出土纏戸一覧表

凡　　例

〈遺構計測表〉

番　号：報告書での通し番号

整　理：調査時の遺構番号

グリットX・Y：1m単位の座標で遺構の位置を北東コーナーの座標で表した。

●は国産陶器・土器、○は貿易陶磁器、▲は鉄製品、■その他（近世陶磁器を含む。）で表した。

備　考：遺構の切り合い関係は>、<の記号で表した。切り合い関係の不明なものについては、遺構=遺構？と表した。

〈遺物計測表〉

番　号：報告書での通し番号

種　類：青磁、白磁、瀬戸、珠洲、瓷器系などの名称

器　種：碗、皿、すり鉢、盤など用途別の分類

層　位：遺物の出土層位名

レベル：遺物の出土地点の標高

法　量：ここでは多くの略記号を用いている。

略記号で、口=口径、底=底径を示す。数値には、括弧の付かないものは実数、
〔 〕内は復元値、() 内は現存長を示している。

個体数：口縁部計測法による個体数

備　考：時期別分類、重量、その他を示す。

整　理：調査時の通し番号

〈遺構〉

1. AT95 上面遺構：SA「カッチャ」跡計測表

No.	整理No.	検出員	最大幅	最小幅	平均幅	深さ	主軸方位	出土遺物	備考
SA01		386	—	—	—	8	N=6.0°-E		
SA02		228	—	—	—	11	N=7.0°-E		
SA03	IX19	256	55	27	41	24	N=3.5°-E		
SA04	IX17	455	35	20	26	16	N=12.0°-E	■	
SA05	IX02	454	68	31	49.5	16	N=19.0°-E	●●●■■■■■	
SA06	IX04	245	45	26	35.5	—	N=4.0°-E		
SA07	IX24	423	30	16	23	17	N=6.0°-E	●	
SA08	IX07	749	—	—	—	21	N=7.0°-E	▲▲	
SA09	IX08	898	53	32	42.5	24	N=5.5°-E	●■■	
SA10	IX09	966	57	25	41	29	N=6.0°-E	■	
SA11	IX10B	1002	66	18	37	25	N=6.0°-E	●●●	

2. AT95 上面遺構：SK土坑計測表

No.	整理No.	X	Y	平面形	長径	短径	深さ	底面積	埋土	出土遺物	備考
SK01	IK01	76.02	20.20	円形	74	66	17	1,472	2.5Y4/3砂質	●	
SK02	IK02	76.04	20.18	円形	84	74	23	1,304	2.5Y4/3砂質		
SK03	IX05	76.05	19.90	橢円形	281	123	21	1,246	10YR3/2砂質	●●●▲■	
SK04	IX10A	76.28	19.82	方形	118	74	7	1,399			
SK05	IX11	76.28	19.88	方形	129	90	7	1,290	10YR3/2砂質	○■	
SK06	IK06	76.16	19.88	円形	78	70	24	1,210		▲▲■	
SK07	IK07	76.16	19.86	橢円形	110	94	36	1,165	10YR3/2砂質	●●●●■	
SK08	IK08	76.08	19.82	不整橢円形	118	54	22	1,242	10YR3/2砂質	▲▲	
SK09	IK09	76.10	19.64	橢円形	120	98	37	1,165	10YR3/2砂質		
SK10	IK10	76.04	19.98	*	174	133	—	—		●	
SK11	IK11	76.28	19.80	橢円形	76	58	27	1,210	10YR3/2砂質	■、ガラス	
SK12	IK12	76.34	19.78	円形	78	74	23	1,265	10YR3/2砂質	ビニール	
SK13	IK13A	76.38	19.66	円形	70	64	17	1,409			
SK14	IK14	76.40	19.64	円形	84	79	39	1,240	10YR3/2砂質		SK14>SP14
SK15	IX22	76.36	19.60	*	226	56	48	0,967	2.5Y4/3砂質	●▲■■■■	
SK16	IK16	76.36	19.68	不整円形	140	126	33	1,166	10YR3/2砂質	●■、ガラス	
SK17	IK17	76.26	20.02	橢円形	74	69	6	1,378	10YR3/2砂質		
SK18	IK18	76.26	19.74	橢円形	58	40	13	1,277			
SK19	IP13	76.02	20.08	橢円形	52	34	21	1,256	2.5Y4/3砂質		
SK20	IP18	76.18	19.96	円形	64	62	19	1,223	10YR3/2砂質		
SK21	IP59	76.32	19.92	橢円形	78	46	14	1,336	10YR3/2砂質		
SK22	IP82A	76.24	20.08	橢円形	56	44	12	1,213	10YR3/2砂質		

3. AT95 上面造構 : SP柱穴計測表

No.	番号No.	X	Y	平面形	長径	短径	深さ	高さレベル	埋土	出土遺物	備考
SP01	1P01	76.00	20.18	円形	42	40	8	1.527	2.5Y4/3砂質		
SP02	1P02	76.02	20.16	橢円形	44	32	21	1.336	2.5Y4/3砂質		
SP03	1P03	76.02	20.12	橢円形	28	20	18	1.366	2.5Y4/3砂質		
SP04	1P04	76.08	20.18	円形	32	32	13	1.472	2.5Y4/3砂質		
SP05	1P05	76.12	20.16	円形	24	22	16	1.423	10YR2/3砂質	ビニール	
SP06	1P06	76.14	20.16	円形	30	30	20	1.372	2.5Y4/3砂質		
SP07	1X14	76.06	20.12	円形	24	22	8	1.275	10YR2/3砂質		
SP08	1P08	76.14	20.22	円形	22	20	15	1.514	2.5Y4/3砂質		
SP09	1P09	76.20	20.20	円形	28	26	15	1.457	2.5Y4/3砂質	○	
SP10	1P10	76.22	20.20	円形	34	34	16	1.445	2.5Y4/3砂質		
SP11	1P93	76.36	19.76	橢円形	38	28	13	1.345			
SP12	1P12	76.28	20.24	橢円形	38	26	8	1.548	10YR2/3粘質		
SP13	1P92	76.08	20.12	橢円形	32	22	10	1.287			
SP14	1P91	76.40	19.62	橢円形	78	54	17	1.319			■ SK 14 > SP 14
SP15	1P15	76.26	20.24	不整橢円形	54	44	14	1.498	10YR2/3粘質		
SP16	1P87	76.38	19.58	不整橢円形	34	26	17	1.376	10YR3/2砂質		
SP17	1P17	76.10	20.02	円形	40	38	9	1.336	2.5Y4/3砂質		
SP18	1P84	76.26	20.06	円形	32	28	10	1.361	10YR3/3砂質	■	
SP19	1P82B	76.28	20.12	橢円形	28	18	8	1.394			
SP20	1P81	76.06	20.12	円形	28	22	26	1.110	2.5Y3/2砂質		
SP21	1P75	76.12	20.10	方形	38	34	16	1.251	10YR3/3砂質		
SP22	1P74	76.12	20.02	円形	36	30	9	1.320	2.5Y3/2砂質		
SP23	1P73	76.12	20.02	橢円形	50	38	9	1.330	2.5Y3/2砂質		
SP24	1P69	76.10	20.12	不整橢円形	32	26	10	1.325	10YR3/2砂質		
SP25	1P67	76.12	20.16	円形	24	24	8	1.375	10YR3/2砂質		
SP26	1P65	76.10	20.14	不整橢円形	39	26	23	1.163	10YR3/2砂質		
SP27	1P61	76.20	20.06	不整橢円形	42	20	18	1.252	10YR3/2砂質		
SP28	1P28	76.10	20.20	不整形	44	41	24	1.208	2.5Y4/2砂質	○	
SP29	1P29	76.06	20.16	不整円形	42	38	23	1.235	2.5Y4/2砂質		
SP30	1P60	76.20	20.12	円形	26	26	16	1.261	10YR3/2砂質	●	
SP31	1P31	76.12	20.16	円形	22	22	11	1.353	2.5Y4/2砂質		
SP32	1P32	76.12	20.18	不整円形	34	30	10	1.377	2.5Y4/2砂質	■	
SP33	1P58	76.32	19.92	円形	34	32	18	1.297	10YR3/2砂質		
SP34	1P34	76.16	20.20	橢円形	26	20	13	1.381	2.5Y4/2砂質		
SP35	1P35	76.18	20.20	橢円形	30	22	11	1.404	2.5Y4/2砂質		
SP36	1P36	76.12	20.18	橢円形	30	22	16	1.320	10YR3/3砂質		
SP37	1P57	76.34	19.92	円形	26	26	12	1.345	10YR3/2砂質		
SP38	1P56	76.32	19.92	円形	24	22	12	1.366	10YR3/2砂質		
SP39	1P55	76.06	20.14	円形	22	20	13	1.257	10YR3/2砂質		
SP40	1P54	76.26	20.16	橢円形	38	30	12	1.291	10YR3/2砂質		
SP41	1P50	76.16	20.14	円形	44	42	12	1.340	10YR3/2砂質		
SP42	1P49	76.10	20.12	橢円形	40	18	15	1.246	10YR3/2砂質		
SP43	1P48	76.08	20.12	円形	20	14					■
SP44	1P47	76.08	20.12	橢円形	32	26	7	1.325	10YR3/2砂質		
SP45	1P45	76.06	20.14	不整橢円形	32	14	12	1.241	10YR3/2砂質		

4. AT95 SB柱立柱建物計測表

基準No.	柱径	柱高	柱行員	柱行員	柱行員	柱行員	平面積	主軸方位	備考
	柱間	柱間	(cm)	(尺)	(cm)	(尺)	(m ²)		
SB01	4	3	858	28.3	558	18.4	47.87	N-76.0'-W	SP468-SP371-SD09-SI01>SB01>SP046-SP364-SP362 +SP456-SP457-SP467-SP506-SK01-SD08-SD31
SB02	4	3	800	26.4	636	21.0	50.88	N-14.0'-E	SP383-SI02>SD07>SB02>SP067-SP279-SP387-SP389 +SK58-SI07-SD31
SB05	3	3	634	20.9	582	19.2	36.89	N-7.0'-E	SP945-SP506-SP515-SD09-SI01>SB05>SP368
SB07	1	1	137	4.5	137	4.5	1.87	N-4.5'-E	SD22>SI07
SB08	5	1	913	30.1	197	6.5	17.96	N-87.0'-W	SB08>SP007-SP008-SP009-SK62-SB08=SD15-SD16?
SB10	2	1	430	14.2	191	6.3	8.21	N-14.0'-E	SP270-SP273>SB10>SK58
SB11	3	1	488	16.1	248	8.2	12.10	N-0'-E	SB11>SP468-SP469-SD33

5. AT95 SA柱穴列計測表

通構No.	柱間	総長 (cm)	総長 (尺)	主軸方位	備考
SA02	2	418	13.8	N-76.0'-W	SA02>SP583
SA04	4	785	26.0	N-81.5'-W	SD23-SD35>SA04>SP591-SK16

6. AT95 SI1柱穴地盤計測表

No.	整理No.	X	Y	平面形	長径	短径	深さ	底面レベル	埋土	出土遺物	備考	調査
SI01	I 01	76.06 ~26.14	19.82 ~19.30	方形	600	305	54	0.809	第108番	第25番参考	SI01>SP103-SP105-SP511-SP512-SE10, SI01- SP114-SK53?	完掘

7. AT95 SI01床面ピット計測表

(貼り床上面)

No.	整理No.	平面形	長径	短径	深さ	底面レベル	出土遺物
P1	I 01-01	梢円形	34	24	22	1.063	
P2	I 01-02	円形	24	18	12	0.946	
P3	I 01-03	円形	24	22	13	0.935	
P4	I 01-04	*	30	18	34	0.721	
P5	I 01-05	円形	25	23	5	1.079	●■
P6	I 01-06	*	18	10	15	0.964	
P7	I 01-07	*	27	10	6	1.018	
P8	I 01-08	*	38	22	7	1.068	▲▲
P9	I 01-09	円形	16	15	19	0.887	
P10	I 01-10	円形	23	22	22	0.843	
P11	I 01-11	*	14	5	9	1.058	
P12	I 01-12	*	36	15	6	1.016	
P13	I 01-13	円形	38	38	9	0.991	
P14	I 01-14	*	14	8	6	1.048	
P15	I 01-15	梢円形	58	18	13	0.968	
P16	I 01-16	*	89	36	12	1.061	

(地表面)

No.	整理No.	平面形	長径	短径	深さ	底面レベル	出土遺物
P17	I 01-17	円形	22	20	8	0.797	
P18	I 01-18	円形	12	11	6	0.813	
P19	I 01-19	円形	9	9	6	0.817	
P20	I 01-20	円形	15	15	8	0.774	
P21	I 01-21	円形	22	20	10	0.734	

8. AT95 SA布掘り溝・SD溝計測表

No	量測No	検出長	最大幅	最小幅	平均幅	深さ	主軸方位	出土遺物	備考
SD01	D01	1810	80	34	57	60	N-14.5°-E		SP047・SP133・SP137・SP139・SP604・SK37・SK40・SK41・SK44・SD04>SD01>SD50
SD02	D02	593	99	68	83.5	50	N-14.7°-E	○	SP159・SP161・SP163・SK49・SK59・SD51・SD56>SD02>SP142・SP143・SD49
SD03	D03	120	65	92.5		37		●	SP172・SP606・SK17・SD14・SD20・SD40・SD41・SD44>SD03>SP671, SD03=SP204?
SD04	D04	1674	56	26	41	46	N-15.8°-E	●	SP047・SP130・SP133・SP139・SP145・SP638・SK37・SK44・SK49・SK59・SD18・SD60>SD04>SP653・SD01・SD17・SD58・SD63, SD04=SK36?
SD05	D05	934	48	22	35	42	N-76.8°-W	○▲	SP407・SP408・SP409・SP411・SP414・SP504・SK23・SK51・SE09・SD07・SD23・SD37・SD38>SD65>SP028・SP036・SP406・SP484・SP485・SP576・SP579・SP621・SK24・SK25・SK45・SK60・SD33・SD36, SD65=SP412, SP444?
SD06	D06	532	44	32	38	29	N-78.3°-W		SP405・SP406・SP407・SP408>SD06
SD07	D07	728	44	16	30	18	N-4.0°-E	▲, 岩	SP441・SP482>SD07>SP028・SP062・SP090・SP439・SP440・SP451・SP504・SK60・SD05・SD33
SD08	D08	884	60	25	42.5	44	N-7.0°-E		SP024・SP042・SP076・SP080・SP087・SP306・SP318・SP391・SP392・SE02>SD08>SP072・SP390・SK01
SD09	D09	346	46	18	32	10	N-87.7°-W	●●●●	SP083・SP356>SD09>SP078・SP101・SP260・SP359・SP423
SD10	D10	857	33	15	24		N-87.7°-W		SP473>SD10>SP472・SP474・SP475・SP476・SK02・SD20
SD11	D11	114	26	12	19		N-75.3°-W	骨片	
SD12	D12	279	36	19	27.5		N-11.7°-E	●	SD43>SD12, SD12=SD13?
SD13	D13	280	26	21	23.5	46	N-11.8°-E		SD13=SD12?
SD14	D14	668	44	31	37.5	44	N-4.5°-E		SP196・SK59・SD28>SD14>SD03・SD48・SD64
SD15	D15	542	41	28	34.5		N-13.5°-E		SD15=SP117・SD16?
SD16	D16	770	42	20	31		N-15.8°-E		SP534・SP601・SP609・SP636・SK15・SD51>SD16>SP635・SK30・SD58, SD16=SP119・SD15?
SD17	D17	498	40	16	28	16	N-15.2°-E		SD17>SP602・SP653・SD04
SD18	D18	255	25	15	20	10	N-16.5°-E		SD18>SD04
SD19	D19	186	30	24	27		N-17.7°-E		SP145・SP146・SK59>SD19, SD19=SD63?
SD20	D20	350	20	18	19	6	N-12.7°-E		SK20・SD10>SD20>SP559・SK19・SD03, SD20=SD39?
SD21	D21	154	34	31	32.5		N-85.0°-W		SD40・SD41>SD21>SK63
SD22	D22	352	68	54	61	22	N-13.8°-E		SP039・SK42・SK48・SD28・SD29・SD40・SD48>SD22>SP045
SD23	D23	346	26	18	22	14	N-4.7°-E		SD23>SP031・SE09・SD05・SD36, SD23=SD35?
SD24	D24	282	34	24	29	19	N-87.0°-W	●	SD24>SD26・SD52・SD53

No	整理No	被出長	最大幅	最小幅	平均幅	深さ	主軸方位	出土遺物	備考	
									●	●
SD25	D25	322	26	14	20	6	N-88.3°-W	SD25>SD26>SD52>SD53		
SD26	D26	1615	52	13	32.5	28	N-14.3°-E	SP129>SP135>SP137>SP603>SK40>SK41>SD24>SD25>SD55>SD26		
SD27	D27	111	20	16	18		N-14.0°-E	SD27=SD30?		
SD28	D28	90	22	20	21		N-3.7°-W	SD28>SD14>SD22>SD48		
SD29	D29	144	30	22	26		N-6.0°-E	SP039>SK42>SD29>SD22		
SD30	D30	288	18	16	17		N-9.8°-E	SD30=SD27?		
SD31	D31	526	27	15	21	43	N-3.3°-E	SP027>SP057>SP067>SP068>SP309>SP312>SP314>SP315>SP316>SP319>SE02>SD31>SP317, SD31=SP313>SK01?		
SD32	D32	84	18	16	17		N-7.0°-E	SP504>SD32>SK60		
SD33	D33	220	22	11	16.5		N-80.0°-W	SP237>SD05>SP07>SD33		
SD34	D34	148	37	28	32.5		N-76.2°-W	SP398>SD34		
SD35	D35	185	19	16	17.5	18	N-5.8°-E	SD35>SP031, SD35=SD23?		
SD36	D36	841	22	14	18		N-74.0°-W	SK23>SD05>SD23>SD37>SD38>SD36>SP532		
SD37	D37	92	20	16	18		N-3.5°-E	SK14>SD37>SD05>SD36		
SD38	D38	90	16	14	15		N-16.8°-E	SD38>SD05>SD36		
SD39	D39	86	26	15	20.5		N-22.5°-E	SK20>SD39, SD39=SD20?		
SD40	D40	750	19	18	18.5		N-89.0°-W	SP253>SD40>SK53>SD03>SD21>SD22, SD40=SP570>SK63?		
SD41	D41	613	37	10	23.5		N-2.0°-W	SP174>SP202>SP564>SD41>SP654>SK54>SK61>SD03>SD21, SD41=SP565>SD42>SD44?		
SD42	D42	36	34	24	29		N-86.0°-E	SD42=SP654>SD41?		
SD43	D43	400	46	21	33.5	41	N-15.0°-E	SP632>SK48>SK49>SD46>SD43>SP148>SD12>SD45, SD43=SK49?		
SD44	D44	232	22	18	20		N-1.0°-E	SD44>SK54>SK61>SD03, SD44=SD41?		
SD45	D45	195	45	24	34.5		N-72.8°-W	SD43>SD45		
SD46	D46	112	20	16	18		N-85.5°-E	SP631>SD46>SK32>SD43		
SD47	D47	158	25	16	20.5	33	N-10.5°-E	SP169>SP171>SD47>SP175>SD48		
SD48	D48	290	74	58	66		N-78.5°-W	SP037>SP171>SD14>SD28>SD47>SD49>SD48>SP671>SD22		
SD49	D49	66	88	71	79.5	32	N-15.0°-E	SP163>SP193>SP194>SP195>SP201>SP663>SP664>SK49>SK59>SD02>SD49>SD48		
SD50	D50	122	25	16	20.5		N-78.7°-E	SP646>SD01>SD50, SD50=SD52?		
SD51	D51	630	52	33	42.5	13	N-16.2°-E	SK15>SK49>SK55>SD56>SD51>SD02>SD16		

No	整理No	検出長	最大幅	最小幅	平均幅	深さ	主軸方位	出土遺物	備考
SD52	D52	1664	34	17	25.5	27	N-14.7-E		SP127·SP185·SP187·SP573·SP642·SE04·SE12·SD24·SD25·SD55>SD52>SP647·SK43, SD52=SP649·SD60?
SD53	D53	1282	33	11	22		N-14.2-E		SP121·SP122·SP138·SP184·SK43·SK50·SE04·SE05·SE12·SD24·SD25·SD55>SD53>SP650 ·SD57, SD53=SP064·SP074·SP162·SP518·SP580·SP622·SD61?
SD54	D54	65	24	17	20.5		N-82.3-W		SP199·SP200·SD14>SD54
SD55	D55	135	23	18	20.5		N-86.8-W		SD55>SD26·SD52·SD53
SD56	D56	136	24	18	21		N-17.0-E		SD66>SD02·SD51
SD57	D57	125	16	14	15		N-85.2-E		SP053·SP120·SD53>SD57
SD58	D58	125	25	22	23.5		N-75.0-W		SD04·SD16·SD60>SD58>SP217
SD59	D59	248	21	17	19		N-17.8-E		SP126·SK43·SE04·SE12>SD59
SD60	D60	366	81	75	78		N-17.3-E		SD60>SP217·SP641·SK15·SD04·SD58, SD60=SP047·SP640?
SD61	D61	36	19	18	18.5		N-65.3-W		SP126>SD61, SD61=SD53?
SD62	D62	52	15	10	12.5		N-72.7-W		SP576·SK23>SD62
SD63	D63	191	24	16	20	39	N-17.8-E		SP145·SK59·SD04>SD63, SD63=SD19?
SD64	D64	86	26	21	23.5		N-16.3-E		
SD65	D65	363	18	14	16		N-11.5-E		SD65=SP115·SP205?

9. AT95 SA布振り溝ピット計測表

	No	整理No.	平面形	長径	短径	深さ	底面レベル
SD01	P1	D01-01	楕円形	30	25		
	P2	D01-02	楕円形	27	20		
SD05	P1	D05-01	円形	22	21	13	0.977
	P2	D05-02	円形	22	22	6	1.041
	P3	D05-03	円形	24	21	12	1.051
SD015	P1	D15-01	楕円形	14	5		
	P2	D15-02	円形	18	16		
	P3	D15-03	楕円形	10	5		
	P4	D15-04	楕円形	17	12		
	P5	D15-05	円形	12	11		
	P6	D15-06	楕円形	16	12		
	P7	D15-07	円形	11	10		
	P8	D15-08	不整円形	10	9		
SD016	P1	D16-01	*	19	12		
	P2	D16-02	*	20	10		
	P3	D16-03	楕円形	16	10		
	P4	D16-04	円形	18	16		
	P5	D16-05	楕円形	22	15		
	P6	D16-06	不整椭円形	18	10		
	P7	D16-07	円形	11	10		
	P8	D16-08	円形	10	10		
	P9	D16-09	不整円形	10	8		
SD051	P1	D51-01	楕円形	11	8		
	P2	D51-02	楕円形	22	14		
	P3	D51-03	円形	34	29		
	P4	D51-04	不整形	37	9		
	P5	D51-05	*	17	17		
	P6	D51-06	楕円形	11	6		
	P7	D51-07	*	14	12		
	P8	D51-08	楕円形	12	6		
	P9	D51-09	不整椭円形	21	5		
	P10	D51-10	楕円形	23	8		

10. AT95 SE井戸計測表

No.	標高m	X	Y	平面形	長径	短径	深さ	底面形状	埋土	出土遺物	備考	調査
SE01	E02	76.20	19.70	横円形	249	291	72	0.560	第16層	●▲▲	欠番	
SE02	E02	76.20	19.70	横円形	224	184	75	0.750	第16層	●●▲■	SP321>SP322>SP373>SP376>SP377>SE02>SD08>SD31	完掘
SE03	E04	76.30	20.20	横円形	224	184	67	0.760	第16層	●●●▲▲	欠番	
SE04	E05	76.32	20.20	円形	143	133	67	0.760	第16層	●●●▲▲	SE03>SE04>SP127>SD32>SD33>SD39 SE03>SP122>SK59>SK56>SE04>SK01>SD31	半数
SE05	E06	76.32	20.20	円形	143	133	67	0.760	第16層	●●●▲▲	欠番	
SE06	E07	76.28	19.64	不整円形	167	155	82	0.580	第16層	●●●●●●●	SP098>SP252>SP363>SE07>SP192>SP206 +SK03>SK38	半数
SE07	E07	76.28	19.64	不整円形	167	155	82	0.580	第16層	●●●●●●●	欠番	
SE08	E09	76.30	19.78	円形	235	230	75	0.650	第16層	●●●●●■	SK52>SD23>SE09>SK51>SD05 +S101>SE10	半数
SE09	E10	76.30	19.88	不整円形	111	102	84	0.417	第16層	●●●●●■	欠番	
SE10	E12	76.06	20.18	横円形	159	122	74	0.590	第16層	▲▲▲	SP126>SP185>SE12>SD02>SD33>SD59	半数

11. AT95 SK土坑計測表

No.	標高m	X	Y	平面形	長径	短径	深さ	底面形状	埋土	出土遺物	備考	調査
SK01	E11	76.24	19.72	不整円形	164	119	23	1.054			SP027>SP309>SK08>SD08>SK01, SK01>SD31?	半数
SK02	K02	75.22	19.80	不整円形	95	94					SP353>SP472>SP463>SD10>SK02> SP354>SP474	検出
SK03	E08	76.24	19.66	円形	118	106	31	1.070	第143層		SP386>SE07>SK03	半数
SK04	K04	76.28	19.68	方形	103	86					SP394>SP386>SK04	検出
SK05	K05	76.24	19.62	横円形	81	55					SK05=SP378?	検出
SK06	K06	76.38	19.64	円形	116	109						
SK07	K07	75.36	19.68	方形	118	111					SP424>SK07>SP425	検出
SK08	K08	76.24	19.72	不整円形	90	73	38	0.980		●	上面に石4, SP461>SK08>SK01, SK08=SP452?	半数
SK09	K09	76.36	19.78	横円形	95	80					SK10>SK09	検出
SK10	K10	75.36	19.78	横円形	94	74					SK10>SK09	検出
SK11	K11	75.24	19.80	横円形	99	74					SP460>SK11	検出
SK12	K12	76.34	19.84	横円形	135	99					SP014>SP503>SK12>SK13	検出
SK13	K13	76.32	19.84	*	99	92					SK12>SK14>SK13	検出
SK14	K14	76.32	19.86	横円形	104	73					上面に粘土ブロック、SK14>SK13>SD37	検出
SK15	K15	76.20	20.12	*	108	24					SK55>SD60>SK15>SD16>SD61, SK15=SK39?	検出
SK16	K16	76.34	19.78	横円形	112	86	59	0.800	第145層	●●●○■	壁面にL1, SP302>SK51>SK52>SK16	半数
SK17	K17	75.12	19.98	横円形	157	128					上面に石2, SP566>SK17>SD03	検出
SK18	K18	76.24	19.94	不整椭円形	76	52					SP160>SK18	検出
SK19	K19	76.24	19.98	円形	72	69					SD20>SK19	検出
SK20	K20	76.18	19.96	横円形	70	48					SK20>SD20>SD39	検出
SK21	K21	76.34	19.90	方形	71	47						
SK22	E08	76.34	19.94	横円形	164	142	54	0.862	第152層	●●●●▲■	底面に北2-粘土ブロック	完掘
SK23	K23	75.30	19.96	横円形	88	73					SP577>SK23>SD65>SD36>SD62	完掘
SK24	K24	76.28	19.94	*	79	24					SD66>SK24, SK24=SP579?	検出
SK25	K25	75.26	19.98	*	95	30					SD05>SK25>SP036>SP621	検出
SK26	K26	76.34	20.02	横円形	86	31					SK26>SP246	検出
SK27	K27	76.34	20.06	方形	118	45						
SK28	K28	76.30	20.10	横円形	111	57						
SK29	K29	75.30	20.12	方形	100	61					SK29>SP000, SK29=SP216?	検出
SK30	K30	76.28	20.16	横円形	69	52					SP218>SD16>SK30>SP001>SK31	検出
SK31	K31	76.28	20.16	円形	86	77					SP218>SP602>SP637>SK30>SK31, SK31=SP653?	検出
SK32	K32	75.22	20.06	横円形	77	43					SD46>SK32	検出

No.	要素名	X	Y	平面形	長径	短径	角度	壁厚	堆土	出土遺物	備考		調査	
											SD	SD	SD	
SK33	K33	76.24	20.10	円形	107	90				SP633>SK34>SK33			検出	
SK34	K34	76.26	20.12	不整梢円形	108	45				SP633>SK34>SK33			検出	
SK35	K35	76.26	20.14	不整梢円形	101	76				SP636>SP638>SK36>SK35			検出	
SK36	K36	76.26	20.16	梢円形	68	57				SP638>SK36>SK35, SK36=SD04?			検出	
SK37	K37	76.26	20.18	梢円形	134	103	17	1.270	第130回	○	SK37>SD01>SD04	Dトレ		
SK38	K38	76.30	19.32	*	167	164				SP267>SP268>SP360>SP361>SP362>SE07>SK38			検出	
SK39	K39	76.20	20.12	*	75	33				SK15~SK39?			検出	
SK40	K40	76.10	20.16	不整梢円形	93	58				SK40>SP138>SD01>SD26			検出	
SK41	K41	76.06	20.14	*	81	27				SK41>SD01>SD26			検出	
SK42	K42	76.14	20.02	梢円形	79	47				上面にF72, SK42>SD22>SD29			検出	
SK43	K43	76.02	20.16	*	138	133				上面にF4, SP186>SD02>SK43>SD63, SD09			検出	
SK44	K44	76.02	20.10	不整梢円形	104	51				SP189>SK09>SK44>SD01>SD04			検出	
SK45	K45	76.36	19.64	*	72	15				SD05>SK45			検出	
SK46	K46	76.34	20.24	*	158	121				SP446>SP566>SK46>SP573			検出	
SK47	K47	76.18	19.78	不整梢円形	81	43				SP214>SK47, SK47>SP251?			検出	
SK48	K48	76.20	20.06	梢円形	195	99	39	1.040		SK49>SK48>SD22>SD43	Gトレ			
SK49	K49	76.18	20.10	不整梢円形	384	129	51	0.790		SP144>SP149>SP150>SK49>SK48>SD02>SD04>SD43>SD49>SD51	Gトレ			
SK50	K50	76.14	20.22	*	111	93				SP050>SP122>SP124>SP212>SK56>SE06>SK50>SD53, SK50=SX01?			検出	
SK51	K51	76.34	19.78	*	133	43			○	上面にF4, SK32>SE09>SK01>SK4>SD05			検出	
SK52	K52	76.34	19.78	梢円形	84	72	12	1.210	第145回		上面にE7, SK52>SK16>SK51>SE09			半裁
SK53	K02	76.16	19.88	不整方形	169	119	31	1.053	▲	SD40>SK53>SP517, SK53=SD01?			半裁	
SK54	K54	76.06	20.00	*	104	64				SK61>SD41>SD44>SK54			検出	
SK55	K55	76.20	20.10	梢円形	150	76				SP149>SK55>SK15>SD01			検出	
SK56	K56	76.14	20.22	*	98	32				SK05>SK56>SK50>SX01			検出	
SK57	K57	76.36	19.66	梢円形	72	49				SK57>SP591			検出	
SK58	E01	76.16	19.66	不整梢円形	292	192	29	1.070	第151回	●●●●●○○	SP231>SP272>SP273>SP374>SK58>SP291>SP292	完掘		
SK59	X01	76.04	20.08	不整梢円形	280	145	60	0.680			SP190>SP191>SP196>SP201>SK59>SK44>SD02>SD04>SD14>SD19>SD09>SD63	Jトレ		
SK60	K60	76.32	19.74	*	88	21				SP564>SD05>SD07>SD32>SK60			検出	
SK61	X03	76.06	20.00	梢円形	76	61				SD41>SD44>SK61>SK54			検出	
SK62	K62	76.36	20.02	*	415	112				上面に石4, SP064>SK62			検出	
SK63	K63	76.16	19.98	梢円形	85	62				SD01>SK63, SK63=SD09?			完掘	

12. AT55 SP柱穴計測表

No.	測量名	X	Y	平面形	Rd	Re	Rd+Re	Rt	北上測物	備考	測定
SP001	P001	76.34	20.12	方形	43	38	36	1.065		柱底跡 SP616後穴 SP001>SP616	半裁
SP002	P002	76.36	20.08	円形	39	36	38	1.038		柱底跡	完盤
SP003	P003	76.36	20.04	円形	33	32	39	1.035		柱底跡	完盤
SP004	P004	76.36	20.00	円形	33	30	29	1.075		柱底跡 SP588後穴 SP004>SP588 + SK62	半裁
SP005	P005	76.36	19.98	稍円形	36	26	28	1.104		柱底跡 SP587後穴 SP005>SP587	半裁
SP006	P006	76.32	20.12	方形	28	22	18	1.220		柱底跡	半裁
SP007	P007	76.32	20.08	方形	31	24	53	0.885		柱底跡 SP257>SP007	完盤
SP008	P008	76.32	20.04	方形	33	33	30	1.024		柱底跡 SP258>SP008	半裁
SP009	P009	76.32	20.00	円形	34	29	39	1.028		柱底跡 SP259>SP009	半裁
SP010	P010	76.32	19.96	椭円形	47	29	37	1.020		柱底跡	半裁
SP011	P011	76.30	19.96	円形	26	23	39	1.006		柱底跡	半裁
SP012	P012	76.32	19.92	方形	21	18	44	0.980		柱底跡	半裁
SP013	P013	76.32	19.88	円形	42	37	34	1.031		柱底跡 SP613>SP583	完盤
SP014	P014	76.34	19.82	円形	24	21				SP014>SK12	検出
SP015	P015	76.26	19.88	方形	40	37	19	1.277		柱底跡	半裁
SP016	P016	76.26	19.84	稍円形	45	39	20	1.232		柱底跡	半裁
SP017	P017	76.28	19.86	円形	49	43	26	1.166		柱底跡 SP017>SP467	半裁
SP018	P018	76.28	19.76	稍円形	59	44	33	0.887		柱底跡 墓上に石1 SP089>SP018>SP456 + SP457	半裁
SP019	P019	76.30	19.72	円形	53	48	62	0.851		柱底跡	半裁
SP020	P020	76.22	19.88	円形	45	43	35	1.044		柱底跡 上部に石2	完盤
SP021	P021	76.24	19.84	椭円形	38	28	19	1.225		柱底跡	半裁
SP022	P022	76.24	19.80	円形	33	33	43	0.927		柱底跡	半裁
SP023	P023	76.24	19.76	円形	44	40	50	0.900		柱底跡 棘西に石2	半裁
SP024	P024	76.26	19.72	円形	56	53	47	0.937		SP024>SP392 + SD08	完盤
SP025	P025	76.18	19.88	円形	38	38	24	1.157		柱底跡	半裁
SP026	P026	76.20	19.82	円形	37	37	31	1.039	▲	柱底跡 SP026>SP508	半裁
SP027	P027	76.22	19.70	円形	37	34				SP027>SK01 + SU31	検出
SP028	P028	76.32	19.74	*	34	22				SD05 + SD07>SP028	半裁
SP029	P029	76.16	19.78	円形	39	33	21	1.131		柱底跡	半裁
SP030	P030	76.18	19.74	円形	34	32	11	1.265			完盤
SP031	P031	76.34	19.80	円形	41	36	37	0.994		柱底跡 SD23 + SD35>SP031	半裁
SP032	P032	76.34	19.76	椭円形	32	28	18	1.230		SP032>SK16	半裁
SP033	P033	76.34	19.74	円形	32	33	10	1.351			半裁
SP034	P034	76.36	19.70	円形	32	25	49	0.960		柱底跡	半裁
SP035	P035	76.36	19.65	円形	33	29	20	1.238		柱底跡 SP035>SP591	半裁
SP036	P036	76.26	19.98	*	62	28				SK35 + SD06>SP036	検出
SP037	P037	76.12	20.02	円形	21	19				SP037>SD48	検出
SP038	P038	76.12	20.00	椭円形	26	18					
SP039	P039	76.12	20.02	円形	17	14				SP039>SD22 + SD29	検出
SP040	P040	76.12	19.66	円形	28	25				SP280 + SP584>SP040	検出
SP041	P041	76.10	19.74	円形	49	35	40	0.965	●		半裁
SP042	P042	76.16	19.68	不整方形	49	46	28	1.009	●	SP042>SD08	完盤
SP043	P043	76.20	20.02	円形	49	37	48	0.971		柱底跡	完盤
SP044	P044	76.20	20.00	椭円形	48	39	47	0.973		柱底跡	完盤
SP045	P045	76.16	20.02	円形	48	45	45	0.935		柱底跡 SD22>SP045	充脛
SP046	P046	76.18	20.00	椭円形	45	40	46	0.988		柱底跡	光脛
SP047	P047	76.18	20.16	円形	39	39				SP047>SD01 + SD04, SP047>SD60 ?	検出
SP048	P048	76.30	20.00	円形	33	31	10	1.330	▲		完盤
SP049	P049	76.08	19.80	方形	36	36			●	SP328>SP049	検出
SP050	P050	76.18	19.66	円形	28	27	50	0.830	●		半裁
SP051	P051	76.14	19.62	椭円形	49	34	48	0.888	●		半裁
SP052	P052	76.12	19.66	方形	47	38	44	0.929		柱底跡	半裁
SP053	P053	76.14	20.24	椭円形	43	36				SP053>SK50 + SD67	検出
SP054	P054	76.14	19.74	方形	37	35	28	1.037	▲	柱底跡	半裁
SP055	P055	76.22	19.64	方形	48	46	42	0.944		柱底跡 SP303>SP056	完盤
SP056	P056	76.20	19.68	方形	61	34	52	0.808	●	柱底跡 SP057>SP067 + SD31	半裁
SP057	P057	76.20	19.72	方形	44	41	39	0.949		柱底跡	半裁
SP058	P058	76.18	19.76	方形	46	43	31	1.043		柱底跡	半裁
SP059	P059	76.22	19.76	円形	37	36	44	0.912		SP357後穴 SP059>SP357	完盤
SP060	P060	76.20	19.66	円形	35	34	41	1.024		SP060>SE07	完盤
SP061	P061	76.28	19.70	椭円形	35	26	52	0.933		柱底跡	半裁
SP062	P062	76.28	19.74	円形	24	24				SD07>SP062	検出

No	監理No	X	Y	平面形	RR	RR	SI	SD-1	王	山上標	備考	測度
SP063	P063	76.36	19.78	円形	34	33	65	0.767		柱頭跡		半裁
SP064	P064	76.22	20.22	円形	27	25				SP064=SD53?		檢出
SP065	P065	76.12	19.74	橢円形	48	36	35	0.950	■	柱頭跡		半裁
SP066	P066	76.10	19.76	円形	21	20			●	柱頭跡 SP066>SP388		檢出
SP067	P067	76.20	19.72	方形	19	15	27	1.072	■■	SP067>SP067>SD61		完滿
SP068	P068	76.16	19.70	方形	23	22			▲	SP068>SD31		檢出
SP069	P069	76.14	19.68	不整圓形	38	25			▲	柱頭跡		檢出
SP070	P070	76.14	19.66	円形	15	15			▲	柱頭跡		檢出
SP071	P071	76.18	19.68	円形	21	18			▲	柱頭跡		檢出
SP072	P072	76.18	19.68	円形	37	35				SP307>SP308>SD08>SP072		檢出
SP073	P073	76.16	19.68	橢円形	49	37				柱頭跡		檢出
SP074	P074	76.24	20.22	円形	21	19				SP518>SP074, SP074->SD63?		檢出
SP075	P075	76.14	19.92	円形	24	24				柱頭跡		檢出
SP076	P076	76.18	19.70	橢円形	54	36	59	0.769	●	SP076>SP306>SD08		完滿
SP077	P077	76.16	19.78	橢円形	53	41				SP077>SP368?		檢出
SP078	P078	76.20	19.80	円形	56	54	39	1.005	▲	柱頭跡 SD09>SP978		半裁
SP079	P079	76.24	19.76	円形	44	36	28	1.117		柱頭跡		完滿
SP080	P080	76.24	19.70	方形	36	29				柱頭跡 SP391>SP060>SD08		檢出
SP081	P081	76.26	19.68	方形	31	24	48	0.881		柱頭跡 SP061>SP993		半裁
SP082	P082	76.26	19.62	橢円形	58	48	54	0.845		柱頭跡 SP062>SP192		半裁
SP083	P083	76.20	19.76	橢円形	43	34	34	1.006		柱頭跡 SP083>SD09		完滿
SP084	P084	76.22	19.66	円形	35	31	48	0.870		柱頭跡		半裁
SP085	P085	76.22	19.62	円形	28	23				SP085>SP266		檢出
SP086	P086	76.16	19.74	方形	32	31	41	0.975		柱頭跡		半裁
SP087	P087	76.12	19.68	円形	37	34	36	0.951		柱頭跡 SP087>SD08		半裁
SP088	P088	76.28	19.82	円形	35	34	43	0.971		柱頭跡 SP481>SP088		半裁
SP089	P089	76.28	19.76	円形	30	28				SP089>SP018>SP457		檢出
SP090	P090	76.28	19.74	橢円形	37	22				SD07>SP090		檢出
SP091	P091	76.30	19.70	橢円形	53	39	45	1.008		柱頭跡		半裁
SP092	P092	76.24	19.82	円形	30	26				柱頭跡 SP092>SP471		檢出
SP093	P093	76.26	19.68	方形	27	21				SP081>SP693		檢出
SP094	P094	76.18	19.80	円形	31	29	51	0.820		柱頭跡		半裁
SP095	P095	76.22	19.68	円形	36	32	45	0.893		柱頭跡		半裁
SP096	P096	76.14	19.80	橢円形	25	19	26	1.039		柱頭跡		完滿
SP097	P097	76.16	19.72	方形	34	22	46	0.810		柱頭跡		半裁
SP098	P098	76.18	19.90	橢円形	35	29	37	0.971		柱頭跡		半裁
SP099	P099	76.18	19.86	方形	28	25	45	0.919		柱頭跡 SP515>SP099		半裁
SP100	P100	76.18	19.82	方形	29	26	31	1.058		SP508>SP100		半裁
SP101	P101	76.20	19.78	方形	34	34	35	0.940		SD09>SP101		半裁
SP102	P102	76.14	19.88	橢円形	31	26	39	0.909		柱頭跡		半裁
SP103	P103	76.14	19.80	*	28	11				S101>SP103		檢出
SP104	P104	76.14	19.78	円形	38	34	40	0.918		柱頭跡 SP345>SP104		半裁
SP105	P105	76.19	19.66	橢円形	39	27	28	0.992		S101>SP105		完滿
SP106	P106	76.16	19.78	橢円形	38	30	43	0.846	▲▲	柱頭跡 SP106>SP308		半裁
SP107	P107	76.06	19.80	円形	30	24				柱頭跡		檢出
SP108	P108	76.06	19.76	*	29	10				柱頭跡		檢出
SP109	P109	76.16	19.98	円形	21	20	33	1.018		柱頭跡		半裁
SP110	P110	76.16	19.94	円形	26	24	29	1.073		柱頭跡		半裁
SP111	P111	76.16	19.90	橢円形	27	22	27	1.083		柱頭跡		半裁
SP112	P112	76.16	19.86	円形	34	31	36	0.950		埋込石1		半裁
SP113	P113	76.16	19.80	橢円形	34	30	28	1.012		柱頭跡		半裁
SP114	P114	76.12	19.80	円形	25	22				SP114>SP341, SP114=S101?		檢出
SP115	P115	76.10	19.94	橢円形	34	25				SP115=SD065?		檢出
SP116	P116	76.10	19.82	円形	20	20						半裁
SP117	P117	76.34	20.16	円形	35	31	29	1.110		柱頭跡 SP117>SD15?		檢出
SP118	P118	76.22	20.22	円形	24	21				SP119=SD16		完滿
SP119	P119	76.30	20.16	橢円形	31	25	56	0.876		SP120>SD67		檢出
SP120	P120	76.14	20.22	円形	20	18				SP121>SD063		檢出
SP121	P121	76.14	20.26	*	29	26				SE05>SP122>SK60+SD63		檢出
SP122	P122	76.14	20.30	*	52	26						檢出
SP123	P123	76.14	20.23	円形	21	19						檢出

No.	標識No.	X	Y	平面形	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	出土物	備考	調査	
SP124	P124	76.14	29.24	円形	44	41							SP124>SP212+SK59	検出	
SP125	P125	76.08	29.30	円形	22	21								検出	
SP126	P126	76.08	29.18	円形	31	30							SP126>SE12+SD69+SD61	検出	
SP127	P127	76.10	29.18	橢円形	22	17							SE04>SP127>SD62	検出	
SP128	P128	76.08	29.16	円形	49	39								検出	
SP129	P129	76.06	29.16	円形	36	36							上西に石1, SP129>SD26	検出	
SP130	P130	76.06	29.12	円形	32	26							SP130>SD64	検出	
SP131	P131	76.08	29.12	円形	18	15								検出	
SP132	P132	76.08	29.12	円形	22	20								検出	
SP133	P133	76.10	29.14	円形	51	47	35	1.006					SP133>SD61+SD64	検出	
SP134	P134	76.26	29.24	円形	20	19								検出	
SP135	P135	76.12	29.16	橢円形	37	27							SK40>SP133>SD26	検出	
SP136	P136	76.14	29.18	円形	31	28								検出	
SP137	P137	76.14	29.16	橢円形	62	54							SP137>SD61+SD66	検出	
SP138	P138	76.26	29.24	円形	42	37							SP138>SD53	検出	
SP139	P139	76.14	29.14	円形	60	52							SP139>SD61+SD64	検出	
SP140	P140	76.14	29.12	円形	26	16								検出	
SP141	P141	76.14	29.12	円形	26	24								検出	
SP142	P142	76.14	29.12	*	22	13							SD02>SP142	検出	
SP143	P143	76.16	29.12	円形	16	14							SD02>SP143	検出	
SP144	P144	76.16	29.12	円形	31	29							SP144>SK49	検出	
SP145	P145	76.04	29.16	円形	28	26							SP145>SD64+SD19+SD63	検出	
SP146	P146	76.06	29.10	円形	29	25							SP146>SD19	検出	
SP147	P147	76.29	29.08	円形	26	26								検出	
SP148	P148	76.29	29.08	*	38	14							SD43>SP148	検出	
SP149	P149	76.29	29.10	橢円形	54	41							SP149>SK49+SK55	検出	
SP150	P150	76.18	29.08	円形	26	25							SP150>SK49	検出	
SP151	P151	76.16	29.08	円形	26	25								検出	
SP152	P152	76.16	29.08	円形	31	30								検出	
SP153	P153	76.16	29.08	円形	22	20								検出	
SP154	P154	76.16	29.08	円形	28	26	18	1.104					底面に石1	発掘	
SP155	P155	76.16	29.04	橢円形	39	31							上面に石1	検出	
SP156	P156	76.16	29.04	円形	20	18								検出	
SP157	P157	76.14	29.06	円形	35	33	32	0.959					柱痕跡	完掘	
SP158	P158	76.28	29.22	円形	21	20								検出	
SP159	P159	76.14	29.10	橢円形	41	34							SP159>SD20	検出	
SP160	P160	76.24	29.06	方形	34	29							SP160>SK18	検出	
SP161	P161	75.12	29.10	橢円形	45	45							SP161>SD20	検出	
SP162	P162	76.24	29.24	橢円形	46	35							柱痕跡 SP162>SP197+SP580, SP162=SD63?	検出	
SP163	P163	76.12	29.08	橢円形	36	30							SP163>SD62+SD49	検出	
SP164	P164	76.19	29.10	橢円形	30	26								検出	
SP165	P165	76.19	29.10	円形	23	21								検出	
SP166	P166	75.08	29.10	橢円形	17	12								検出	
SP167	P167	76.08	29.10	円形	34	32							柱痕跡 上方に石1	検出	
SP168	P168	76.06	29.06	不整橢円形	51	42							SP169>SP168	検出	
SP169	P169	76.08	29.04	橢円形	61	35							SP169>SP168+SD47	検出	
SP170	P170	75.08	29.06	橢円形	53	29								●	
SP171	P171	75.10	29.06	橢円形	46	38							SP171>SD47+SD48	検出	
SP172	P172	76.08	29.02	円形	24	22							SP172>SD63	検出	
SP173	P173	76.10	29.02	円形	22	20							SP173>SP1671	検出	
SP174	P174	75.12	29.00	方形	45	46							SP174>SD41	検出	
SP175	P175	75.12	29.06	円形	20	19							SD47>SP175	検出	
SP176	P176	76.06	29.22	円形	33	33								●	
SP177	P177	76.06	29.20	橢円形	62	31								柱痕跡	検出
SP178	P178	76.04	29.20	橢円形	39	34								検出	
SP179	P179	76.04	29.20	橢円形	37	31								●	
SP180	P180	76.02	29.22	円形	21	20								●	
SP181	P181	76.02	29.22	円形	37	35								●	
SP182	P182	76.02	29.20	円形	19	19								●	
SP183	P183	76.02	29.20	円形	31	29								●	
SP184	P184	76.04	29.18	円形	31	27							SP184>SD63	●	

No	整理No	X	Y	平面形	AB	BC	CD	DA	出土點	備考	測定
SP185	P185	76.06	20.16	橢円形	33	30			SP185>SE12>SD52		檢出
SP186	P186	76.02	20.18	方形	28	27			上面にE11, SP186>SK43		檢出
SP187	P187	76.02	20.16	橢円形	27	21			SP187>SD52		檢出
SP188	P188	76.02	20.14	方形	29	23					檢出
SP189	P189	76.02	20.10	橢円形	34	27			柱痕跡 SP189>SK44		檢出
SP190	P190	76.02	20.08	円形	25	22			SP190>SK49		檢出
SP191	P191	76.06	20.08	*	54	36	56	0.745	SP191>SK59		檢出
SP192	P192	76.26	19.62	円形	35	32			SP192>SE07>SP192		檢出
SP193	P193	76.32	20.08	円形	42	36			SP193>SP210>SD49		檢出
SP194	P194	76.02	20.06	*	31	18			SP194>SD49		檢出
SP195	P195	76.02	20.04	橢円形	22	17			SP195>SD49		檢出
SP196	P196	76.04	20.04	円形	33	31			SP196>SK59>SD14		檢出
SP197	P197	76.24	20.24	円形	35	31			柱痕跡 SP197>SP197>SP580		檢出
SP198	P198	76.04	20.02	橢円形	30	24					檢出
SP199	P199	76.04	20.02	橢円形	21	16			SP199>SD54		檢出
SP200	P200	76.04	20.02	方形	22	20			柱痕跡 SP200>SD54		檢出
SP201	P201	76.06	20.06	円形	34	31			上面に石1, SP201>SK59>SD49		檢出
SP202	P202	76.06	20.00	円形	26	25			SP202>SD41		檢出
SP203	P203	76.08	19.98	不要橢円形	60	59			上面に石4		檢出
SP204	P204	76.10	19.95	円形	26	25			SP204>SD63?		檢出
SP205	P205	76.08	19.94	円形	38	38			柱痕跡 SP205=SD65?		檢出
SP206	P206	76.28	19.64	*	20	8			SP207>SP206>SP206>SK38		檢出
SP207	P207	76.28	19.63	円形	42	39			SP207>SP208>SP208>SK38		檢出
SP208	P208	76.28	19.62	橢円形	57	54			SP209>SP210		檢出
SP209	P209	76.02	20.08	円形	28	24			SP193>SP209>SP210		檢出
SP210	P210	76.02	20.08	不要橢円形	46	39			SP211>SP212>SX01		檢出
SP211	P211	76.12	20.24	*	47	21			SP124>SP211>SP212>SK50>SX01		檢出
SP212	P212	76.14	20.24	*	59	25					檢出
SP213	P213	76.30	20.24	*	63	44			SP214>SK47		檢出
SP214	P214	76.18	19.78	円形	18	16					半歲
SP215	P215	76.18	19.62	方形	69	54	25	1.102	SP216=SK29?		檢出
SP216	P216	76.30	20.14	*	28	17			SD58>SD60>SP217		檢出
SP217	P217	76.22	20.14	*	38	33			SP637>SP218>SP638>SK30>SK31		檢出
SP218	P218	76.35	20.16	橢円形	67	42			柱痕跡 SP243>SP219		檢出
SP219	P219	76.18	19.95	橢円形	53	38	32	1.095			完齋
SP220	P220	76.35	19.90	円形	26	25	7	1.321			半歲
SP221	P221	76.25	19.86	円形	25	22	21	1.216	柱痕跡		檢出
SP222	P222	76.36	19.82	方形	22	18					檢出
SP223	P223	76.36	19.78	円形	22	20			柱痕跡		檢出
SP224	P224	76.22	19.90	円形	36	34	56	0.800			半歲
SP225	P225	76.18	19.96	橢円形	37	29	31	1.014	柱痕跡		半歲
SP226	P226	76.18	19.84	円形	38	32	35	1.011	柱痕跡		半歲
SP227	P227	76.18	19.90	円形	27	23					檢出
SP228	P228	76.18	19.76	円形	38	32	48	0.858	柱痕跡 SP228>SP352		半歲
SP229	P229	76.20	19.66	方形	21	20	59	0.725			半歲
SP230	P230	76.30	19.62	橢円形	23	18	37	0.968			半歲
SP231	P231	76.16	19.64	円形	22	21			SP231>SK58		檢出
SP232	P232	76.12	19.64	方形	23	20	18	1.155	SP270>SP273>SP232		半歲
SP233	P233	76.12	19.60	円形	29	28	26	1.122	柱痕跡		半歲
SP234	P234	76.38	19.80	橢円形	42	38	20	1.177	SP234>SP488>SP489		半歲
SP235	P235	76.38	19.76	円形	39	27	12	1.335			半歲
SP236	P236	76.34	19.80	円形	21	21	46	0.906	柱痕跡 SP237>SD33		半歲
SP237	P237	76.34	19.76	円形	27	27	51	0.926			半歲
SP238	P238	76.30	19.76	橢円形	23	20	44	0.999			半歲
SP239	P239	76.28	19.93	方形	23	22	20	1.219			半歲
SP240	P240	76.28	19.76	方形	22	20	35	1.070			半歲
SP241	P241	76.26	19.98	方形	69	34	42	0.966	柱痕跡		半歲
SP242	P242	76.22	19.98	円形	28	28	34	1.066			半歲
SP243	P243	76.18	19.98	橢円形	46	31	32	1.095	柱痕跡 SP219挖穴		半歲
SP244	P244	76.32	20.10	円形	23	20					檢出
SP245	P245	76.32	20.06	不要橢円形	29	26			柱痕跡		檢出

No	點測定	X	Y	平面形	時	秒	分	時+分+秒	社	出力時間	備考	測定
SP246	P246	76.34	20.02	橢円形	27	23					柱痕跡 上面に石1 SK26>SP246	検出
SP247	P247	76.12	19.72	橢円形	36	20					柱痕跡	検出
SP248	P248	76.24	19.64	方形	34	33	43	0.945	▲		柱痕跡 SP645抜穴 SP248>SP379+SP645	完壁
SP249	P249	76.22	19.68	橢円形	39	22					柱痕跡	検出
SP250	P250	76.24	19.68	円形	33	29	37	0.939	●●		柱痕跡 SP250>SP387+SP389	半裁
SP251	P251	76.14	19.60	橢円形	47	40	46	0.877	●●		柱痕跡	半裁
SP252	P252	76.28	19.64	円形	24	21					SP252>SE07	検出
SP253	P253	76.16	20.00	円形	41	37					SP253>SD040	検出
SP254	P254A	76.08	19.66	*	25	9						
SP255	P255	76.18	19.84	円形	30	28	33	1.019			柱痕跡 SP513抜穴 SP255>SP513	半裁
SP256	P256	76.40	19.62	円形	33	30						検出
SP257	P257	76.32	20.08	円形	27	26	59	0.826	■		柱痕跡 SP257>SP907	完壁
SP258	P258	76.32	20.04	円形	33	27	48	0.933			SP258>SP108	半裁
SP259	P259	76.32	20.00	不整橢円形	37	29	38	1.037			SP259>SP909	半裁
SP260	P260	76.20	19.74	橢円形	26	21					SP423+SD09>SP260	検出
SP261	P261	76.12	19.60	橢円形	20	14						検出
SP262	P262	76.10	19.62	円形	25	24						検出
SP263	P263	76.10	19.62	橢円形	33	24						検出
SP264	P264	76.30	19.62	円形	16	16						検出
SP265	P265	76.10	19.62	円形	19	19						検出
SP266	P266	76.12	19.62	方形	18	16						検出
SP267	P267	76.14	19.60	橢円形	21	15						検出
SP268	P268	76.12	19.62	方形	23	19						検出
SP269	P269	76.12	19.62	方形	27	25					SP269=SP270?	検出
SP270	P270	76.12	19.64	方形	22	19					SP270>SP233 SP270=SP269?	検出
SP271	P271	76.10	19.64	円形	26	26						検出
SP272	P272	76.14	19.62	方形	25	25					上面に石1	検出
SP273	P273	76.12	19.64	方形	18	17					SP273>SP232	検出
SP274	P274	76.12	19.64	橢円形	23	19					SP274=SP275+SP276?	検出
SP275	P275	76.14	19.64	*	12	10					SP275=SP274+SP276?	検出
SP276	P276	76.12	19.64	円形	22	21					SP276=SP274+SP275?	検出
SP277	P277	76.12	19.64	橢円形	20	16						検出
SP278	P278	76.12	19.56	*	22	14						検出
SP279	P279	76.12	19.66	橢円形	22	18						検出
SP280	P280	76.12	19.66	橢円形	18	13					SP280>SP048	検出
SP281	P281	76.10	19.68	不整橢円形	35	19						検出
SP282	P282	76.14	19.62	円形	13	11						検出
SP283	P283	76.14	19.62	方形	7	7						検出
SP284	P284	76.16	19.62	不整形	30	24						検出
SP285	P285	76.16	19.60	円形	28	24						検出
SP286	P286	76.16	19.60	円形	32	22					SP286=SP287?	検出
SP287	P287	76.16	19.60	円形	24	23					SP287=SP286?	検出
SP288	P288	76.16	19.60	橢円形	18	14						検出
SP289	P289	76.14	19.62	不整橢円形	34	18						検出
SP290	P290	76.16	19.62	円形	29	29						検出
SP291	P291	76.14	19.64	*	18	10					SK58>SP291	検出
SP292	P292	76.16	19.64	*	24	16					SK58>SP292	検出
SP293	P293	76.16	19.64	円形	31	26					上面に石1	検出
SP294	P294	76.18	19.60	方形	28	22					SP295>SP294	検出
SP295	P295	76.18	19.56	方形	25	24					SP295>SP294	検出
SP296	P296	76.20	19.60	*	28	12						検出
SP297	P297	76.20	19.60	橢円形	24	19						検出
SP298	P298	76.20	19.62	円形	22	22						検出
SP299	P299	76.18	19.62	方形	23	20						検出
SP300	P300	76.20	19.62	円形	33	30						検出
SP301	P301	76.22	19.66	方形	16	14						検出
SP302	P302	76.18	19.66	円形	16	16						検出
SP303	P303	76.20	19.66	円形	28	24					SP303>SP056	検出
SP304	P304	76.22	19.66	方形	19	18						完壁
SP305	P305	76.22	19.68	円形	19	15						検出
SP306	P306	76.18	19.70	*	40	33					SP976>SP906>SD06	検出

No	整理No	X	Y	平面形	AB	BC	CD	DA	注上部	信号	断点
SP307	P307	76.18	19.68	円形	28	28				SP307>SP072	検出
SP308	P308	76.18	19.68	円形	18	18				SP308>SP072	検出
SP309	P309	76.22	19.72	方形	24	24				SP309>SK01 + SD31	検出
SP310	P310	76.20	19.72	椭円形	32	26					検出
SP311	P311	76.08	19.64	*	22	9					検出
SP312	P312	76.18	19.72	方形	13	13				SP312>SD31	検出
SP313	P313	76.18	19.72	方形	45	39				SP313>SP314, SP313=SD31 ?	検出
SP314	P314	76.18	19.72	*	17	7				SP313>SP314>SD31	検出
SP315	P315	76.18	19.70	円形	29	26				SP315>SD31	検出
SP316	P316	76.16	19.70	円形	18	16				SP316>SD31	検出
SP317	P317	76.16	19.70	*	18	14				SD31>SP317	検出
SP318	P318	76.14	19.70	円形	24	21				SP318>SD08	検出
SP319	P319	78.14	19.70	円形	32	30				SP319>SD31	検出
SP320	P320	76.14	19.72	方形	27	22					検出
SP321	P321	76.12	19.68	円形	26	17	16	1.193		SP321>SE02	交割
SP322	P322	76.10	19.72	円形	26	25				SP322>SE02	検出
SP323	P323	76.08	19.74	円形	23	23					検出
SP324	P324	76.10	19.76	椭円形	26	21				SP325>SP324	検出
SP325	P325	76.08	19.76	椭円形	26	17				SP325>SP324	検出
SP326	P326	76.08	19.78	円形	31	28					検出
SP327	P327	76.08	19.80	円形	23	22					検出
SP328	P328	76.08	19.80	椭円形	24	21				SP328>SP049	検出
SP329	P329	76.08	19.80	方形	21	18					検出
SP330	P330	76.10	19.80	*	19	14					検出
SP331	P331	76.10	19.78	*	33	30				SP331 = SP332 ?	検出
SP332	P332	76.08	19.80	*	37	29				SP332 = SP331 ?	検出
SP333	P333	76.10	19.80	円形	31	29				柱痕跡	検出
SP334	P334	76.10	19.80	*	29	18					検出
SP335	P335	76.12	19.76	方形	23	21					検出
SP336	P336	76.12	19.76	円形	23	21				上面に石1, SP337>SP336	検出
SP337	P337	76.12	19.76	椭円形	28	22				上面に石1, SP337>SP336	検出
SP338	P338	76.12	19.76	椭円形	25	20					検出
SP339	P339	76.12	19.78	椭円形	35	25					柱痕跡
SP340	P340	76.12	19.80	円形	30	27				柱痕跡	検出
SP341	P341	76.12	19.80	円形	20	18				柱痕跡	検出
SP342	P342	76.14	19.80	椭円形	22	15				柱痕跡	検出
SP343	P343	76.14	19.80	円形	18	16				柱痕跡	検出
SP344	P344	76.14	19.78	椭円形	42	30				柱痕跡	検出
SP345	P345	76.14	19.76	方形	20	19				SP345>SP104 + SP346	検出
SP346	P346	76.14	19.76	椭円形	30	22				SP345>SP346	検出
SP347	P347	76.16	19.76	円形	24	23					検出
SP348	P348	76.16	19.78	椭円形	41	32					検出
SP349	P349	76.16	19.80	円形	21	20					検出
SP350	P350	76.16	19.80	円形	35	32					柱痕跡 上面に石1
SP351	P351	76.18	19.80	方形	16	16				SP351>SK47	検出
SP352	P352	76.18	19.76	方形	20	20				柱痕跡 SP228>SP352	検出
SP353	P353	76.22	19.80	不整方形	20	14				SP353>SP354 + SK02	検出
SP354	P354	76.20	19.80	不整椭円形	49	37				SP353 + SK02 > SP354	検出
SP355	P355	76.22	19.78	椭円形	33	26				柱痕跡	検出
SP356	P356	76.20	19.78	円形	23	22				SP356>SD09	検出
SP357	P357	76.22	19.76	方形	39	38	44	0.912		SP359>SP357	検出
SP358	P358	76.22	19.76	円形	22	22					検出
SP359	P359	76.20	19.74	*	47	14				SD09>SP359	検出
SP360	P360	76.20	19.74	円形	28	25					検出
SP361	P361	76.16	19.74	不整方形	27	24				柱痕跡	検出
SP362	P362	76.14	19.72	椭円形	35	29				柱痕跡	検出
SP363	P363	76.20	19.70	円形	26	24				柱痕跡	検出
SP364	P364	76.22	19.64	方形	23	20					検出
SP365	P365	76.22	19.62	椭円形	40	25				SP365>SP366>SP367	検出
SP366	P366	76.22	19.62	椭円形	26	14				柱痕跡 SP366>SP367	検出
SP367	P367	76.22	19.62	椭円形	41	34	50	0.843		柱痕跡 SP366>SP367	平級

No	類別	X	Y	子形	R8	R9	R10	R11	R12	出生地	備考	測定
SP368	P368	76.10	19.78	*	41	28					SP366 + SP106 > SP368, SP368 = SP077 ?	檢出
SP369	P369	76.22	19.68	圓形	38	35						檢出
SP370	P370	76.22	19.74	方形	26	22					SP371 > SP370	檢出
SP371	P371	76.22	19.74	円形	25	22					SP371 > SP370	檢出
SP372	P372	76.14	19.64	方形	16	15					SP372 > SK58	檢出
SP373	P373	76.16	19.66	方形	22	19					SP373 > SK58	檢出
SP374	P374	76.14	19.66	方形	19	19					SP374 > SK58	檢出
SP375	P375	76.10	19.68	方形	25	14	13	1.166			SP375 > SE02	完型
SP376	P376	76.10	19.68	圓形	19	19	8	1.215			SP376 > SE02	光面
SP377	P377	76.10	19.70	方形	22	15	18	1.153			SP377 > SE02	先鋒
SP378	P378	76.24	19.64	圓形	40	34					SP378 = SK06 ?	檢出
SP379	P379	76.24	19.64	圓形	25	13					SP248 + SP645 > SP379	檢出
SP380	P380	76.30	19.62	圓形	23	21					SP380 > SP381 + SK38	檢出
SP381	P381	76.30	19.62	橢圓形	28	23					SP380 > SP381 > SK38	檢出
SP382	P382	76.30	19.64	圓形	26	24					SP382 > SK38	檢出
SP383	P383	76.28	19.64	圓形	19	16					SP383 > SK297	檢出
SP384	P384	76.28	19.66	圓形	25	23					SP384 > SP385 - SK04	檢出
SP385	P385	76.28	19.66	圓形	38	34					SP384 > SP385 + SK04	檢出
SP386	P386	76.24	19.66	圓形	16	16	17	1.320			SP386 > SK03	完型
SP387	P387	76.24	19.68	方形	27	27					SP250 > SP387	檢出
SP388	P388	76.24	19.68	方形	19	17					SP389 > SP388 > SP401	檢出
SP389	P389	76.24	19.68	方形	28	26					SP250 > SP389 > SP388 + SP401	檢出
SP390	P390	76.24	19.70	*	22	12					SD08 > SP390	檢出
SP391	P391	76.26	19.70	圓形	27	24					SP391 > SP098 + SD08	檢出
SP392	P392	76.26	19.70	圓形	40	37					SP024 > SP392 > SD08	檢出
SP393	P393	76.28	19.70	方形	28	23					柱狀跡	檢出
SP394	P394	76.30	19.68	圓形	26	24						檢出
SP395	P395	76.30	19.68	方形	36	24						檢出
SP396	P396	76.30	19.68	圓形	17	15					SP396 > SP397	檢出
SP397	P397	76.30	19.68	圓形	32	26					SP396 > SP397	檢出
SP398	P398	76.32	19.70	圓形	26	21					SP398 > SD34	檢出
SP399	P399	76.32	19.68	圓形	25	23					SP399 = SP400 ?	檢出
SP400	P400	76.32	19.68	圓形	17	17					SP399 = SP400 ?	檢出
SP401	P401	76.24	19.70	方形	40	32					柱狀跡 SP388 + SP389 > SP401	檢出
SP402	P402	76.32	19.66	圓形	30	30						檢出
SP403	P403	76.32	19.64	圓形	26	24						檢出
SP404	P404	76.34	19.62	圓形	24	22						檢出
SP405	P405	76.34	19.64	圓形	29	29					SP405 > SD06	檢出
SP406	P406	76.34	19.70	橢圓形	59	53					SD05 > SP406 > SD06	檢出
SP407	P407	76.34	19.68	橢圓形	64	45					SP407 > SD05 + SD06	檢出
SP408	P408	76.34	19.64	圓形	32	28					SP408 > SD05 + SD06	檢出
SP409	P409	76.36	19.66	圓形	37	34					SP409 > SD05	檢出
SP410	P410	76.36	19.66	圓形	23	22						檢出
SP411	P411	76.36	19.62	圓形	24	22					SP411 > SD06	檢出
SP412	P412	76.35	19.60	圓形	18	16					SP412 > SD06 ?	檢出
SP413	P413	76.36	19.60	圓形	19	18						檢出
SP414	P414	76.36	19.58	圓形	25	25					SP414 > SD05	檢出
SP415	P415	76.38	19.60	圓形	24	22						檢出
SP416	P416	76.38	19.60	圓形	24	23						檢出
SP417	P417	76.40	19.60	不規則圓形	27	18						檢出
SP418	P418	76.38	19.60	橢圓形	32	22						檢出
SP419	P419	76.38	19.60	橢圓形	34	22						柱狀跡
SP420	P420	76.40	19.60	圓形	26	25						檢出
SP421	P421	76.40	19.64	*	47	35						檢出
SP422	P422	76.40	19.66	圓形	24	23						檢出
SP423	P423	76.20	19.74	橢圓形	25	18					SD09 > SP423 > SP260	檢出
SP424	P424	76.36	19.68	橢圓形	39	20					SP424 > SK07	檢出
SP425	P425	76.34	19.68	圓形	21	21					SK07 > SP425	檢出
SP426	P426	76.38	19.68	圓形	24	21						檢出
SP427	P427	76.40	19.68	圓形	14	14						檢出
SP428	P428	76.38	19.68	圓形	24	23					SP428 = SP429 ?	檢出

No.	整理No.	X	Y	平面形	AB	BC	CD	DB-16	EC	出土遺物	備考	調査
SP429	P429	76.38	19.68	円形	25	24				SP429=SP428?		検出
SP430	P430	76.38	19.70	円形	32	31				柱痕跡		検出
SP431	P431	76.38	19.70	円形	34	34						検出
SP432	P432	76.38	19.70	方形	22	22						検出
SP433	P433	76.38	19.70	方形	25	22						検出
SP434	P434	76.38	19.70	円形	19	18						検出
SP435	P435	76.32	19.62	円形	22	21						検出
SP436	P436	76.38	19.72	南北円形	27	21				柱痕跡		検出
SP437	P437	76.38	19.72	方形	27	27				柱痕跡		検出
SP438	P438	76.36	19.74	円形	35	34				SP438>SP439		検出
SP439	P439	76.36	19.74	円形	37	31				SP438>SD07>SP439		検出
SP440	P440	76.36	19.74	*	40	18				SD07>SP440		検出
SP441	P441	76.38	19.74	円形	22	20				SP441>SD07		検出
SP442	P442	76.38	19.76	円形	23	23						検出
SP443	P443	76.36	19.76	円形	27	23						検出
SP444	P444	76.34	19.72	円形	38	35				SP444~SD05?		検出
SP445	P445	76.32	19.72	円形	21	21						検出
SP446	P446	76.39	19.72	円形	32	28				柱痕跡		検出
SP447	P447	76.36	19.72	円形	31	28				上面に(1)		検出
SP448	P448	76.28	19.72	円形	26	26						検出
SP449	P449	76.28	19.72	横円形	27	22						検出
SP450	P450	76.28	19.72	円形	26	23						検出
SP451	P451	76.28	19.74	*	34	24				SD07>SP451		検出
SP452	P452	76.24	19.72	円形	28	28				SP452>SK08		検出
SP453	P453	76.36	19.74	円形	21	21						検出
SP454	P454	76.26	19.74	小盤円形	42	38						検出
SP455	P455	76.32	19.76	*	32	11				SP456>SP455		検出
SP456	P456	76.36	19.76	*	38	14				SP456>SP455		検出
SP457	P457	76.28	19.76	*	37	27				SP018>SP455		検出
SP458	P458	76.28	19.76	円形	22	20				SP018>SP455		検出
SP459	P459	76.26	19.76	円形	24	21				SP018>SP455		検出
SP460	P460	76.24	19.76	円形	31	27				SP018>SP457		検出
SP461	P461	76.24	19.72	円形	19	19						検出
SP462	P462	76.28	19.76	方形	26	23						柱痕跡
SP463	P463	76.24	19.78	円形	22	18						検出
SP464	P464	76.26	19.80	円形	20	19						検出
SP465	P465	76.36	19.80	円形	22	20						検出
SP466	P466	76.28	19.78	横円形	62	38				SP017>SP467		検出
SP467	P467	76.28	19.80	円形	33	28				柱痕跡		検出
SP468	P468	76.26	19.80	円形	33	27				SP469>SK11		検出
SP469	P469	76.26	19.82	方形	32	30						検出
SP470	P470	76.24	19.82	方形	20	16				SP092>SP471		検出
SP471	P471	76.24	19.82	横円形	68	39				SD10>SP472>SK02		検出
SP472	P472	76.22	19.82	*	36	29				SP473>SD10		検出
SP473	P473	76.22	19.82	円形	24	28				SK02>SD10>SP474		検出
SP474	P474	76.22	19.82	*	25	29						検出
SP475	P475	76.26	19.82	方形	30	26				SD10>SP475		検出
SP476	P476	76.22	19.86	円形	22	19				SD10>SP476		検出
SP477	P477	76.22	19.86	円形	28	28				SP478>SP477		検出
SP478	P478	76.22	19.86	横円形	44	32				柱痕跡 SP478>SP477		検出
SP479	P479	76.24	19.86	円形	22	26				柱痕跡		検出
SP480	P480	76.26	19.86	方形	40	32				柱痕跡		検出
SP481	P481	76.26	19.82	円形	36	25				柱痕跡 SP481>SP488		検出
SP482	P482	76.36	19.74	円形	59	56				柱痕跡 上面に(1), SP482>SD07		検出
SP483	P483	76.36	19.82	円形	25	25						検出
SP484	P484	76.30	19.82	*	22	18				SD06>SP484		検出
SP485	P485	76.36	19.84	方形	21	18				SD05>SP485		検出
SP486	P486	76.30	19.86	横円形	19	12						検出
SP487	P487	76.34	19.80	不整規円形	36	18						検出
SP488	P488	76.38	19.80	円形	27	27				SP234>SP488>SP489		検出
SP489	P489	76.38	19.80	横円形	27	24				SP234>SP488>SP489		検出

No	監視No.	X	Y	平面形	規	W	H	規H-W	規	上部物	備考	調査
SP490	P490	76.36	19.84	円形	24	20						検出
SP491	P491	76.36	19.82	円形	33	31						検出
SP492	P492	76.36	19.82	円形	22	21						検出
SP493	P493	76.36	19.82	方形	17	14						柱痕跡
SP494	P494	76.36	19.82	円形	16	15						検出
SP495	P495	76.36	19.84	*	38	15						検出
SP496	P496	76.38	19.86	*	28	15						検出
SP497	P497	76.36	19.86	橢円形	34	28						SP497=SP498?
SP498	P498	76.36	19.86	円形	26	20						上間に石1。SP498>SP497?
SP499	P499	76.36	19.86	円形	19	17						SP499>SP500
SP500	P500	76.36	19.86	円形	26	26						SP499>SP500>SP501
SP501	P501	76.36	19.86	橢円形	55	30						SP500>SP501
SP502	P502	76.36	19.84	円形	18	17						SP502=SP495?
SP503	P503	76.34	19.84	円形	35	33						SP503>SK12
SP504	P504	76.34	19.74	*	37	20						SD07>SP504>SK60+SD05+SD32
SP505	P505	76.18	19.82	円形	23	22						検出
SP506	P506	76.18	19.82	円形	26	24						検出
SP507	P507	76.20	19.82	円形	26	23						検出
SP508	P508	76.18	19.82	方形	27	27						SP508>SP509>SP100
SP509	P509	76.16	19.84	橢円形	30	24						上間に石1。SP509>SP510
SP510	P510	76.16	19.84	方形	22	18						SP509>SP510
SP511	P511	76.16	19.84	*	21	9						SD01>SP511
SP512	P512	76.14	19.86	*	44	14						SM1>SP512
SP513	P513	76.18	19.86	円形	31	28	33	1.019				柱痕跡 SP265>SP513
SP514	P514	76.18	19.86	方形	29	25						SP514>SP515
SP515	P515	76.18	19.86	橢円形	23	22						SP514>SP515>SP499
SP516	P516	76.22	19.86	円形	32	31	55	0.845				柱痕跡
SP517	P517	76.18	19.88	円形	19	19						SK53>SP517
SP518	P518	76.24	20.24	橢円形	41	29						柱痕跡 SP28>SP518>SP519+SP520+SP518+SD63?
SP519	P519	76.14	19.90	方形	21	14						検出
SP520	P520	76.12	19.92	円形	41	40						検出
SP521	P521	76.22	20.24	円形	28	27						上間に石1
SP522	P522	76.22	19.88	橢円形	34	22						検出
SP523	P523	76.26	19.88	円形	34	31						検出
SP524	P524	76.26	19.89	円形	25	23						柱痕跡
SP525	P525	76.24	19.90	円形	24	21						検出
SP526	P526	76.24	19.90	円形	27	26						検出
SP527	P527	76.22	19.90	円形	30	25						検出
SP528	P528	76.24	19.90	橢円形	52	41						SP528>SP529
SP529	P529	76.24	19.90	円形	25	19						柱底跡 SP528>SP529
SP530	P530	76.24	19.90	円形	24	22						検出
SP531	P531	76.24	19.92	円形	35	30						柱痕跡
SP532	P532	76.28	19.98	*	34	27						SD06>SP532
SP533	P533	76.22	19.92	円形	32	31						柱痕跡
SP534	P534	76.36	20.16	橢円形	39	20						SP534>SD16
SP535	P535	76.24	19.92	円形	28	28						柱底跡
SP536	P536	76.24	19.92	円形	17	17						柱底跡
SP537	P537	76.22	19.92	橢円形	23	22						柱底跡
SP538	P538	76.20	19.92	橢円形	65	47						柱底跡
SP539	P539	76.20	19.94	円形	24	23						柱底跡
SP540	P540	76.22	19.94	円形	59	52						柱底跡
SP541	P541	76.24	19.94	円形	33	29						SP541>SP542
SP542	P542	76.24	19.94	円形	33	29						SP541>SP543+SP544>SP542
SP543	P543	76.24	19.94	円形	24	24						SP543>SP542+SP544
SP544	P544	76.24	19.94	円形	24	19						SP543>SP544>SP542
SP545	P545	76.22	19.96	円形	23	23						柱底跡
SP546	P546	76.24	19.96	円形	36	36						SP546>SP547
SP547	P547	76.24	19.98	方形	22	19						SP546>SP547
SP548	P548	76.24	20.00	方形	21	18						SP548>SP549
SP549	P549	76.24	20.00	円形	20	19						SP549>SP548
SP550	P550	76.24	20.03	円形	48	45						柱底跡

N	整理番号	X	Y	平面形	RH	SH	ST	SH+ST	SL	出土場所	備考	調査
SP551	P551	76.22	20.00	円形	32	32				SP553>SP551>SP552		検出
SP552	P552	76.22	20.00	橢円形	47	39				SP551・SP553>SP552		検出
SP553	P553	76.22	20.00	円形	27	27				SP552>SP553>SP551・SP552		検出
SP554	P554	76.22	19.98	円形	20	13				SP555>SP554		検出
SP555	P555	76.22	19.98	円形	26	24				SP556>SP555		検出
SP556	P556	76.22	20.00	橢円形	26	22				底面に石1。SP556>SP552		完掘
SP557	P557	76.22	19.98	円形	20	19				柱痕跡		検出
SP558	P558	76.20	19.98	円形	26	24						検出
SP559	P559	76.20	19.96	*	39	32				SD20>SP559		検出
SP560	P560	76.20	19.98	円形	22	22						検出
SP561	P561	76.18	20.00	円形	22	20						完掘
SP562	P562	76.18	20.00	円形	22	18						検出
SP563	P563	76.14	20.00	円形	21	21						検出
SP564	P564	76.14	20.00	円形	32	32				SP565>SP564>SD41		検出
SP565	P565	76.14	20.00	円形	26	26				SP565>SP564, SP565=SD41?		検出
SP566	P566	76.14	19.98	円形	40	38				上面に石2。SP566>SK17		検出
SP567	P567	76.14	19.98	円形	20	20						検出
SP568	P568	76.24	20.22	円形	28	25						検出
SP569	P569	76.14	19.92	橢円形	66	46				柱痕跡		検出
SP570	P570	76.16	19.92	円形	50	47				柱痕跡 SP570=SD40?		検出
SP571	P571	76.20	19.98	万形	24	22						検出
SP572	P572	76.26	19.88	円形	38	36				柱痕跡		検出
SP573	P573	76.34	20.24	*	53	33				SK46>SP573>SD52		検出
SP574	P574	76.28	19.88	方形	18	18						検出
SP575	P575	76.28	19.88	方形	19	16						検出
SP576	P576	76.28	19.88	*	52	42						検出
SP577	P577	76.26	19.90	円形	38	37						検出
SP578	P578	76.28	19.90	円形	15	14						検出
SP579	P579	76.28	19.84	*	21	21				SD65>SP579, SP579=SK24?		検出
SP580	D69	76.24	20.22	*	46	12				SP162・SP197・SP518>SP580, SP580=SD53?		検出
SP581	P581	76.30	19.90	円形	20	20						検出
SP582	P582	76.30	19.88	不要橢円形	34	36				柱痕跡		検出
SP583	P583	76.32	19.88	橢円形	33	16				SP113>SP583		検出
SP584	P584	76.12	19.68	円形	41	38	26	1.039		柱痕跡 SP584>SP040		半破
SP585	P585	76.36	19.84	円形	32	30				柱痕跡		検出
SP586	P586	76.34	19.96	方形	21	19						検出
SP587	P587	76.36	19.98	橢円形	28	30	28	1.164		柱痕跡 SP005>SP587		検出
SP588	P588	76.36	20.02	*	28	19	29	1.075		SP004>SP588		半破
SP589	P589	76.32	19.98	円形	32	31						検出
SP590	P590	76.28	19.96	円形	17	17						検出
SP591	P591	76.36	19.66	円形	36	35				SP035・SK57>SP591		検出
SP592	P592	76.28	20.06	円形	10	10						検出
SP593	P593	76.28	20.08	円形	13	13						検出
SP594	P594	76.30	20.06	円形	12	11						検出
SP595	P595	76.30	20.06	橢円形	18	9						検出
SP596	P596	76.30	20.06	円形	21	19						検出
SP597	P597	76.28	20.10	円形	24	20						検出
SP598	P598	76.28	20.10	橢円形	27	20						検出
SP599	P599	76.32	20.08	橢円形	62	48						検出
SP600	P600	76.30	20.14	円形	37	35						検出
SP601	P601	76.28	20.14	*	46	14				SK29>SP600		検出
SP602	P602	76.28	20.16	橢円形	56	36				SP601>SD16		検出
SP603	P603	76.30	20.22	円形	30	27				SD17>SP602>SP603・SK31		検出
SP604	P604	76.32	20.20	橢円形	57	44				SP603>SD26		検出
SP605	P605	76.36	20.22	*	17	8				SP604>SD01		検出
SP606	P606	76.10	20.00	円形	25	22				SP606>SD03		検出
SP607	P607	76.38	20.18	*	26	15						検出
SP608	P608	76.32	20.16	円形	20	20				SP609>SD16		検出
SP609	P609	76.32	20.16	円形	36	34						検出
SP610	P610	76.34	20.14	円形	28	28				柱痕跡 上面に石1		検出
SP611	P611	76.36	20.14	橢円形	23	14						検出

No	要項No	X	Y	平面形	幅	高	傾	傾-A	傾	底上端	符号	説明	
SP612	P612	76.36	20.14	方形	16	14						検出	
SP613	P613	76.36	20.12	方形	20	16						検出	
SP614	P614	76.34	20.12	方形	20	23						検出	
SP615	P615	76.34	20.12	円形	23	21						検出	
SP616	P616	76.36	20.12	橢円形	44	22	36	1.065			柱底脚		
SP617	P617	76.32	20.10	橢円形	54	43					柱底脚		
SP618	P618	76.34	20.10	橢円形	34	21					柱底脚		
SP619	P619	76.34	20.08	橢円形	33	19					柱底脚		
SP620	P620	76.36	20.08	円形	32	32					柱底脚	半量	
SP621	P621	76.26	20.00	*	49	26					SK25 + SD05 > SP621		
SP622	P622	76.22	20.22	円形	24	21					SP622 = SK63 ?		
SP623	P623	76.22	20.22	円形	26	24					上面に石		
SP624	P624	76.26	20.04	円形	30	27							
SP625	P625	76.26	20.06	円形	29	27							
SP626	P626	76.26	20.08	円形	26	25							
SP627	P627	76.26	20.10	円形	22	26							
SP628	P628	76.22	20.02	円形	34	34							
SP629	P629	76.22	20.04	円形	19	19							
SP630	P630	76.22	20.04	橢円形	43	33					SP631 > SP630		
SP631	P631	76.22	20.06	橢円形	57	28					SP631 > SP630 - SD46		
SP632	P632	76.22	20.08	円形	32	29					SP632 > SP644 + SD43		
SP633	P633	76.26	20.10	橢円形	58	38					SP633 > SK33 + SK34		
SP634	P634	76.24	20.12	橢円形	31	26					柱底脚		
SP635	P635	76.26	20.14	*	17	11					SD16 > SP635		
SP636	P636	76.24	20.14	橢円形	45	27					SP636 > SK35 + SD16		
SP637	P637	76.28	20.16	円形	44	43					SP637 > SP218 + SP653 + SK31		
SP638	P638	76.26	20.16	橢円形	62	37					SP218 > SP638 > SK35 + SK36 + SD04		
SP639	P639	76.24	20.16	橢円形	48	25							
SP640	P640	76.22	20.14	橢円形	46	21					SP640 = SD06 ?		
SP641	P641	76.22	20.14	円形	32	29					SD06 > SP641		
SP642	P642	76.22	20.20	円形	32	29					SP642 > SD62		
SP643	P643	76.22	19.80	方形	27	21					SP643 > SK02		
SP644	P644	76.22	20.06	*	20	12					SP632 > SP644		
SP645	P645	76.24	19.64	円形	22	20	43	0.945			柱底脚	SD46 > SP645 > SP379	
SP646	P646	76.34	20.24	円形	48	48					SP646 > SK46 + SD50		
SP647	P647	76.32	20.24	*	17	7					SD52 > SP647		
SP648	P648	76.32	20.24	橢円形	51	41							
SP649	P649	76.39	20.24	橢円形	36	29					SP649 = SD62 ?		
SP650	P650	76.28	20.24	方形	26	22					SD63 > SP650		
SP651	P651	76.28	20.22	円形	20	18							
SP652	P652	76.22	20.00	橢円形	48	16					SP656 > SP652 > SK563		
SP653	P653	76.26	20.16	*	36	20					SP602 + SP637 + SD04 + SD17 > SP653, SP653 = SK31 ?		
SP654	P654	76.04	20.00	*	34	24					SD41 > SP654, SP654 = SD42 ?		
SP655	P655	76.36	20.22	*	36	30	1.285						
SP656	P656	76.34	20.16	*	34	23	1.275				SP656 > SK46		
SP657	P657	76.32	20.26	*	39	26							
SP658	P658	76.30	20.26	*	17	16	1.360						
SP659	P659	76.28	20.24	*	39	13	1.430						
SP660	P660	76.06	20.24	*	27	27							
SP661	P661	76.02	20.22	*	19	19							
SP662	P662	76.00	20.20	*	58	58							
SP663	P663	76.00	20.08	*	56	41	1.030				SP663 > SD49		
SP664	P664	76.02	20.06	*	31	40	1.090				SP664 > SD49		
SP665	P665	76.02	20.00	*	93	93							
SP666	P666	76.04	19.32	*	26	26							
SP667	P667	76.04	19.56	*	35	35							
SP668	P668	76.08	19.72	*	26	26							
SP669	P669	76.08	19.64	*	31	35	1.175						
SP670	P670	76.28	19.88	方形	15	13					SP173 + SD63 + SD48 > SP671		
SP671	P671	76.10	20.20	*	48	40							

13. AT95 拡張トレンチ：SD測定調査

トレンチ名	No.	整理No.	検出段	最大幅	最小幅	平均幅	深さ	主軸方位	出土遺物	備考
拡張トレンチ 1	SD01	1-D01	99	46	31	38.5	50	N-76.9'-W	SD01~SD04?	
	SD02	1-D02	86				59	N-77.0'-W	SD03>SD02, SD02=SD04?	
	SD03	1-D03	88	22	18	20	44	N-78.5'-W	SD03>SD02	
	SD04	1-D04	208	42	34	38		N-12.9'-E	SD04=SD01+SD02?	
拡張トレンチ 2	SD01	2-D01	92	45	35	40	38	N-76.9'-W		

14. AT95 拡張トレンチ：SK・SP計測表

トレンチ名	No.	整理No.	X	Y	平面形	北性	傾性	深さ	断面形状	埋土	出土遺物	備考	調査
拡張トレンチ 1	SK01	1-K01	75.94	20.18	*	73	34	1.040			SK01>SP06		
	SP01	1-P01	75.96	20.18	円形	74	66	53	0.740		底面に石3, SP01>SP02	完掘	
	SP02	1-P02	75.96	20.18	*	40	29	75	0.720		底面に石1, SP01>SP02	完掘	
	SP03	1-P03	75.98	20.20	*	24	20				SP04>SP03	検出	
	SP04	1-P04	75.98	20.20	*	36	22				SP04>SP03	検出	
	SP05	1-P05	75.98	20.18	稍円形	19	16					検出	
	SP06	1-P06	75.94	20.18	*	27	23	72	0.760		SK01>SP06	検出	
	SP07	1-P07	75.90	20.18	*	26	24					検出	
拡張トレンチ 2	SP01	2-P01	75.96	19.90	円形	25	24				柱底形状=椭円形、柱底=12.5	検出	

15. AT85 出土遺物計測表

番号	種類	規格	X	Y	高さ	部位	レベル	重量	記録	備考	寸法	
1	漆器	盃	76.12	19.94	上部SA65	埋土	1.405				401	
2	鉄製品	釘	76.10	19.72	上部SA68	埋土	1.419	長5.1, 幅0.4	3.6g		512	
3	土師器	壺	76.14	19.70	上部SA69	埋土	1.418	底[7.0]	ロクロ成形 底面に凹軸を切痕		634	
4	陶器	壺	76.30	19.64	上部SA11	埋土	1.489				864	
5	漆器	楕円鉢			上部SA07	埋土	1.399	底[7.0]	灰釉 台高台 高台底面にトナン底		514	
6	陶器	すり鉢	76.10	19.84	上部SK07	埋土	1.368				402	
7	陶器	すり鉢	76.08	19.84		埋土	1.451				403	
8	陶器	壺	76.08	19.84		埋土	1.350				406	
9	陶器	壺	76.14	20.08	上部SK10	埋土	1.446		陶器IV～V期		414	
10	陶器	すり鉢	76.02	19.90	上部SK03	埋土	1.355		陶器IV～V期		411	
11	鉄製品	釘	76.06	19.88		埋土	1.429	長5.4, 幅1.0	15.6g		413	
12	陶器	すり鉢	76.24	19.66	上部SK15	埋土	1.426		陶器IV～V期		895	
13	鉄製品	釘	76.26	19.66		埋土	1.127	長(3.1), 幅0.6	2.0g		422	
14	陶器	壺	76.24	19.60		埋土	1.335	底[9.0]	透明釉 漆を用いた補修痕		421	
15	近世陶器	すり鉢	76.12	20.18	上部SP32	埋土	1.479		灰釉		392	
16	陶器	すり鉢	76.20	20.32	上部SP30	埋土	1.266		陶器IV～V期		387	
17	漆器	瓶	76.16	19.68	SP42(SH01)	埋土	1.218	底[10.0]	瓶芦中出筋IV期 灰釉 底面にトナン底		778	
18	漆戸	盤	76.18	19.70	SP26(SH01)	埋土	1.217		漆戸後1期～中期 灰釉		794	
19	鉄製品	釘	76.20	19.82	SP26(SH01)	埋土	1.193	長(4.8), 幅0.6	4.6g		823	
20	漆戸	鏡皿	76.24	19.64	SP26(SH02)	埋土	1.091	口[18.0]	漆戸中IV期 灰釉 内面ハケ彫り		808	
21	漆戸	西三川型	76.10	19.74	SP41(SH02)	埋土	1.265		漆戸後1期～江戸期 灰釉 外縁に平行纹織		771	
22	陶器	すり鉢	76.14	19.62	SP51(SH02)	埋土	1.347	口[30.0]	陶器V期 口縁端面に波状文		789	
23	鉄製品	釘	76.14	19.74	SP54(SH02)	埋土	1.299	長(3.5), 幅1.0	6.2g		793	
24	漆戸	小鉢	76.29	19.68	SP56(SH02)	埋土	1.310		内外面磨擦		786	
25	鉄製品	釘	76.10	19.78	SP106(SH05)	埋土	1.150	長(4.5), 幅1.0	8.0g		800	
26	陶器	すり鉢	76.16	19.96	SD03	埋土	1.233		陶器I期		816	
27	青磁	碗	76.32	19.96	SP10(SH06)	埋土	1.393				825	
28	青磁	蓋合せ	76.12	19.68	SP46	埋土	1.322		外縁に鶴巣舟文		785	
29	陶器	壺	76.08	19.80	SP49	埋土	1.340		陶器V期		795	
30	陶器	すり鉢	76.18	19.66	SP50	埋土	1.311	口[30.0]	0.18	陶器IV期		775
31	漆製品	釘	76.16	19.66		埋土	1.226	長(4.8), 幅0.7	5.0g		776	
32	土製品	土鍋	76.12	19.74	SP45	埋土	1.154	長4.3, 幅3.6	45.2g		770	
33	漆戸	折腰深皿	76.10	19.78	SP46	埋土	1.287	口[25.0]	0.04	漆戸中IV期 灰釉		792
34	瓦質土器	火鉢	76.22	19.68	SP249	埋土	1.381				802	
35	陶器	すり鉢	76.14	19.60	SP251	埋土	1.236				806	
36	漆戸	西三川型	76.28	19.64	SP252	埋土	1.337		漆戸後1～中期 灰釉 外縁に平行纹織		798	
37	青磁	碗	76.30	19.74	SP43	埋土	1.369	口[36.0]	0.13	龍泉窯D期 豪文		814
38	陶器	すり鉢	76.22	19.82	SP471	埋土	1.367		陶器IV～V期		874	
39	古鏡		76.40	19.62	SP256	埋土	1.345	径2.4	3.5g(原坂元貢) (1968年) 奈良		605	
40	鉄製品	小札	76.35	20.00	SP48	埋土	1.330	長5.4, 幅3.0	7.4g		824	
41	陶器	すり鉢	76.16	20.00	SP253	埋土	1.306		陶器IV～V期 493と接合		815	
42	鉄製品	刀子	76.18	19.90	SP225	埋土	1.272	長(18.7), 幅2.2	99.8g		822	
43	漆戸	合子	76.04	20.20	SP179	埋土	1.332	底[4.1]	漆戸中I～中期 灰釉		875	
44	白磁	水呑	76.14	19.82	SI01	4層	0.911			頭部	658	
45	漆戸	丸皿	76.08	19.90		4層	0.941	底[3.5]		漆戸中I～中期 灰釉	528	
46	漆戸	花瓶	76.10	19.86		4層	0.833			漆戸中I～中期 陶器内に平行纹織 脊先・心臓部	535	
47	陶器	壺	76.10	19.82		4層	0.928			陶器IV期	667	
48	陶器	壺	76.19	19.82		4層	0.906			陶器IV期	668	
49	陶器	すり鉢	76.10	19.84		4層	0.966	口[28.5]	0.13	陶器IV期	669	
50	鉄製品	釘	76.12	19.90		4層	0.905	口[39.0]	0.05	陶器IV期 口縁端面と内面に波状文 2片接合	659	
51	青磁	碗	76.08	19.90		3層	1.060	底5.6	4.2g		665	
52	陶器	すり鉢	76.12	19.86		3層	1.014	口[29.6]	0.07	陶器IV期 口縁端面と内面に波状文	532	
53	陶器	すり鉢	76.12	19.84		3層	0.954	口[30.0]	0.05	陶器IV期	661	
54	陶器	釘	76.10	19.82		3層	1.032	長3.4, 幅0.4	2.0g		619	
55	鉄製品	釘	76.14	19.86		3層	1.012	長3.4, 幅0.6	2.8g		701	
56	鉄製品	釘	76.12	19.82		3層	1.040	長3.9, 幅0.5	3.6g		616	
57	鉄製品	釘	76.10	19.84		3層	1.025	長(3.2), 幅0.6	5.2g		621	
58	鉄製品	釘	76.10	19.82		3層	0.998	長4.1, 幅0.7	4.0g		618	
59	鉄製品	釘	76.16	19.82		3層	1.027	長(4.3), 幅0.9	9.8g		610	

品名	機種	部機	X	Y	高	幅	耐位	レバーハンドル	法	規	規格	規	規
60	鉄製品	釘	76.12	19.92		3層	0.952	長(6.0)	幅(0.7)	3.8g		655	
61	鉄製品	釘	76.12	19.98		3層	0.952	長(5.2)	幅(0.9)	4.6g		639	
62	鉄製品	釘	76.10	19.90		3層	1.041	長(5.0)	幅(0.7)	4.4g		624	
63	鉄製品	釘	76.12	19.86		3層	1.002	長(6.0)	幅(0.8)	7.4g		700	
64	鉄製品	釘	76.10	19.82		3層	1.061	長(6.0)	幅(0.8)	5.6g		651	
65	鉄製品	釘	76.10	19.90		3層	1.025	長(7.0)	幅(0.5)	3.8g		625	
66	鉄製品	釘	76.06	19.90		3層	1.010	長(3.3)	幅(0.7)	3.4g		666	
67	鉄製品	釘	76.12	19.86		3層	1.002	長(3.0)	幅(0.4)	2.2g		663	
68	鉄製品	釘	76.10	19.90		3層	0.996	長(3.9)	幅(0.8)	2.2g		653	
69	鉄製品	釘	76.10	19.84		3層	1.085	長(4.5)	幅(0.6)	3.4g		612	
70	鉄製品	釘	76.08	19.84		3層	1.036	長(3.8)	幅(0.8)	3.0g		696	
71	鉄製品	釘	76.08	19.84		3層	1.110	長(3.7)	幅(0.7)	12.4g		688	
72	鉄製品	釘	76.10	19.82		3層	1.067	長(5.3)	幅(0.7)	9.2g		613	
73	鉄製品	釘	76.10	19.88		3層	0.970	長(5.4)	幅(0.7)	10.0g		641	
74	鉄製品	釘	76.10	19.84		3層	1.038	長(5.7)	幅(0.7)	6.2g		614	
75	鉄製品	釘	76.12	19.84		3層	1.038	長(4.9)	幅(0.6)	4.6g		632	
76	鉄製品	釘	76.14	19.82		3層	1.054	長(4.6)	幅(0.5)	2.2g		608	
77	鉄製品	釘	76.12	19.86		3層	0.990	長(13.1)	幅(0.9)	31.6g		631	
78	鉄製品	釘	76.08	19.90		3層	0.955	長(21.5)	幅(1.5)	69.2g		692	
79	鉄製品	釘	76.14	19.84		3層	1.053	長(7.0)	幅(1.1)	14.3g		609	
80	鉄製品	釘	76.10	19.84		3層	1.022	長(9.7)	幅(1.0)	14.2g		615	
81	鉄製品	釘	76.14	19.84		3層	1.008	長(15.2)	幅(1.4)	47.6g		629	
82	鉄製品	釘	76.12	19.86		3層	0.968	長(18.6)	幅(1.5)	70.2g		630	
83	内鍵		76.12	19.86		3層	0.954	幅(5.5)		1.4g	天平元寶	(1668年)真書	648
84	青磁	碗	76.08	19.90		2層	1.016	口[15.0]		0.08	龍田窯C1期	外曲に雷文風の縦巻き	529
84	青磁	碗	76.08	19.86		2層	1.063				龍田窯C1期		587
85	青白磁	小升	76.10	19.82		2層	1.145	口[9.0]		0.10	内腹に瓣花状の彫り込み		593
86	龍戸	鉢	76.14	19.84		2層	1.097	口[15.0]		0.03	龍戸後I期	灰釉 内面ハケ塗り	581
87	珠洲	甕	76.14	19.84		2層	1.072						670
88	鉄製品	釘	76.12	19.82		2層	1.160	長(3.5)	幅(0.7)	3.0g		591	
89	鉄製品	釘	76.10	19.82		2層	1.134	長(3.7)	幅(0.7)	2.6g		592	
90	鉄製品	釘	76.14	19.84		2層	1.161	長(5.0)	幅(0.5)	2.2g		584	
91	鉄製品	釘	76.12	19.84		2層	1.098	共(4.5)	幅(0.6)	2.8g		579	
92	鉄製品	釘	76.14	19.82		2層	1.069	長(4.3)	幅(0.8)	4.2g		671	
93	鉄製品	釘	76.08	19.88		2層	1.158	長(6.5)	幅(0.8)	7.0g		589	
94	鉄製品	釘	76.10	19.90		2層	1.111	長(4.1)	幅(1.3)	13.7g		598	
95	鉄製品	釘	76.08	19.84		2層	1.085	長(5.0)	幅(0.8)	5.8g		520	
96	鉄製品	釘	76.10	19.86		2層	1.066	長(6.3)	幅(0.7)	5.5g		695	
97	鉄製品	釘	76.10	19.82		2層	1.117	長(5.9)	幅(0.7)	7.6g		672	
98	鉄製品	釘	76.08	19.88		2層	1.017	長(16.4)	幅(1.7)	39.8g		693	
99	中国	天目茶碗	76.08	19.84		1層	1.281	口[12.0]		0.05	鐵物		675
100	青磁	甕	76.08	19.86		1層	1.264						536
101	龍戸	大日茶碗	76.10	19.82		1層	1.209	口[12.0]		0.05	龍戸後I期	灰釉	534
102	龍戸	平鏡	76.12	19.86		1層	1.344	口[16.0]		0.07	龍戸中IV～後I期	灰釉	539
103	龍戸	平鏡	76.14	19.84		1層	1.201	口[16.0]		0.10	龍戸後I期	灰釉	566
104	龍戸	平鏡	76.14	19.84		1層	1.219	口[16.0]		0.03	龍戸後I～II期	灰釉	555
105	龍戸	平鏡	76.08	19.88		1層	1.225	口[16.0]		0.01	龍戸後II期	灰釉	684
106	龍戸	平鏡	76.10	19.86		1層	1.350				龍戸後I～II期	灰釉	678
107	龍戸	小壺	76.14	19.82		1層	1.161				龍戸I～II期	灰釉 二次被熱	600
107	龍戸	小壺	76.12	19.82		1層	1.199				龍戸I～II期	灰釉 二次被熱	676
108	龍戸	盤	76.14	19.86		1層	1.266				龍戸I～II期	灰釉	531
109	折縁深皿	76.08	19.86		1層	1.214	口[20.0]		0.05	龍戸中IV期	灰釉	567	
109	折縁深皿	76.08	19.86		1層	1.229				龍戸中IV期	灰釉	566	
110	龍戸	折縁深皿	76.10	19.90		1層	1.387	口[15.0]			龍戸後I～II期	灰釉 内面ハケ塗り	517
111	龍戸	鉢	76.08	19.88		1層	1.215				龍戸中IV～V期	灰釉 平行比線	526
112	龍戸	四(三)葉蓋	76.10	19.84		1層	1.200				龍戸後I～II期	灰釉 平行比線	713
113	龍戸	瓶子	76.08	19.88		1層	1.153				龍戸後I～II期	灰釉 平行比線 二次被熱	691
114	龍戸	直蓋	76.12	19.86		1層	1.335				龍戸IV～V期		525
115	波瀬	波瀬	76.10	19.82		1層	1.247				波瀬IV～V期		594
116	波瀬	すり鉢	76.10	19.88		1層	1.260	口[30.0]		0.02	波瀬IV期		527
117	波瀬	すり鉢	76.14	19.82		1層	1.165	口[30.0]		0.04	波瀬IV期		599
118	波瀬	すり鉢	76.12	19.84		1層	1.254						541
119	波瀬	すり鉢	76.12	19.82		1層	1.188						536

番号	種類	特徴	X	Y	遺 跡	部位	長さ	幅	高さ	圖 号	割合
120	鉄製	すり鉢	76.10	19.86		1層	1.155				682
121	鉄製	すり鉢	76.10	19.90		1層	1.387			珠洲IV～V期	516
122	鉄製	すり鉢	76.10	19.90		1層	1.198			珠洲IV～V期	573
123	瓦質土器	風炉	76.10	19.86		1層	1.277			体部に透かし窓	714
124	瓦質土器	風炉	76.12	19.82		1層	1.203				537
125	漆器系	漆	76.10	19.84		1層	1.301				712
126	土器器	皿	76.12	19.88		1層	1.284	□[14.0]	0.02		524
127	土器器	土鍋	76.12	19.90		1層	1.220	長(1.6), 幅(3.7)		珠洲IV～V期	572
128	鉄製品	釘	76.14	19.86		1層	1.211	長(3.1), 幅(0.5)		珠洲IV～V期	551
129	鉄製品	釘	76.14	19.82		1層	1.304	長(4.0), 幅(0.5)		体部に透かし窓	714
130	鉄製品	釘	76.12	19.90		1層	1.269	長(5.0), 幅(0.8)			537
131	鉄製品	釘	76.12	19.90		1層	1.356	長(4.0), 幅(0.6)			712
132	鉄製品	釘	76.12	19.84		1層	1.234	長(4.6), 幅(0.7)			518
133	鉄製品	釘	76.14	19.84		1層	1.217	長(7.0), 幅(0.8)			549
134	鉄製品	釘	76.16	19.82		1層	1.263	長(6.6), 幅(0.7)			561
135	鉄製品	釘	76.12	19.84		1層	1.248	長(4.9), 幅(0.7)			564
136	鉄製品	釘	76.08	19.90		1層	1.185	長(5.5), 幅(0.6)			563
137	鉄製品	釘	76.10	19.88		1層	1.143	長(6.2), 幅(0.7)			571
138	鉄製品	釘	76.10	19.84		1層	1.208	長(6.7), 幅(0.6)			674
139	鉄製品	釘	76.10	19.82		1層	1.146	長(5.9), 幅(1.3)			597
140	鉄製品	釘	76.14	19.82		1層	1.273	長(6.7), 幅(1.2)			546
141	鉄斧		76.12	19.86		1層	1.224	長(6.2), 幅(5.0)			552
142	鉄斧		76.10	19.90		1層	1.277	長(6.9), 幅(5.7)			554
143	鉄斧		76.06	19.88		1層	1.266	長(5.3), 幅(3.0)			690
144	鉄斧		76.10	19.82		1層	1.203	長(4.3), 幅(2.4)			596
145	銅製品	不明	76.10	19.84		1層	1.294	長(2.8), 幅(1.7)		4.8g 2ヶ所に穿穴	549
146	古鏡		76.08	19.88		1層	1.222	長(2.6)		1.6g 「光景通寶」(1078年)行書	686
147	珠洲	すり鉢	76.12	19.84	SI-P5		0.873	Li[25.0]	0.06	珠洲Ⅳ期	709
148	鉄製品	釘	76.10	19.85	SI-P8		1.977	長(5.2), 幅(0.4)			693
149	漆器系	漆	76.08	19.88	SE10	本層	0.546				769
149	漆器系	漆	76.08	19.88		木層	0.553				761
150	木製品	箸				埋土		長21.6, 幅0.7			876
151	木製品	箸				埋土		長10.6, 幅0.8			877
152	漆器系	漆	76.06	20.12	SID04	埋土	1.158			Jトレンチ	873
153	土器器	土鍋	76.16	20.10	SD02+SD49	埋土		長(4.9), 幅(3.5)		Kトレンチ 69.4g	835
154	石製品	砾石	76.16	20.10	SD02	埋土		長(5.7), 幅(5.1)		Kトレンチ 62.8g	836
155	白磁	碗	76.10	20.08	SD02	埋土	1.016			Lトレンチ	834
156	青磁	盤	76.34	19.76	SD09	埋土	1.441	□[25.0]	0.07	内面に彫書きによる沈線	748
157	漆器系	漆	76.14	20.06	SD12	埋土	1.192			外側に押印文 2片兼合	833
158	土器器	皿	76.20	19.76	SD09	埋土	1.331	□[14.0]	0.04	手づくね成形 2片兼合	767
159	瓦質土器	火鉢頭	76.20	19.78	SD09	埋土	1.323				758
160	漆器系	漆	76.20	19.78		埋土	1.308				765
161	漆器系	漆	76.20	19.78		埋土	1.306	□[30.0]	0.04	珠洲IV期	766
162	鉄製品	釘	76.24	19.74	SD07	埋土	1.325	長(4.3), 幅(0.5)		3.0g	811
163	窓戸	西耳痘	76.20	20.22	SD24	埋土	1.483			窓戸前Ⅱ期 氷輪 129と兼合	830
164	窓戸	窓	76.12	20.02	SD29	埋土	1.322				832
165	瓦質土器	杏伊	76.12	19.70	SE02	2階	1.338	底(5.0)		底部に彫書き初段 321と兼合	722
166	珠洲	すり鉢	76.10	20.20	SE04	2階	0.707	□[30.0]	0.07	珠洲Ⅳ期	728
167	土器器	皿	76.08	20.18		8階	1.075	□[14.0]	0.01	手づくね成形	727
168	鉄製品	釘	76.08	20.18		埋土	1.418	長(3.1), 幅(0.6)		3.2g	726
169	石製品	砾?	76.10	20.18		12階	0.850	長(8.7), 幅(3.3)		82.8g	729
170	窓戸	縦横小窓	76.12	20.20	SE05	埋土	1.465	□[10.0]	0.06	窓戸後Ⅲ期 氷輪	730
170	窓戸	縦横小窓	76.12	20.22		埋土	1.455	□[10.0]	0.03	窓戸後Ⅲ期 氷輪	732
171	窓戸	窓	76.14	20.22		埋土	1.135			珠洲Ⅴ～Ⅵ期	733
172	漆器系	漆	76.12	20.22		埋土	1.345	長(3.8), 幅(0.7)		3.8g	734
173	漆器系	漆	76.12	20.22		埋土	1.457	長(6.3), 幅(1.0)		12.6g	731
174	珠洲	窓	76.28	19.66	SE07	埋土	1.395			珠洲IV～V期	742
175	珠洲	窓	76.28	19.64		1層	1.166	底[11.0]		珠洲IV～V期 底面に巻き初段 321と兼合	745
176	珠洲	すり鉢	76.28	19.64		1層	1.262			珠洲IV～V期	744
177	珠洲	すり鉢	76.28	19.64		埋土	1.348	Li[30.0]	0.12	珠洲IV～V期	743
178	珠洲	すり鉢	76.28	19.64		2階	0.878	□[30.0]	0.09	珠洲IV～V期	747
179	漆器系	窓	76.28	19.64		1層	1.124			外側に押印文と墨田文 内面に黑色の付着物	746
						埋土	1.410				741

番号	種類	第號	X	Y	道	機	層位	レベル	法	期	測定数	圖	期	
180	珠寶	斐	76.30	19.78	SE09		1層	1.392				珠寶IV～V期	756	
181	珠寶	すり鉢	76.32	19.78			埋土	1.346				珠寶IV～V期	749	
182	珠寶	すり鉢	76.30	19.80			3層	1.075	高[15.0]			珠寶IV～V期	751	
183	石製品	砥石	76.30	19.78			4層	0.998	長(4.6), 幅2.7	13.4g			757	
184	石製品	斐	76.30	19.78			6層	0.857	□[40.0]	6.03	内部に墨色の付着物		759	
185	青磁	高麗青磁	76.34	19.78	SK16		口層	1.056	□[6.0]	9.25			754	
186	委焉系	斐	76.34	19.78			口層	1.219					753	
187	珠寶	すり鉢	76.34	19.78			口層	1.035	□[30.0]	0.06			766	
188	土製品	土瓶	76.32	19.78			ハ別	1.273	長(2.5), 幅[3.8]	19.2g			756	
189	青磁	瓶	76.32	19.78	SX51		埋土	1.316	□[15.0]	6.01	高麗青磁口瓶 無文		752	
190	鉄製品	釘	76.06	20.04	SE12		埋土	1.400	長6.0, 幅0.9	10.0g			762	
191	白磁	瓶	76.16	19.66	SK58		埋土	1.272	□[9.0]	9.05	白磁口瓶 331と接合		720	
192	不明磁器	瓶	76.16	19.68			3層	1.158					715	
193	磁器	緑釉小皿	76.14	19.64			1層	1.261	□[10.0]	0.05	緑釉口瓶 底脚		718	
194	委焉系	甕	76.16	19.66			4層	1.166					717	
195	珠寶	すり鉢	76.16	19.66			3層	1.207				珠寶IV～V期 482と接合	721	
196	珠寶	甕	76.14	19.66			1層	1.158				珠寶IV～V期	716	
197	珠寶	すり鉢	76.14	19.66			埋土	1.350	□[27.0]	0.10	珠寶IV期 342と接合		719	
198	珠寶	すり鉢	76.32	19.92	SK22		埋土	1.419	□[30.0]	9.03	珠寶皿		735	
199	珠寶	すり鉢	76.32	19.92			1層	1.256				珠寶IV～V期	738	
200	珠寶	すり鉢	76.32	19.94			1層	1.147	高[11.0]			珠寶IV～V期 表面に浮き物 内面に炭化物	737	
201	珠寶	クロロ盤	76.32	19.92			6層	1.077				珠寶IV～V期	739	
202	石製品	砥石	76.32	19.92			埋土	1.340	長7.0, 幅2.3	41.6g			740	
203	鉄製品	釘	76.32	19.94			1層	1.133	長16.0, 幅1.0	36.6g			736	
204	古錢		76.28	19.90	SX23		埋土					古錢	878a	
204	古錢		76.28	19.90			埋土					66.2g 27枚	878b	
204	古錢		76.28	19.90			埋土					49.4g 15枚	878c	
204	古錢		76.28	19.90			埋土					47.4g 枚数不明	878d	
205	瓦質土器	灰炉	76.24	19.72	SK08		埋土	1.245				瓦質灰炉 体側に通かし窓 605と接合	804	
206	白磁	瓶	76.26	20.18	SK37		埋土	1.412	□[10.0]	0.12	白磁口瓶		829	
207	珠寶	すり鉢	76.16	19.98	SK63		埋土	1.038	□[30.0]	0.05	珠寶IV期		817	
208	委焉系	甕	76.16	19.98			埋土	1.184				外表面自然物	818	
209	委焉系	甕	76.16	19.98			埋土	1.177				外表面自然物	819	
210	鉄製品	釘	76.12	20.22	SX01		埋土	1.345	長(5.2), 幅0.7	4.4g			831	
210	鉄製品	釘	76.14	20.24			1層	1.300	長5.7, 幅0.7	9.4g			869	
211	鐵戸	平板			藍塗トレンチ1				□[16.0]	0.08	鐵戸後1期 鉄戸 二次鍛熱		857	
212	肥前系	小皿							□[9.0] 高[1.5] 幅[3.0]	0.21			858	
213	白磁	皿	75.98	20.20	私-SF01		6層	1.037	□[10.0]	0.04	白磁口皿		845	
214	珠寶	すり鉢	75.96	20.20			3層	1.129				珠寶IV期	846	
215	青磁	碗	76.20	19.86			1層	1.469	□[15.0]	0.05	龍泉窯B1期 外面に網目弁文		142	
216	青磁	碗	76.08	19.80			埋土	1.502	□[16.0]	0.07	龍泉窯B1期 外面に網目弁文		495	
217	青磁	碗	76.18	19.80			1層	1.588	□[15.0]	0.06	龍泉窯D期 無文		221	
218	青磁	碗	76.08	20.02			1層	1.398	□[16.0]	0.05	龍泉窯D期 無文		233	
219	青磁	碗	76.14	19.76			1層	1.471	□[15.0]	0.03	内面に直線模様 外面は無文		317	
220	青磁	碗	76.06	20.08			1層	1.416	□[15.0]	0.04	龍泉窯D期 無文		211	
221	青磁	碗	76.12	19.86			1層	1.473	□[15.0]	0.06	龍泉窯D期 無文		243	
222	青磁	碗	76.18	20.02			1層	1.499	□[15.0]	0.06	龍泉窯D期 無文		235	
223	青磁	碗	76.36	20.12			1層	1.863	□[16.0]	0.07	龍泉窯D期 無文		010	
224	青磁	碗	76.12	20.02			1層	1.399	□[15.0]	0.15	龍泉窯D期 無文		492	
225	青磁	碗	76.24	20.22			1層	1.515	□[15.0]	0.10	龍泉窯D期 無文		488	
226	青磁	碗	76.06	20.14			1層	1.551	□[15.0]			龍泉窯D期 無文		122
227	青磁	碗	76.26	19.62			1層	1.626	底[5.0]			内底・高台内を輪刺ぎ		199
228	青磁	碗	76.28	19.62			埋土	1.599	底[6.0]			高台内を輪刺ぎ		853
229	青磁	碗	76.34	19.98			1層	1.469	底[7.5]			内底に印花文 高台内を蛇の目輪刺ぎ		330
230	青磁	碗	76.26	19.68			1層	1.654	□[30.0]	0.01	159と接合		285	
231	青磁	碗	76.26	19.68			1層	1.541	□[30.0]	0.03			178と接合	178
232	青磁	碗	76.12	19.84			1層	1.514	□[30.0]	0.03			157と接合	157
233	青磁	碗	76.26	19.72			1層	1.514	□[30.0]	0.03			178と接合	159
234	青磁	碗	76.14	19.80			1層	1.509	底[12.0]				底部施釉	327
235	青磁	碗	76.38	19.72			1層	1.605	底[12.0]				底部施釉	486
236	青磁	小瓶	76.20	19.89			1層	1.338	□[7.0]	0.18				463
237	白磁	皿	76.26	19.74			1層	1.550	□[10.0]	0.06	白磁口皿		165	
238	白磁	皿	76.18	19.66			1層	1.458	□[10.0]	0.04	白磁口皿		219	

番号	機器	器物	X	Y	道	類	部位	レベル	法	數	個体数	備考	登録
239	白磁	皿	76.24	19.84	I層	1.611	高[3.5]		白磁皿D群		923		
240	白磁	碗	76.16	20.18	I層	1.609	底[5.5]				118		
241	白磁	碗	76.62	20.06	I層	1.514	口[16.0]	0.05	白磁碗C群		989		
242	白磁	碗	76.36	20.20	I層	1.693	口[15.0]	0.05	白磁碗C群		997		
243	窓戸	天目茶碗	76.18	20.12	皿盤	1.575	口[12.0]	0.06	窓戸後I期 灰釉		487		
244	窓戸	天目茶碗	75.30	19.64	I層	1.719	口[12.0]	0.04	窓戸中IV期 灰釉		196		
245	窓戸	天目茶碗	76.16	20.18	I層	1.645	口[12.0]	0.05	窓戸中IV期 灰釉		642		
246	窓戸	天目茶碗	76.28	19.62	I層	1.722	底[4.5]		窓戸後II期 灰釉 花形		194		
247	窓戸	平碗	76.30	19.84	I層	1.589	口[15.0]	0.06	窓戸後I期 灰釉		126		
248	窓戸	平碗	76.10	19.64	II層	1.650	口[15.0]	0.08	窓戸後II期 灰釉 二次被熱		300		
249	窓戸	平碗	76.10	19.60	II層	1.575	口[15.0]	0.06	窓戸後II期 灰釉 二次被熱		793		
250	窓戸	平碗	76.28	20.18	I層	1.646	口[16.0]	0.04	窓戸後I期 灰釉		635		
251	窓戸	平碗	76.25	19.72	II層	1.459	口[18.0]	0.03	窓戸後I期 灰釉		426		
252	窓戸	平碗	76.38	19.74	II層	1.704	口[16.0]	0.07	窓戸後II期 灰釉		329		
253	窓戸	丸皿	75.36	19.50	皿盤	1.439	口[10.0] 底[2.0]		窓戸中Ⅳ～Ⅴ期 灰釉 409-410と接合		501		
254	窓戸	織物小皿	76.24	20.20	I層	1.900	口[11.0]	0.07	窓戸後I～II期 灰釉		604		
255	窓戸	織物小皿	76.34	20.24	I層	1.769	口[10.0]	0.10	窓戸後II～III期 灰釉		104		
256	窓戸	織物小皿	76.28	19.66	皿盤	1.563	口[9.0]	0.10	窓戸中Ⅳ～Ⅴ期 灰釉		476		
257	窓戸	輪花中皿	76.12	19.62	II層	1.536	口[12.0]	0.08	窓戸後I～II期 灰釉		305		
258	窓戸	輪花中皿	76.36	20.20	I層	1.778	口[25.0]	0.04	窓戸中IV期 灰釉		631		
259	窓戸	圓形大皿	76.32	19.90	I層	1.650	口[30.0]	0.02	窓戸後IV期(古) 灰釉		139		
260	窓戸	圓形大皿	76.20	19.70	皿盤	1.476	口[30.0]	0.06	窓戸後II期 灰釉		508		
261	窓戸	直邊大皿	76.30	19.66	II層	1.548	口[30.0]	0.02	窓戸後II期 灰釉 二次被熱		308		
262	窓戸	草字花瓶	76.36	19.68	皿盤	1.478			窓戸中Ⅳ～Ⅴ期 I期 灰釉		569		
263	窓戸	本波	76.00	20.34	II層	1.518			窓戸後I～II期 灰釉		202		
264	窓戸	陶瓶	76.36	19.60	II層	1.514	口[5.0]	0.12	窓戸後I～II期 灰釉		350		
265	窓戸	獨台	76.06	20.22	II層	1.584			窓戸後II～III期 灰釉		216		
266	窓戸	獨台青瓷	76.36	19.64	II層	1.615	口[31.0]	0.05	窓戸I～II期 灰釉 平行纹縞 二次被熱		345		
267	珠洲	すり鉢	76.15	20.06	I層	1.441	口[32.0]	0.03	珠洲I～II期		694		
268	珠洲	すり鉢	76.12	19.74	II層	1.476	口[32.0]	0.10	珠洲III～IV期前半 467と接合		323		
269	珠洲	すり鉢	76.20	20.12	I層	1.531	口[32.0]	0.07	珠洲III～IV期前半		109		
270	珠洲	すり鉢	76.18	20.10	I層	1.490	口[38.0]	0.05	珠洲III～IV期前半		986		
271	珠洲	すり鉢	76.28	20.24	I層	1.731	口[32.0]	0.10	珠洲IV期後半		851		
272	珠洲	すり鉢	76.36	20.04	I層	1.545	口[30.0]	0.04			128		
273	珠洲	すり鉢	76.04	19.95	III層	1.458	口[30.0]	0.06	珠洲V期 口縁端に波状文 489と接合		489		
274	珠洲	すり鉢	76.34	20.02	I層	1.501	口[30.0]	0.10	珠洲IV～V期		673		
275	珠洲	すり鉢	76.24	19.64	I層	1.672	口[30.0]	0.04	珠洲IV～V期		185		
276	珠洲	すり鉢	76.02	20.18	II層	1.562	口[30.0]	0.10	珠洲V期 口縁端に波状文 363と接合		362		
277	珠洲	すり鉢	76.28	20.24	I層	1.731	口[30.0]	0.07	珠洲V期 口縁端に波状文 内面に格子文		933		
278	珠洲	甌			口	[38.0]		0.13	珠洲V期		852		
279	姿器系	甌	76.26	19.68	I層	1.580	口[42.0]	0.04			176		
280	姿器系	すり鉢	76.28	19.64	I層	1.761	口[31.0]	0.05			193		
281	瓦質土器	火鉢	76.02	20.08	II層	1.377	口[40.0]	0.10	方形多環文		364		
282	瓦質土器	火鉢	76.36	20.02	I層	1.548	底[27.0]				130		
283	瓦質土器	火鉢	76.22	19.64	III層	1.391					506		
284	瓦質土器	火鉢	76.24	20.22	I層	1.713					105		
285	肥前系	鐵付皿	76.32	19.80	I層	1.526	口[15.0]	0.01	透明釉		149		
286	肥前系	皿か蓋	76.24	20.10	II層	1.422	底[7.0]		鉄物		225		
287	肥前系	鐵付皿	76.04	20.18	I層	1.712	口[11.0]	0.09	透明釉		947		
288	肥前系	きゅうす	76.34	19.90	I層	1.410	口[7.0]	0.10	鉄物		826		
289	肥前系	すり鉢	76.22	20.06	I層	1.675	口[25.0]	0.05	鉄物		613		
290	古鏡				III層	1.415	底[2.6]		3.0kg「東永鑑定」		493		
291	古鏡		76.16	20.12	I層	1.576			1.2kg「東永鑑定」		661		
292	鉄製品	釘	76.17	20.22	III層	1.375	長(4.5),幅0.6	3.8g			871		
293	鉄製品	釘	76.08	19.68	III層	1.335	長(5.3),幅0.7	6.8g			838		
294	鉄製品	釘	76.16	20.24	III層	1.420	長(7.0),幅1.0	18.2g			868		
295	鉄製品	釘	76.28	19.72	I層	1.562	長9.0,幅1.0	26.4g			157		
296	鉄製品	くさび	76.02	20.10	I層	1.534	長17.0,幅1.2	26.2g			651		

16. AT95 出土遺物集計表

<中世陶磁器>

種類	器種	破片数/個体数	破片数/個体数	破片数/個体数
青磁	碗 R型	1/0 (* %)		
	丁型	13/0 (* %)		
	瓶	27/0.11 (5.1%)	137/2.34 (44.4%)	
	壺	10/0 (* %)		
白磁	すり鉢	86/2.03 (94.9%)		
	天目	9/0.24 (9.9%)		
中国	平鍋	16/0.81 (33.4%)		
	漆桶小皿	6/0.36 (14.8%)		
	丸皿	4/0.32 (13.2%)		
	輪花中皿	1/0.08 (3.2%)		
	折縁小皿	2/0.1 (4.1%)		
	折縁深皿	5/0.13 (5.4%)		
	直縁大皿	1/0.03 (1.2%)		
	直縁	10/0 (* %)		
	皮袋	6/0 (* %)	114/2.43 (56.4%)	
	扇子	25/0.12 (4.9%)		
高麗	鉢	3/0.03 (1.2%)		
	如意大皿	3/0.1 (4.1%)		
	柄付片口	1/0 (* %)		
	花瓶	4/0.07 (2.9%)		
	香炉	1/0.04 (1.6%)		
	合子	1/0 (* %)		
	水滴	1/0 (* %)		
磁州	壺	1/0 (* %)		
	不明	14/0 (* %)		
委器系	壺	29/0.07 (4.6%)	29/0.07 (1.4%)	
	瓦質土器	18/0.1 (100.0%)	20/0.1 (2.1%)	
上越器	火鉢	2/0 (* %)		
	香炉	6/0.08 (100.0%)	7/0.08 (1.7%)	
青磁	不明	1/0 (* %)		
	青磁	56/1.29 (16.3%)		
	盤	7/0.15 (8.9%)	65/1.69 (72.2%)	
	壺	1/0 (* %)		
白磁	香炉	1/0.25 (14.8%)		
	碗	8/0.11 (22.9%)		
	皿	16/0.37 (77.1%)	25/0.48 (20.5%)	
磁	水注	1/0 (* %)		
	青白磁	小杯	1/0.1 (100.0%)	1/0.1 (4.3%)
中國	天目	2/0.07 (100.0%)	2/0.07 (3.0%)	
	合計			480/7.16 (100.0%)

個体数は全て口縁部計測法(宇野1992)による

＊は存在するが、個体数の比率が数値として表れないもの

調査面積 568.5m²/一箇所の遺構を半載・完結

<近世陶磁器>

種類	器種	破片数/個体数	破片数/個体数
肥前系	碗	27/0.26 (36.6%)	
	皿	10/9.3 (42.3%)	
	瓶	2/0.1 (14.1%)	46/0.71 (76.3%)
	すり鉢	1/0.05 (7.0%)	
近世織部	不明	6/0 (* %)	
	碗	1/0 (* %)	
	皿	1/0.08 (100.0%)	3/0.08 (8.6%)
近世海番	不明	1/0 (* %)	
	碗	7/0.01 (7.1%)	
	皿	2/0 (* %)	
	壺	2/0.08 (57.2%)	
近世海番	瓶	2/0 (* %)	41/0.14 (15.1%)
	すり鉢	3/0.05 (35.7%)	
	不明	8/0 (* %)	
	合計	16/0	96/0.93 (100.0%)

<その他>

種類	器種	破片数/g	破片数/g
鉄製品	釘	66/ 573.2	
	鍵	6/ 272.8	
	くさび	1/ 28.2	
	小札	3/ 7.6	236/2870.2
	刀下	1/ 99.0	
	鉄摩	6/ 185.6	
陶製品	小判	153/1701.6	
	古銭	13/ 4.6	13/ 4.6
	木製品	2	2
	土器	5	5
	石製品	4	4
合計	合計	29	262/2875.6

17. AT95 出土貿易陶磁一覧表

種類	器種・分類	破片数/個体数	破片数/個体数
青磁	龍泉窯 B 1 種	5/0.12(7.1%)	65/1.69(72.2%)
	龍泉窯 C 1 種	1/0.08(4.7%)	
	龍泉窯 D 種	11/0.83(49.1%)	
	小瓶	1/0.18(10.7%)	
	碗不明	38/0.08(4.7%)	
	盤	7/0.15(8.9%)	
白磁	盤	1/0(* %)	25/0.48(26.5%)
	香炉	1/0.25(14.8%)	
	白磁皿 C 群	2/0.11(22.9%)	
白磁	白磁皿不明	6/0(* %)	
	白磁皿 D 群	6/0.32(66.7%)	
	白磁皿不明	10/0.05(10.4%)	
青白磁	水注	1/0(* %)	1/0.1(100.0%)
	小杯	1/0.1(100.0%)	
	中國 天目	2/0.07(100.0%)	
合 計		93/2.34(100.0%)	

18. AT95 出土珠洲一覧表

種類	I期	II期	III期	IV期	V期	不明	合 計
壺	R			0.5 (0)	0.5 (0)	1 (0)[* %]	(0.0)[* %]
	T			2.5 (2)	0.5 (0)	10 (0)[* %]	
甕				2 (0)	3 (0.11)	22 (0.11)[5.1%]	
壺				1.5 (0)	2.5 (0)	6 (0)[* %]	
すり鉢	1.5 (0.01)	1.5 (0.07)	4 (0.21)	22 (1.06)	14 (0.51)	43 (0.15)	86 (2.63)[94.9%]
合計	1.5 (0.01)	1.5 (0.07)	4 (0.21)	28.5 (1.08)	20.5 (0.62)	81 (0.15)	137 (2.14)[100.0%]

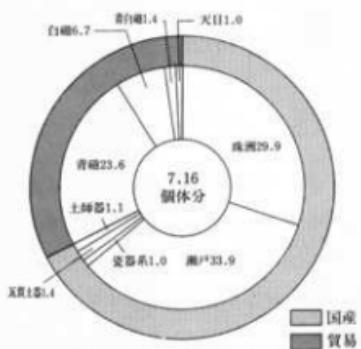
個体数は全て口縁部計測法(宇野1992)による

*は存在するが個体数の比率が数値として表れないもの

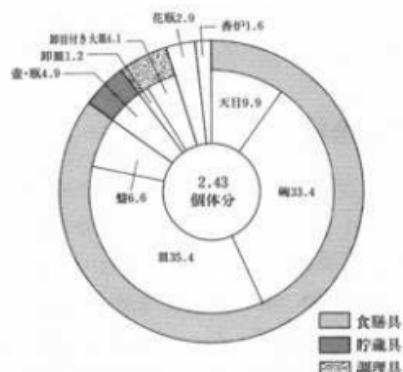
19. AT95 出土瀬戸一覧表

種類	前 I 期	前 II 期	前 III 期	前 IV 期	中 I 期	中 II 期	中 III 期	中 IV 期	中 期	後 I 期	後 II 期	後 III 期	後 IV 期	不 明	合 計
天 盆									2 (0.1)	2.5 (0.14)	0.5 (0)			4 (0)	9 (0.24)[9.9%]
平 碗									0.5 (0.04)	7 (0.41)	5.5 (0.36)	2 (0.1)		1 (0)	16 (0.81)[33.4%]
楕 圆 小 盘										0.5 (0.04)	1 (0.09)	3.5 (0.23)		1 (0)	6 (0.36)[14.8%]
丸 盘									1.5 (0.16)	1.5 (0.16)	1 (0)				4 (0.32)[13.2%]
輪 花 中 盘										0.5 (0.04)	0.5 (0.04)				1 (0.08)[3.3%]
折 裂 小 盘									0.5 (0.05)	0.5 (0.05)				1 (0)	2 (0.1)[4.1%]
折 裂 草 盘									4 (0.13)	0.5 (0.05)	0.5 (0)				5 (0.13)[5.4%]
直 線 大 盘											1 (0.03)				1 (0.03)[1.2%]
盤										1 (0)	1 (0)			8 (0)	10 (0)[* %]
金 碗	1 (0)									2.5 (0)	2.5 (0)			6 (0)[* %]	
豆 子									1 (0)	1 (0)	1 (0.06)			21 (0)	25 (0.12)[4.9%]
鏡									1 (0.03)	1 (0)				1 (0)	3 (0.03)[1.2%]
萬字付き大皿										1 (0.07)	1 (0.03)	1 (0)			3 (0.1)[4.1%]
柄付片口														1 (0)	1 (0)[* %]
花 瓶					0.5 (0)	0.5 (0)		0.5 (0)		0.5 (0)	0.5 (0.02)	0.5 (0.02)	1 (0.03)	4 (0.07)	4 (0.07)[2.9%]
香 炉										0.5 (0.02)	0.5 (0.02)				1 (0.04)[1.6%]
合 子					0.5 (0)	0.5 (0)								1 (0)[* %]	
木 楠										0.5 (0)	0.5 (0)			1 (0)[* %]	
燭 台										0.5 (0)	0.5 (0)			1 (0)[* %]	
不 明														14 (0)	14 (0)[* %]
合 計	1 (0)				1 (0)	1 (0)	3 (0.21)	11 (0.51)	1 (0)	18.5 (0.71)	16 (0.57)	6 (0.35)	1.5 (0.05)	54 (0.03)	114 (2.43)[100.0%]

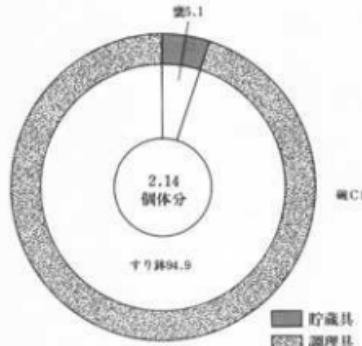
AT95調査区出土品



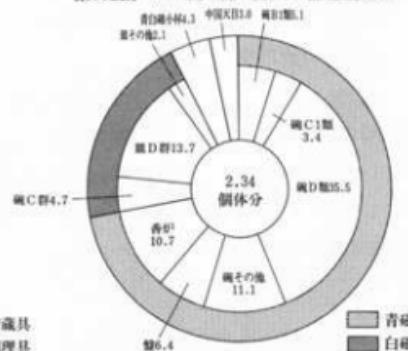
第171図 AT 95 土器・陶磁器の構成比



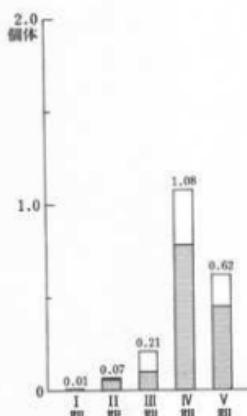
第172図 AT 95 津戸製品の器種構成比



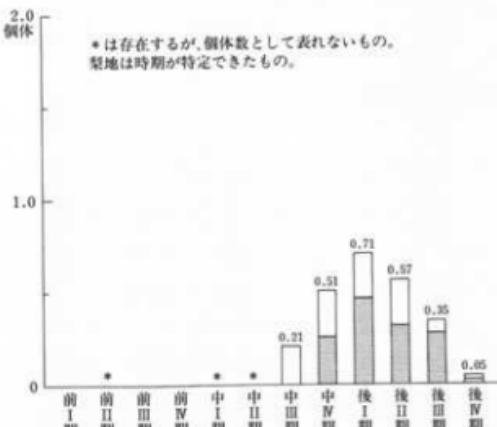
第173図 AT 95 珠洲製品の器種構成比



第174図 AT 95 貿易陶磁の分類別構成比



第175図 AT 95 珠洲製品の時期別出土量



第176図 AT 95 津戸製品の時期別出土量

VI 考 察

1. 遺構

ここでは2次にわたる発掘調査によって検出した多くの遺構を段階的に理解する試みを行いたい。しかし、その前提条件となる個々の遺構の消長時期、年代決定に関して、極めて難しい問題が存在している。つまり、東北地方特有の現象ともいえる在地土器が存在しないことから、搬入陶磁器による年代決定に頼らなければならぬこと、また、遺構出土の一括資料が極めて乏しいことから、細かな遺構の年代観の整理が十分に行われていない状況にある。さらに第2次調査では遺構の検出作業に時間が取られ、十分な遺構の完掘作業が行えなかったことから、遺構に伴う遺物すら十分に得てない状況にあることを付け加えておかなければならない。

そこで発掘調査によって検出した遺構の配置と構成、遺構の主軸方位、遺構の切り合い関係、遺構出土遺物の検討などを重ねることによって、遺構の配置を復元的に整理し、あるいは推測部分も含めて現段階で理解される無理のない大まかな段階的変遷を試みることとする。なお、段階的な変遷を試みるに当たって、国立歴史民俗博物館によって示された十三塗遺跡の時期別変遷に合せて記述することとする。

第1次・2次調査の遺構変遷試案

十三塗 I a 期 (12世紀後半)

〈第1次調査地区・A T94〉

該当時期の遺構なし。

〈第2次調査地区・A T95〉(第180図)

中世十三塗が成立する時期である。当地が最盛期には「館跡」の主体部となる可能性が高い場所であり、今回初めて中世十三塗の初源を示す遺構が確認されたことは十三塗遺跡の成立当初から重要な位置を占める場所であったと考えられる。

この時期の遺構として注目されるものは、S B07にS D03を伴った宗教建築の遺構である。S B07は1間×1間(1.37m×1.37m)の神社の小堂と推される建物であり、その南面には内部に葺石を伴ったS D03の周溝が巡っている。S D03周溝からは珠洲I期(12世紀後半)のすり鉢1片が出土している。また、この周辺にはS P39、S P170、S K61な

と骨片がまとめて出土している状況も合わせて、当初は宗教的な意味合いの強い空間であったと推される。その他、S B01総柱建物に切られている S D08・31南北区画遺構は時期的に古く、S D06東西区画遺構と対をなして、空間的な区画配置と構成が行われていたと推される。さらに宗教施設と S D08・31南北区画遺構に挟まれた空間には、S I 01竪穴遺構に切られている S B05の総柱建物と推される遺構が、S B07建物と同じ主軸方位を取って配置している状況が伺える。

十三渢 I b 期（13世紀～14世紀初め）

〈第1次調査地区・A T94〉

S D03堀の築造時期は館の成立を示す重要な意味を持つ。また、S D03の主軸方位は十三渢を大きく南北に分断する大土塁とも方位を平行しており、十三渢の都市計画段階にはすでに成立していたことは明らかである。しかし、S D03の堆積土はほぼ自然堆積の状況を示しており、出土遺物によって分けられるような埋土の堆積状況は見られず、出土遺物から築造時期を特定することができなかった。また、S D03は長期に渡って存続した可能性は低いと考えられる。

しかし、後述する第2次調査区（A T95）の成果を考慮すると、館主体部と推される地点において、この時期に十三渢の計画的な都市軸線と遺構の配置状況が見られることから、S D03もこの時期に館の区画施設として成立していた可能性も考えられるが、現段階ではこの時期にまで遡る考古学的事実はないので、保留としておく。

〈第2次調査地区・A T 9 5〉（第181図）

当地において中世十三渢の統一された計画的な都市軸線が現れる段階と捉える。これまでの評価では次段階の十三渢II期（14世紀後半～）に土塁北側地区において、統一された計画的都市軸線が現れるとしていた。しかし、今回の調査によってこれらの遺構が新たに13世紀代まで遡ることが明らかとなった。この時期の主要な遺構としてはS B01総柱建物が注目される。東西4間×南北3間の建物規模を持つ。建物の主軸方位はN-76°-Wを示しており、その他の遺構もほぼこれに平行、或いは直交した遺構の配置状況を見せていく。大きく前段階と方位が異なるだけでなく、この遺構主軸方位が次段階の最盛期まで継続する。S B01総柱建物にはS E10井戸が付随する。S E10はS I 01竪穴遺構に切られている時期的に古い井戸である。S E10からは13世紀代と推される瓷器系壺の体部破片が出土している。さらにS B01とS E10を囲むように、S D20・65南北区画遺構とこれに直交するS D36東西区画遺構の配置が見られる。

この他、調査区東側の南北区画遺構は内部空間を大きく東西に分ける重要な意味を持つ

ており、何度も建て替えや修復が行われている。その中で、SD01は最も時期が古くて規模が大きく、しっかりと区画遺構である。SD01廃絶後に構築及び修復された区画遺構はすべてSD01を踏襲している。SD01からは出土遺物が伴わぬず、明確な築造時期は不明であるものの、前述した理由と全体の遺構配置状況から見て、この時期にはすでにSD01は存在していた可能性が高い。

十三湊IIa・b期（14世紀後半～15世紀前半）

中世十三湊が港町として最も繁栄する時期である。遺構の形成が最も盛んで、多くの生活痕をとどめる。かつ十三湊の都市軸線と呼べる計画的な遺構の配置が広がる時期である。およそ100年間程の間に何度も建て替えが行われており、遺構の重複が激しく、密集している。時期別の細分が可能であるが、今回は時間的にも十分に検討する余裕がなかったため、まとめて記述する。なお、IIa期は土塁北側地区において都市的な空間形成が広がる14世紀後半、IIb期は土塁南側地区にまで街区が広がり、短冊形の地割りを持つ町屋地区が成立する15世紀前半という捉え方をしている。

〈第1次調査地区・AT94〉（第177図）

この時期には第一地区のSD03堀がすでに成立している。SD03は北側に想定される館の南面に位置する区画施設として考えられる。このことは第2次調査によって明らかとなった館主体部と推される遺構群の検出によっても、これを裏付けている。前述したように、SD03の堆積土は自然堆積の状況を示しており、堀底に溜まる堆積土の除去などの補修工事は行われておらず、出土遺物によって分けられる埋土の堆積状況はみられない。短期間による造成と埋没であった可能性が高い。出土遺物からSD03の廃絶時期を検討すると、堆積土の上位層から青磁碗、瀬戸縁付小皿、瓦質土器が出土しており、14世紀後半～15世紀前半の年代を示していることから、この時期の末には廃絶したものと考えられる。

第二地区は館の南面に位置し、土塁に挟まれた空間として認識される。この時期に至って当地が積極的に屋敷地の居住空間として利用されている。この時期の主要な遺構は区画遺構1、区画遺構2とした柵囲区画の東西道路敷である。この東西道路敷は明治22年の地籍図の烟境のラインにはほぼ一致することから、十三湊遺跡の南北中軸街路まで延びて直交する街路である可能性が高い。区画遺構1はSA10とSA06、SA02とSA07とをそれぞれ対にした2時期の変遷を持っている。また、同様に区画遺構2でもSA06とSA08、SA07とSA09を対とした2時期の変遷が考えられる。これら東西道路敷の主軸方位は第一地区で検出された堀（SD03）と南に位置する大土塁の方位とほぼ同じくしており、SD03堀（館の区画）、柵囲区画の東西道路敷、大土塁が一連の都市計画段階に伴う遺構であ

り、一体となった都市景観が想定される。また、これら東西道路敷に区画された空間内にはS E01・03の井戸やS B01の掘立柱建物が見られ、屋敷地としての居住空間が想定される。また、多くの小規模な土坑があり、生活廃棄物のゴミ捨て穴として掘削されたもので、生活空間として活発に利用されていたものであろう。

〈第2次調査地区・A T95〉(第182図)

当地においては前段階に引き続いて、中世十三湊の計画的な都市主軸方位を持つ遺構が広がるだけでなく、遺構の重複が激しくなって多くの生活痕をとどめる。

主要な遺構はS B02・10の掘立柱建物、S E02・07の井戸、S I01竪穴遺構が見られる。S B10はS E02・07と重複しており、セット関係は認められない。掘立柱建物は他にも数棟存在すると思われる。S I01竪穴遺構は貼床内に14世紀代の一括性の高い遺物と、埋土中には15世紀前半代の遺物を含んでいることから、14世紀代に構築された竪穴遺構が幾度の修復を経て廃絶する15世紀前半まで使用されていたことが想定される。これらの遺構を囲むようにS D05東西区画遺構、S D43南北区画遺構の配置が見られる。

また、東側のS D01南北区画遺構はこの時期にはすでに配置されているだけでなく、S D04・26・52・53など区画遺構の修復及び建て替えが頻繁に行われており、内部空間を大きく東西にわける重要な区画遺構であったことが分かる。さらに東側には根石を多く含んだ掘り形を伴う大型礎石(S X01)が検出されており、館内における主殿建物の領域、領主クラスが居住する空間として想定させる。また、西側空間は掘立柱建物の倉庫群に大型竪穴遺構、井戸を伴う配置から、館内での日常的な生活空間、或いは直属する工人達の生活空間としての想定が考えられる。

このように区画遺構による空間利用の違いはどのような意味を持ち、位置づけがなされるかは今後の調査面積の拡大を待って、最終的な判断は将来に譲りたい。

十三湊IIc期(15世紀中葉)

〈第1次調査地区・A T94〉(第178図)

第一地区ではS D03堀が廃絶して、その上面から掘り込まれる柱穴、土坑群がこの時期に相当する。

第二地区では、これまでの都市計画的な遺構主軸方位をもつ区画遺構1と区画遺構2とした柵囲区画の東西道路敷を掘削、破壊するS A01やS E02がある。S E02からは古瀬戸後III~IV期の瀬戸縁釉小皿が出土しており、中世十三湊廃絶直前段階の遺物が含まれている。また、S K43の大型土坑は十三湊廃絶直前段階に大規模な廃棄行為を行ったものと考えられ、第2次調査地区(A T95)においても同様な様子が見られる。

〈第2次調査地区・A T 95〉(第183図)

当地において、前段階までに見られた中世十三渢の都市計画的な主軸方位をもつ遺構が掘削・破壊される形で、新たな遺構の配置が見られる時期である。遺構密度は前段階に比べてかなり少なく、遺構の主軸方位は十三渢 I a 期（12世紀後半）とした段階に類似するようになる。この時期の主要な遺構としては S E 04・05・09・12 の井戸が多く構築されている。調査区東側隅の S E 04・05・12 井戸は近接しており、この時期には井戸場として認識された空間と判断されるだけでなく、少なくとも 3 時期の変遷が想定される。S E 04 からは 15 世紀中葉の京都系土師器皿、S E 05 からは古瀬戸後 III 期の瀬戸緑釉小皿が出土しており、中世十三渢廃絶直前段階の遺物が含まれている。

また、区画遺構には南北 S D 07 と東西 S D 09・55 を対にした大区画、南北 S D 23 と東西 S D 10・24 を対にした小区画の変遷が想定される。この区画遺構内には建物方位と同じくする S B 08 を囲んでいる状況が想定される。なお、S E 09 は S D 23 に切られていることから、大区画に伴う井戸と判断される。さらに、南北 S D 41 と東西 S D 40・25 の区画配置が想定されるが、これらの区画遺構は深さも浅く、遺構検出段階で部分的に飛ばされてしまうほど規模の小さなものであった。なお、S D 09 からは 15 世紀中葉の京都系土師器皿が出土している。この他、S K 49・50 などの大型の土坑が作られており、何らかの事情によって大規模な廃棄行為が活発に行われたものであろう。

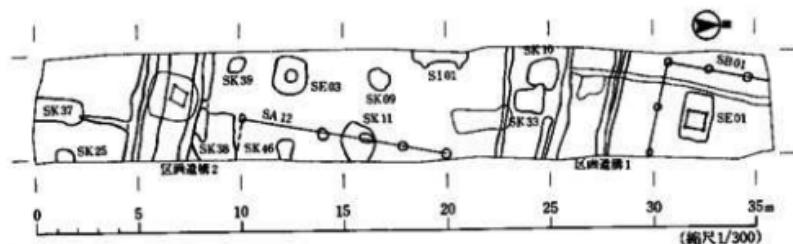
十三渢 III 期（近世：17世紀以降）

〈第1次調査地区・A T 94〉(第179図)

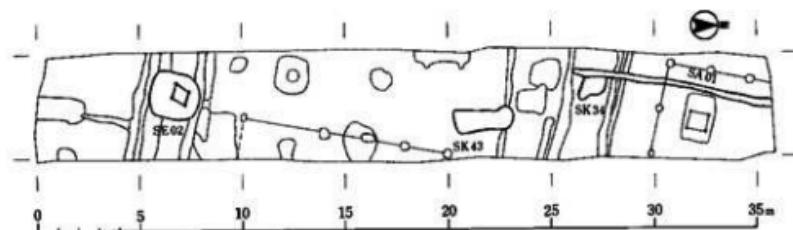
第一地区では近世遺構面の削除を受けおり、確認できなかった。しかし、第二地区では削平を受けることなく、近世遺構面を確認することができた。ここでは第二地区的近世遺構について述べる。近世遺構面は中世十三渢の廃絶後、百年余りで中世遺構面上に約 10cm ~ 30cm 程の土砂が自然堆積しており、17世紀になって新たに近世生活面として利用されている。遺構は S D 01 ~ S D 03 の溝状集積遺構、S X 01・S X 02 集積遺構、柱穴 2 つが確認されているだけで、遺構密度はかなり希薄である。S D 01 ~ S D 03 の溝状集積遺構の方位は前段階とも異なり、やや東に方位を振っているが、基本的には中世の遺構主軸方位を踏襲していると考えられる。近世遺構の性格は不明であり、生活空間として活発に利用されていたという状況は読み取れない。近世には前湯に面した西側砂州一帯に街村状の町屋が形成され、近世十三渢の中心地区となることから、当地は町屋の後背地として耕地化が進み、畠地などに利用される程度であったと推される。

〈第2次調査地区・A T 95〉(第184図)

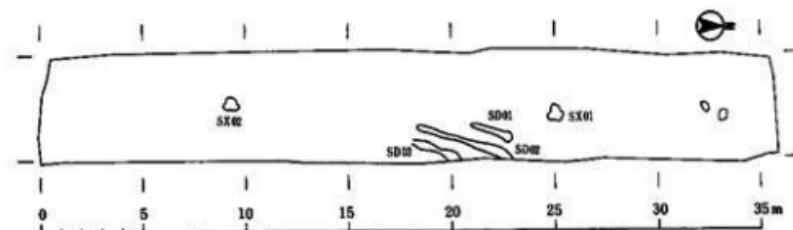
当地は現在も畠地として利用されているため、近世遺構面が消失してしまっている。上面で検出された遺構のほとんどが現代のものである。しかし、ここで注目される遺構は調査区東側の S A01～S A04、調査区中央の S A05・06、調査区西側の S A07～S A11である。これらの櫻・堀跡は現代の遺物を伴っていたことから、恐らくは現在も十三ヶ遺跡(十三集落)一帯に広がる畠地を区画する「カッショ」と呼ばれる防風砂のための区画櫻堀跡と思われる。注目されるのはこれら区画櫻堀跡は中世段階の区画遺構とほぼ重なる状態で検出されたことである。このことは中世の地割りが現代まで踏襲されていたことを示す好例と言えよう。



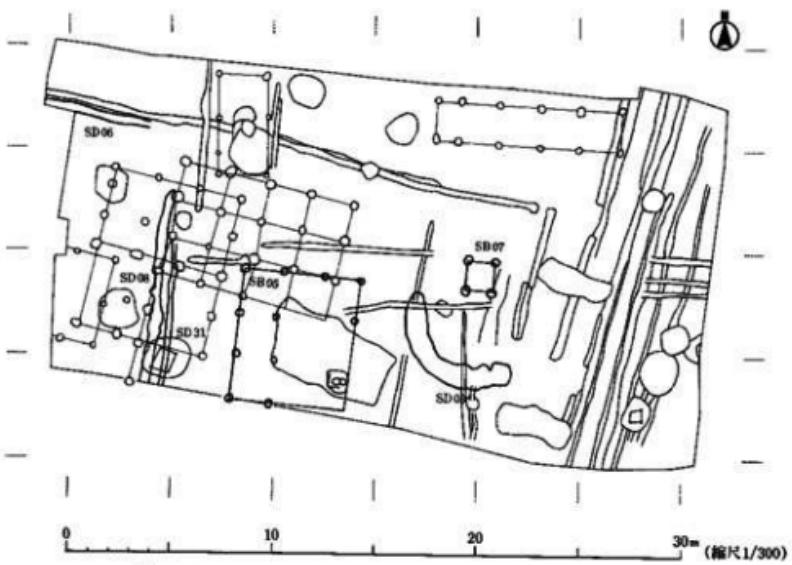
第177図 AT 94 II 十三ヶII a・b期の遺構配置図(14世紀後半～15世紀前半)



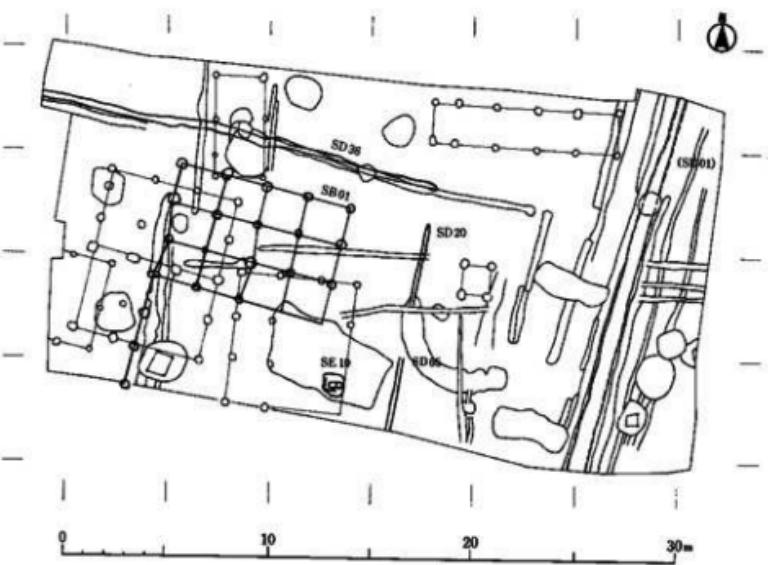
第178図 AT 94 II 十三ヶII c期の遺構配置図(15世紀中葉)



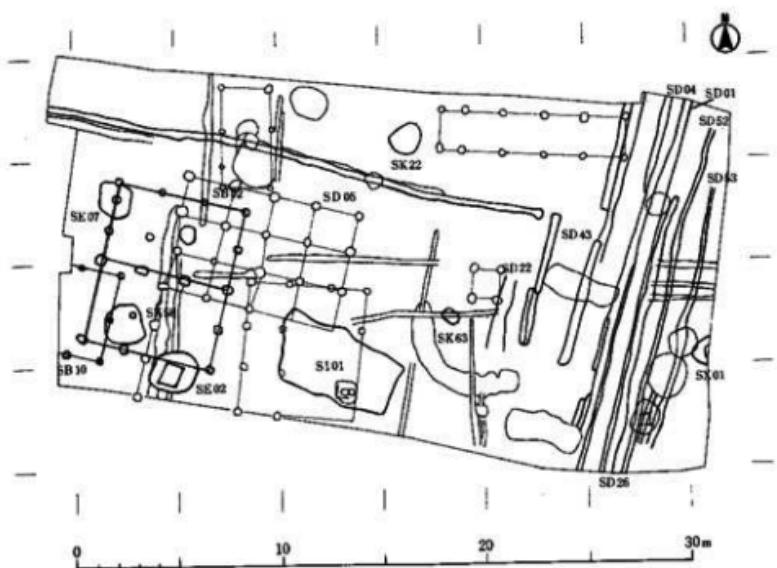
第179図 AT 94 II 十三ヶIII期の遺構配置図(17世紀以降)



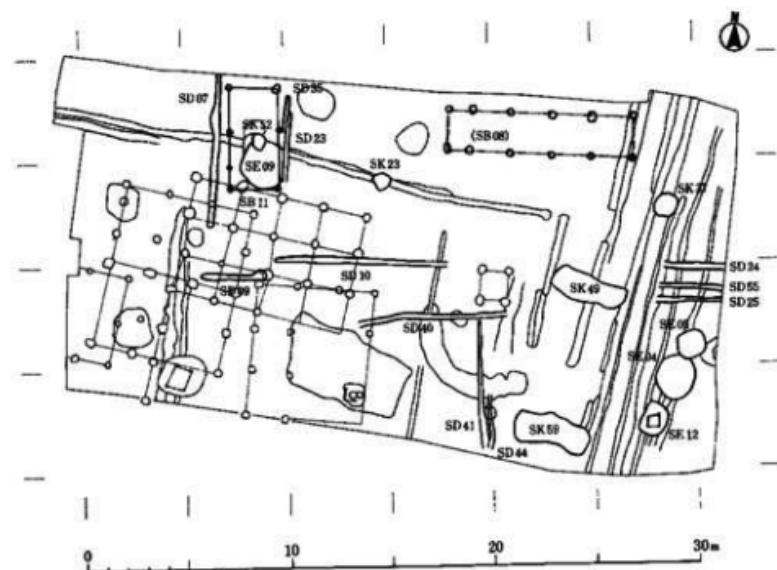
第180図 AT 95 十三棟Ia期の造構配置図(12世紀後半)



第181図 AT 95 十三棟Ib期の造構配置図(13世紀～14世紀初め)



第182図 AT95 十三澳II a・b期の造構配置図(14世紀後半～15世紀前半)



第183図 AT95 十三澳IIc期の造構配置図(15世紀中葉)